

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点

創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム

2022年度事業報告書

資料編

創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム実施校
東北大学・熊本大学・大阪公立大学・立教大学

4 資料

資料目次

4.1 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2022 募集要項、他	15
4.2 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2022 ハンドブック	34
4.3 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 2022	67
4.4 産学連携教育イノベーター育成プログラム 受講者属性等	74
4.5 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2022 受講者アンケート	76
4.6 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム規約・会員一覧	121
4.7 大学改革を担う実務家教員フェア 2022	127
4.8 キャリアサポート・オンラインセッション 2022	138
4.9 持続的な産学共同人材育成システム構築事業 HP 他	139
4.10 大学等における教育 FD 動画コンテンツの利用	140
4.11 実務家教員等育成のための研修講師養成プログラム	142
4.12 広報・記事掲載	144
4.13 関連会議・打合せ等	147

大学を変える、日本を変える
ガラパゴス化した人材育成を変革する
教育イノベーターへ

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」
実務家教員育成研修プログラム

産学連携 教育イノベーター 育成プログラム

AIBET | Academia-Industry Bridge Program
for Educational Transformation

2022年7月開講

受講者募集

特定一般教育訓練給付制度

本プログラムの産学連携リベラルアーツ教育力育成コース及び
インストラクショナルデザイン指導力育成コースは、厚生労働大
臣より特定一般教育訓練給付の講座指定を受けています。

問い合わせ(E-mail)

innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

応募・詳細 下記ホームページまたはQRコードよりご応募ください

<https://jitsumuka.jp/innovator/>



提供

事業名称「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」
産学連携教育イノベーター育成プログラム実施校（東北大学・熊本大学・大阪公立大学・立教大学）

大学教育イノベーションを先導する実務家教員を育成します

産学連携教育イノベーター育成プログラムは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

Q.産学連携教育イノベーターとは？

A.産業界の知見と教育実践力を併せ持つ、ハイブリッド人材

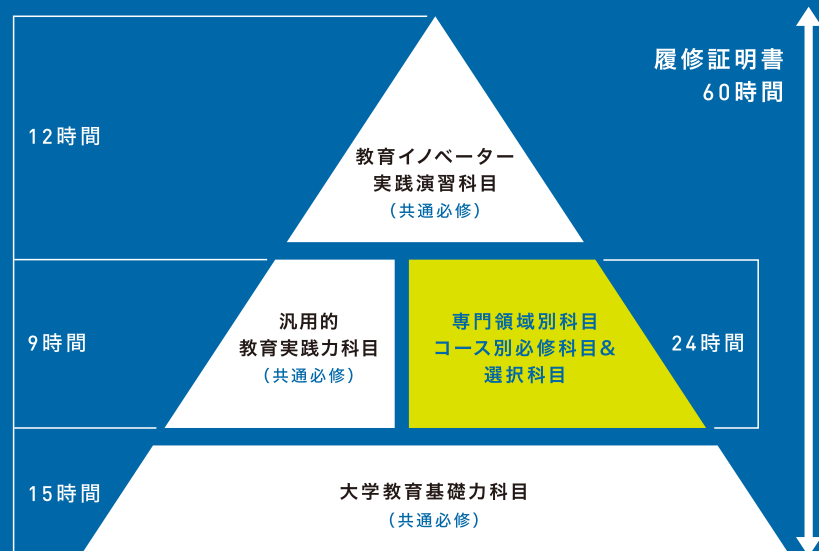
実務経験を学習可能な知に転換し、プロの教育力(教え方=学ばせ方)を獲得

学びと社会をつないで学生の心に火を点け、社会人の学び直しにも貢献

ガラパゴス化した人材育成を変革し、日本を元気にする主役 = 産学連携教育イノベーター

プログラムの科目構成と履修構造

インストラクショナルデザイン(ID)による研修設計



「専門領域別科目」は、右記の4コースよりいずれかを選択します

- 1** 東北大学 (教育訓練給付金対象講座)
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース
産学連携によるリベラルアーツ教育やプロジェクト型学習を担う実務家教員を育成
- 2** 熊本大学 (教育訓練給付金対象講座)
インストラクショナルデザイン指導力育成コース
学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員を育成
- 3** 大阪公立大学
アントレプレナーシップ教育力育成コース
起業や新規事業開始に必要な能力・思考力を備えた人材を輩出できる実務家教員を育成
- 4** 立教大学
リーダーシップ開発力育成コース
アクティブ・ラーニングを通じて身に付けるリーダーシップ教育を広く日本の高等教育において展開していく実務家教員を育成

プログラムの特徴

社会人の学びやすさ

いつでもどこでも学べるオンライン研修、実践的な演習や模擬授業等は土日に開講するなど社会人も受講しやすいプログラム設計

特色ある4つのコース

多くの業種、職種で必要とされる資質・スキルにおける高度な教育指導力を育成する4つのコースを提供

多彩な講師陣

大学という「現場」を知る多彩な講師陣が教育に関する知識・スキルを教示

履修証明プログラム

体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム。修了者には学校教育法105条に基づき履修証明書を交付

2022年度開講案内

オリエンテーション:2022年8月6日(土) / 定員:100名 / 受講料:30万円 / 募集要項公開:2022年春

応募資格	次の①②の両方を満たす者	①大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者 ②原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者
------	--------------	---------------------------------------------------------------------------

応募方法 : 産学連携教育イノベーター育成プログラム ホームページ(<https://jitsumuka.jp/innovator/>)またはQRコードより応募ください

問い合わせ : <E-mail> innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター)



2022 年度 履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

募集要項

1. 目的

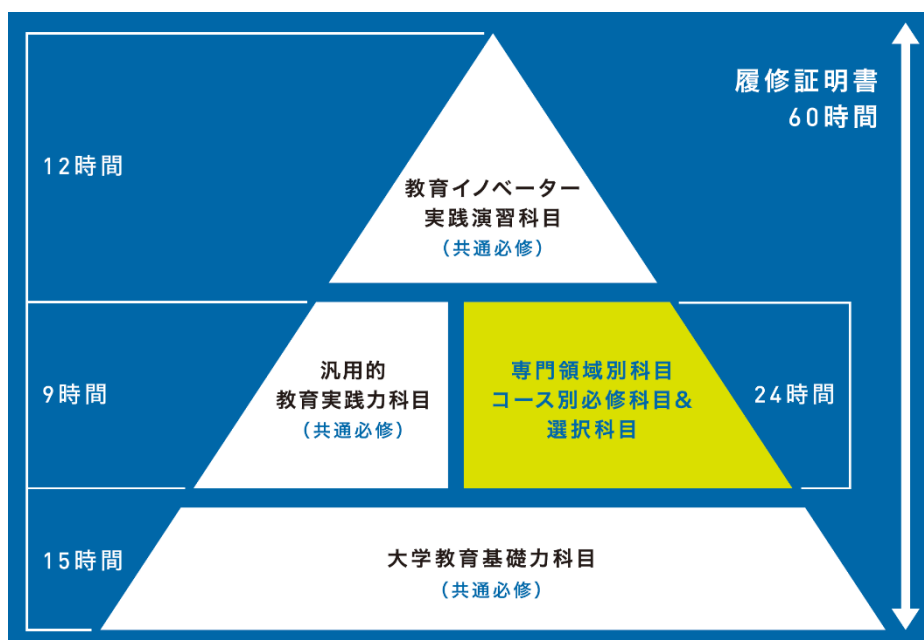
産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学での学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えています。このような中で教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指します。

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

2. プログラム概要：履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法 105 条に基づき履修証明書（Certificate）が交付されます*1・2。

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）を提供します。



プログラムは 4 つの科目で構成されています。その一つである「専門領域別科目」は、次のコースよりいずれかを選択してください*3。

東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」は、アクティブ・ラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員の育成を目指します。

熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は、企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初の e ラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基づき、学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員の育成を目指します。

大阪公立大学「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は、イノベーション創出型研究者養成カリキュラムとして、多数の企業の協力を得て大学院の正式科目として設置した産学連携科目・インターンシップにおいて、毎年約 500 人もの受講者を輩出してきた実績を活かし、アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員を育成します。

立教大学「リーダーシップ開発力育成コース」は、全国にその名を知られる「ビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）」等の成果に基づき、アクティブ・ラーニングを通じて身に付けるリーダーシップ教育を、広く日本の高等教育において展開していく実務家教員を育成します。

- *1：履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。
- *2：修了した際には、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」「リーダーシップ開発力育成コース」の 2 コースは東北大学長名にて、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は熊本大学教授システム学研究センター長名にて、「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は大阪公立大学長名にて履修証明書が発行されます。
- *3：応募時には、第一受講希望コース、第二受講希望コースを選択することが可能です。第一受講希望コースが定員を上回る応募数の場合で、第二受講希望コースの受講者数に余裕がある場合、評価結果によって第二受講希望コースでの受講が可能となる場合があります。いずれも、定員人数での合否判定がなされます。第二受講希望コースの選択は必須ではありません（第二受講希望コース「なし」の選択も可能です）。

3. プログラムの達成目標

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要な到達目標として、次の 3 つの学習成果の獲得を掲げています。これらの到達目標については、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

- ① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度を身につける**
- ② 各コースに設定する**専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力を身につける**
- ③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する**「教育イノベーター」としての変革力を身につける**

4. 応募資格

下記、①②の両方を満たす者。

- ① 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- ② 原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者

5. 定員 100名（4コース合計数）

6. 費用

① 入学金：なし

② 受講料：300,000円

審査結果通知書と共に振込依頼書もしくは振込先をお送りします。指定日（2022年7月中旬予定）までに振込を完了させてください。支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

③ その他：集合研修等（演習や模擬授業等）への参加にかかる旅費・宿泊費等は自己負担とします。

7. 厚生労働省「教育訓練給付金」

「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」及び「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」の2コースは、厚生労働省「教育訓練給付金（特定一般教育訓練）」認定講座です。

一定の条件を満たす方が受講・修了した場合、受講料の40%（120,000円）をハローワークから支給します。この場合、最終的な自己負担額は180,000円となります。

※「アントレプレナーシップ教育力育成コース」及び「リーダーシップ開発力育成コース」は教育訓練給付金の対象外です。

※受給希望者は、別紙「**【受講希望者向け】教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）についてのご案内**」を熟読し、各自ハローワークにて手続きしてください。

※ハローワークにおける、本プログラムの受講開始前に必要な手続きの締切は、2022年6月30日（受講開始日の1か月前まで）です。合格確定前に手続きを進めておくことが可能ですので、早めの手続きをお勧めします。

8. 応募方法

① 応募期間：2022年4月1日（金）～5月9日（月）

② 応募書類：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイト（<https://jitsumuka.jp/innovator/>）にて応募書類をダウンロードし、必要事項を記載の上、提出すること。

申請フォーム（オンライン）

必要事項をウェブフォームに直接入力してください。本人確認のため、写真の提出は必須です。

※ウェブサイトのセキュリティ上、フォームのアクセス時間制限（60分）があります。そのため、「**応募フォーム入力ガイド**」を活用して事前に入力内容を作成し、フォームに必要事項を転記すると便利です。

職歴書（様式あり）

様式をダウンロードし、MS WordもしくはPDFにて応募フォームにアップロードしてください。

勤務先・部署・役職・担当業務内容などを記載してください。現在の職務も含め、応募資格②「原則として専門的技術的又は管理的な職務において 5 年以上の実務経験を有する」がわかるよう記入してください。

志望理由書（様式あり：A4 × 3 ページ以内）

様式をダウンロードし、MS Word もしくは PDF にて応募フォームにアップロードしてください。

以下の(1)～(4)の項目を見出しとして設定し、記述してください。

- (1) 仕事と学びに対する関心・経験
- (2) 本プログラムの受講動機と意欲
- (3) 現代の大学教育への関心・問題意識
- (4) プログラム修了後のキャリアに関する抱負

承諾書（様式・内容の規定なし）

※企業などの所属先より派遣される方のみ提出

様式をダウンロードし、MS Word もしくは PDF にて応募フォームにアップロードしてください。

所属先の了承のもと、当プログラムを受講していることの確認書類として、所属部署の長等の承諾書が必要です。

- ③ 申請先：産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイトより申請すること。

エントリー（受講申込） URL:<https://jitsumuka.jp/innovator/entry2022/>

9. 選考方法・日程

選考基準に基づき、選考を行う。

応募期間	2022 年 4 月 1 日（金）～5 月 9 日（月）
審査結果通知（メール）	2022 年 6 月下旬
（厚労省「教育訓練給付金」受給希望者：ハローワーク手続期限）	2022 年 6 月 30 日（木）
受講合格者 受講料支払期限	2022 年 7 月中旬※予定
プログラム受講者確定	2022 年 7 月下旬

10. 2022 年度スケジュール*4

受講開始日	2022 年 7 月 30 日（土）
オリエンテーション（同期：対面）	2022 年 8 月 6 日（土）
大学教育基礎力科目（非同期：オンライン）	2022 年 8 月 6 日～10 月 7 日（金）
汎用的教育実践力科目（同期：オンライン）	2022 年 10 月中旬～下旬
専門領域別科目（同期：対面含む。日程表参照）	2022 年 11 月～12 月
教育イノベーター実践演習科目（同期：オンライン）	2023 年 1 月～2 月
修了認定	2023 年 2 月～3 月

*4：詳細は、別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」及び「産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表」を参照してください。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、日程や実施方法等の変更を行う可能性があります。

11. 修了要件

- (ア) 開講期間内に本研修プログラムの 60 時間の課程を履修し、全科目に合格すること。
- (イ) 履修大学において、教授会に相当する機関での認定を受けること。

※①②の修了要件を全て満たした場合に、学校教育法第 105 条に基づき履修証明書が授与されます。

【問い合わせ先】

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター内

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 Tel : 022-795-4472・4473

Email : innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要

① 大学教育基礎力科目 (計 15 時間 : 必修) ※非同期型オンライン				
<p>【目的】 大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。</p> <p>【学習目標】 大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標 (期待される学習成果) の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的な知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。</p> <p>【授業方法】 各学習項目に関する Web 上の動画を視聴の上、必読文献を読み (オンライン学習 : 1.5 時間)、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う (Web コメント : 0.5 時間)。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます (レポート : 3.0 時間)。</p> <p>【履修方法】 1) 学習項目 1~4 は必修です。2) 学習項目 5~11 より少なくとも 2 つ選択し学習します。</p> <p>【成績評価方法】 受講した学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に満たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。</p>				
学習項目	講師	時間	概要	
1	大学教育制度論 大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授)	2.0 必修	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。	
2	インストラクショナルデザイン 鈴木 克明 (熊本大学 教授)	2.0 必修	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン (ID)」の基礎理論や具体的手法について学びます。	
3	授業設計論 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	2.0 必修	学習目標、評価方法、教授方法を統合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。	
4	学習評価論 松下 佳代 (京都大学 教授)	2.0 必修	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。	
5	学生・学習支援論 岡田 有司 (東京都立大学 准教授) 佐藤 智子 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	大学生の抱える心理的・発達的問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。	
6	カリキュラムマネジメント 杉谷 祐美子 (青山学院大学 教授)	2.0 選択 必修	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。	
7	大学における倫理 山内 保典 (東北大学 准教授)	2.0 選択 必修	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ (学術的誠実性) を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。	
8	教育改善論 高橋 哲也 (大阪公立大学 副学長) 緒方 広明 (京都大学 教授)	2.0 選択 必修	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ (IR)」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス (LA)」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。	
9	オンライン授業実践論 根岸 千悠 (大阪大学 特任助教) 浦田 悠 (大阪大学 特任講師) 佐藤 浩章 (大阪大学 准教授) 村上 正行 (大阪大学 教授)	2.0 選択 必修	オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業や e ラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき 10 のポイントについて学びます。	

10	ICT 等先端技術活用教育論	戸田 真志 (熊本大学 教授) 松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 甲斐 晶子 (青山学院大学 助教)	2.0 選択 必修	ICT 等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場において SNS アプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。
11	実務家教員論	松井 利之 (大阪公立大学 教授) 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	2.0 選択 必修	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。
大学教育基礎力レポート			3.0 必修	受講した学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

② 汎用的教育実践力科目 (9 時間 : 必修) ※同期型オンライン

【目的】 大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。
【学習目標】 研究指導、シラバス作成、インストラクショナルデザインについて、同期型オンライン・ワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。
【授業方法】 受講生は、事前学習 (各 15~40 分)、各学習項目に関するワークショップに参加し (2.0~3.0 時間)、ワークを通して 1~3 の学習項目ごとに成果物 (授業計画やシラバス等) を完成させます (事後学習 0~30 分)。
【成績評価方法】 各学習項目 (各演習) 受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3 つの学習項目の全てを合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	研究指導演習	出江 紳一 (東北大学 教授) 倉重 知也 (㈱イグニタス 代表取締役)	3.0	教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。
2	授業デザインとシラバス作成	串本 剛 (東北大学 准教授)	3.0	教育目標・学習活動・学習成果の把握を構造化しながら、1 学期・15 回分の授業設計をいかに行うのか。実際のシラバス作成を通してワークショップ形式で学びます。
3	インストラクショナルデザイン演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田 美子 (熊本大学 准教授)	3.0	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。

① 専門領域別科目（選択必修 24 時間：応募時に希望コースを選択）

※同期型オンライン・対面集合型含（詳細は日程表参照）

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学提供）

【目的】大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになることを目的とします。

【学習目標】リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学びます。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、実践的な授業マネジメント力の修得を目指します。

【授業方法】1) 受講生は、1~4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分~1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0~2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2) 5・6 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

【履修方法】1) 学習項目 1~4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】学習項目 1~4 については、4 項目の小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。また、学習項目 5・6 については、それぞれの成果物（模擬授業を含む）について到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1~4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	リベラルアーツ教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0 必修	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）
2	STEM・文理融合教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0 必修	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴、英語による講演・日本語字幕）
3	産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0 必修	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還する WIL—」（動画視聴）
4	教育質保証論	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0 必修	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）
5	リベラルアーツ・セミナー実践演習	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 宇野 健司 (㈱大和総研 調査本部 副部長)	12.0 選択必修	受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高めます。

6	PBL 設計・運営演習	松岡 洋佑 (㈱イノベスト 代表取締役/ 名古屋大学 招聘教員) 菱山 諒 (㈱イノベスト 取締役 / 一橋大学 非常勤講師)	12.0 選択 必修	受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組む PBL 型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。
---	-------------	--------------------------------------------------------------------------------	------------------	------------------------------------------------------------------

インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供）

【目的】大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とします。

【学習目標】

- ・学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる
- ・学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる
- ・授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジーを用いた学習環境を構築できる

【授業方法】受講生は、各学習項目において、Web 上で指示されるタスク・課題に取り組みます。他の学習者との相互コメントを通じて、自己のスキル習得のための練習と実践を行います。

1) 受講生は、1～4 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（非同期学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（非同期学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間です。

2) 5・6 の各学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧して学習し（非同期学習：5 時間）、授業設計（非同期学習：4 時間）を行った上で、設計案の改善・模擬授業・振り返り（同期学習：3 時間）を実施します。学習項目 5・6 の学習時間はそれぞれ 12 時間です。

【履修方法】

1) 学習項目 1～4 は必修です。2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。3) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】コース必修学習項目は、各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。全ての課題の合格基準を満たすことで学習項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	基盤的 ID 論	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。※e-learning
2	教材設計演習	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。※e-learning
3	動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。※e-learning
4	e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。※e-learning
5	大人の学びへと誘う教育改善演習	鈴木 克明 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 合田美子 (熊本大学 准教授) 長岡 千香子 (熊本大学 助教)	12.0	学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。

6	既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習	戸田 真志 (熊本大学 教授) 喜多 敏博 (熊本大学 教授) 平岡 斉士 (熊本大学 准教授) 長岡 千香子 (熊本大学 助教)	12.0	既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。
---	--------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	------	--------------------------------------------------------------

アントレプレナーシップ教育力育成コース（大阪公立大学提供）

【目的】 起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる
- ・事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる

【授業方法】

1) 受講生は、学習項目1について、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：0.5時間）、別途指示されるレポートの作成、その他の課題に取り組みます（事後学習：各1.5時間）。学習項目2に関しても、Web上の動画コンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：2.5時間）、別途指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各1.5時間）。学習項目1・2の学習時間はそれぞれ2及び4時間となります。

2) 学習項目3・4については、実践形式で実施される演習に参加し、与えられた実践課題に取り組みながら、そのコーチングスキルを講師から学ぶとともに、授業中に与えられる様々な課題や模擬指導に取り組みます。学習項目3・4の学習時間はそれぞれ6及び12時間となります。

【履修方法】 1) 学習項目1～4は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から8時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】 学習項目1・2については、それぞれのレポート及びその他課題について、あらかじめ設定している学習すべき要素を理解し、それが反映された記述となっているかをチェックリストを基に定量的に評価します。同様に、学習項目3・4については、実践演習課題の実施内容、ワークへの取組姿勢、コーチングに関するスキルの理解度をあらかじめ設定した項目ごとに定量的に評価します。合格となるためには、演習への主体的な参加（発言や行動）を通して、アントレプレナー育成の重要性を理解し、それらの教育手法を自らのものとしていることに加え、各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目1～4全てにおいて合格する必要があります。

学習項目	講師	時間	概要
1	技術マネジメント基礎論 鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning
2	アントレプレナーシップ基礎論 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning
3	技術マネジメントコンサルティング演習 鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	6.0	科学技術の事業化・産業化の考え方・プロセスの指導・育成法を事例に基づき学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。
4	ベンチャービジネスコンサルティング演習 広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	12.0	事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコーチングスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

リーダーシップ開発力育成コース（立教大学提供）

【目的】「大学生のリーダーシップ教育（開発）」を企画・運営するために必要となる基礎知識、手法や技能を習得することを目的とします。

【学習目標】

- ・大学生のリーダーシップ教育に関わる大学の教育ニーズを理解し説明できる。
- ・学術的研究成果や科学的方法論に基づいたリーダーシップ教育プログラムを企画・運営できる。
- ・実施したリーダーシップ教育プログラムを内省・改善できる。

【授業方法】

1) 受講生は、学習項目 1～5 では、Web 上の動画コンテンツを視聴し（20～30 分間）、オンライン会議システム（Zoom）にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します（各 60 分間）。また、Web 上で指示される課題に取り組みます（事前もしくは事後学習：各 30～40 分間）。各学習項目の学習時間は 2 時間となります。2) 学習項目 6～9 では、受講生が 4 つのチームに分かれ、各学習項目を分担して模擬授業を行います。模擬授業に先立ち、各リーダーシップ・スタイルについての動画コンテンツ（20 分間）と講義（40 分間）が提供されます。これらを参考にしつつ、チームごとに事前に授業準備を行った上で、実際の大学生を対象に模擬授業（振り返りを含む）を実施します（各 60 分間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。また、担当してない回では、大学生と一緒に模擬授業を受講し、担当チームにフィードバックを行います。3) 学習項目 10 では、オンライン会議システム（Zoom）にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習（60 分間）に参加します。また、Web 上で指示される課題に取り組みます（事前学習：60 分間）。

【履修方法】

1) 学習項目 1～10 は必修です。2) 前記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの学習項目）から 8 時間まで選択受講することができます。

【成績評価方法】

1) 学習項目 1～5・10：事前もしくは事後課題（小レポート等）によって評価します。具体的には、チェックリストを基に定量的に評価します。

2) 学習項目 6～9：以下についてチェックリストを基に定量的に評価します。

- ・模擬授業を担当する学習項目：模擬授業企画書（グループ課題）と小レポート（個人課題）
- ・模擬授業を担当しない学習項目：小レポート（個人課題）

各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、全ての学習項目に合格する必要があります。

学習項目		講師	時間	概要
1	イントロダクション	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0 必修	リーダーシップ教育に必要な以下の 3 つの考え方を共有します。 1) リーダーシップは、リーダーだけではなく、全員が発揮するものである、2) リーダーシップは、権限や権力がなくても発揮できるものである、3) リーダーシップは、生まれつきの才能よりは、日々の努力によって学習可能であるものである。 また、効果的なリーダーシップ教育を行うために必要な考え方・方法論の基本について、教員と受講生との間で共通の理解を形成します。 なお、実践的内容として、学習項目 6～9 の実施に向けて参考資料等を共有します。これにより模擬授業の理解を深め、チームごとに模擬授業準備の下地を整えます。
2	リーダーシップ研究の理解	石川 淳 (立教大学 教授)	2.0 必修	最新のリーダーシップ研究に基づいたリーダーシップの定義について共有します。また、約 70 年間展開されたリーダーシップ研究の流れを概観すると共に、初期のリーダーシップ研究であるリーダーシップの行動アプローチと状況適合アプローチについての理解を進めます。講義およびディスカッションを通じて、学部生にリーダーシップの基本的な考え方を伝える力を涵養します。

3	リーダーシップ研究方法論	金 善照 (立教大学 客員准教授、 福島大学 准教授)	2.0 必修	社会科学の厳密な研究方法論を用いて構築されたリーダーシップに関する「理論」と、実務家が日々の職場での経験で身につけた「持論」の相違点について検討します。確かに「持論」は経験型学習を設計することあたって欠かせない重要な要素です。しかし将来、高等教育機関でリーダーシップ教育を担当する皆さんにもいずれの時点では「持論」を「理論」として検証しなければならない瞬間が訪れるかと思います。本学習項目では、リーダーシップ分野の研究者が「理論」を検証していく三段階の研究プロセス（何が、どのように、なぜか）と、その結果得られた因果推論の三形式（単純因果関係、媒介された因果関係、条件付きの因果関係）について検討します。
4	リーダーシップ教育の理解	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0 必修	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること、2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること、3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること。 しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部がBLPを始めた経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。
5	リーダーシップ教育方法論	館野 泰一 (立教大学 准教授)	2.0 必修	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発 (human resource development) にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。
6	リーダーシップ模擬教育研修1	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	現代のリーダーシップ研究の主なテーマである変革型リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、シェアド・リーダーシップを学生に身につけるための教育プログラムを設計し、実施する演習を行います。各学習項目では、まず、上記のリーダーシップ・スタイルに関して担当教員による講義が行われます。受講生は、チームを組んで、各リーダーシップ・スタイルに関する文献に基づき、リーダーシップ教育の模擬授業を設計し、現役の学生を対象に実施します。この模擬授業に対し、担当教員と他の受講生チーム、および参加した学生によるフィードバックがなされます。
7	リーダーシップ模擬教育研修2	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
8	リーダーシップ模擬教育研修3	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
9	リーダーシップ模擬教育研修4	石川 淳 (立教大学 教授)	3.0 必修	
10	まとめ	石川 淳 (立教大学 教授) 山口 和範 (立教大学 教授)	2.0 必修	

自由選択 学習項目（計 8 時間以内）※専門領域別科目で選択したコースで必修となる学習項目を除く				
1	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース リベラルアーツ 教育論	吉田 文 (早稲田大学 教授)	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。 ※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴） 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
2	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース STEM・文理融合 教育論	山田 礼子 (同志社大学 教授)	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。 ※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴、英語による講演・日本語字幕） 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
3	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース 産学連携教育論	吉本 圭一 (九州大学 名誉教授)	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。 ※e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還するWIL—」（動画視聴） 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
4	産学連携リベラルアーツ教育力育成コース 教育質保証論	深堀 総子 (九州大学 教授)	3.0	2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。 ※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴） 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。
5	インストラクショナルデザイン指導力育成コース 基盤的 ID 論	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	3.0	ID の基本的な考え方について 学習した上で、これらを応用する課題（自身の教育改善アイデア）やその解決策の案を moodle フォーラム（掲示板）に投稿し、講師の指導のもと、掲示板での受講者との相互点検・コメントや議論を通じて解決策の問題点や要改善点を明らかにしながら改善し、最終案に対する講師からの評価コメントを通じて ID の基本を身につけていきます。※e-learning 各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します 【学習方法】Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

6	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> 教材設計演習	平岡 斉士 (熊本大学 准教授)	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・テスト・プロット案等を設計する練習を行います。各自が事前に用意した 授業設計企画書等を Moodle フォーラム (掲示板) に投稿し、学習者間の相互点検・コメントや議論を行います。授業の設計やその改善を学習していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて教材設計の基本を身につけます。 1) 教材企画書を書くために必要な知識の習得をし、2) 教材企画書の草稿等を掲示板に投稿して議論し、3) 議論を踏まえて改訂した教材企画書とテストを提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
7	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> 動機づけ理論活用演習	都竹 茂樹 (熊本大学 教授)	3.0	多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。事例に対する ARCS モデルの適用を、講師の指導のもと掲示板上で議論した上で、自らの授業設計に応用します。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて授業における動機付け設計の基本を身につけます。 1) ARCS モデルの基礎について理解し、2) 事例に基づいた練習を行い、掲示板による議論を行った上で、3) 事例を解決する提案 (自身の教育改善アイデア) を提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
8	<u>インストラクショナルデザイン指導力育成コース</u> e ポートフォリオ導入演習	松葉 龍一 (東京工科大学 教授) 久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)	3.0	学習者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について学びます。e ポートフォリオの自身の教育にどう活かすかを検討した結果を掲示板に投稿し、他学習者との相互コメントや議論を踏まえて改善していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて e ポートフォリオの設計や運用の基本を身につけます。 1) e ポートフォリオの基本構造について理解し、2) 掲示板による議論を行った上で、3) それを応用する課題 (自身の教育改善アイデア) を提出します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 用意された 3~5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。
9	<u>アントレプレナーシップ教育力育成コース</u> 技術マネジメント基礎論	鐘ヶ江 靖史 (PwC コンサルティング)	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。
10	<u>アントレプレナーシップ教育力育成コース</u> アントレプレナーシップ基礎論	広瀬 正 (大阪公立大学 特任教授)	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。 ※e-learning 【学習方法】 Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。 【成績評価】 オンライン学習でのレポート及びその他課題について、学習すべき要素を理解しそれを反映した記述となっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。

11	リーダーシップ開発力 育成コース リーダーシップ教育 の理解	山口 和範 (立教大学 教授)	2.0	立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること、2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること、3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部がBLPを始めた経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。 【学習方法】Web上の動画コンテンツを視聴し、オンライン会議システム(Zoom)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します。また、Web上で指示される課題に取り組みます。 【成績評価】課題(小レポート等)について到達度を担当教員がチェックリストで評価します。
12	リーダーシップ開発力 育成コース リーダーシップ教育 方法論	舘野 泰一 (立教大学 准教授)	2.0	大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発(human resource development)にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。 【学習方法】Web上の動画コンテンツを視聴し、オンライン会議システム(Zoom)にアクセスし、リアルタイムで教員と受講生が相互作用を行う同期型オンライン学習に参加します。また、Web上で指示される課題に取り組みます。 【成績評価】課題(小レポート等)について到達度を担当教員がチェックリストで評価します。

④教育イノベーター実践演習科目 (12 時間 : 共通必修)				
<p>【目的】 これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。</p> <p>【学習目標】 実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案(授業、カリキュラム、プロジェクトの案等)の発表・討論を行います。</p> <p>【授業方法】 受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備(7.0時間)、②事前指導(1.0時間)、③成果発表会・講評(4.0時間)、を行います(計12.0時間)。</p> <p>【成績評価方法】 成果発表会での発表について、到達度をルーブリックで評価します。100点満点で採点し、60点以上で合格とします。</p>				
学習項目	講師	時間	概要	
1 キャップストーン・プロジェクト	大森 不二雄 (東北大学 教授) 杉本 和弘 (東北大学 教授) 鈴木 克明 (熊本大学 教授) 戸田 真志 (熊本大学 教授) 松井 利之 (大阪公立大学 教授) 星野 聡孝 (大阪公立大学 教授) 山口 和範 (立教大学 教授)	12.0	受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②事前指導、③成果発表会・講評を行います。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。	

2022年度 産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表

2022.04.18 改訂

科目	実施日(期間)	時間帯	学習項目		実施方法	
大学教育基礎力科目	8月6日(土)	13:30~14:30		オリエンテーション※ ¹	対面@東京	
	8月6日(土) ~10月7日(金)		1	大学教育制度論(必修)	オンライン(非同期)	
			2	インストラクショナルデザイン(必修)		
			3	授業設計論(必修)		
			4	学習評価論(必修)		
			5	学生・学習支援論(選択必修)		
			6	カリキュラムマネジメント(選択必修)		
			7	大学における倫理(選択必修)		
			8	教育改善論(選択必修)		
			9	オンライン授業実践論(選択必修)		
			10	ICT等先端技術活用教育論(選択必修)		
	11	実務家教員論				
10月7日(金) 締切			大学教育基礎力レポート	レポート提出		
備考: 学習項目1~4は必修。学習項目5~11(選択必修)より少なくとも2つ選択。						
実践力科目	10月15日(土)・30日(日) ※いずれか参加	13:30~16:15 予定	1	研究指導演習	オンライン(同期)	
	10月16日(日)	13:30~16:15 予定	2	授業デザインとシラバス作成		
	10月22日(土)・23日(日) ※いずれか半日参加必須	両日午前・午後	3	インストラクショナルデザイン演習		
備考: 学習項目1~3は、各30分程の事前学習あり。演習は全てリアルタイム配信で実施。但し、当日参加が難しい場合、個別に相談・対応。						
専門領域別科目	産学連携リベラルアーツ教育育成(LA)コース					
	大学教育基礎力科目終了後 ~12月15日(木)		1	リベラルアーツ教育論	オンライン(非同期)	
			2	STEM・文理融合教育論		
			3	産学連携教育論		
			4	教育質保証論		
	12月10日(土)・11日(日) ※両日参加必須	10日 10:00~13:00 予定 11日 15:00~18:00 予定	5	PBL設計・運営演習	ハイフレックス※ ² (対面@東京+オンライン:同期、 17日午後~18日午前は自己学習時間)	
	12月17日(土)・18日(日) ※いずれか半日	10:00~13:00 15:00~18:00	6	リベラルアーツ・セミナー実践演習	ハイフレックス※ ² (対面@仙台+オンライン:同期)	
	備考: 学習項目5・6(選択必修)はいずれか1つを選択。学習項目5は、授業参観(5時間:対面@仙台/東京もしくはオンライン:選択可)、模擬授業の設計(4時間:自己学習)、模擬授業の実施(3時間:ハイフレックス(対面@仙台))によって構成される。学習項目6は、授業参観(4時間:対面@東京・名古屋:選択可)、模擬授業の設計(5時間:ハイフレックス(対面@東京))、模擬授業の実施(3時間:ハイフレックス(対面@東京))によって構成される。学習項目5・6の上記日程は、同期による模擬授業日時。					
	インストラクショナルデザイン指導育成(ID)コース					
	大学教育基礎力科目終了後 ~11月20日(日)		1	基盤的ID論	オンライン(非同期)	
2			教材設計演習			
3			動機づけ理論活用演習			
4			eポートフォリオ導入演習			
12月10日(土) 予備日:12月11日(日)9:00~12:00	13:00~16:00	5	大人の学びへど誘う教育改善演習	ハイフレックス※ ² (対面@東京+オンライン:同期)		
12月18日(日) 予備日:12月17日(土)13:00~16:00	9:00~12:00	6	既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習	ハイフレックス※ ² (対面@熊本+オンライン:同期)		
備考: 学習項目5・6はいずれか少なくとも1つを選択。いずれも事前学習(7時間:オンライン非同期)、模擬授業(3時間:ハイフレックス)、事後学習(2時間:オンライン非同期)によって構成される。学習項目5・6の上記日程は、模擬授業を含む同期学習。						

アントレプレナーシップ教育力育成 (EP) コース					
専門領域別科目	大学教育基礎力科目終了後 ～11月8日(火)	1	技術マネジメント基礎論	オンライン (非同期)	
		2	アントレプレナーシップ基礎論		
	11月15日(火) 11月22日(火)	15:00～18:15	3	技術マネジメントコンサルティング演習	ハイフレックス※2 (対面@大阪+オンライン同期、 12月21日のみ対面@東京 +オンライン同期)
	11月9日(水) 11月23日(水祝) 12月14日(水) 12月21日(水)	15:00～18:15	4	ベンチャービジネスコンサルティング演習	
	備考：学習項目3および4は演習(各回3時間：対面もしくはオンラインのハイフレックス)で構成され、対面またはオンライン同期での参加を原則とする。				
	リーダーシップ開発力育成 (LD) コース				
	11月6日(日)	10:30～11:30	1	イントロダクション	ハイフレックス※2 (対面@東京または池袋 +オンライン:同期) 事前視聴動画あり
		11:30～12:30	2	リーダーシップ研究の理解	
	11月13日(日)	10:00～11:00	3	リーダーシップ研究方法論	オンライン (同期) 事前視聴動画あり
		11:10～11:40	4	リーダーシップ教育の理解	
11月20日(日)	10:00～11:00	6～9	リーダーシップ教育方法論		
	11:10～11:50		リーダーシップ模擬教育研修 1 (理論編)		
11月27日(日)	10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修 1 (実践編)		
			リーダーシップ模擬教育研修 2 (理論編)		
12月4日(日)	10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修 2 (実践編)		
			リーダーシップ模擬教育研修 3 (理論編)		
12月11日(日)	10:00～11:40		リーダーシップ模擬教育研修 3 (実践編)		
			リーダーシップ模擬教育研修 4 (理論編)		
12月18日(日)	10:00～11:00		リーダーシップ模擬教育研修 4 (実践編)		
	11:00～12:00		10	まとめ	
備考：学習項目1・2はハイフレックスにて実施。学習項目3～10はオンラインにて実施。全学習項目30分程の事前学習あり。					
教育イノベーター 実践演習科目	EP・LDコース 2月4日(土)・5日(日) ※2日間のうち、いずれか半日	午前セッション 9:00～13:00	キャップストーン・プロジェクト 成果発表会	オンライン (同期)	
	LA・IDコース 2月18日(土)・19日(日) ※2日間のうち、いずれか半日	午後セッション 14:30～18:30			

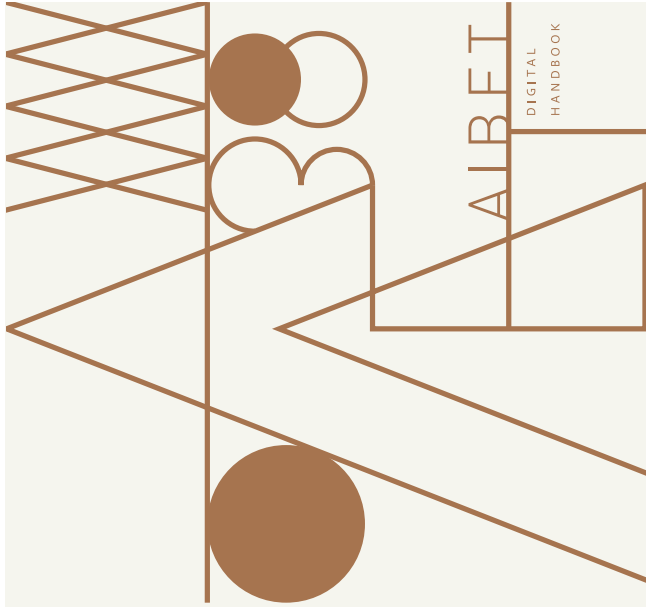
※1：8/6 オリエンテーションは対面に実施いたします。全受講者の参加必須ですが、対面参加ができない場合、後日、録画を視聴してください。(リアルタイムでのオンライン配信はいたしません。) オリエンテーション後、プログラムの修了生と新受講生との交流会を行います(参加任意)。

※2：対面を実施する場合の会場は以下のとおりです。ハイフレックスとは、授業が対面及びオンライン同期にて提供され、受講者は受講形態を選択可能です。
 東京：23区内の会場
 池袋：立教大学 池袋キャンパス(東京都豊島区西池袋3-34-1)
 大阪：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス(大阪府堺市中央区学園町1-1)
 仙台：東北大学 川内北キャンパス(宮城県仙台市青葉区川内41)
 熊本：熊本大学 黒髪キャンパス(熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1)

特別セッション【参加任意】

プログラム受講中に、下記セッションが行われます。日程は後日お伝えします。

セッション名	内容
大学教育基礎力科目 講師 Q&A セッション	Moodle 上での大学教育基礎力科目の学習をサポートするため、大学教育基礎力科目の講師との Q&A セッションおよび受講者交流会(参加任意)をオンライン(Zoom)にて開催いたします。Q&A セッションでは、大学教育基礎力科目講師に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会として自コースや他コースの受講生との交流の機会がございます。 1回目：2022年8月20日(土) 10:00～12:00 学修項目1「大学教育制度論(必修)」講師：大森不二雄、杉本和弘 学修項目6「カリキュラムマネジメント(選択必修)」講師：杉谷祐美子 2回目：2022年9月3日(土) 13:30～15:30 学修項目2「インストラクショナルデザイン(必修)」講師：鈴木克明 学修項目11「実務家教員論(選択必修)」講師：松井利之、広瀬正
キャリアサポート・オンラインセッション	受講者の皆さんが今後実務家教員としてキャリアを構築していけるよう、実務家教員に関するレクチャーや、大学等の求人機関に自分自身をアピールするためのキャリア支援サービス(JREC-IN Portal/researchmap/大学等と実務家教員のためのマッチングサポート等の各種ツール)に関する Q&A セッションを行います。(他実務家教員研修プログラム受講者と合同実施)



産学連携教育イノベーター 育成プログラム 2022

Academia-Industry Bridge Program
for Educational Transformation 2022

4.2 産学連携教育イノベーター育成プログラム2022 ハンドブック

【本ハンドブックの活用方法】

このハンドブックには、履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」(2022年度)のセミナー日程、学習内容、課題の締切、注意事項など、プログラムを受講するために必要な情報を記載しています。

本プログラムについて知りたいこと、確認したいことが生じた場合には、メールで問い合わせる前に、以下を参考に本ハンドブックの記載事項を確認してください。

プログラムについて確認したい

- このプログラムの目的は? 5
- 履修証明プログラムとは? 8
- 修了要件は? 9
- 全体の日程表は? 55
- コースごとのスケジュールは? 57, 59, 60

受講にまつわるサポートについて確認したい

- 問い合わせ先は? 2, 3
- 欠席する場合は? 2, 3
- 学習システムの使い方は? 61
- Moodleって何? 使い方は? 61
- リフレクション/振り返りって何? 63
- 大学教育に関する文献をちょっと知りたい 64
- 大学の授業についてもっと知りたい 64

学習項目について確認したい

- 各学習目の実施方法は? 10~の各学習目のページへ
- 学習にかかる時間は? 10~の各学習目のページへ
- 提出課題の内容は? 10~の各学習目のページへ
- 課題の締切はいつ? 10~の各学習目のページへ
55~の日程表のページへ
- 課題の評価方法は? 10~の各学習目のページへ
- 最終課題の内容は? 52

【各種問い合わせ先】

履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡、及びキャリア関連についてのお問い合わせは、各コース受講アドバイザーへご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育育成コース

責任教員

大森 不二雄 (Fujio Ohmori)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授

責任教員

杉本 和弘 (Kazuhiro Sugimoto)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授

受講アドバイザー

今野 文子 (Fumiko Konno)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 専門研究員
連絡先：inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン指導育成コース

責任教員

喜多 敏博 (Toshihiro Kita)
熊本大学 教授システム学研究センター センター長、教授

責任教員

鈴木 克明 (Katsuaki Suzuki)
熊本大学 教授システム学研究センター 教授

受講アドバイザー

中島 奈美 (Nami Nakashima)
熊本大学 教授システム学研究センター 特定事業研究員
連絡先：inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース

責任教員

松井 利之 (Toshiyuki Matsui)
大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター長 教授

受講アドバイザー

山田 裕美 (Hiromi Yamada)
大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター 特任講師
連絡先：las-jitsumuka.ep@mi.tomu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース

責任教員

山口 和範 (Kazunori Yameguchi)
立教大学 経営学部 学部長 教授

受講アドバイザー

折戸 裕子 (Yuko Orito)
立教大学 大学教育開発 支援センター
「産学連携教育イノベーター育成プログラム」受講アドバイザー
連絡先：inv-pro@rikkyo.ac.jp

その他のお問合せについては、下記プログラム事務局までご連絡ください。
事務局では、Moodleの個人チャットを通じての問合せには対応しておりません。お手数でも、メール・電話にてご連絡ください。

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局

Email : innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

TEL : 022-795-4472 ・ 4473 FAX : 022-795-4749

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター(CPD) (担当：福田・遠藤・朱)
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41
東北大学 川内北キャンパス/川北合同研究棟 2階 201

Contents

1. 産学連携教育イノベーター育成プログラムの概要	5
1-1 目的	5
1-2 プログラムの構成	6
1-3 コースの概要	6
1-4 身に付ける能力	8
1-5 履修証明プログラムとは	8
1-6 プログラムの提供方法	8
1-7 修了要件	9
1-8 成績優秀者の認定について	9
1-9 「実務家教員等育成のための研修講師養成プログラム」受講者の陪席	9
2. 各科目の内容	10
2-1 ①大学教育基礎力科目	11
2-2 ②汎用的教育実践力科目	16
2-3 ③専門領域別科目	20
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）	20
インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）	25
アントレプレナーシップ教育力育成コース（大阪公立大学）	33
リーダーシップ開発力育成コース（立教大学）	38
自由選択学習項目	48
2-4 ④教育イノベーター実践演習科目	52
3. プログラムの日程	55
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）	57
インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）	58
アントレプレナーシップ教育力育成コース（大阪公立大学）	59
リーダーシップ開発力育成コース（立教大学）	60
4. 学習システムへのログイン方法	61
5. 学習のための参考情報	63
5-1 リフレクション・振り返りとは	63
5-2 参考資料	64
5-3 メールマガジン（通信）	64

1 産学連携教育イノベーター育成プログラムの概要

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）を提供します。

1-1 目的

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

Q. 産学連携教育イノベーターとは？

A. 産業界の知見と教育実践力を併せ持つ、ハイブリッド人材

実務経験を学習可能な知に転換し、
 プロの教育力（教え方＝学ばせ方）を獲得
 学びと社会をつないで学生の心に火を点け、
 社会人の学び直しにも貢献

カラハコス化した人材育成を変革し、日本を元気にする主役 = 産学連携教育イノベーター

本プログラムで育成する実務家教員の人材像は、「学びと社会をつなぐ実践知・学術知住進及び学習成果のエビデンスに基づいた教育変革を先導する教育イノベーター」です。それは、学びと社会をつなぐ、学生の大学教育への動機付けを高め、社会人をリカレント教育へ意欲付けることができる教育者、そして、実務経験に基づいた実践知と、これに関連する理論・方法論など普遍的な学術知とをブリッジし、両者の対話・循環による相乗効果を目指す先導者を輩出していきます。さらに、国際連携により海外の先進的知見を取り入れつつ、教員・講師が話すことよりも学生・受講者が学ぶことに焦点を置いて学習活動を効果的に促進し、学習成果の獲得、向上を実現する教育をデザインし実践できる変革者を目指します。

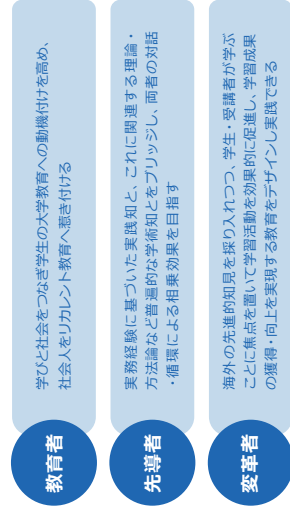


図. 育成する人材像

1-2 プログラムの構成

本プログラムは4つの科目で構成されています。

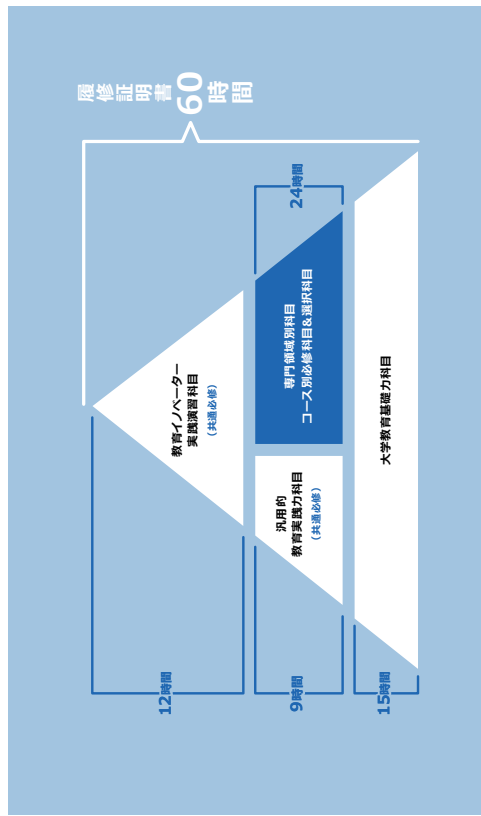


図. 産学連携教育イノベーター育成プログラムの構成

まず、大学教員としての教育基礎力（基礎的知識・スキル・態度）をオンライン研修で共通に学ぶ「**大学教育基礎力科目**」（15 時間）を履修したうえで、教育方法のスキルを演習形式で学ぶ「**汎用的教育実践力科目**」（9 時間）汎用的専門性獲得のための「**専門領域別科目**」（24 時間）を履修します。これらの履修をベースに、教育イノベーターとして活躍していくための資質、能力を確保するための「**教育イノベーター実践演習科目**」（12 時間）を履修します。

計 60 時間のプログラムを修了した際には、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」「リーダーシップ開発力育成コース」の2コースは東北大学総長名にて、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」は熊本大学教務システム学研究センター長名にて、「アントレプレナーシップ教育力育成コース」は大阪立大学長名にて履修証明書が発行されます。

1-3 コースの概要

プログラムを構成する科目のうち**専門領域別科目**は、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」(東北大学提供)「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」(熊本大学提供)、「アントレプレナーシップ教育力育成コース」(大阪立大学提供)、「リーダーシップ開発力育成コース」(立教大学提供) を開講します。

【東北大学】

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーやPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を含む教育実践、大学教員連備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、**産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務教員**の育成を目指します。

【熊本大学】

インストラクショナルデザイン指導力育成コース

企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初のeラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基つき、**学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務教員**の育成を目指します。

【大阪立大学】

アントレプレナーシップ教育力育成コース

イノベーション創出型研究者養成カリキュラムとして、多数の企業の協力を得て大学院の正式科目として設置した産学連携科目・インターンシップにおいて、毎年約500人もの受講者を輩出してきた実績を活かし、**アントレプレナーシップ教育を担う実務教員**を育成します。

【立教大学】

リーダーシップ開発力育成コース

全国にその名を知られる「ヒシホス・リーダーシップ・プログラム（BLP）」等の成果に基づき、アクティブ・ラーニングを通じて身に付ける**リーダーシップ教育を広く日本の高等教育において展開していく実務教員**を育成します。

1-4 身に付ける能力

本プログラムが育成する実務系教員「産学連携教育イハバーター」の人材像に必要なスキル・能力として、次の3つの学習成果の獲得を掲げています。

- ① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度**を身につける
- ② コース毎に設定する専門領域（汎用的な専門性）における**教育実践力を身につける**
- ③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知を基盤とした学習成果のエビデンスに基づき**教育変革を先導する「教育イハバーター」**としての**変革力を身につける**

1-5 履修証明プログラムとは

本プログラムは、学校教育法に基づく「**履修証明プログラム**」です。履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法 105 条に基づき**履修証明書 (Certificate)** が交付されます。

履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「**職業能力証明書 (ジョブ・カード・コア)**」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。

1-6 プログラムの提供方法

本プログラムの提供方法は**学習項目ごとに異なります**。本ハンドブックの「2. 各科目の内容 (p.10)」およびメールや Web 上で提供される最新の状況を参照し、確認してください。

本プログラムでは**Moodle と呼ばれる e-learning プラットフォーム**を活用します。Moodle の使い方については 4. 学習システムへのログイン方法 (p.61) を参照してください。

本プログラムで予定している研修の提供方法は次の通りです。

- **オンライン (同期) 型**: 実施日程が設定されており、当該時間帯にアクセスして受講
- **オンライン (非同期) 型**: 日時を問わず、期間内に自由にアクセスして受講
- **対面・集合型**: 実施日程と会場が設定されており、実際に指定の場所に集って受講
- **個人・グループコンカル型**: 実施日程が設定されており、当該時間帯にアクセスして受講
- **ハイフレックス型**: 「対面・集合型」とその「同期型オンライン配信」のうち、どちらか選択して受講

上記のうち、**オンライン (同期) 型**におけるアクセス先 (zoom 等 URL) の詳細は、Moodle 上に掲載します。また、**対面・集合型/ハイフレックス型**で**実施が予定されている研修の会場 (予定)** は以下の通りです。

東京：23 区内の会場

池袋：立教大学 池袋キャンパス (東京都豊島区西池袋 3-34-1)

仙台：東北大学 川内北キャンパス (宮城県仙台市青葉区川内 41)

大阪：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス (大阪府堺市中区学園町 1-1)

熊本：熊本大学 黒髪キャンパス (熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1)

1-7 修了要件

本プログラムの修了要件は下記のとおりです。

- ① 開講期間内に本プログラムの **60 時間の課程を履修し、全科目に合格すること**。
- ② 履修大学において、**教授会に相当する機関での認定**を受けること。

1-8 成績優秀者の認定について

本プログラムにおいて**優秀な成績を修めた受講者を「成績優秀者」として認定**します。プログラム全体を通しての成績が考慮され、**各コースごとに成績上位 2 割程度に該当する受講者が対象**となります。成績優秀者に認定された場合、「履修内容証明書」にその旨が証明されます。





1-9 「実務系教員等育成のための研修講師養成プログラム」受講者の陪席

本プログラムと並行し、実務系教員を含む大学教員のための研修講師を養成するためのプログラム (以下、講師養成プログラム) が開講されています。講師養成プログラムの受講者は、「産学連携教育イハバーター育成プログラムのオリエンテーションや同型で開講される学習項目、および成果発表会等への陪席、参与観察を行うことで、研修の開発・実施側の視点に立った考察の機会や知見を得ることを期待されています。ご理解いただけますようお願いいたします。

2 各科目の内容

本章では、本プログラムの各科目の詳細について説明します。

表. 産学連携教育イノベーション育成プログラムの各科目の概要

 <p>① 大学教育基礎力科目</p> <p>オンライン (非同期)</p>	<p>共通必修 15時間</p> <p>大学で授業を担当する際に必須となる基礎的な知識・技能を修得する</p>
 <p>② 汎用的教育実践力科目</p> <p>オンライン (同期)</p>	<p>共通必修 9時間</p> <p>大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得する</p>
 <p>③ 専門領域別科目</p> <p>学習項目により異なる ※重要確認！</p> <p>オンライン (非同期)</p> <p>オンライン (同期)</p> <p>ハイフレックス (HyFlex) (Hybrid flexible) 対面・オンライン・遠隔を 同時にオンライン配信・遠隔を 受講者が受講方法を選択可能</p>	<p>産学連携リベラルアーツ教育力育成コース： 大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた21世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになる</p> <p>インスタラクシヨナルデザイン指導力育成コース： 大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するための教育環境構築のためのスキルを修得する</p> <p>アントレプレナーシップ教育力育成コース： 起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導、教育するための手法や技能を習得する</p> <p>リーダーシップ開発力育成コース： 「大学生のリーダーシップ教育（開発）」を企画、運営するために必要となる基礎知識、手法や技能を習得する</p>
 <p>④ 教育イノベーション実践演習科目</p> <p>オンライン (同期)</p>	<p>共通必修 12時間</p> <p>これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践、運営できるようになる</p>

オンライン (非同期)

本科目は Moodle を利用した非同期型 e-learning で実施します



受講の流れ

動画の視聴、必読文献を読む



Moodle 上でクイズに回答



掲示板に疑問・考察等を投稿



他受講者の投稿にコメント



大学教育基礎力レポートを作成



① 大学教育基礎力科目

共通必修15時間

目的

大学で授業を担当する際に必須となる基礎的な知識・技能を修得する。

学習目標

大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インスタラクシヨナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指す。

授業方法：オンラインセッション終了後、気になった学習項目から学習を始めてよい。

- ① 各学習項目に関する Web 上の動画を視聴
- ② 各学習項目の必読文献を読む (学習項目9を除く)
- ③ 各学習項目について Moodle 上でクイズに解答
- ④ Moodle 掲示板上で各学習項目に関する疑問・考察内容等を投稿
- ⑤ Moodle 掲示板上で各学習項目に関する他受講者の投稿を読み、コメント
- ⑥ 選択した学習項目について①～⑤終了後に「大学教育基礎力レポート」を作成

学習所要時間：各学習項目 2 時間 + レポート 3 時間

講義動画視聴、必読文献を読む	1.5 時間
クイズ/掲示板への投稿・コメント	0.5 時間
「大学教育基礎力レポート」の作成	3.0 時間

履修方法

- 1) 学習項目1～4は必修
- 2) 学習項目5～11より少なくとも2つ選択して学習
- 3) 上記を満たしたうえで「大学教育基礎力レポート」を作成

成績評価方法

履修方法に即して学習項目を選択し、下記の条件を満たすこと。

- ① それぞれのクイズで 6 割以上正解すること
- ② Moodle 掲示板への投稿を実施すること
- ③ 他受講者の投稿にコメントすること (自身の投稿への返信はカウントしない)

上記を大学教育基礎力レポートの提出前に満たさなければならぬ前提条件とする。大学教育基礎力レポートの評価はチェックリスト (Moodle 上で公開) によって評価する (100 点満点)。同レポートの評価が 60 点以上で本科目は合格とする。

必修

1 大学教育制度論(2.0時間)



大森 不二雄
(東北大学 教授)



杉本 和弘
(東北大学 教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける3つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。



必修

2 インストラクショナルデザイン(2.0時間)



鈴木 克明
(熊本大学 教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン (ID)」の基礎理論と具体的手法について学びます。



必修

3 授業設計論(2.0時間)



平岡 斉士
(熊本大学 准教授)



合田 美子
(熊本大学 准教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

学習目標、評価方法を整合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。



必修

4 学習評価論(2.0時間)



松下 佳代
(京都大学 教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。



選択必修

5 学生・学習支援論(2.0時間)



岡田 有司
(東京郵立大学 准教授)



佐藤 智子
(東北大学 准教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

大学生の抱える心理的・発達の問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。



選択必修

6 カリキュラムマネジメント(2.0時間)



杉谷 祐美子
(南山学院大学 教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するためのカリキュラムマネジメントの考え方や活用方法について学びます。



選択必修

7 大学における倫理(2.0時間)



山内 保典
(東北大学 准教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

知の生産・活用に携わるプロフェSSIONナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ(学術的誠実性)を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。



選択必修

8 教育改善論(2.0時間)



高橋 哲也
(大阪公立大学 准教授)



緒方 広明
(京都大学 教授)

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)

【提出締切】2022年10月7日(金)23:59

大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテュショナル・リサーチ(IR)」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス(LA)」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。



選択必修

9 オンライン授業実践論(2.0時間)



根岸 千慈 (大阪大学 特任講師)

浦田 聡 (大阪大学 准教授)

佐藤 浩章 (大阪大学 教授)

村上 正行 (大阪大学 教授)

オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール、手法を用いた実践事例を紹介しつづ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学びます。※記録受講なし

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)
【提出締切】2022年10月7日(金)23:59



選択必修

10 ICT等先端技術活用教育論(2.0時間)



戸田 真志 (東北大学 教授)

松菜 龍一 (東北大学 教授)

喜多 敏博 (熊本大学 教授)

甲斐 晶子 (山形大学 教授)

ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)
【提出締切】2022年10月7日(金)23:59



選択必修

11 実務家教員論(2.0時間)



松井 利之 (大阪立大学 教授)

広瀬 正 (大阪立大学 特任講師)

実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。

2022年8月6日(土)～2022年10月7日(金)
【提出締切】2022年10月7日(金)23:59



必修

★ 大学教育基礎力レポート(3.0時間)

受講した各学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

【レポート課題】

受講した学習項目(必修4項目+選択必修2項目)のうち、少なくとも3つの学習項目での学び(疑問について調べたことを含む)に言及しながら、次の2点について総合的に考察して論述すること

- ① 本科目での学びが自身の教育観やこれまでの考え方にどのような変化をもたらしたかについて論述する
- ② 本科目での学びを活かして教育イノベーターとして活躍するために大切にしたいことについて論述する

注意点
・構式は問いませんが、読み手に配慮して構成してください。
・箇条書きではなく、文章で論述するようにしてください。

提出方法	Moodle上で提出する。 ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか
提出締切	2022年10月7日(金)23:59
チェックリストと配点	レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。各自内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。



大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション

Moodle上での大学教育基礎力科目の学習をサポートするため、大学教育基礎力科目の講師とのQ&Aセッションおよび受講者交流会(参加任意)をオンライン(ZOOM)にて開催します。Q&Aセッションでは、下記に示す大学教育基礎力科目の担当講師に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会として自コースや他コースの受講者との交流の機会が設けられます。参加申込方法については別途アナウンスします。

第1回：2022年8月20日(土) 10:00～12:00

【参加講師】 学習項目1「大学教育制度論(必修)」講師：大森不二雄、杉本和弘
学習項目6「カリキュラムマネジメント(選択必修)」講師：杉谷祐美子

第2回：2022年9月3日(土) 13:30～15:30

【参加講師】 学習項目2「インストラクショナルデザイン(必修)」講師：鈴木克明
学習項目11「実務家教員論(選択必修)」講師：松井利之、広瀬 正

オンライン（同期）

本科目は Moodle を利用した e-learning と Zoom による同期型オンライン配信で実施します



受講の流れ

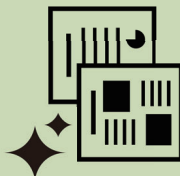
事前学習を実施 (Moodle)



ワークショップに参加 (Zoom 配信)



成果物を完成させる



②汎用的教育実践力科目

共通必修9時間

目的

大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得する。

学習目標

インスタラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導について、ワークショップ(演習)を通して、実際の教育現場で活用・応用できるようにすることを旨とする。

授業方法

- ①各学習項目に関するワークショップ(演習)に参加
- ②各学習項目で課される成果物を完成させる

学習所要時間：各3時間

	事前学習	演習	事後学習
1. 研究指導演習	30分	2.0時間	30分
2. 授業デザインとシラバス作成	15分	2時間45分	0分
3. インストラクショナルデザイン演習	40分	2.0時間	20分

成績評価方法

各学習項目(各演習)受講後の成果物について、到達度をルーブリック等で評価する。各学習項目を100点満点で採点し、60点以上で当該項目を合格とする。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3つの学習項目の全てに合格する必要がある。

科目内容の公開時期

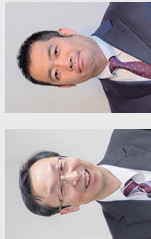
Moodle 上における汎用的教育実践力科目の公開は、下記の日程で実施します。
・事前学習課題の公開：2022年9月7日(水)
・学習項目の内容の全体公開：2022年10月9日(日)

受講日程に関する調整について

「研究指導演習」と「インスタラクショナルデザイン演習」については、受講日程についての確認および調整を実施します。8月に配信される「産学連携教育イノベーション育成プログラム通信」上でアナウンスし、8月下旬に受講日程希望調査および調整、確認を行う予定ですので、ご留意ください。

1 研究指導演習(3.0時間)

オンライン(同期)



出江 紳一
(東北大学 教授) (前/ウエブ/学修支援)

2022年10月15日(土)13:30~16:40 (LA/EPコース対象)
2022年10月30日(日)13:30~16:40 (ID/LDコース対象)
13:30~15:30は必須、15:40~16:40は任意参加 (参加日程別途抽選可)

教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。

※受講に際して事前・事後学習が設定されています。
※8月下旬に参加日程の確認、調整を実施します。

事前学習

事前に Moodle 上で「コーチング技能を活用した院生指導」に関する講義動画(30分程度)を視聴してください。汎用的教育実践力科目の事前課題には、2022年9月7日(水)以降にアクセスできます。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について10月13日(木)までに Moodle 上の掲示板に投稿してください。

演習

【趣旨】事前学習のフォローアップに引き続き、コーチングセッションを行う

【実施方法】Zoom Meeting ※URLは Moodle に掲載

【日程】2022年10月15日(土) LA/EPコース対象・10月30日(日) ID/LDコース対象

※各コース対象日に参加不可の場合、受講アドバイザーにご相談の上、もう一方の日に参加可

13:30~15:30 各自Zoomへログイン

15:40~16:40 (任意参加) グループコーチングセッションと振り返り

演習(2時間)後に、さらに学びを深めたい方向けに「グループコーチングセッション(45分)

間)と振り返り(15分間)(計1時間)を予定しています。任意参加の内容ですが、セッション開始後の速く退室はご遠慮ください。

事後学習のための補助教材の提供(任意)

現職の学教員が「コーチングをどのようにに大学教育や研究指導に活かしているか」について学べる事後学習動画を視聴できます。動画は演習受講後に公開され、視聴は任意です。ぜひご活用ください。

提出する成果物：自分だけのコーチングノート

【趣旨】

本演習での学びの内容と、そこから得られた成長ビジョンを記述した「自分だけのコーチングノート」を成果物として提出してください。事前学習と演習当日の学びをもとに、ルーブリックに裏付けされている5つの観点

- ① コーチングの3原則
- ② コーチングフロー
- ③ 目指す指導のスタンスと自身の成長課題
- ④ ①②③に基づいた今後の教育方針
- ⑤ 「自分だけのコーチングノート」としての創意工夫

をふまえてコーチングノートを作成してください。

様式や体裁は指定しませんが、後から見返しても価値ある内容や表現となるよう工夫してください。他の著作物の引用等を行う場合は出典を必ず明記し、引用部分と自身の論述部分の区別を明確にしてください。

【提出方法と締切】

Moodle 上で提出する。ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】10月15日(土)実施回の受講者：2022年10月24日(月)23:59
10月30日(日)実施回の受講者：2022年11月7日(月)23:59

【成果物の評価に用いるチェックリスト】

成果物の評価に用いるルーブリックは、Moodle 上で公開します。各自内容を十分に確認したうえで作成し、取り組んでください。

2 授業デザインとシラバス作成(3.0時間)

オンライン(同期)



甲本 剛
(熊本大学 准教授)

2022年10月16日(日)13:30~16:15
(16:15~16:45までQ&Aセッション(任意参加))

認得力あるシラバスを作るためには、授業の目標・活動・評価を構造化することが欠かせません。本演習では、オンラインのワークシートを使いながら、構造的な授業設計のコンセプトを学びます。

※受講に際して事前学習が設定されています。

事前学習

- ① **ディプロマポリシーについて調べる**
本演習では、自身の授業開発先として適切だと思われる学部あるいは学科のディプロマポリシー(DP)：学位授与の方針)を念頭に担当授業科目の目標を設定します。大学のウェブサイトで公表されているDPを確認しその内容を演習当日までに、Moodle上の掲示板に投稿してください。
- ② **ワークシートをダウンロードしておく**
演習当日は「授業デザインワークシート」を用いてご自身が構想する授業の構造を明らかにしていきます。事前にMoodle上からダウンロードし、編集できるかどうかを確認しておきましょう。

演習

【趣旨】シラバス作成の前提として、授業の目標、成績評価方法、授業の内容を構造化した授業設計を行う

【実施方法】Zoom Meeting ※URLはMoodleに掲載

【日程】2022年10月16日(日) 13:15~13:30 Zoomへログイン
13:30~16:15 演習(2時間45分)
16:15~16:45 Q&Aセッション(任意参加、詳細下記参照)

演習後のQ&Aセッション(任意参加)

演習(2時間45分)後に、30分間(16:15~16:45)の任意参加のQ&Aセッションを行います。演習の時間内にも適宜質問を受け付ける時間をとりますが、そこで解決できなかった内容について講師に直接質問することができます。事前に「よくある質問集」をMoodle上で公開しますので、質問する前にそちらを参照するようにご協力願います。

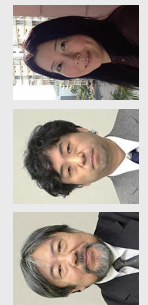
提出する成果物：授業デザインワークシート (Moodleからダウンロード)

【課題】演習内で作成した「授業デザインワークシート」を完成させて提出してください
【提出方法と締切】 Moodle上で提出する。ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか
【提出締切】 2022年10月31日(月)23:59

【成果物の評価に用いるルーブリック(チェックリスト)】
成果物の評価に用いるルーブリックは、Moodle上で公開します。各自内容を十分に確認したうえで作成に取り組んでください。

3 インストラクショナルデザイン演習(3.0時間)

オンライン(同期)



鈴木 克明 平岡 齊士 合田 美子
(熊本大学 教授) (熊本大学 准教授)

2022年10月22日(土)午前10:00~12:00
午後13:30~15:30
10月23日(日)午前10:00~12:00
午後13:30~15:30
いずれか半日に参加必須

大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。

※受講に際して事前学習が設定されています。

※8月下旬に参加日程の希望調査を実施します。

事前準備

Moodle上で指示する事前準備を演習当日の3日前までに実施してください。

- 1) **シラバスを準備し、ワークシートに記入する**

①自身が実務家教員として担当できそうな科目のシラバスを用意する
② Moodle から指定のワークシートをダウンロードし、記入する

- 2) **指定された他の受講者とペアでワークシートをチャットする**

①演習で使用する資料を Moodle からダウンロードする
②1) で記入したワークシートの内容について、資料内の指示に従い回答を考える
③考えた回答を Moodle 上のペーパー用スレッドに投稿する
④ペアの相手の投稿内容について適切かどうかをチャットし、その結果を投稿する
⑤ペアからのコメント・修正提案を参考に、自身のワークシートやシラバスを修正し、修正版を同じスレッドに投稿する

演習

【趣旨】他の受講者と議論しながらオンライン同期ワークを実施する

【実施方法】Zoom Meeting ※URLはMoodleに掲載

【日程】参加必須の2時間の演習の前後に任意参加のプレ・ポスト演習を行います

・プレ演習(演習開始30分前~):教員共修とペアワークの練習(ブレイクアウトルームへの出入り、画面共有など)
・演習(2時間)
・ポスト演習(演習後30分間):教員や他の受講者との交流

提出する成果物：最終レポート

【趣旨】

最終レポートは「インストラクショナルデザイン演習」での内容を振り返り、そこで学んだことをまとめて自身の授業改善に生かすアクションプラン(行動計画)としてまとめるものです。最終レポートに学んだことが反映され、かつ、次の実践に役立つ内容が盛り込まれているかどうかをチェックします。

【提出方法と締切】

Moodle上で提出する。
ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

【提出締切】 2022年10月31日(月)23:59

【合格基準】

レポートの評価に用いるルーブリックは、Moodle上で公開します。各自内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。

オンライン(非同期)
/ハイフレックス
本科目の実施形態は
学習項目により異なります



受講の流れ

学習項目 1～4
動画等の視聴・閲覧



小レポートの作成等の課題



学習項目 5・6

講師の授業の受講等の指導



授業の設計



模擬授業の実施と振り返り



③ 専門領域別科目

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

(東北大学提供コース)

選択必修 24時間

目的

大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようにする。

学習目標

リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学ぶ。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通じて、実践的な授業マネジメント力の修得を目指す。

授業方法

【学習項目 1～4】(オンライン(非同期))

- ①各学習項目に関する Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧
- ② Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組む

【学習項目 5・6】(ハイフレックス)

- ①大学の美授業等を参照し、リフレクションを行う
- ②自身の授業を設計する
- ③模擬授業を実施し、その振り返りを行う

学習所要時間

学習項目1～4：各3.0時間

- ・オンライン学習：Web上の動画等の視聴・閲覧 0.5～1.0時間
- ・事後学習：小レポート/その他の課題 2.0～2.5時間

学習項目5・6：各12.0時間

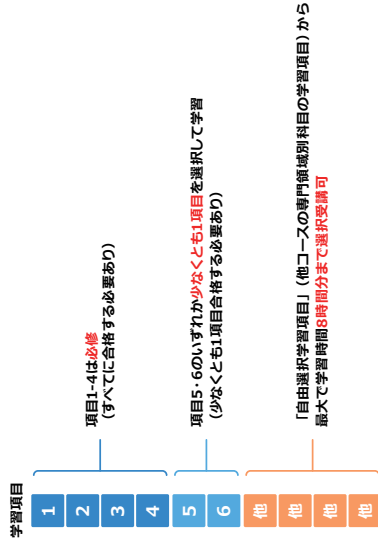
- ・授業参観とリフレクション 5.0時間
- ・授業設計 4.0時間
- ・模擬授業の実施と振り返り 3.0時間

科目内容の公開時期

Moodle 上における専門領域別科目の公開は、2022 年 10 月 9 日(日)を予定。

履修方法

- 1) 学習項目 1～4 は必修
- 2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習 (選択必修) それぞれ定員 20 名とする。選択希望調査は 2022 年 11 月上旬に実施予定。
- 3) 上記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」(他コースの専門領域別科目の学習項目) から学習時間 8 時間分まで選択受講することが可能



科目履修オリエンテーション(動画視聴)

本科目を受講するにあたっての心構えや注意点などについて、動画で解説する。本動画は 2022 年 11 月 1 日(火) に Moodle 上で公開予定。

成績評価方法

- 【学習項目 1～4】 4 項目それぞれの小レポートについて、到達度をルーブリックで評価する。
- 【学習項目 5・6】 それぞれの成果物(模擬授業台本)について到達度をルーブリックで評価する。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とする。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に依り、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要がある。

1 リベラルアーツ教育論(3.0時間)

オンライン(非同期)



吉田 文
(早稲田大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月4日(日)※

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日本の大学における一般教育(教養教育)カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。

※ e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴)

2 STEM・文理融合教育論(3.0時間)

オンライン(非同期)



山田 礼子
(同志社大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月4日(日)※

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

米・露・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。

※ e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米・露・シンガポールの新しい学際STEMプログラム」(動画視聴, 英語による講演・日本語字幕)

3 産学連携教育論(3.0時間)

オンライン(非同期)



吉本 圭一
(九州大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月4日(日)※

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習(WIL)を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。

※ e-learning「産学連携教育の国際動向—学術と職業を往還するWIL—」(動画視聴)

4 教育質保証論(3.0時間)

オンライン(非同期)



深堀 総子
(九州大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月4日(日)※

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチェーニングによる専門分野別の学習成果(コンピテンス)に基づく質保証の実践と課題について考えます。

※ e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」(動画視聴)

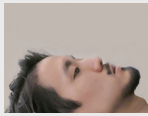
※2022年12月4日(日)以降にも動画教材にはアクセスできますが、演習等の課題に取り組み時間を十分に確保するために、12月4日までに動画視聴等による学習を終えておくことを強く推奨します

5 PBL設計・運営演習(12.0時間):選択必修

ハイフレックス
(対面会場:東京)



松岡 洋佑
(大阪大学 准教授)
/一般学非同期演習



菱山 詠
(大阪大学 准教授)
/一般学非同期演習

2022年12月10日(土)～11日(日)

※ 両日参加必須

12月10日(土)10:00～13:00予定
12月11日(日)15:00～18:00予定

受講者が主体となっており、企業等の実課題に取り組みPBL型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。

演習の概要

【定員】20名

①講師による授業を事前に2件参観する(学習時間:4時間)

- ・2022年10月から開催(実施日程・参観方法・場所等については後日連絡)
- ・参観に際し、予習を行う(2件の授業で合計1時間程度)
- ・実務家教員(松岡)の授業を参観する(学習時間:3時間)
- ・参観修了後、希望者に対しQ&Aセッションを行う(任意参加)

【提出物】参観感想シート(様式あり、Moodleからダウンロードして使用)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式:MSWord)

【提出締切】2022年12月9日(金)

② Day1(12/10):講義を受け、模擬授業を設計する(学習時間:5時間)

- ・講義(リフレックス=対面@東京+同期型オンライン配信、3時間)において、学習目標、評価方法、課題、PBL提示、課題設定、授業法、授業中の学修活動、必要な教材の作成、企業等連携の方法、企業人参加形式などの設計について学ぶ
- ・必要に応じて講師からの助言を得る
- ・講義後、自己学習として模擬授業を設計する(2時間)

【提出物】模擬授業案(様式あり、Moodleからダウンロードして使用)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式:Excel, PowerPoint)

【提出締切】2022年12月10日(土)

③ Day2(12/11):模擬授業を実施する(学習時間:3時間)

- ・模擬授業を実施する(設計した授業の一部を実践、受講者役として学生5名程度、企業人役として企業人2名程度が参加、ハイフレックス)
- ・相互フィードバックを実施する
- ・自分の授業の改善計画(様式あり)を作成する

【提出物】授業改善計画(様式あり、Moodleからダウンロードして使用)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式:MSWord)

【提出締切】2022年12月20日(火)

評価方法

模擬授業等をチェックリストにより評価します。
チェックリストを含む評価の詳細は、Moodle上で公開します。

6 リベラルアーツ・セミナー実践演習 (12.0時間)：選択必修

ハイフレックス
(対面会場：仙台)



大森 不二雄
(東北大学 教員)



杉本 和弘
(東北大学 教員)



宇野 健司
(東北大学 教員)

2022年12月17日(土)・18日(日)
※いずれかの日程半日出席
10:00～13:00 もしくは 15:00～18:00

受講者が主体となつて、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通じて、教育実践力を高めます。

演習の概要

【定員】20名程度

【本演習に関する事前インストラクション】2022年11月12日(土) 午後実施(同期型オンライン)
演習の実施に先駆けて、本演習の流れと取組み内容に関する説明をオンラインセッションで行います。
参加は任意。後日の動画視聴も可能です。

- ①授業参観：講師らによる授業を事前に2件参観する(学習時間：5時間)
- ・2022年10月から開催(実施日程、参観場所・方法等については後日連絡)
 - ・参観に際し、予習を行う(2件の授業で合計1時間程度)
 - ・研究者教員と実務家教員の授業を参観する(学習時間：3時間)
 - ・参観修了後、希望者に対しQ&Aセッションを行う(任意参加)
 - ・参観授業についてリフレクションする(リフレクティブジャーナルの執筆)(学習時間：1時間)

【提出物】リフレクティブジャーナル(授業1件につきA4×1枚程度、様式指定なし)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか)

【提出締切】2022年12月9日(金)

- ②模擬授業を設計する(学習時間：4時間)

- ・学習目標、評価方法、予習課題、授業法、授業中の学習活動、必要は教材の作成などの設計を行う
- ・必要に応じて講師からの助言を得る
- ・1時間程度の学習時間を想定して設計した予習課題を事前に提出する

【提出物】

- 1) 模擬授業プラン「I. 対象授業について」(様式あり、Moodleでダウンロード)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか)

【提出締切】2022年11月21日(月)

- 2) 模擬授業プラン「II. 授業全体(1コマ90分)の狙いと展開について」

(様式あり、Moodleでダウンロードして使用)

- ・設計した予習課題(A4×1枚程度、様式指定なし、学生へ配布することを想定して作成)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか)

【提出締切】2022年12月9日(金)

- ③模擬授業を実施する(学習時間：3時間、ハイフレックス(対面@仙台+同期型オンライン配信))

- ・模擬授業を実施する(設計した90分間の授業のうちの一部、学生役として東北大学の学部生が参加予定)
- ・ディズナリオン/リフレックスを実施する
- ・自分と同じセッションの他の受講者の模擬授業を学生役で参観する
- ・他の受講者の模擬授業に対してヒアリングシートを記入する

【提出物】リフレクションシート(様式あり、Moodleでダウンロードして使用)

・ヒアリングシート(様式あり、Moodleでダウンロードして使用)

【提出方法】Moodle上で提出する(ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか)

【提出締切】2022年12月20日(火)

評価方法

提出が課せられている成果物がすべて提出されていることが合格の条件です。また、模擬授業プラン、予習課題、模擬授業実践をルーブリック(Moodle上で公開)により評価します。

オンライン(非同期) / ハイフレックス

本科目の実施形態は
学習項目により異なります



受講の流れ

学習項目1～4

コンテンツの閲覧、文献による学習



クイズ、相互コメント、タスク、課題の実施



学習項目5・6

各課題の素案の作成



他学習者との相互コメント・議論



模擬授業の実施と振り返り



③専門領域別科目

インストラクショナルデザイン指導力養成コース (熊本大学提供コース)

選択必修24時間

目的

大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とする。

学習目標

- 学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる
- 学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる
- 授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる
- 授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジーを用いた学習環境を構築できる

授業方法

【学習項目1～4】(オンライン(非同期))

- ①各学習項目に関する文献で学習する
- ②クイズで知識を確認する
- ③他学習者との相互コメントを通じて自己スキルの練習と実践を行う
- ④学習項目で設定された課題を提出する

【学習項目5・6】(ハイフレックス)

- ①事前学習として最終成果物として提出が求められる各課題の素案を作成し、他学習者との相互コメント・議論を行う(非同期学習)
- ②同期学習でそれらを用いた模擬授業と相互コメント等を行いブラッシュアップする
- ③事後学習としてこれまでの学習を踏まえ各課題の改訂版を作成する(非同期学習)

学習所要時間

学習項目1～4：各3.0時間

- ・Moodle上で指示されるタスク、課題に取組む 0.5～1.0時間
- ・Moodle上での相互コメント・議論に基づき課題への取組み 2.0～2.5時間

学習項目5・6：各12.0時間

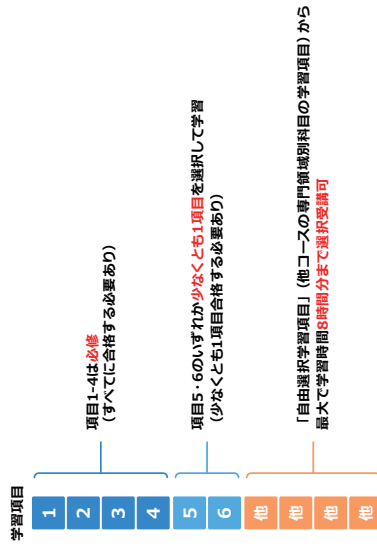
- ・事前学習(Moodle上で非同期学習：相互コメント・議論を交えて実施) 7.0時間
- ・同期学習 3.0時間
- ・事後学習(Moodle上で非同期学習：相互コメント・議論を交えて実施) 2.0時間

科目内容の公開時期

Moodle上における専門領域別科目の公開は、2022年10月9日(日)を予定。

履修方法

- 1) 学習項目 1～4 は必修
- 2) 学習項目 5・6 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習（選択必修）。選択希望科目は 8 月下旬に実施予定。
- 3) 上記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの専門領域別科目の学習項目）から学習時間 8 時間分まで選択受講することが可能



成績評価方法

学コース必修学習項目は、各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価する。全ての課題の合格基準（100 点満点中 60 点以上）を満たすことで学習項目を合格とする。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～4 全て、学習項目 5・6 のうち少なくとも 1 項目において合格する必要がある。

1 基礎的ID論(3.0時間)

オンライン(非同期)

大 学 教 育 基 礎 科 目 終 了 後 ～ 2022 年 11 月 20 日 (日)

【課題提出】2022年11月20日(日)23:59



鈴木 克明
(熊本大学 教授)

※ e-learning

ID の基本的な考え方について学習した上で、それらを活用する課題（自身の教育改善アイデア）やその解決策を Moodle フォーラム（掲示板）に投稿し、掲示板や上での受講者との相互点検・コメントや議論を行うことで、解決策の問題点や改善点を明らかにします。それらのプロセスを振り返り最終案に対する講師からの評価コメントを通じて ID の基本を身につけます。

演習の概要

- ① 文献で学習する
Moodle 上で公開する文献や資料で学びます。
- ② 知識を確認する
Moodle 上でクイズにチャレンジします。まずは①で学ぶことをおさめしますが、自信のある人は教材を読む前にクイズに挑戦してみてもよいでしょう。
- ③ 他の学習者と議論する
Moodle 上の掲示板で (1) 他の学習者との学びと疑問の共有、(2) 自身の教育設計にどう活かすかのそれぞれについて投稿しましょう。
- ④ 課題を提出する
③の 2 つの掲示板での投稿内容と他の学習者との議論の結果を踏まえて、自身の教育改善アイデアを提出してください。

提出する成果物: レポート

【趣旨】レポートを含むべき内容は次のとおり（3以降は任意）です。

- 1) 解決すべき教育場面や課題の説明（設定は自由です）
- 2) ID を活用した改善アイデア
- 3) この演習での収穫
- 4) この演習における疑問点と調べた結果

【提出方法と締切】

Moodle 上で提出する。
ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】 2022年11月20日(日)23:59

【合格基準】レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle 上で公開します。
内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。

2 教材設計演習(3.0時間)

オンライン(非同期)

大学教育基礎力科目終了後～2022年11月20日(日)

【課題提出】2022年11月20日(日)23:59



平岡 育士
(熊本大学 准教授)

自らの担当授業の中で、コマ分の授業をするための、授業設計企画書・テスト・プリント案等を設計する練習を行います。各自が事前に用意した授業設計企画書等を Moodle フォーラム(掲示板)に投稿し、学習者間の相互点検・コメントや議論を通じて、授業の設計やその改善を学習していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて教材設計の基本を身につけます。

- 1) 教材企画書を書くために必要な知識の習得をし、
- 2) 教材企画書の草稿等を掲示板に投稿して議論し、
- 3) 議論を踏まえて改訂した教材企画書とテストを提出します。

※ e-learning

演習の概要

①教材設計について学ぶ

Moodle 上で公開する文献や資料で学びます。

②知識を確認する

Moodle 上でクイズにチャレンジします。まずは①で学ぶことをおすすめていますが、自信のある人は教材を読む前にクイズに挑戦してみてください。

③他の学習者と議論する

Moodle 上の掲示板で、(1) 教材企画書の草案の作成、その際に生じた疑問ならびに疑問について調べたこと、他の学習者の投稿へのコメント、(2) 自身の教材設計案をブラッシュアップして投稿しましょう。

④課題を提出する

③の2つの掲示板での投稿内容と他の学習者との議論の結果を踏まえてまとめたレポートを提出してください。

提出する成果物: レポート

【趣旨】レポートに含むべき内容は次のとおり(3以降は任意)です。

- 1) 教材企画書
- 2) テスト案(学習目標ごとに2問程度)
- 3) eラーニングのプリント案
- 4) この演習での収穫
- 5) この演習における疑問点と調べた結果

【提出方法と締切】Moodle 上で提出する。ファイル形式: MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月20日(日)23:59

【合格基準】レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle 上で公開します。

内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。

3 動機づけ理論活用演習(3.0時間)

オンライン(非同期)

大学教育基礎力科目終了後～2022年11月20日(日)

【課題提出】2022年11月20日(日)23:59



西条 茂樹
(熊本大学 教授)

多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。事例に対する ARCS モデルの適用を、講師の指導のもと掲示板上で議論した上で、自らの授業設計に応用します。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて授業における動機づけ設計の基本を身につけます。

- 1) ARCS モデルの基礎について理解し、
- 2) 事例に基づいた練習を行い、掲示板による議論を行った上で、
- 3) 事例を解決する提案(自身の教育改善アイデア)を提出します。

※ e-learning

演習の概要

①動機づけ理論について学ぶ

Moodle 上で公開する文献や資料で学びます。

②知識を確認する

Moodle 上でクイズにチャレンジします。まずは①で学ぶことをおすすめていますが、自信のある人は教材を読む前にクイズに挑戦してみてください。

③他の学習者と議論する

Moodle 上の掲示板で、(1) Web 上で指示される課題に取組んで投稿、ならびに他の学習者の投稿へのコメント、(2) ARCS モデルを活用した介入計画の提案について投稿しましょう。

④課題を提出する

③の2つの掲示板での投稿内容と他の学習者との議論の結果、補足資料を踏まえてまとめた自身の教育改善アイデアを提出してください。

提出する成果物: レポート

【趣旨】レポートに含むべき内容は次のとおり(3以降は任意)です。

- 1) 解決すべき教育場面や課題の説明(設定は自由です)
- 2) ARCS モデルを活用した介入計画
- 3) この演習での収穫
- 4) この演習における疑問点と調べた結果

【提出方法と締切】Moodle 上で提出する。

ファイル形式: MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月20日(日)23:59

【合格基準】レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle 上で公開します。

内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。

4 eポートフォリオ導入演習(3.0時間)

オンライン(非同期)



松葉 龍一
(東京工科大学 教授)



久保田 真一郎
(熊本大学 准教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年11月20日(日)

【課題提出】2022年11月20日(日)23:59

学習者自身のeポートフォリオを構成することで、eポートフォリオの設計や運用について学びます。eポートフォリオの自身の教育にどう活かすかを検討した結果を掲示版に投稿し、他学習者との相互コメントや議論を踏まえて改善していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じてeポートフォリオの設計や運用の基本を身につけます。

- 1) eポートフォリオの基本構造について理解し、
- 2) 掲示版による議論を行った上で、
- 3) それを応用する課題(自身の教育改善アイデア)を提出します。

※ e-learning

演習の概要

- ① eポートフォリオの基本構造について学ぶ
Moodle上で公開する文献や資料で学びます。
- ② 知識を確認する
Moodle上でクイズにチャレンジします。まずは①で学ぶことをおすすめていますが、自信のある人は教材を読む前にクイズに挑んでみてください。
- ③ 他学習者と議論する
Moodle上の掲示版で、(1) eポートフォリオの事例を1つ選び、PDFでA4・1枚以内にまとめて報告、および他の学習者の投稿へのコメント、(2) この学習項目で学んだことを自身の教育設計についてどう活かすかについて投稿しましょう。
- ④ 課題を提出する
③の2つの掲示版での投稿内容と他の学習者との議論の結果を踏まえてまとめた自身の教育改善アイデアを提出してください。

提出する成果物: レポート

【趣旨】 レポートに含むべき内容は次のとおり(3以降は任意)です。

- 1) 解決すべき教育場面や課題の説明(設定は自由です)
- 2) この演習で学んだ内容を活用した改善アイデア
- 3) この演習での収穫
- 4) この演習における疑問点と調べた結果

【提出方法と締切】 Moodle上で提出する。

ファイル形式: MSWordもしくはPDFのいずれか

【提出締切】2022年11月20日(日)23:59

【合格基準】 レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。内容を十分に確認しなうえてレポートの作成に取り組んでください。

5 大人の学びへと誘う教育改善演習(12.0時間)

ハイフレックス
(対面会場: 東京)

2022年12月10日(土)13:00～16:00

予備日: 2022年12月11日(日)9:00～12:00



山本 敏博
(熊本大学 教授)



山本 敏博
(熊本大学 教授)



荒井 穂子
(熊本大学 准教授)



荒井 穂子
(熊本大学 准教授)

次世代の大学教育を担う教員となるためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。学習者が用意したシラバスやその実行に向けた行動計画などを Moodle フォーラム(掲示版)上に投稿し、他学習者との議論を通じて提案の完成度や訴求力を高めていきます。それらプロ세스ならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて次世代の大学教育を担うためのスキルの基本を身につけます。

演習の概要

Moodle フォーラム(掲示版)での相互コメントや議論を交えた1) 事前学習、2) 同期学習、3) 事後学習を通じて、以下の5つの成果物を仕上げていきます。

- 改訂前後のシラバス
- 行動計画(改訂版)
- 設計ポリシー説明資料(改訂版)
- この学習項目の収穫を2つ以上記述したもの
- 模擬授業補足資料(改訂版)

事前学習(学習所要時間:7時間)

- ステップ1: 担当授業のシラバス(改定前)の用意
ステップ2: 5つの物語についての理解と担当授業への取入れの検討
ステップ3: シラバス改訂、設計ポリシー説明資料の作成、模擬授業補足資料の作成
ステップ4: 行動計画の作成

同期学習(学習所要時間:3時間)

リフレクシオン、個人作業、ロールプレイ等を通して、成果物を改定していきます。

事後学習(学習所要時間:2時間) / 提出する成果物

【趣旨】 以下の5点について、事前学習と同期学習を踏まえて改訂/作成した上で提出してください。

- 1) 改訂前後のシラバス
- 2) 設計ポリシー説明資料(改訂版)
- 3) 模擬授業補足資料(改訂版)
- 4) 行動計画(改訂版)
- 5) この学習項目の収穫を2つ以上記述したもの(形式自由)

【提出方法と締切】 Moodle上で提出する。

ファイル形式: MSWordもしくはPDFのいずれか

【提出締切】2022年12月18日(日)23:59

【合格基準】 レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。内容を十分に確認しなうえてレポートの作成に取り組んでください。

6 既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習(12.0時間)

ハイフレックス
(対面会場：熊本)

2022年12月18日(日)9:00~12:00

予備日:2022年12月17日(土)13:00~16:00



平岡 清士
(熊本大学 准教授)



戸田 真志
(熊本大学 教授)



喜多 敏博
(熊本大学 教授)

授業におけるICTツールの活用アイデアを参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。学習者が用意したシラバスとICT活用プランをMoodleフォーラム(掲示板)に投稿し、他学習者との議論を通じて改善を行います。また実際にコースの一部を構築し、それを用いた模擬授業を行います。それらのプロセスを振り返り最終案に対する講師からの評価コメントを通じてICTを活用した学習環境構築の基本を身につけます。

演習の概要

Moodleフォーラム(掲示板)での相互コメントや議論を交えた①事前学習、②同期学習、③事後学習を通じて、以下の成果物を仕上げていきます。

- 改訂前後のシラバス
- ICT活用プラン
- 「シラバスのうち、構築する部分(30分程度で学習できる内容)の抜粋」+構築したコースのURL
- この学習項目の収穫を2つ以上記述したもの

事前学習(学習所要時間:7時間)

- ステップ1:担当授業のシラバス(改定前)の用意
ステップ2:LMS(Moodle)についての解説とテスト
ステップ3:8つのアイデアの採用を検討する(テストと掲示板)
ステップ4:30分で学べる部分を構築する

同期学習(学習所要時間:3時間)

リフレクシヨ、個人作業、ロールプレイ等を通して、成果物を設定していきます。

事後学習(学習所要時間:2時間)／提出する成果物

- 【発言】以下の4点の最終版を提出してください。
- 1) 改訂前後のシラバス
 - 2) ICT活用プラン(8つの各アイデアを自身の授業に採用する理由、しない理由)
 - 3) 「シラバスのうち、構築する部分(30分程度で学習できる内容)の抜粋」+構築したコースのURL
 - 4) この学習項目の収穫を2つ以上記述したもの

【提出方法と締切】

Moodle上で提出する。
ファイル形式:MSWordもしくはPDFのいずれか

【提出締切】2022年12月25日(日)23:59

【合格基準】レポートの評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。
内容を十分に確認したうえでレポートの作成に取り組んでください。

オンライン(非同期)ノハイフレックス

本科目の実施形態は
学習項目により異なります



受講の流れ

学習項目1・2

動画等の視聴・閲覧



小レポートの作成等の課題



学習項目3・4

演習への参加



実践課題への取り組み



課題、模擬指導の実践



③専門領域別科目 アントレプレナーシップ教育力育成コース (大阪公立大学提供コース)

選択必修24時間

目的

起業時や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得する。

学習目標

- ・技術マネジメントの基本的な考え方を理解し、説明できる
- ・事例に基づく技術マネジメントの指導力を身に付け、実践できる
- ・アントレプレナーが理解しておくべき基本的知識を理解し、説明できる
- ・アントレプレナーの育成体系を理解し、それを実践できる

授業方法

【学習項目1・2】(オンライン(非同期)) (必修)

- ①各学習項目に関する Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧
- ② Web 上で指示されるレポートの作成その他の課題に取り組む

【学習項目3・4】(ハイフレックス) (必修)

- ①実践形式で実施される演習に参加する
- ②与えられた実践課題に取り組むながらコーチングスキルを学び、課題、模擬指導に取組む

学習所要時間

学習項目1:2.0時間

オンライン学習:Web上の動画等の視聴・閲覧 0.5時間
事後学習:小レポート/その他の課題 1.5時間

学習項目2:4.0時間

オンライン学習:Web上の動画等の視聴・閲覧 2.5時間
事後学習:小レポート/その他の課題 1.5時間

学習項目3:6.0時間

演習への参加 6.0時間
事後学習:演習回ごとにフォローアップの時間を含む
(演習時間内にリフレクシヨシートに記入する)

学習項目4:12.0時間

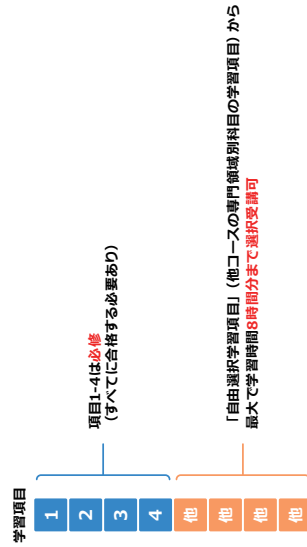
演習への参加 12.0時間
事後学習:演習回ごとにフォローアップの時間を含む
(演習時間内にリフレクシヨシートに記入する)

科目内容の公開時期

Moodle 上における専門領域別科目の公開は、2022 年 10 月 9 日（日）を予定。

履修方法

- 1) 学習項目 1～4 は必修
- 2) 上記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」（他コースの専門領域別科目の学習項目）から学習時間 8 時間分まで選択受講することが可能



1 技術マネジメント基礎論(2.0時間)

オンライン(非同期)



鐘ヶ江 靖史
(PwCコンサルティング)

大学教育基礎力科目終了後～2022年11月8日(火)

【課題提出】2022年11月8日(火)23:59

技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。

Moodle 上に掲載される講義案内を確認したうえで、以下の4つから関心ある内容を1つ受講します。

- ① マネジメント基礎論①酒造メーカーのケース(2つの事例から構成)
- ② マネジメント基礎論②酒造メーカーのケース
- ③ マネジメント基礎論③塗料メーカーのケース
- ④ マネジメント基礎論④テキスタイルメーカーのケース

選択したケースに該当する小レポート課題を Moodle からダウンロードし、講義を開きながらワークの箇所随時動画を止め、「目安の学習時間」を参考に課題に取り組んでください。

※ e-learning

2 アントレプレナーシップ基礎論(4.0時間)

オンライン(非同期)



広瀬 正
(大阪公立大学特任教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年11月8日(火)

【課題提出】2022年11月8日(火)23:59

アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。

Moodle 上に掲載される指示や資料を確認したうえで、下記の動画を合計 2 時間 30 分(150 分)以上になるように、自身でスキルや知識等必要性を考慮選択受講してください。

- 第 1 章 (50 分) ベンチャー企業とは
- 第 2 章 (40 分) 事業機会の捉え方
- 第 3 章 (30 分) ビジネスプランの作成
- 第 4 章 (40 分) マーケティングとビジネスモデルの工夫
- 第 5 章 (70 分) 収支計画の作成
- 第 6 章 (80 分) 資金計画と Valuation
- 第 7 章 (90 分) ベンチャー企業の経営
- 第 8 章 (20 分) イノベーションへの挑戦

Moodle 上から小レポートの様式をダウンロードし、執筆してください。

※ e-learning

3 技術マネジメントコンサルティング演習(6.0時間)

ハイフレックス
(対面会場：大阪)

2022年11月15日(火)・22日(火) 15:00～18:15



川井 健史
(PCCコンサルティング)

科学技術の事業化・産業化の考え方・プロセスの指導・育成法を事例に基づき学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコアチンクスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

演習の概要

Day1 11月15日(火)15:00～18:15

【授業テーマ】研究開発成果の事業化に向けたコアな価値

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年11月21日(月)23:59

Day2 11月22日(火)15:00～18:15

【授業テーマ】価値の出し方と多用途展開

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年11月28日(月)23:59

※提出課題・授業内容については授業の進捗具合に応じて変更する可能性があります。

評価方法

評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。
内容を十分に確認したうえで取り組んでください。

4 ベンチャービジネスコンサルティング演習(12.0時間)

ハイフレックス
(対面会場：大阪)

※12/21のみ対面会場：東京

2022年11月9日(水)・11月23日(水)・祝

12月14日(水)・12月21日(水) 15:00～18:15



平野 浩明
(PCC大文字社様)

事業化テーマのブラッシュアップ法を学ぶワークショップに参加し、講師の事例を見ながらそのコアチンクスキルを習得します。グループワークでは、実践的に学生を指導する機会が与えられます。

演習の概要

Day 1 11月9日(水)15:00～18:15

【授業テーマ】スタートアップのリアリティ：成功確率、ストックオプション

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年11月22日(火)23:59

Day 2 11月23日(水)・祝)15:00～18:15

【授業テーマ】ビジネスをどのように始めるのか：スタートアップの成長とマイルストーン、ビジネスプランの構築

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年12月13日(火)23:59

Day3 12月14日(水)15:00～18:15

【授業テーマ】ビジネスをどのように運営するのか：企業価値算定手法、投資家思考を知る

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年12月20日(火)23:59

Day 4 12月21日(水)15:00～18:15

【授業テーマ】アントレプレナーシップ：イノベーションのためのリーダーシップ、倫理、信念

・講師による授業の参観とグループワーク参加(学習時間：3時間)

【提出物】リフレクシオンシート(主に授業時間内に記入、様式あり)

【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord

【提出期限】2022年12月27日(火)23:59

※提出課題・授業内容については授業の進捗具合に応じて変更する可能性があります。

評価方法

評価に用いるチェックリストは、Moodle上で公開します。
内容を十分に確認したうえで取り組んでください。

学習所要時間

学習項目1：2.0時間	
事前学習：動画視聴（掲示板へのコメント含む）	20分
同期型オンライン学習：討論	1時間
事後学習：授業後課題（講師からのフィードバック含む）	40分

学習項目2・3：2.0時間	
事前学習：動画視聴（掲示板へのコメント含む）	20分
同期型オンライン学習：講義	1時間
事後学習：授業後課題（講師からのフィードバック含む）	40分

学習項目4：2.0時間	
事前学習：動画視聴（掲示板へのコメント含む）	1時間
事前学習：授業前課題	30分
同期型オンライン学習：討論&フィードバック	30分

学習項目5：2.0時間	
事前学習：動画視聴（掲示板へのコメント含む）	20分
同期型オンライン学習：講義	40分
同期型オンライン学習：グループワーク	20分
事後学習：授業後課題（講師からのフィードバック含む）	40分

学習項目6～9：各3.0時間	
事前学習：動画視聴（掲示板へのコメント含む）	20分
同期型オンライン学習：講義	40分
事後学習：模擬授業研修準備	1時間
模擬授業の実践、討論&フィードバック	1時間

学習項目10：2.0時間	
事前学習：授業前課題（講師からのフィードバック含む）	1時間
同期型オンライン学習：振り返り、総合討論	1時間

③専門領域別科目 リーダーシップ開発力育成コース (立教大学提供コース)

選択必修24時間

目的

「大学生のリーダーシップ教育（開発）」を企画・運営するために必要となる基礎知識、手法や技能を習得する

学習目標

- ・大学生のリーダーシップ教育に関わる大学の教育ニーズを理解し説明できる
- ・学術的研究成果や科学的的方法論に基づいたリーダーシップ教育プログラムを企画・運営できる
- ・実施したリーダーシップ教育プログラムを内省・改善できる

授業方法

- 【学習項目1～5】（必修）
- ①事前学習として動画視聴を行う
 - ②同期型オンライン学習に参加する
 - ③Web上で指示される事前・事後課題に取り組む

【学習項目6～9】（必修）

- ①事前学習として動画視聴を行う
- ②同期型オンライン学習に参加する
- ③①、②を踏まえてチーム別に授業準備を行う
- ④大学生を対象に模擬授業を実施する
- ⑤同期型オンライン学習で討論とフィードバックを実施する
- ⑥授業後課題に取り組む

【学習項目10】（必修）

- ①授業前課題に取り組む
- ②同期型オンライン学習で振り返りと総合討論を実施する

科目内容の公開時期

Moodle 上における専門領域別科目の公開は、2022年10月9日（日）を予定。

オンライン（同期） ハイフレックス

本科目の実施形態は
学習項目により異なります



※事前視聴動画が課される場合があります

受講の流れ

学習項目1～5

動画視聴・同期型オンライン学習

▶事前・事後課題



学習項目6～9

事前動画視聴▶同期型オンライン学習



授業準備



模擬授業の実践



▶授業前・授業後課題

学習項目10

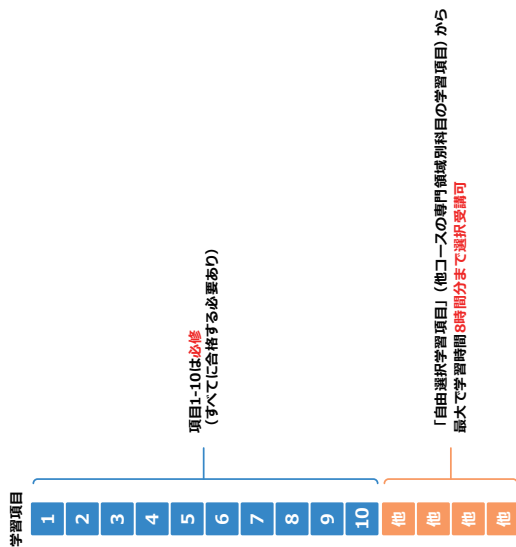
同期型オンライン学習

▶授業前・授業後課題



履修方法

- 1) 学習項目 1～10 は必修
- 2) 上記のコース必修学習項目に加え、希望により「自由選択学習項目」
(他コースの専門領域別科目の学習項目) から学習時間 8 時間分まで選択受講することが可能



1 インTRODクダクシヨン(2.0時間)

ハイフレックス
(対面会場：東京または地袋)

2022年11月6日(日)10:30～11:30
【課題提出】2022年11月11日(金)23:59



石川 淳
(立教大学 教授)

リーダーシップ教育に必要な以下の3つの考え方を共有します。

- 1) リーダーシップは、リーダーだけではなく、全員が発揮するものである
- 2) リーダーシップは、権限や権力がなくても発揮できるものである
- 3) リーダーシップは、生まれつきの才能よりは、日々の努力によって学習可能であるものである

また、効果的なリーダーシップ教育を行うために必要な考え方や方法論の基本について、教員と受講者との間で共通の理解を形成します。なお、実践的内容として、学習項目 6～9 の実施に向けて参考資料等を共有します。これによりに模擬授業の理解を深め、チームごとに模擬授業準備の下地を整えます。

※ Zoom 等を利用したハイフレックス型

事前学習

事前に Moodle 上で「イントロダクシヨン」に関する講義動画 (20 分間) を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

提出する成果物

本学習項目には、**授業後課題 (学習所要時間 40 分)** が設定されています。

【趣旨】"リーダーシップ" という概念を現場に即して理解することを促進する。
(小レポートを予定しています。詳細は Moodle 上で公開します。)

【提出方法】 Moodle 上で提出する。
ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月11日(金)23:59

【成果物の評価に用いるチェックリスト】
評価に用いるチェックリストは Moodle 上で公開します。
各自内容を確認したうえで課題に取り組みください。

LD オリエンテーション

LD コースでは専門科目スタート前にオリエンテーションを予定しています。(内容については p.60 を参照ください)

当日欠席の方は後日録画を視聴していただきます。

【日程】2022年10月30日(日)10:00～11:00

【方法】オンライン (Zoom 情報は後日共有)

成績評価方法

【学習項目 1～5・10】

授業前・後課題について到達度をチェックリストを基に定量的に評価する。

【学習項目 6～9】

授業後課題について到達度をチェックリストを基に定量的に評価する。

- 模擬授業を担当する学習項目：模擬授業企画書 (グループ課題) と小レポート (個人課題)
- 模擬授業を担当しない学習項目：小レポート (個人課題)

以上のチェックリスト評価の基準は、事前に公開する。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とする。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、全ての必修学習項目に合格する必要がある。

2 リーダーシップ研究の理解(2.0時間)

ハイフレックス
(対面会場：東京または池袋)

2022年11月6日(日)11:30~12:30
【課題提出】2022年11月11日(金)23:59



石川 淳
(立教大学 教授)

最新のリーダーシップ研究に基づいたリーダーシップの定義について共有します。また、約70年間展開されたリーダーシップ研究の流れを概観すると共に、初期のリーダーシップ研究であるリーダーシップの行動アプローチと状況適合アプローチについての理解を進めます。講義およびディスカッションを通じて、学部生にリーダーシップの基本的な考え方を伝える力を涵養します。

※ Zoom 等を利用したハイフレックス型

事前学習

事前に Moodle 上で「リーダーシップ研究の理解」に関する講義動画(20分間)を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

提出する成果物

本学習項目には、**授業後課題(学習所要時間 40分)**が設定されています。

【趣旨】"リーダーシップ"という概念を現場に即して理解することを促進する。
(小レポートを予定しています。詳細は Moodle 上で公開します。)

【提出方法】Moodle 上で提出する。

ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月11日(金)23:59

【成果物の評価に用いるチェックリスト】
評価に用いるチェックリストは、Moodle 上で公開します。
各自内容を確認したうえで課題に取り組みください。

3 リーダーシップ研究方法論(2.0時間)

オンライン(同期)

2022年11月13日(日)10:00~11:00
【課題提出】2022年11月22日(火)23:59



金 善照
(立教大学 専任講師)
/ 福徳大学 准教授)

社会科学の厳密な研究方法論を用いて構築されたリーダーシップに関する「理論」と、実務家が日々の職場で身に着けた「持論」の相違点について検討します。確かに「持論」は経験型学習を設計することにあたって欠かせない重要な要素です。しかし将来、高等教育機関でリーダーシップ教育を担当する皆さんにもいずれの時点でも「理論」として検証しなければならぬ瞬間が訪れるかと思えます。本学習項目では、リーダーシップ分野の研究者が「理論」を検証していく三段階の研究プロセス(何が、どのように、なぜか)と、その結果得られた因果推論の三形式(単純因果関係、媒介された因果関係、条件付きの因果関係)について検討します。

※ Zoom 等による同期型オンライン学習

事前学習

事前に Moodle 上で「リーダーシップ研究方法論」に関する講義動画(20分間)を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

提出する成果物

本学習項目には、**授業後課題(学習所要時間 40分)**が設定されています。

【趣旨】学術的研究についての理解を促進する。

(小レポートを予定しています。詳細は Moodle 上で公開します。)

【提出方法】Moodle 上で提出する。

ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月22日(火)23:59

【成果物の評価に用いるチェックリスト】
評価に用いるチェックリストは、Moodle 上で公開します。
各自内容を確認したうえで課題に取り組みください。

4 リーダーシップ教育の理解(2.0時間)

オンライン(同期)

山口 和昭
(立教大学 教授)

2022年11月13日(日)11:10~11:40
【課題提出】2022年11月11日(金)23:59

立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。
1) 回性の科目ではなく、複数の科目を段階別に履修する一貫性があること
2) 学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること
3) 教員の役割を「ISA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること
しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部においてBLPが始まった経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。
※ Zoom 等による同期型オンライン学習

事前学習

①講義動画の視聴

事前に Moodle 上で「リーダーシップ教育の理解」に関する講義動画(1時間)を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

②授業前課題

授業前課題(学習所要時間 30 分間)が設定されています。
大学におけるリーダーシップ教育の実践的課題を検討する力を養成する。(レポートを予定しています。詳細は Moodle 上で公開します。)

【提出方法】Moodle 上で提出する。

ファイル形式: MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月11日(金)23:59

【成果物の評価に用いる子エッセイリスト】

評価に用いる子エッセイリストは Moodle 上で公開します。各自内容を確認したうえで課題に取り組んでください。

5 リーダーシップ教育方法論(2.0時間)

オンライン(同期)

阿野 泰一
(立教大学 准教授)

2022年11月20日(日)10:00~11:00
【課題提出】2022年11月25日(金)23:59

大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発(human resource development)にあります。ここでは、人的資源開発の下位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。
※ Zoom 等による同期型オンライン学習

事前学習

事前に Moodle 上で「リーダーシップ教育方法論」に関する講義動画(20分間)を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

提出する成果物

本学習項目には、授業後課題(学習所要時間 40 分)が設定されています。

【趣旨】リーダーシップ教育に関する理解を深める。

(小レポートを予定しています。詳細は Moodle 上で公開します。)

【提出方法】Moodle 上で提出する。

ファイル形式: MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】2022年11月25日(金)23:59

【成果物の評価に用いる子エッセイリスト】


評価に用いる子エッセイリストは Moodle 上で公開します。各自内容を確認したうえで課題に取り組んでください。

6～9 リーダーシップ模擬教育研修1～4 (各3.0時間)		オンライン(同期)
1 (6-①) 理論編	2022年11月20日(日)11:10～11:50	
1 (6-②) 実践編・2 (7-①) 理論編	2022年11月27日(日)10:00～11:40	
2 (7-②) 実践編・3 (8-①) 理論編	2022年12月 4日(日)10:00～11:40	
3 (8-②) 実践編・4 (9-①) 理論編	2022年12月11日(日)10:00～11:40	
4 (9-②) 実践編	2022年12月18日(日)10:00～11:00	

【課題提出】下記に詳述

現代のリーダーシップ研究の主なテーマである変革型リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、シェアド・リーダーシップを学生に身につけさせるための教育プログラムを設計し、実施する演習を行います。各学習項目では、まず、上記のリーダーシップ・スタイルに関して担当教員による講義が行われます。受講者は、チームを組んで、各リーダーシップ・スタイルに関する文献に基づき、リーダーシップ教育の模擬授業を設計し、現役の学生を対象に実施します。この模擬授業に対し、担当教員と他の受講者チーム、および参加した学生によるフィードバックがなされます。

※ Zoom 等による同期型オンライン学習



石川 淳
(立教大学 教授)

事前学習

①講義動画の視聴
事前に Moodle 上で、それぞれの回でテーマとなっているリーダーシップ・スタイルに関する講義動画(20分間)を視聴してください。また、講義動画を視聴したうえで生じた疑問や、演習当日に講師に質問したい事項について、Moodle 上の掲示板に投稿してください。動画コンテンツの公開時期は別途ご案内いたします。

②授業前課題
チームに分かれて模擬授業を実施してもらいます。このため、担当する模擬授業の準備と企画書提出を行っていただく必要があります。ただし、各チームが担当する回は、それぞれ1回となります。従って、各チームが模擬授業準備および企画書提出を行うのは、1回分だけとなります。これとは別に、全ての受講者は、それぞれの回で扱うリーダーシップ・スタイルに関する論文を自分で探し、理解を深めておくことが求められます。なお、それぞれの担当回の企画書には、その内容が反映されることから期待されます。

【提出方法と締切】
授業を担当するチームの受講者のみ、担当回の前々日の金曜日の23:59までに企画書を Moodle 上で提出する。
ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

<企画書提出締切>

- リーダーシップ模擬教育研修「6」のチーム：2022年11月25日(金)
- リーダーシップ模擬教育研修「7」のチーム：2022年12月2日(金)
- リーダーシップ模擬教育研修「8」のチーム：2022年12月9日(金)
- リーダーシップ模擬教育研修「9」のチーム：2022年12月16日(金)

【成果物の評価に用いるチャットリスト】
評価に用いるチャットリストは Moodle 上に公開します。各自内容を確認したうえで課題に取り組みてください。

事後学習

それぞれの回(含む、担当していない回)の模擬教育研修の振り返りを12月25日(日)23:59までに提出していただきます。

【提出方法と締切】 Moodle 上で提出する。ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【成果物の評価に用いるチャットリスト】
評価に用いるチャットリストは Moodle 上で公開します。各自内容を確認したうえで課題に取り組みってください。

10 まとめ(2.0時間)		オンライン(同期)
2022年12月18日(日)11:00～12:00	【課題提出】2022年12月16日(金)23:59	



石川 淳
(立教大学 教授)



山口 和範
(立教大学 教授)

事前学習

本学習項目には、**授業前課題(学習所要時間 1 時間)**が設定されています。

【趣旨】 コース全体の振り返り報告書を記述することで、自らが教育するリーダーシップについて具体的なイメージを持ってもらう。

【提出方法】 Moodle 上で提出する。
ファイル形式：MSWord もしくは PDF のいずれか

【提出締切】 2022年12月16日(金)23:59

【成果物の評価に用いるチャットリスト】
評価に用いるチャットリストは Moodle 上で公開します。各自内容を確認したうえで課題に取り組みてください。

専門領域別科目 自由選択学習項目

4コース共通。学習時間8時間分まで選択受講可。ただし受講コースの学習項目を除く。
自由選択学習項目 11・12 (LD コース提供) を受講の場合、事前申込【締切：10月7日(金)】が必要です。

1 リベラルアーツ教育論(3.0時間) ※産学連携リベラルアーツ教育力育成コース提供



山田 文
(甲南大学 教授)

大学教育基礎力終了後～2022年12月4日(日)

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日本の大学における一般教育(教養教育)カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。

※ e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」(動画視聴)
学習方法：Moodle上で講義動画を視聴し、小レポートの作成に取組みます。
成績評価：小レポートをルーブリックで評価します。

オンライン(非同期)

2 STEM・文理融合教育論(3.0時間) ※産学連携リベラルアーツ教育力育成コース提供



山田 礼子
(明志社大学 教授)

大学教育基礎力終了後～2022年12月4日(日)

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。

※ e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米・豪・シンガポールの新しい学際STEMプログラム」(動画視聴、英語による講義・日本語字幕)
学習方法：Moodle上で講義動画を視聴し、小レポートの作成に取組みます。
成績評価：小レポートをルーブリックで評価します。

オンライン(非同期)

3 産学連携教育論(3.0時間) ※産学連携リベラルアーツ教育力育成コース提供



吉本 圭一
(九州大学 准教授)

大学教育基礎力終了後～2022年12月4日(日)

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業総合型学習(WIL)を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。

※ e-learning「産学連携教育の国際動向と米・豪・シンガポールの新しい学際STEMプログラム」(動画視聴)
学習方法：Moodle上で講義動画を視聴し、小レポートの作成に取組みます。
成績評価：小レポートをルーブリックで評価します。

オンライン(非同期)

4 教育質保証論(3.0時間) ※産学連携リベラルアーツ教育力育成コース提供



深堀 綾子
(九州大学 教授)

大学教育基礎力終了後～2022年12月4日(日)

【課題提出】2022年12月15日(木)23:59

2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果(コンピテンス)に基づく質保証の実践と課題について考えます。

※ e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」(動画視聴)
学習方法：Moodle上で講義動画を視聴し、小レポートの作成に取組みます。
成績評価：小レポートをルーブリックで評価します。

オンライン(非同期)

5 基礎的ID論(3.0時間) ※インスタラクシヨナルデザイン指導力育成コース提供



鈴木 克明
(熊本大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月20日(火)

【課題提出】2022年12月20日(火)23:59

IDの基本的な考え方について学習した上で、それらを応用する課題(自身の教育改善アイデア)やその解決策案をMoodleフォーラム(掲示板)に投稿し、掲示板での受講者との相互点検・コメントや議論を行うことで、解決策の問題点や改善点を明らかにします。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じてIDの基本を身につけます。

※ e-learning

学習方法：Moodle上で公開する文献や資料で学び、小レポートの作成その他の課題に取り組みます。
成績評価：用紙された3～5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

オンライン(非同期)

6 教材設計演習(3.0時間) ※インスタラクシヨナルデザイン指導力育成コース提供



平岡 斉士
(熊本大学 准教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月20日(火)

【課題提出】2022年12月20日(火)23:59

自らの担当授業の中で、コマ分の授業をするための、授業設計企画書・テスト・プロトタイプ等を設計する練習を行います。各自が事前に用意した授業設計企画書等をMoodleフォーラム(掲示板)に投稿し、学習者間の相互点検・コメントや議論を通じて、授業の設計やその改善を学習していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて教材設計の基本を身につけます。

※ e-learning

学習方法：1) 教材企画書を書くために必要な知識の習得をし、2) 教材企画書の草稿を掲示板に投稿して議論し、3) 議論を踏まえて改訂した教材企画書とテストを提出します。
成績評価：用紙された3～5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

オンライン(非同期)

7 動機づけ理論活用演習(3.0時間) ※インスタラクシヨナルデザイン指導力育成コース提供



高橋 茂樹
(熊本大学 教授)

大学教育基礎力科目終了後～2022年12月20日(火)

【課題提出】2022年12月20日(火)23:59

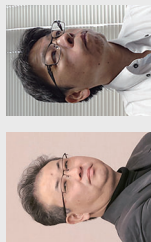
多様な事例に対してARCSモデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。事例に対するARCSモデルの適用を、講師の指導のもと掲示板で議論した上で、自らの授業設計に応用します。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じて授業における動機づけ設計の基本を身につけます。

※ e-learning

学習方法：1) ARCSモデルの基礎について理解し、2) 事例に基づいた練習を行い、掲示板での議論を行った上で、3) 事例を解決する提案(自身の教育改善アイデア)を提出します。
成績評価：用紙された3～5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

オンライン(非同期)

8 eポートフォリオ導入演習(3.0時間) ※インスタラクシヨナルデザイン指導力育成コース提供



松葉 龍一
(東京工科大学 教授)

2022年12月20日(火) 11:10~11:40
【課題提出】2022年12月20日(火)23:59

オンライン(非同期)

学習者自身のeポートフォリオを構成することで、eポートフォリオの設計や運用について学びます。eポートフォリオの自身の教育にどう活かすかを検討した結果を掲示板に投稿し、他学習者との相互コメントや議論を踏まえて改善していきます。それらのプロセスならびに最終案に対する講師からの評価コメントを通じてeポートフォリオの設計や運用の基本を身につけます。

※ e-learning

学習方法：1) eポートフォリオの基本構造について理解し、2) 掲示板での議論を行つた上で、3) それを応用する課題(自身の教育改善アイデア)を提出します。

成績評価：用意された3~5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。

9 技術マネジメント基礎論(2.0時間) ※アントレプレナーシップ教育力育成コース提供



鎌ヶ江 靖史
(PVCコンサルティング)

2022年11月8日(火) 10:00~11:00
【課題提出】2022年11月8日(火)23:59

オンライン(非同期)

技術マネジメントとそれに関連する知識を学習します。

※ e-learning

学習方法：Web上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。
成績評価：オンライン学習での小レポートについて、学習すべき素養を理解しそれを反映した記述と なっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。

10 アントレプレナーシップ基礎論(4.0時間) ※アントレプレナーシップ教育力育成コース提供



広瀬 正
(大阪立大学 特任教授)

2022年11月8日(火) 10:00~11:00
【課題提出】2022年11月8日(火)23:59

オンライン(非同期)

アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習します。

※ e-learning

学習方法：Web上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます。
成績評価：オンライン学習での小レポートについて、学習すべき素養を理解しそれを反映した記述と なっているかをあらかじめ公開された合格基準によって評価します。

11 リーダーシップ教育の理解(2.0時間) ※リーダーシップ開発力育成コース提供



山口 和範
(立教大学 教授)

2022年11月13日(日) 11:10~11:40
【課題提出】2022年11月11日(金)23:59

オンライン(同期)

立教大学経営学部では、「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)を2006年から持続的に実施しています。このプログラムの特徴は、以下の通りです。

- 1) 1回性の科目ではなく、複数の科目を段階的に履修する一貫性があること
 - 2) 学外の実務教員まで門戸を開放する包容性があること
 - 3) 教員の役割を「SA」と呼ばれる立教の在学生と共有する主体性があること
- しかし、このような大胆な企画が最初から成功したわけではありません。ここでは、立教大学経営学部がBLPを始めた経緯と現在に至るまでの試行錯誤、そしてその過程で得られたノウハウを共有します。

※ Zoom 等による同期型オンライン学習

学習方法：事前学習で Moodle 上の動画を視聴し、Web上で指示される小レポートに取り組みます。そして同期型オンライン学習に参加します。

成績評価：小レポートについて到達度を担当教員がチェックリストで評価します。

12 リーダーシップ教育方法論(2.0時間) ※リーダーシップ開発力育成コース提供



山口 和範
(立教大学 教授)

2022年11月20日(日) 10:00~11:00
【課題提出】2022年11月25日(金)23:59

オンライン(同期)

大学のリーダーシップ教育の理論的根拠は、人的資源開発(human resource development)にあります。ここでは、人的資源開発の低位分野として、リーダーシップ開発の手法と背景理論を概観します。そして、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」(BLP)の教育事例を共有します。

※ Zoom 等による同期型オンライン学習

学習方法：事前学習で Moodle 上の動画を視聴し、同期型オンライン学習に参加した上で Web上で指示される小レポートに取り組みます。

成績評価：小レポートについて到達度を担当教員がチェックリストで評価します。

オンライン（同期）

本科目はオンライン（同期）
配信で実施します



受講の流れ

新規の取組案を構想



オンライン指導



発表資料の提出



成果発表会



振り返り・講評



④教育イノベーター実践演習科目

共通必修12時間

目的

これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、**教育イノベーター**として**授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営**できるようになる。

学習目標

実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した**新規の取組案(授業・カリキュラム、プロジェクトの案等)**の**発表・討論**を行うことを通じ、本プログラム全体の**学びと成長を振り返る**ことを目指す。

授業方法

- ① 新規の取組案について**構想**（事前準備）
- ② 構想した取組案について**対面**または**オンライン指導**
- ③ **発表資料**の提出
- ④ **成果発表会**
- ⑤ **振り返り・講評**

学習所要時間(計12時間)

・事前準備	7.0 時間
・オンライン指導	1.0 時間
・成果発表会・振り返り・講評	4.0 時間

成績評価方法

成果発表会での発表について、到達度をルーブリック(Moodle上で公開)で評価する。
100点満点で採点し、**60点以上で合格**とする。

1 キャップストーン・プロジェクト(12.0時間)

【アントレプレナーシップ教育育成コース/リーダーシップ開発育成コース】

2023年2月4日(土)・5日(日) ※2日間のうち、いずれか半日

【産学連携リベラルアーツ教育育成コース/インストラクショナルデザイン指導育成コース】

2023年2月18日(土)・19日(日) ※2日間のうち、いずれか半日

大森 不二雄(東北大学 教授)、杉本 和弘(東北大学 教授)、鈴木 克明(熊本大学 教授)、喜多 敏博(熊本大学 教授)、戸田 真志(熊本大学 教授)、松井 利之(大阪公立大学 教授)、星野 聡孝(大阪公立大学 教授)、山口 和範(立教大学 教授)

受講者が自ら構想した新規取組案(授業、カリキュラム、プロジェクトの案等)について、①事前準備、②オンライン指導、③発表資料の提出、④成果発表会、⑤振り返り・講評を行います。プログラムを通して修得した知識とスキルとの統合と振り返りを行うことを通じて「教育イノベーター」としての総まとめを行います。

①事前準備

【発表要件】

自らが構想した授業、カリキュラム、プロジェクト等の新規取組について、**下記の点を明らかにして10分間のプレゼンテーション**にまとめてください。発表時の順序は下記リストの順通りでなく構いません。

- ・構想した取組の名称
- ・目的
- ・背景、着想の経緯
- ・内容(対象となる学生像を含む)
- ・本プログラムでの学びをどう活かしたか
- ・実践時に予想される課題/今後の課題

なお、プレゼンテーションに使用した発表資料は、**発表日2日前までにMoodle上で提出する必要があること**に留意してください。

【発表ツール】

オンラインでの発表に対応できるように準備してください。(例：パワーポイント等) 発表資料は成果物としてPDF化して提出できるように作成してください。

②オンライン指導

【実施日程】2023年1月16日(月)～1月22日(日)予定

【実施方法】Zoom等を利用したグループセッション

【指導時間】1時間

【留意点】

- ・各コースごとに日程調整を行います。詳細については、各コース担当者からご案内します
- ・指導は各コースの講師が担当します
- ・発表当日を想定した各自の発表(10分間)とそれに対するフィードバック・ディスカッションが予定されています。聴衆に自身が構想した取組の内容が十分に伝わるように準備してください

3プログラムの日程 2022年度 産学連携教育イニシアティブ育成プログラム 日程表

2022.05.30 改訂

科目	実施日(期間)	時間帯	学習項目	実施方法	
大学教育基礎力科目	8月6日(土)	13:30~14:30	リエンテーション ^{※1}	対面@東京	
	8月6日(土) ~10月7日(金)		1	大学教育制度論(必修)	オンライン(非同期)
		2	インストラクショナルデザイン(必修)		
		3	授業設計論(必修)		
		4	学習評価論(必修)		
		5	学生・学習支援論(選択必修)		
		6	カリキュラムマネジメント(選択必修)		
		7	大学における倫理(選択必修)		
		8	教育改善論(選択必修)		
		9	オンライン授業実証論(選択必修)		
		10	ICT等先端技術活用教育論(選択必修)		
11	実務教員論				
10月7日(金) 締切			大学教育基礎力レポート	レポート提出	
専門領域別科目	10月15日(土)・30日(日)	13:30~16:15 予定	1 研究指導演習	オンライン(同期)	
	10月16日(日)	13:30~16:15 予定	2 授業デザインとシラバス作成		
	10月22日(土)・23日(日)	前日午前・午後 ※いずれか1日参加必須	3 インストラクショナルデザイン演習		
備考：学習項目1~4は必修。学習項目5~11(選択必修)は少なくとも2つ選択。					
産学連携リベラルアーツ教育力育成(LA)コース	12月10日(土)・11日(日)	10日 10:00~13:00予定 11日 15:00~18:00予定	1 リベラルアーツ教育論	オンライン(非同期)	
	12月17日(土)・18日(日)	10日 10:00~13:00 11日 15:00~18:00	2 STEMI・文理融合教育論		
	12月10日(土)・11日(日)	10日 10:00~13:00 11日 15:00~18:00	3 産学連携教育論		
	12月17日(土)・18日(日)	10日 10:00~13:00 11日 15:00~18:00	4 教育関係証論		
	12月10日(土)・11日(日)	10日 10:00~13:00 11日 15:00~18:00	5 PBL 設計・運営演習		
	12月17日(土)・18日(日)	10日 10:00~13:00 11日 15:00~18:00	6 リベラルアーツ・セミナー実践演習		
備考：学習項目5・6(選択必修)はいずれか1つを選択。学習項目5は、授業参観(4時間：対面@東京・名古屋：選択可)、模擬授業の設計(5時間：対面@東京・名古屋)、模擬授業の実施(5時間：対面@東京・名古屋)により構成される。学習項目6は、授業参観(5時間：対面@仙台/東京もしくはオンライン：選択可)、模擬授業の設計(4時間：自己学習)、模擬授業の実施(3時間：ハイフレックス(対面@仙台))により構成される。学習項目5・6の上記日程は、同期による模擬授業日時。					
産学連携リベラルアーツ教育力育成(ID)コース	12月10日(土)	13:00~16:00	1 基礎的ID論	オンライン(非同期)	
	12月18日(日)	9:00~12:00	2 教材設計演習		
	12月10日(土)	13:00~16:00	3 動機づけ理論活用演習		
	12月18日(日)	9:00~12:00	4 eポートフォリオ導入演習		
	12月10日(土)	13:00~16:00	5 大人の学びへと誘う教育改善演習		
	12月18日(日)	9:00~12:00	6 既存のツール/プラットフォームを活用した学習環境構築演習		
備考：学習項目5・6はいずれか1つを選択。いずれも事前学習(7時間：オンライン非同期)、模擬授業(3時間：ハイフレックス(対面@仙台/東京・名古屋)、事後学習(2時間：オンライン非同期))により構成される。学習項目5・6の上記日程は、同期による模擬授業を含む同期学習。					

※新型コロナウイルス感染症の影響にかんがみ、実施方法や日程・会場の変更を行う可能性があります。

④教育イニシアティブ実践演習科目

③発表タイトル・発表資料の提出

【発表タイトル】全コース2023年1月25日(水)までにMoodleへ提出
【発表資料】自身の発表日の2日前までにMoodleへ提出してください。

④成果発表会/⑤振り返り・講評

【実施日程】EP-LDコース:2023年2月4日(土)15日(日)

LA-IDコース:2023年2月18日(土)19日(日)

【時間配分】発表10分+質疑応答10分=20分/人

成果発表3時間+振り返り・講評1時間=計4時間/セッション

【受講要件】受講者は自分が含まれる1セッションへの参加必須。それ以外は自由参加

【留意点】発表日時の調整など、重要な事項がメールで案内・Moodle上に掲載されます。各自期日を守って対応してください。

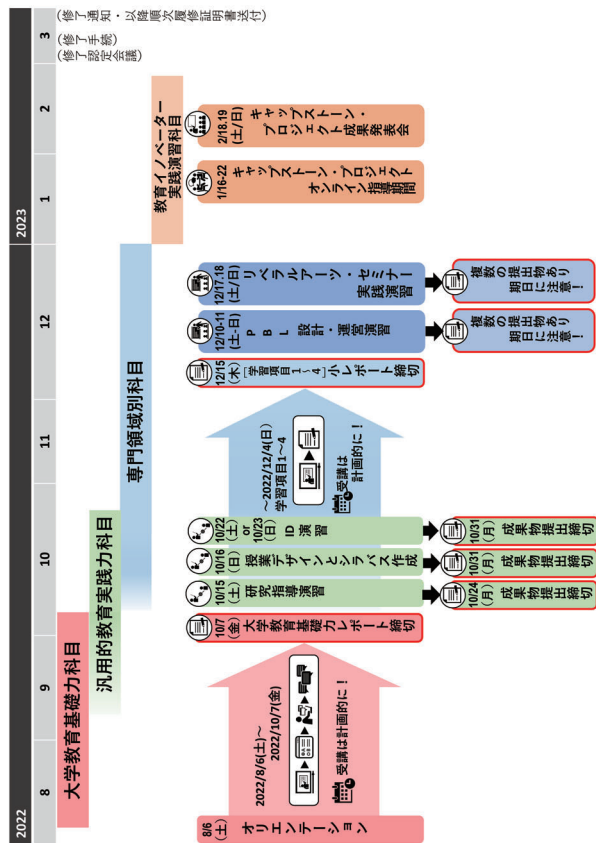
評価方法

成果発表会での発表について、ルーブリックで評価します。

100点満点で採点し、60点以上で合格とします。

評価用ルーブリックは、Moodle上で公開します。必ず内容を確認したうえで取組んでください。

産学連携リベラルアーツ教育力育成 (LA) コースのスケジュール



【受講にあたっての留意点】(LA コース受講アドバイザー・今野より)

- 非同期型オンライン (e-learning) で進める学習項目について**
LA コースの科目のうち、「大学教育基礎力科目」の全学習項目と「専門領域別科目」の学習項目1~4は、Moodle上で自主的に学習を進めていく必要があります。各種提出物の締切を事前につかりと確認し、ご自身のお仕事等のスケジュールや繁忙期などを十分に考慮したうえで、計画的に学習を進めていくことを強くおススメいたします。納得のいくレポート等の成果物を仕上げるためにも、無理のない計画を立てておくことがポイントです。
- わからないこと、疑問、相談があるときには…**
まずは手元にあるリソースを十分に確認してみましよう。
①本ハンドブック
②Moodle上に記載されている情報 (プログラム・サポート) ページの確認もお忘れなく！
③通信 (メールマガ) がメールでの案内
それでも解決できないときには受講アドバイザーへメールでお問い合わせください。

アントレプレナーシップ教育力育成 (EP) コース	
1	技術マネジメント基礎論
2	アントレプレナーシップ基礎論
3	技術マネジメントコンサルティング演習
4	ベンチャービジネスコンサルティング演習

備考：学習項目3および4は演習 (各回3時間) で構成され、対面またはオンライン同期での参加を原則とする。

リーダーシップ開発力育成 (LD) コース	
1	イントロダクション
2	リーダーシップ研究の理解
3	リーダーシップ研究方法論
4	リーダーシップ教育の理解
5	リーダーシップ教育方法論
6~9	リーダーシップ実践教育研修 1 (理論編) リーダーシップ実践教育研修 2 (実践編) リーダーシップ実践教育研修 3 (理論編) リーダーシップ実践教育研修 4 (実践編)
10	まとめ

備考：学習項目1・2はハイブリッドにて実施。学習項目3~10はオンラインにて実施。全学習項目30分程度の事前学習あり。

教育実践力育成 (E) コース	
2月4日 (土)・5日 (日)	午前セッション 9:00~13:00
2月18日 (土)・19日 (日)	午後セッション 14:30~18:30

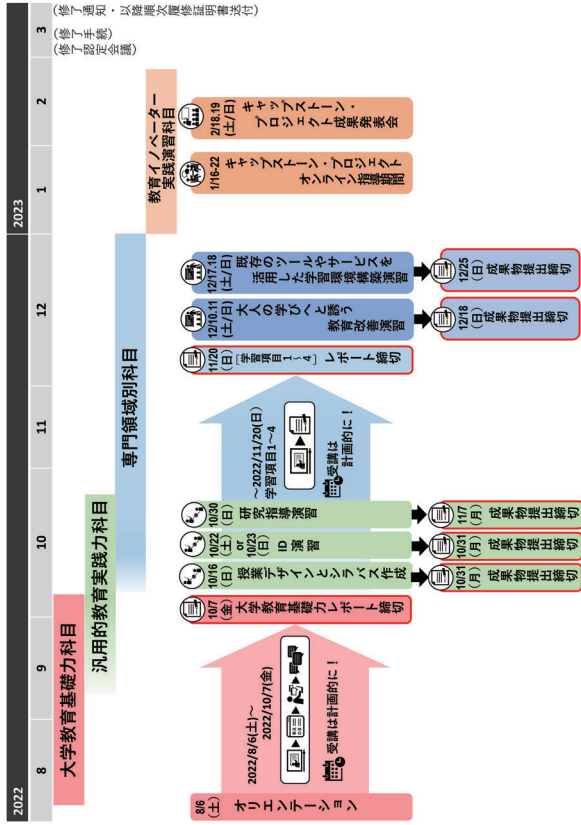
※1：8/16 対面実施は以下のとおりです。ハイブリッドとは、授業が対面及びオンライン同期にて提供され、受講者は受講形態を選択可能です。
東京：23区内の会場
池袋：立教大学 池袋キャンパス (東京都豊島区池袋3-34-1)
大阪：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス (大阪府府中市学園町1-1)

※2：対面を実施する場合の会場は以下のとおりです。ハイブリッドとは、授業が対面及びオンライン同期にて提供され、受講者は受講形態を選択可能です。
東京：23区内の会場
池袋：立教大学 池袋キャンパス (東京都豊島区池袋3-34-1)
大阪：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス (大阪府府中市学園町1-1)

特別セッション【参加任意】

セッション名	内容
大学教育基礎力科目 講師 Q&A セッション	Moodle 上での大学教育基礎力科目の学習をサポートするため、大学教育基礎力科目の講師との Q&A セッションおよび受講者交流会 (参加任意) をオンライン (Zoom) にて開催いたします。Q&A セッションでは、大学教育基礎力科目講師に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会として自コースや他コースの受講者との交流の機会が設けられます。 1回目：2022年8月20日 (土) 10:00~12:00 2回目：2022年9月3日 (土) 13:30~15:30
キャリアサポート・オンラインセッション	受講者の皆さんが今後実務家教員としてキャリアを構築していただけるよう、実務家教員に関するノウハウや、大学の求人機関に自分自身をアピールするためのキャリア対策セミナー (JREC-IN Portal / researchmap / 大学等実務家教員のためのキャリアアップサポート等の各種ツール) に関する Q&A セッションを開催いたします。(他実務家教員研修プログラム受講者と合同実施) 2022年11月20日 (日) セッション①14:00~15:00・セッション②15:15~16:45

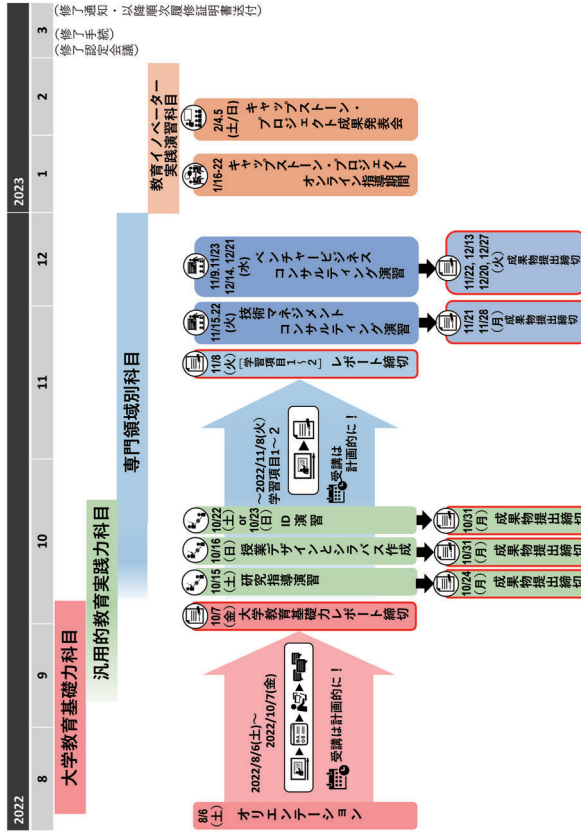
インストラクショナルデザイン指導力育成 (ID) コースのスケジュール



【注意事項】ID コース受講アドバイザー・中島より

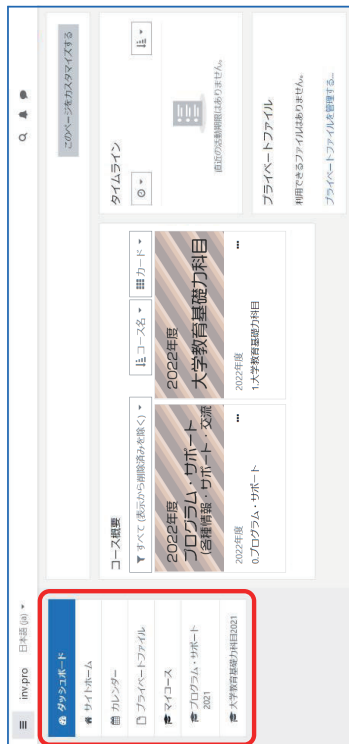
- 汎用的教育実践力科目「インストラクショナルデザイン演習」について**
 - Moodle上で指示する事前準備を演習当日の3日前までに実施していただきます。
 - 参加必須の2時間の演習の前後に任意参加のプレ・ポスト演習を行います。
- 専門領域別科目について**
 - 学習項目5「大人の学びへ」と誘導教育改善演習」と学習項目6「既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習」は、事前学習、同期学習、事後学習のながれで進めます。
- 教育イノベーター実践演習科目について**
 - 事前準備、オンライン指導、成果発表会、振り返り・講評、の順で学習します。

アントレプレナーシップ教育力育成 (EP) コースのスケジュール

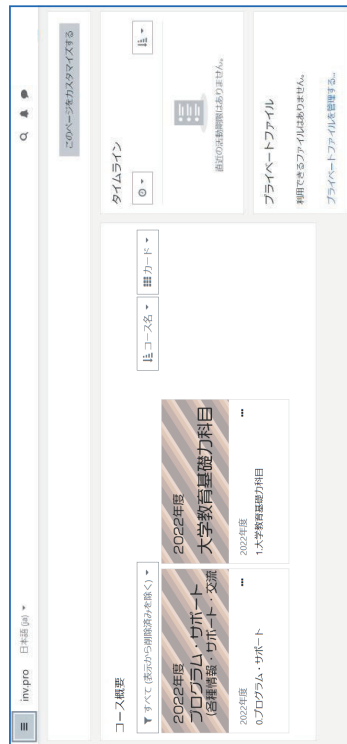


4-2 アコーディオンメニューについて

Moodleの画面の左端には、初期状態では、アコーディオンメニュー(下図において赤で囲った部分)が表示されています。



アコーディオンメニューは、その上の [] のボタンを押すことで、出したりしまったりすることができます。学習を進めるにあたって画面を広く使いたいときは、 [] のボタンを押して、下図のようにアコーディオンメニューをしまってください。(基本的に、アコーディオンメニューをしまったままの状態でも、学習を進めることができます。)



5 学習のための参考情報

5-1 リフレクション・振り返りとは

本プログラムでは、学びをリフレクションし、レポートとしてまとめる課題が設定されています。また、模擬授業などの実践においても振り返りを行う時間が設けられています。

リフレクションとは何か?

リフレクションは、日本語では「反省」「振り返り」などと翻訳されますが、分野によってさまざまな定義がなされています。

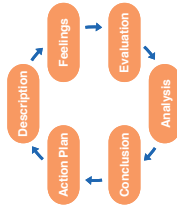
自分自身の考えや行動に関して、
意図的に吟味するプロセス
(認知科学辞典 2002)

自分の行動や思考を再検討し、
それらを生み出した知識を
再構成する活動
(平嶋ら 2004)

さまざまな経験を
繰り返す過程で、その活動の
論理を引き出す思考
(教育心理学新辞典 1996)

つまり、リフレクションとは、自身の経験をもとにした学びの方法論であるといえます。

リフレクションのプロセス



リフレクションにおける思考のプロセスは、多くの研究者によって多数のモデルが提唱されています。その一例として、Gibbs (1988) のリフレクティブ・サイクルを下記に示します。リフレクションのプロセスは、何が起ったかの描写→それに対する感情→評価→分析→結論付け→今後の対処法の創出→…であると考えられています。自身のリフレクションのプロセスを見直すヒントになるかもしれません。

なぜリフレクションを重視するのか

教員養成(教師教育)の文脈では、リフレクションの重要性について次のように説明されています。

今後のキャリアにおいて直面するであろう
すべての種類の状況に適応できるように
養成することは不可能である
(Harrington, Quin-Leering & Hodson 1996)

学び方を学び、適応し変化し続ける方法を学び
安定した知識などないことを知り、
知識を求め続けることだけが安定性の基盤と
なりつづけることを知った人間だけが
教養ある人間であるとされる
(Rogers 1969)

このように、変動する社会において我々は、自身の経験から学ぶ意思の強い姿勢を養わせることが必要であると考えられています。教員がこの姿勢を身につけ、リフレクションを通して自分たちの経験から学ぶスキルを獲得したならば、いわゆる「成長し続ける力」を持つことになるといえます (Korthagen et al. 2001)。

大学教員が対応すべき状況、学生はそれぞれ多様です。リフレクションを通して、新たな課題に直面した時にも、その経験から学び、その結果を以降の実践にも活かすことのできる姿勢を養うことで、プログラム期間終了後にも、学び続けることのできる教員としての下地作りになると考えています。

5-2 参考資料

大学教育について考えるうえでぜひ活用してもらいたい資料を紹介します。

- 大学教職員のための推薦図書リスト
(http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/files/booklist_2016.pdf)

これから大学教員を目指す方に向けて、有用な書籍を「大学人としての教養」、「大学教員の仕事」、「学生理解」、「授業設計」、「学習論/心理学」、「研究室指導」、「高等教育」、「大学マネジメント力」、「比較の視点」の9つのカテゴリに分けて紹介しています。

- PDブックレット Vol.9 授業参観のすすめ
(<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/report/pdbooklet/>)

東北大学において実施された「大学院生と若手教員が先輩教員の授業を参観する取組み」をまとめたものです。授業を公開した先輩教員の率直な思いと、授業を参観した若手教員らの学びの軌跡をたどることができます。

5-3 メールマガジン（通信）

大学教育基礎力科目提供期間中に、受講者の学習のベースメーカー、動機づけ、リマインダーとなるような内容を掲載したメールマガジンを発行します。受講アドバイザー等からのメールを是非ご参照ください。

4.3 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信2022

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講者のみなさま
 受講アドバイザーの今野です。

8/6(土)開催のオリエンテーションへのご参加、大変お疲れ様でした。
 いよいよ、7カ月間にわたるプログラムが始まりました！
 本プログラムでは、受講アドバイザーによる学習サポートの一環として
 「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の提供期間中に週1回のペースで
 「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を配信していきます。
 各コースの受講アドバイザーが持ち回りで編集長を担当し、協力して内容を作成します。
 受講生のみならず、ご自身の学びのペースメーカー、動機づけ、リマインダーの
 機能を果たすメルマガになるよう、受講アドバイザーが心を込めてお送りしますので
 ぜひお目通しください！

なお、この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。
 今後、過去の通信の内容を確認したいときには、Moodle の「プログラム・サポート」→
 「アナウンスメント」にてアーカイブをご覧くださいませ。

→ <https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

- この vol.01 では、
- ① 今週の Q&A
 - ② ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～
 - ③ 各種リマインド
 - ④ ハンドブック訂正箇所のご案内 (ID、EP コース対象)
 - ⑤ 各種問い合わせ窓口
- のラインナップをお送りします。

① 今週の FAQ

オリエンテーションから寄せられた質問、および過去の FAQ をご紹介いたします。

Q: Moodle 上で自分のプロフィール写真を表示するにはどうすればよいですか。

A: プロフィール写真の登録は必須ではありませんが、画面右上のユーザーメニュー

「プロフィール」で登録可能です。

① Moodle 画面右上のご自身の名前をクリック

② 表示されるメニューから「プロフィール」をクリック

③ 左側「ユーザー詳細」にある「プロフィール」を編集するをクリック

④ 項目中ほどの「ユーザー画像」に利用したい顔写真のファイルをドラッグ&ドロップ

⑤ 最下部の「プロフィール」を更新するをクリックして登録

Q: 産学連携教育イノベーター育成プログラムの登録は完了済みですか？

A: 産学連携教育イノベーター育成プログラムの登録は完了済みです。Moodle 上の

チャットリストを用いて詳細されます。当該チャットリストは、Moodle 上の

「産学連携教育イノベーター」→「産学連携教育イノベーター」→「チャットリストと紐付点」に

掲載しております。

→ <https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=58§ion=13>

なお、以降の科目に関するチャットリストまたはルーブリックは科目の Moodle ページの

公開などのタイミングで随時公開する予定です。現時点で公開されているのは

産学連携教育イノベーター育成プログラムの チャットリストのみです。

+++

② ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～

【掲示板への投稿課題について】

まず投稿条件として、「自身が所属するコース」の掲示板に投稿することが必須です。

また、投稿には

(1) 本学習項目で学んだことと「それをどのように活用できそうか」を論述する

(2) 疑問点・課題点について調べたことと論述する

が要件となっています。そして

(3) 他の参加者の投稿に対して必ず1つ以上コメント（同意できる理由、異なる見解など）

する必要があります。

残念ながら、上記の要件を満たしていない投稿が複数見られます。

◆「疑問点が明確に示されていない

◆「調べたことをしていない

上記に該当する場合には、再投稿が必要となります。

ご自身で文献や資料、記事などを読んで明らかにしたことを記述していただければ

「自身の主眼、意見」と「調べたこと」の切り分けが十分で、どこまでがご自身の

主張なのかは厳密に取らなくても構いません。改めて確認をお願いします。

ご自身の疑問点・課題点を満たしていないとお気づきの方は

元の投稿に返信の形で要件を満たした内容を再投稿するようしてください。

なお、投稿には文字数の規定はありません。

上記の要件を満たす投稿となっていることが重要です。

また、この一週分の「産学連携教育イノベーター」の成果物である

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

「産学連携教育イノベーター」の質と、効果的かつ効率的な執筆のための過程です！

レポートの要件、チャットリストの内容を事前に十分確認し、各投稿内容が
 レポート執筆プロセスに結び付くよう算進しを進めていただければと思います。

+++

③ 各種リマインド

(1) オリエンテーションの収録動画の公開について

8/8 付でアナウンスメントをお送りしておりますが、オリエンテーションへの

対面参加が叶わなかった方については、Moodle 上で当日の収録動画を確認いただけます。

【オリエンテーション動画 (8/7)】

→ <https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

「プログラム・サポート」ページ「お知らせ」>「収録動画の視聴はこちらへ」

(2) 第1回産学連携教育イノベーター育成プログラム Q&A セッションおよび受講者交流会欠席者について

8/9 付で上記に関するアナウンスメントをお送りしております。

→ <https://moodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=49339>

内容についてご確認いただき、出席について下記フォームでお知らせください。

→ <https://forms.office/11L8q7w7HqWakE9>

入力締切は、8/17(水)です。

+++

④ ハンドブック訂正箇所のご案内 (ID、EP コース対象)

みなさまのお手元にお送りしているハンドブックの掲載内容の訂正のご案内です。

■ p.58「ID コースのスケジュール」の図中

・汎用的教育実践力科目「授業デザインとシラバス作成」の成果物提出締切

原: 10/24

・汎用的教育実践力科目「研究指導演習」の成果物提出締切

正: 10/31

原: 10/31

■ p.59「EP コースのスケジュール」の図中

・汎用的教育実践力科目「研究指導演習」の成果物提出締切

原: 10/31

正: 10/24

・汎用的教育実践力科目「ID 演習」の成果物提出締切

原: 11/7

正: 10/31

お詫びして訂正いたします。

なお、Moodle の「プログラム・サポート」ページでダウンロードできる

ハンドブックデータについては、8/10 午後付で正しい内容のものに更新しております。

+++

⑤ 各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブック p. 2-3 に記載しております。

学習内容や進め方について、ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を

参照しても解決しない場合、また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携イノベーター育成プログラム (東北大学)

inv-pro@gr.tohoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン指導育成コース (熊本大学)

inv.pro@rcs.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース (大阪公立大学)

las-jitsumukaiep@mlomu.ac.jp

リーダーシップ開発育成コース (立教大学)

inv-pro@nikyo.ac.jp

.....

産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.01 はいかがでしたか？

ご質問はもちろんなこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー: 今野、中島、山田、折戸

+++

産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.02 (2022年8月19日発行)

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講者のみなさま

受講アドバイザーの折戸です。

早いもので、オリエンテーション開催からそろそろ2週間が経ちますね。

大学教育基礎力科目の進み具合はいかがですか。

お昼休みを利用して、しっかりと学習が進んだ！方もいらっしゃる一方で

Moodle ログオンから遠ざかってしまっている方もいるかもしれません。

なんて方もいらっしゃるから！という方も多いかもかもしれませんね。

「この後本腰を入れるから！」という方も多いかもかもしれませんね。

大学教育基礎力科目の学習期間は残り7週間です。

4つ以上の選択必修の計6つの学習項目を完了し、

レポート執筆にかかる時間までを念頭に

思ったよりタイトな工程になりそうではないでしょうか。

+++

ご自身のスケジュールで
どうしても学習に時間を取れないところもあると思います。
学習項目＋レポート執筆にむけた学習計画の確認を
是非このタイミングでしてみてください。

さて、今号では

- ①ここに注目！～受講アドバイザーの知恵袋～
 - ②各種リマインド
 - ③学習進捗レポート
 - ④各種問い合わせ窓口
- 以上のラインナップでお送りします。

+++++-----++++

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

前号の vol.01 号で、【掲示板への投稿課題】についてとして、
掲示板への投稿要件を詳しく紹介しています。

実際の投稿を見ていると、返信コメントで
投稿要件を満たしていない記述に対して
要件を満たすよう促している方や、
引用元へのレビューにも発展しているやり取り、
言いつけはなっていないことへ再考を求めると、
受講者同士で精度を上げていく様子が素晴らしいと思います。
印象的だったのは、指摘された側も、
それに対して
「論述したい事柄の深堀りになった」と受け止めていたことです。
まさに大事なことはここです。

**要件を満たす記述を心掛けることで、
記述している本人の理になり、
読み手にも論旨が明確に伝わりやすくなります。**

書き方は自由書式ではありませんが、**要件は具体的に示されています。**

「悪い例」の投稿内容にならないよう、周りの投稿をよく見て、
ご自身の投稿内容を再確認してみる機会を設けてみてください。
書き直したいな、という方は、
自分の元の投稿に返信のかたちで
要件を満たした内容を再投稿するようお願いいたします。

+++++-----++++

②各種リマインド

第1回大学教育基礎力科目講師Q&Aセッションおよび受講者交流会 開催

明日 8月20日(土) 10:00-12:00 にZoomにて開催となります。
Zoom 情報は Moodle のプログラム・サポートページに記載しています。

- Q&A セッションでは大学教育基礎力科目のうち
- ・「大学教育制度論」より大森 二雄教授、杉本和弘教授
 - ・「カリキュラムマネジメント」より形谷裕美子教授
- に直接質問する機会が得られます。

また、会の後半では受講者交流会を行います。
【参加要件】※改めてご確認ください
下記の学習項目について講義動画の視聴や文献による学習を終え、
クイズに合格済みであること
・大学教育制度論
・上記以外の学習項目1つ以上(カリキュラムマネジメントを推奨)

本企画は必修ではなく、任意参加です。
ご自身のご都合に合わせてご参加ください。
参加しないことにより成績評価等に不利益を被ることはありません。
ご安心ください。
なお、講師 Q&A セッションについては、
後日 Moodle 上にて動画を公開予定です。

+++++-----++++

③学習進捗レポート

今週から大学教育基礎力科目の学習進捗状況をお知らせします

仕事をしながら学習を進めるには、時間・場所などの工夫が
自身の学習条件を整える鍵となります。
ライフタイムに学習時間を+ONするというよりも、
ライフスタイルに合わせた学習環境のアレンジをしてみてください。

+++++-----++++

④各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、
ハンドブック p.2,3 に記載しております。
学習内容や進め方について、
ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を参照しても解決しない場合、
また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース(東北大)

inv-pro@rip.tohoku.ac.jp

インストラクションデザイン指導力育成コース(熊本大)

inv-pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育力育成コース(大阪公立大)

las-jitsumuka.ep@ml.omu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース(立教大)

inv-pro@rikyo.ac.jp

.....
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.02 はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。
今後過去の通信の内容を確認したいときには、
Moodle の「プログラム・サポート」→「アナウンスメント」にてアーカイブをご覧ください。
→<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.03 (2022年8月26日発行)

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講者のみなさま

受講アドバイザーの中島です。

8月20日の第1回Q&Aセッションは、お疲れ様でした。

次回、9月3日の第2回セッションも精刻にご活用下さい。

なお、第1回の講師Q&Aセッションの様子は、Moodle 上でご覧いただけます。

<https://moodle.cica.jp/mod/page/view.php?id=5917>

大学教育基礎力科目の提供期間に週1回のペースで
「産学連携教育イノベーター育成プログラム通信」を配信しております。今回が3回目になります。
さて、今号では

- ①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～
 - ②各種リマインド
 - ③学習進捗レポート
 - ④停電に関するお知らせ
 - ⑤各種問い合わせ窓口
- 以上のラインナップでお送りします。

+++++-----++++

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

本プログラムの受講は、新たなチャレンジだと思います。

働きながらの学習時間の確保は、大変かと思いますが、工夫のしどころかもしれません。

交流会では「通勤時間に動画視聴をしています」とお話しされた方がいらっしゃいました。

また、クイズをやってみて全体をイメージしながら、動画を見てももう一度クイズに取り組む方法を

ご紹介下さる方もありました。時間と道具の使い方は、課題との向かい方は様々です。

試行錯誤もあって、新たなチャレンジで、新たな自分の出会いを楽しめます。

みなさまの場外への投稿方法は、気を配って行われているように感じます。

【掲示板への投稿課題については、vol.1号と2号の～受講アドバイザーからの知恵袋～

において取り上げております。どうぞご確認ください。

+++++-----++++

②各種リマインド

(1)第2回大学教育基礎力科目講師Q&Aセッションおよび受講者交流会 開催

9月3日(土) 13:30 ～ 15:30 にZoomにて開催となります。

出欠確認の締切は 8/29(月)です。下記のフォームでお寄せください。

<https://forms.gle/JJXo4dYudsto6LE6>

Zoom 情報は後日 Moodle の「プログラム」サポーターページに記載します。
第 2 回 Q&A セッションでは大学教育基礎力科目のうら
・「インストラクショナルデザイン」より鈴木克明先生
・「実務家教員論」より松井利之先生 広瀬 正先生
に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会を行います。
【参加要件】※改めてご確認ください。
下記の学習項目について講義動画の視聴や文献による学習を終え、クイズに合格済みであること
・インストラクショナルデザイン
・上記以外の学習項目 1 つ以上（「実務家教員論」を推奨）
本企画は必修ではありません。任意参加です。ご自身のご都合に合わせてご参加ください。

みなさま、こんにちは。受講アドバイザーの山田です。
8 月があっという間に過ぎ、暑さは癒々ものの、9 月に入りました。学習は順調に進んでいますでしょうか。8 月 6 日に開催されたオリエンテーションから 1 か月が経とうとしています。
大学教育基礎力科目の最終レポート締切(10/7(金)23:59)まで、丁度 1 か月、計画的な学習を進めていきましょう。

さて、今号では ②ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

- ①お知らせ
 - ②各種リマインド
 - ③学習進捗レポート
 - ④学習進捗レポート
 - ⑤各課題問い合わせ窓口
- 以上のラインナップをお送りします。
+++++

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

プログラムが始まり 1 か月が過ぎ、受講生の方々から質問をいくつか頂いています。他の方へ共通する質問をいくつかご紹介いたします。

Q: Moodle 投稿後に内容を修正したい場合(再投稿のルールは理解の上で、小さな付け足しレベル)、どの様にすればよいか。
A: 投稿 30 分以内であれば修正が可能です。見直しも含めて 30 分以内にすよう、心がけください。
Q: 自身の考察・疑問内容の投稿時に、投稿時の行の文字数に比して、Moodle に反映された後の行の文字数が変わる為に改行が上手く表示されず、反転後、非断続的に読みづらいものになる、どうしたらよいか。
A: エディタの幅と報告版の幅が異なること、画面サイズなど使用している環境によっても投稿の見え方に違いが出る場合があります。ため、エディタの幅に合わせた改行を使う、ブラウザとしてまとめて記述すると、どんな環境であっても比較的きれいに表示されます。

Q: 他の受講者の方へのコメントは、全員の投稿に対してコメントが必須か。
A: 投稿要件の詳細に「報告版での他の参加者の意見に対して、必ず 1 つ以上コメントしてください」とあり、1 つ以上としておりますので、全員へのコメントは必須ではありません。

Q: 大学教育基礎力科目の必修 4 項目と選択必修 2 項目の計 6 つの学習項目を完了した後は、大学教育基礎力レポートが必須となります。大学教育基礎力レポートの文字制限や分量は？
A: 大学教育基礎力レポートでは、特に文字制限は設けておらず、Moodle 上に掲載している

「大学教育基礎力レポートエッセイ」に示す各項目について論述されていることを重視します。求められていることを不足なく論述できているか、チェックリストで自己採点してから提出することを強くおすすめします。今のうちから、最終レポートの要件、構成を見据えて、報告版への投稿や議論を積み上げていけるというですね。評価に用いるチェックリストは Moodle 上で公開しています。確認頂き、レポート作成に取り組みください。

当該チェックリストは、Moodle 上の大学教育基礎力科目の「大学教育基礎力レポート」に掲載しております。
→ <https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=58§ion=13>
チェックリスト⇒ [大学教育基礎力レポート評価用チェックリスト](#)
+++++

②お知らせ

(1)8/6 新旧交流会の写真公開
8 月 6 日、東京にて開催いたしました修了者・受講者との新旧交流会の際に撮影いたしましたコース別集合写真を Moodle の「プログラム」サポーターページにて公開いたしました。

◆2022 年度新旧交流会の写真
→ <https://moodle.cica.jp/mood/page/view.php?id=5940>
【お願い(重要)】

本プログラムでは、様々な方が、様々な環境や状況のもとに参加されております。当該写真は、あくまでも参加者の方々個人に留めるものとし、写真や SNS 等に掲載すること、他者へ共有することは禁止させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

③各種リマインド

(1)第 2 回大学教育基礎力科目講師 Q&A セッションおよび受講者交流会 開催
明日、9 月 3 日(土)13:30 ~ 15:30 に Zoom にて開催となります。

Zoom 情報は、Moodle の「プログラム」サポーターページに掲載しています。

第 2 回 Q&A セッションでは大学教育基礎力科目のうら
・「インストラクショナルデザイン」より鈴木克明先生
・「実務家教員論」より松井利之先生 広瀬 正先生
に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会を行います。
【参加要件】は、Moodle に記載されています。改めてご確認ください。
本企画は必修ではなく、任意参加です。ご自身のご都合に合わせてご参加ください。

Zoom 情報は後日 Moodle の「プログラム」サポーターページに記載します。
第 2 回 Q&A セッションでは大学教育基礎力科目のうら
・「インストラクショナルデザイン」より鈴木克明先生
・「実務家教員論」より松井利之先生 広瀬 正先生
に直接質問する機会が得られます。また、会の後半では受講者交流会を行います。
【参加要件】※改めてご確認ください。
下記の学習項目について講義動画の視聴や文献による学習を終え、クイズに合格済みであること
・インストラクショナルデザイン
・上記以外の学習項目 1 つ以上（「実務家教員論」を推奨）
本企画は必修ではありません。任意参加です。ご自身のご都合に合わせてご参加ください。

みなさま、こんにちは。受講アドバイザーの山田です。
8 月があっという間に過ぎ、暑さは癒々ものの、9 月に入りました。学習は順調に進んでいますでしょうか。8 月 6 日に開催されたオリエンテーションから 1 か月が経とうとしています。
大学教育基礎力科目の最終レポート締切(10/7(金)23:59)まで、丁度 1 か月、計画的な学習を進めていきましょう。

(2)汎用的教育実践力科目受講日希望調査

現在受講中の大学教育基礎力科目が修了すると、次の汎用的教育実践力科目に進みます。
本科目の詳細については、ハンドブック p16~ をご参照下さい。
汎用的教育実践力科目は、10 月にオンライン型回期学習で行われます。
つきましては、受講日の調整検討を行います。
① 研究指導演習
- 自コースの対象日程での受講可否を確認し、必要に応じて他コース日程に振替を行います
② 授業デザインとシラバス作成
- 10/16 (日)のオンライン同期配信への参加可否を確認します
③ インストラクショナルデザイン演習
- 参加日程を割り当てるため、受講不可の日程をお知らせください
それぞれ別の学習項目の内容をご確認いただき、下記フォームにご入力ください。
<https://forms.gle/A8uQkdbIMn4HbQr6d>
入力締切は、9/9(金)です。どうぞよろしくお願ひいたします。
+++++

④ 学習進捗レポート
今週の大学教育基礎力科目の学習進捗状況をお知らせします。

フォーラム投稿では、日本の大学教育の事情や課題に気づきを得て、他者へのコメントで、考えを深められている書き込みを多く見受けられます。
知見の拡大・深化は、教員の質を高め、進化への貢献につながります。
投稿を拜見して、一緒にがんばりましょう！と思えました。
+++++

④ 停電に関するお知らせ
8 月 26 日(金)13:00~8 月 29 日(月)13:00 まで、東北大学における
計画停電のため「オリエンテーション」の収録動画については、この時間帯に
視聴することができません。Moodle やその他の動画については影響ございません。
ご承知おきください。
+++++

⑤ 各種問い合わせ窓口
各種問い合わせ窓口については、ハンドブック p.2-3 に掲載しております。
学習内容や進め方について、ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を
参照しても解決しない場合、また欠席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。
受講開始から受講間にならうとしております。仕事と家庭と学習と...少しペースがつかめようでしょうか？
4 つの必修と 2 つ以上の選択必修の計 6 つの学習項目を完了し、
レポート執筆にかかる時間まで含むと...
不明点などで足止めはもつけないので、
受講アドバイザーに遠慮なくお声掛けください。
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース(東北大学)
inv_pro@grp.tohoku.ac.jp
インストラクショナルデザイン推進力育成コース(熊本大学)
inv_pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp
アントレプレナーシップ教育力育成コース(大阪公立大学)
ias-jitsumuka.ep@mi.oumu.ac.jp
リベラルアーツ推進力育成コース(立教大学)
inv_pro@ritkyo.ac.jp

産学連携教育「イノベーション」育成プログラム通信 vol.03「はいかがでしたか？」
この質問はもちろんなること、ご意見、ご感想などもお待ちしております！
この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。
今後、過去の通信の内容を確認したいときには、
Moodle の「プログラム」サポーター「アナウンスメント」にてカーイブをご覧ください。
<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>
受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

参加しないことにより成績評価等で不利益を被ることはございません。ご安心ください。
なお、講師 Q&A セッションについては、後日 Moodle 上に動画を公開予定です。

(2) 汎用的教育実践力科目受講日希望調査

大学教育実践力科目修了後に実施される汎用的教育実践力科目、受講日の調整について、希望調査フォームへの回答、締切 9/9(金)をお願いしています。お済みでない方は、下記フォームに入力ください。

汎用的教育実践力科目受講日希望調査：締切 9/9(金) - <https://forms.gle/xBuQkdbJmM4HbQrd6>

受講日の調整確認事項

- ① 研究指導演習 → 自コースの対象日程度の受講可否を確認し、必要に応じて他コース日程に振替を行います
- ② 授業予習演習 → シラバス作成 -10/16(日)のオンライン同期配信への参加可否を確認します
- ③ インストラクショナルデザイン演習 → 参加日程を割り当てるため、受講不可の日程をお知らせください

汎用的教育実践力科目の詳細については、ハンドブック p16~をご参照下さい。

汎用的教育実践力科目は、10月にオンライン型同期学習で行われます。

+++++

④ 学習進捗レポート

今週の大学教育実践力科目の学習進捗状況をお知らせします。

台「上」へ入力欄の時間 11:00時 11:45時 12:00時 12:15時 12:30時

すべてのコースで必須科目を全て修了している受講生の方が増えました。まだ一つも回答がない方も見受けられます。時間の確保が難しいと思います。先日の交流会では、運動時に動画を見るなど、効率的に進める方法を共有されていました。是非、参考にさせていただきます。

★訂正

受講 vol.03 の学習進捗状況の表において、「必修」学習項目内の「最も学習が進んでいる受講者の修了学習項目数」を LA コース:5、ID コース:6 と掲載していましたが、いずれも「4」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

+++++

⑤ 各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブック p.2-3 に記載しております。

学習内容や進め方について、ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を参照しても解決しない場合、また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。また、不明な点などで足止めもつたいないので、受講アドバイザーに遠慮なくお声掛けください。

産学連携リアルワールド教育育成コース(東北大学)

inv.pro@grt.chokoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン推進力育成コース(熊本大学)

inv.pro@cis.kumamoto-u.ac.jp

アントブレナラーシップ教育力育成コース(大阪公立大学)

ias-jitsumuka.esp@ml.comu.ac.jp

リーディング開発力育成コース(立教大学)

inv.pro@nikkyo.ac.jp

産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.04(11月)がでましたか？

ご質問はもちろんなること、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。

今後、過去の通信の内容を確認したいときには、Moodle の「プログラム、サポーター」

「アナウンスメント」にてアークイブをご覧いただけます。

-<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

+++++

⑥ 産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.05 (2022年9月9日発行)

+++++

産学連携教育イノベーション育成プログラム受講者のみなさま

受講アドバイザーの今野です。

大学教育実践力科目の成果物「大学教育実践力レポート」の提出締切まで

1か月を切りました！講師 Q&A セッションなどを活用しながら、積極的に

学びを進めていらっしゃる方も多く、既に必修4項目と選択必修2項目の学習を

進められた方も出てきました。また、めでたく「大学教育実践力レポート」の

提出を終えられた方もいらっしゃいます！

9月の連休中にまとめて学習をおこなうという計画の方もいらっしゃるかも

しれません。体調管理にも十分気を付けて有意義な学びの時間が確保できるよう

受講アドバイザーも応援しています。

通信 vol.05 は、

① 受講生の皆さまへのご案内

② ここに注意！～受講アドバイザーの知識袋～

③ 各種リマインド

+++++

④ 学習進捗状況

⑤ 各種問い合わせ窓口

のラインナップをお送りします。

+++++

① 受講生の皆さまへのご案内

【第2回大学教育実践力科目講師 Q&A セッションの動画公開】

9/3(土)に開催いたしました Q&A セッションの動画を Moodle にて公開いたしました。当日の参加が叶わなかった方、復習したい方、どうぞご利用ください。

◆ 第2回大学教育実践力科目講師 Q&A 収録動画

-<https://moodle.cica.jp/mod/page/view.php?id=59368&forceview=1>

Q&A セッションは、インストラクショナルデザイン、より鈴木京明先生、

「実務教員論」より松井利之先生、広瀬正先生にご担当いただきました。

なお、収録の都合上、動画の一部は音声のみでお送りしております。

ご了承ください。

【受講者交流用掲示板のご案内】

大学教育実践力科目の学習内容に関するお知らせではなく、もつと他の

受講者のみなさんと交流や情報交換をしたいというニーズにご応えるため

Moodle の「プログラム、サポーター」ページ内に、交流用掲示板を設置しました。

◆ 受講者交流用掲示板

-<https://moodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=4952>

上記掲示板に投稿すると、受講者全員に投稿内容がメールで通知されます。

メンバーを守っての投稿にご協力をお願いします。

+++++

② ここに注意！～受講アドバイザーの知識袋～

【掲示板への投稿課題について】

これまでの通信やアナウンスでの周知に対応して、自ら気づき、

必要に応じて案件に則した再投稿が行われており、何よりです。

コースによっては別途アナウンスをしていますが、

【他の受講者の投稿に対して必ず1つ以上コメントする】という

課題が行われていないケースが見えます。

本課題では、自身の投稿に寄せられた他の受講者のコメントへの返信ではなく

「他の受講者の投稿に対してコメントすること」が求められております。

今一度、ご自身が「他の受講者の投稿を読み、それに対してご自身の意見を

投稿できていないか」をご確認をお願いします。

自身の投稿に対する他の受講者からのコメントに返信した場合においても

「あなたの学習進捗が完了」(緑色)と表示されることから

誤解を招いているケースがございます。Moodle の仕様により「返信」の内容まで

区別して判定できないことが理由の挙動となっております。どうかご容赦ください。

【自分の投稿やコメントの管理方法について】

ご自身のこれまでの投稿を一括で確認できる方法をご活用ください。

◆ Moodle 画面上右上の「氏名」→プロフィール→フォーラム投稿/フォーラムディスカッション

なお、「フォーラム投稿」では、ご自身による掲示板での活動全て

つまり、投稿(ディスカッション)、投稿へのコメントの全てが表示されます。

「フォーラムディスカッション」は、上記のうち、投稿(ディスカッション)のみの

一覧が確認できます。使いこなせるととても便利な機能です。

+++++

③ 各種リマインド

【汎用的教育実践力科目受講日希望調査】

かねてよりご案内しております汎用的教育実践力科目受講日の希望調査の

入力締切は本日、9/9(金)です。まだの方は、本月中にご入力ください。

◆ 汎用的教育実践力科目受講日希望調査

-<https://forms.gle/xBuQkdbJmM4HbQrd6>

+++++

④ 学習進捗状況

今週の大学教育実践力科目の学習進捗状況をお知らせします。

掲示板での投稿では、ご自身の経験や立場から得られた知識を活かした

返信コメントや、それらのコメントを受けての発展的な議論など

相互に学び合っている様子も垣間見られます。

オンラインでの学習は孤独な側面もあるかもしれませんが、ぜひ他者の視点も

十二分に活用して、ご自身の学びを深めてもらえたら何よりです。

大学教育実践力レポートにおいては、こうした掲示板での議論を踏まえ

た高評価につながることもあろうと思います。ぜひ活かしてみてください！

+++++

④各履間い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブック p. 2-3 に記載しております。
学習内容や進め方について、ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を
参照しても解決しない場合、また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育育成コース(東北大学)

inv-pro@grn.tohoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン指導力育成コース(熊本大学)

inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース(大阪公立大学)

las-jitsumuka.ep@ml.omu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース(立教大学)

inv-pro@nikkyo.ac.jp

.....

この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。

今後、過去の通信の内容を確認したいときには、

Moodle の「プログラム」>「サポート」>「アナウンスメント」にてアーカイブをご覧ください。

<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.05 はいかがでしたか？

ご質問はもちろんなこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.06 (2022 年 9 月 16 日発行)

産学連携教育イノベーション育成プログラム受講者のみなさま

受講アドバイザーの折戸です。

9 月も半ばを過ぎましたね。

日が沈むとだんだん過ごしやすくなってまいりました。

大学教育基礎力科目もそろそろ終盤に入ってくる頃かと思えます。

学習不足の日々が嫌いでいませんか？

社会人が時間を作るとうとすると、

睡眠時間を削って捨出す方が大半かもしれません。

連日となると、体力的にもシンドくなってきますが、

人生の中で「学習」に集中できる期間を久しぶりに満喫してやる！

くらいの感覚で、あと少し、頑張ってくださいませ。

さてさて、今号では

①ここに注目！～受講アドバイザーの知恵袋～

②各種リマインド

③学習進捗レポート

④各履間い合わせ窓口

以上のライナップでお送りします。

⑤ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

大学教育基礎力科目の投稿初期の頃と、

今の投稿内容を見比べてみると

皆さん自分の論述が洗練されてきていると感じまじせんか。

各学習項目のテーマに対する考察や意見なども

それぞれに自信をもって論述している様子がうかがえます。

レポート執筆に向けて、漸実にステップアップしていることを

実感している方もいらっしゃるはずです。

一方で、慣れてくるといつの間にか

自分が伝えたいことがメインになっている投稿も見かけます。

大学教育基礎力科目の集大成であるレポートの

下地でもある各学習項目の投稿は、

「思いついたことを一思いついた順に」その時の気持ちで書くのではなく、

「学習に基づいた自身の考察を」指定の形式で「論理的に書く」。

を心掛けるようにしましょう。

※なお、大学教育基礎力レポートの提出時には、

ファイル名と本文それぞれに各自の氏名を表示するようにお願いします！

+++++

⑥各種リマインド

自由選択科目 LD コース 受講希望申込 開始

本日 9 月 16 日 (金) 9:00 より

Moodle の投票機能より送信が可能となっています。

LD コースの専門領域別科目は全て同期型のため、

自由選択学習項目 11、12 の受講を希望される場合は

事前の受講申込をお願いします。

【申込期間】2022 年 9 月 16 日 (金) 9:00～10 月 7 日 (金) 23:59

【対象学習項目】①リーダーシップ教育の理解(自由選択学習項目 11)

②リーダーシップ教育方法論(自由選択学習項目 12)

【申込方法】Moodle の投票機能を活用！

専門領域別科目 自由選択科目 11、12 の受講申込

<https://moodle.cica.jp/mod/choice/view.php?id=5852>

※本日より送信可能です

【受講確定について】

受講が確定した方には 10 月 9 日 (月) に Moodle の

当該学習項目のページが利用できるようになります。

【受講日 当日について】

講義当日のオンライン情報 (Zoom 情報) は

後日 LD コース受講アドバイザー (折戸) よりお知らせいたします。

受講のご検討はハンドブックにて、当該学習項目をそれぞれご確認ください。

+++++

③学習進捗レポート

今週の大学教育基礎力科目の学習進捗状況をお知らせします。

全体で 27%の方が大学教育基礎力科目の学習項目を終えています。

まだ学習項目が終わっていないという方も、

そろそろ、レポート執筆にむけた段取りを整え始めましょう。

+++++

④各履間い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、

ハンドブック p. 2-3 に記載しております。

学習内容や進め方について、

ハンドブック/Moodle/過去のメールでの案内を参照しても解決しない場合、

また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育育成コース(東北大)

inv.pro@grn.tohoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン指導力育成コース(熊本大)

inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース(大阪公立大)

las-jitsumuka.ep@ml.omu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース(立教大)

inv-pro@nikkyo.ac.jp

.....

産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.06 はいかがでしたか？

ご質問はもちろんなこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

この通信は Moodle のアナウンスメント機能を使用して配信しています。

今後過去の通信の内容を確認したいときには、

Moodle の「プログラム」>「サポート」>「アナウンスメント」にてアーカイブをご覧ください。

<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

産学連携教育イノベーション育成プログラム通信 vol.07 (2022 年 9 月 22 日発行)

産学連携教育イノベーション育成プログラム受講者のみなさま

受講アドバイザーの中島です。冒頭に大切なお知らせです！

大学教育基礎力レポートの提出の際には、ご自分の氏名を、提出ファイルと本文に明記ください。

今号では

①ここに注目！～受講アドバイザーの知恵袋～

②各種リマインド

③学習進捗レポート

④各履間い合わせ窓口

また、もう一つ必須となっている大学教育基礎カレレポートは、学習項目の振り返りを含むものになりますので、それまでに6項目の修了が必須です。

Q. 自身で履修ができていないかの確認方法は？レポートはどのように提出すれば良いか。

A. 選択学習項目(2項目)は、Moodle上にての項目を学習対象とするか登録されているか、登録がなされているかと、上記履修要件を満たした場合にはレポートの提出リンクが表示されません。

■【操作】大学教育基礎カレレポート (https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=58§ion=1)
→学習項目5以降までスクロールし、選択する項目について画面右側のチェックボックスをクリックし、オンの状態にしてください。

* 大学教育基礎カレレポートの選択学習項目に関するMoodle操作については、
プログラム・サポートページ (https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83) で公開している
「Moodle」マニュアルページにて確認可能です。

■ 選択学習項目を登録し、クイズ・投稿などの課題がすべてクリアできている場合は、
一審右側のパネルが「大学教育基礎カレレポート」になります。
このうち何かが欠けていると、その旨が大学教育基礎カレレポートにテキストメッセージとして表示されます。

■ **大学教育基礎カレレポートの提出の際には、ご自分の氏名を、提出ファイルと本文に明記ください。**
また、レポート詳細については、
大学教育基礎カレレポートチェックリストを参照してください。

Tips 2 「生徒」？「学生」？用語についてのアドバイス

掲示板での投稿内容を確認していると、大学に通う者を指すことばとして「生徒」を使っている方がいることに気が付きました。学びの場に来る者であることを表す用語には「児童」「生徒」「学生」がありますが、それぞれ意味が異なります。おおまかに説明すると...

◆児童：小学生(初等教育を受けている者)

◆生徒：中学生、高校生(中等教育を受けている者)

◆学生：大学生(高等教育[大学、大学院、高等専門学校等]を受けている者)

という使い分けがなされており、「学校教育法」によりその定義が定められています。

今後の就職活動時の書類や小論文での論述はもちろんだ、今後の掲示板での議論や「大学教育基礎カレレポート」においても、こうした用語の使い分けにも留意してみてください。

(近年は「大学生の『生徒化』」なんて議論もありますが...そういった特別な意図がない限り、大学生は「学生」と表現しましょう。)

+++-----+++

②各履修項目の提出締め切り

【大学教育基礎カレレポートの提出締め切り】

提出締め切り期限 2022年10月7日(金)23:59

上記記載しておりますが、再度ご案内です。

③学習進捗レポート

今週の大学教育基礎カレレポートの学習進捗状況をお知らせします。

+++-----+++

④各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、

ハンドブック p.2-3 に記載しております。

学習内容や進め方について、

ハンドブック/Moodle/過去の通信のメールでのご案内を参照しても解決しない場合、

また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育育成コース(東北大学)

invt-pro@am.tohoku.ac.jp

イラストラショナルデザイン指導力育成コース(熊本大学)

invipro@cis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース(大阪公立大学)

las-jitsumuka.ep@ml.osu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース(立教大学)

inv-pro@rikkyo.ac.jp

.....

産学連携教育インベーター育成プログラム通信 vol.08 はいかがでしたか？

ご質問はもちろんだ、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

この通信はMoodleのアンナウンスメント機能を使用して配信しています。

今後、過去の通信の内容を確認したいときには、

Moodleの「プログラム・サポート」→「アンナウンスメント」にてアーカイブをご覧ください。

→https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

以上のラインナップでお送りします。

+++-----+++

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

文章を書かすけたい！自分思う示さけないように...私かその一人で。

「書けなく」書けなく、呼吸が浅いもの...呼吸は「吸う」と吐くのは繰り返す。

文章も呼吸のように、「読む」と「書く」の繰り返し。

書けないときは、読む、解る気持ちを抱えながら、書けない時ほど読む...

基礎カレレポートの作成が気になる頃だと思います。

*繰り返してまいります。

【大学教育基礎カレレポートの提出の際には、ご自分の氏名をファイル名と本文に明示して下さい。】

+++-----+++

②各種リマインド

課題提出締め切り期限 2022年10月7日(金)23:59

大学教育基礎カレレポートの提出締め切りは、みなさんよく理解されていると思います。

Moodle上でMSWordもしくは、PDFのファイル形式で提出です。

チェックリストをご活用ください。

注意点として、箇条書きではなく文章での論述をお願いします。

詳細は、ハンドブック p15 をご参照ください。

+++-----+++

③学習進捗レポート

今週の大学教育基礎カレレポートの学習進捗状況をお知らせします

全体で41%の方が大学教育基礎カレレポートの学習項目を終えました。

+++-----+++

④各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、

ハンドブック p.2-3 に記載しております。

学習内容や進め方について、

ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を参照しても解決しない場合、

また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。

産学連携リベラルアーツ教育育成コース(東北大学)

invipro@grp.tohoku.ac.jp

イラストラショナルデザイン指導力育成コース(熊本大学)

invipro@cis.kumamoto-u.ac.jp

アントレプレナーシップ教育育成コース(大阪公立大学)

las-jitsumuka.ep@ml.osu.ac.jp

リーダーシップ開発力育成コース(立教大学)

inv-pro@rikkyo.ac.jp

.....

産学連携教育インベーター育成プログラム通信 vol.07 はいかがでしたか？

ご質問はもちろんだ、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

この通信はMoodleのアンナウンスメント機能を使用して配信しています。

今後、過去の通信の内容を確認したいときには、

Moodleの「プログラム・サポート」→「アンナウンスメント」にてアーカイブをご覧ください。

→https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83

受講アドバイザー：今野、中島、山田、折戸

□-----□

産学連携教育インベーター育成プログラム通信 vol.08(2022年9月30日発行)

産学連携教育インベーター育成プログラム受講者のみなさま

*通信の配信が遅い時間になり失礼いたします。

受講アドバイザーの山田です。いよいよ来週 10月7日(金)23:59 が大学教育基礎カレレポートの提出締め切り日になります。

仕事と勉強の両立は、難しい事も多いかと存じますが、今年履修了を目指し、次の学習項目に進む事ができるよう提出期限をクリアしていきましょう。

今回は、レポート提出についての要件、Moodle上での確認事項等、共有させていただきます。

今号では

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

②各種リマインド

③学習進捗レポート

④各種問い合わせ窓口

+++-----+++

以上のラインナップでお送りします。

①ここに注目！～受講アドバイザーからの知恵袋～

Tips 1 大学教育基礎カレレポートの提出の注意点

大学教育基礎カレレポートの履修要件は、必修4項目と選択2項目、計6項目となっております。

+++
産学連携教育イニシアチブ育成プログラム受講者のみなさま
受講アドバイザーの今野です。とうとう本日10月7日(金)23:59が
大学教育基礎力レポートの提出締切です。既に提出された方も
締切時間までは再提出が受け付けられますので
数字脱字(= 結構あります!)や名前前の記入忘れなどのないよう
重ねて最終チェックを行っていただけではないかと思えます。
オリエンテーションの受講から毎週金曜日に配信してきた
この「通信」は、本日で最終号となります。
今号では、各受講アドバイザーからのメッセージをお届けします。
+++

+++
受講アドバイザーからのメッセージ
産学連携教育イニシアチブ育成プログラム受講者のみなさま
オンラインでの2か月間わたる学習、ひととまず大変お疲れさまでした!
受講生の皆さまによって、学習進捗の励みになるような内容を
お送りできるように考え出されたのこの通信です。
皆さまの掲示板への投稿とコメントのやりとりから、私自身も多くの気づきを
得ることができました。
学習進捗を確認する作業の中にも、多くの学びの機会が残りまさに役得です!
一方で「最近アクセスしていないけどーした?」「再投稿が必要ですか」など
たくさんメールをお送りしてしまっただけと存じます。
仕事で忙しいのに「しゅんやんと時間的にやるってば」とうざうざとく思われた方も
少なくないでしょう。最もドロップアウト率の高い科目が大学教育基礎力科目で
あることから、老練心ながら日々ハラハラドキドキながら皆さまの学習の様子を
見守って参りました。
本プログラムはまだまだ続いています。
受講アドバイザーとして、陰ながらの応援を裏面に積み重ねてまいりますので、
どうぞよろしくお願ひいたします!
インストラクショナルデザイン指導力養成コース担当 中島
皆様のご縁からは、学びを楽しまれていくことが伝わってまいりました。
充実した日々になりました。

+++
eラーニングの設計要素として、鈴木先生は
「情報から学ぶ」「仲間から学ぶ」ことをおっしゃられています。まさにその体験でした。
今後も学び続けることに、この経験とここで仲間が、活かされていくことを思っています。
これから学びにも、こー緒であることがうれしく思います。楽しみにしております。
アントレプレナーシップ教育力養成コース担当 山田
みなさま、長きに渡るオンライン学習、お疲れ様でした。
色々な時間の都合をつけての学習は、大変だったことと思います。
毎回各受講アドバイザーがメルマガ通信に書いていた進捗報告の数字を
まとめるのですが、今回はギリギリまで提出を待ち、集計をして、皆様を
嬉々終らされていく様子を見て、陰ながら拍手を送りながら見守っております。
(受講アドバイザーの皆様、とりまどめ遅くなりまして申し訳ありません)
いよいよ、汎用的教育実践力科目や、専門領域別科目等、演習を含んだ科目が
始まります。これまでは真なり、講師の先生や、他の受講生と議論を交わしたり、
質問をする機会が増え、新しい学びが出来るかと思っています。
今後も授業や企画のサポートをする予定です。
EPCコースの受講生のみなさんをはじめ、皆さんにお会いする機会が増えること
なるかと思っています。

+++
◇リダーシップ開発力養成コース担当 折戸
最初の科目が区切りをむかえますね!
非同期型という環境では、思うように進められなかつたり、
わからないことも直ぐに解消できずにモヤモヤしたり、、、
そんな時間を過ごされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。
まずは、おつかれさまでした!!
そして、最後の追い込みの方、もうひと踏ん張りです!!
掲示掲投類は、初期から活発なやり取りがなされていて、
学習項目が進むにつれてみなさんの会話が
専門的になっていく様子を拝見していました。
非同期型とは思えないほどの意見交換や情報交換、会話が展開されていて、
今後の同期型、対面、グループセッションなどが楽しみですね!
萬葉祭にあって、仕事をしながら集中的に学習を進めるのは、
精神カも体力も使いますよね。
本日締切のレポートを無事に提出した後は、どうぞ「いっしょく」してください。
そして、ゆつくりかつかりー息つかれた後は、つぎのステップに向けて、
頭の柔軟操をぜひお願ひします。
キヤップストーン目指して、

+++
我々受講アドバイザーもフォーマル体制を抜かりなく整えてまいりますので、
引き続きどうぞよろしくお願ひいたします!
+++
大学教育基礎力科目の成績について
大学教育基礎力レポートは提出締切以降、各コースの講師により
採点がなされます。採点結果の通知は10月下旬を予定しています。
それまではしばらくお待ちください。
採点結果はMoodle上で通知されます。
成績入力にはスタッフが行うため「評定者」名として、事務局スタッフの
氏名が表示される場合があります。
+++

+++
汎用的教育実践力科目の受講について
大学教育基礎力レポートを提出し、これに合格すると
汎用的教育実践力科目の受講に進むことができます。
受講日程を選択する「研究指導」演習「インストラクショナルデザイン演習」
については、受講日程をMoodle上の汎用的教育実践力科目トップページに
掲載していますので各自確認をお願いします。
各演習では「事前学習」が設定されています。それぞれの内容を確認し
期日までに終了うえで、演習当日に臨むようにしてください。
+++

+++
学習進捗レポート
今週の大学教育基礎力科目の学習進捗状況をお知らせします。
全体で65%の受講者が大学教育基礎力レポートの提出を終えました!
きょうこれから提出しようという方は、あともう一息です!
+++

+++
各種問い合わせ窓口
各種問い合わせ窓口については、
ハンドブックp.2-3に記載しております。
学習内容や進め方については、
ハンドブック/Moodle/過去のメールでのご案内を参照しても解決しない場合、
また次席等のご連絡は、各コース担当者へご連絡ください。
産学連携教育イニシアチブ育成プログラム事務局(東北大学)
invipro@gp.tohoku.ac.jp

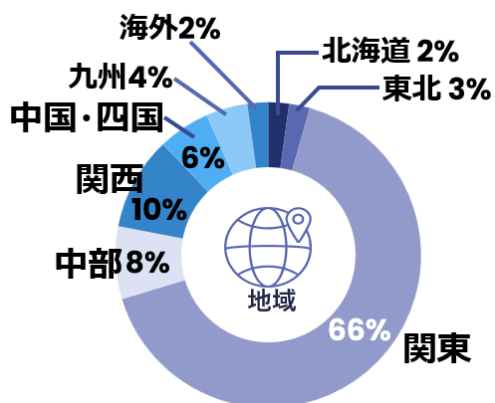
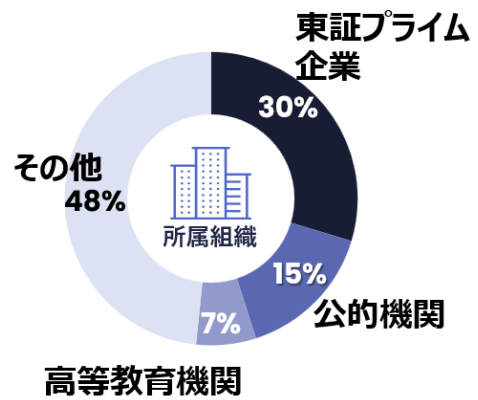
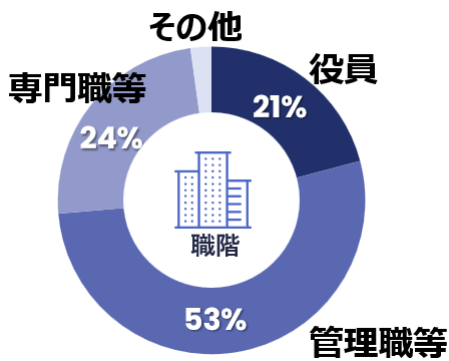
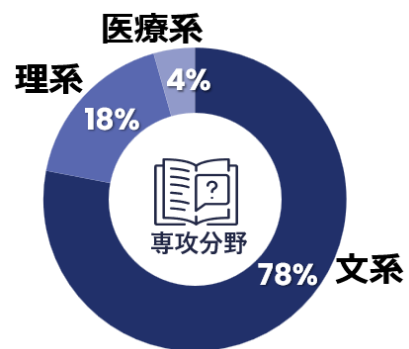
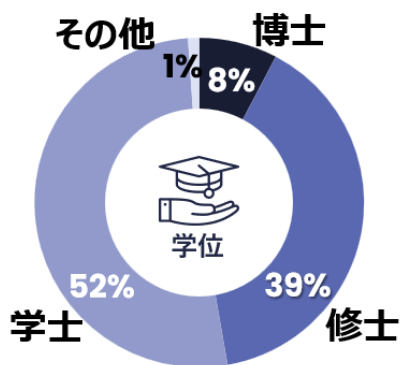
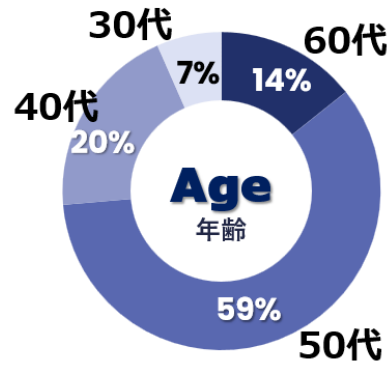
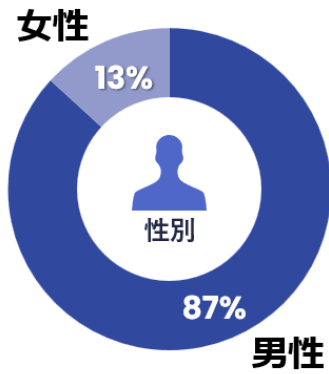
+++
インストラクショナルデザイン指導力養成コース(駒橋大学)
invipro@cis.kumamoto-u.ac.jp
アントレプレナーシップ教育力養成コース(大阪公立大学)
las.jitsumuka.ep@nlomu.ac.jp
リダーシップ開発力養成コース(立教大学)
inv-pro@rikyo.ac.jp

+++
産学連携教育イニシアチブ育成プログラム通信はいかがでしたか?
大学教育基礎力科目修了後には、受講者アンケートを募集いたします。
本通信に関する問いもありますので、ぜひご感想、ご意見等お寄せいただけると
嬉しいです。
この通信はMoodleのアナウンスメント機能を使用して配信しています。
今後、過去の通信の内容を確認したいときには、
Moodleの「プログラム」サポーター「[アナウンスメント](https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83)」にてアーカイブをご覧ください。
→<https://moodle.cica.jp/course/view.php?id=83>
受講アドバイザー: 今野、中島、山田、折戸

4.4 産学連携教育イノベーター育成プログラム 受講者属性等

AIBET2022 受講者属性

n = 91



AIBET2022 コース別受講者・修了者数

コース名	受講者数	修了者数
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース	35	33
インストラクショナルデザイン指導力育成コース	18	19
アントレプレナーシップ教育力育成コース	16	16
リーダーシップ開発力育成コース	22	22
計	91	90

※修了者には受講期間延長者を含む

AIBET 修了者数

年度	受講者	修了者
2020	56	48
2021	107	97
2022	91	90

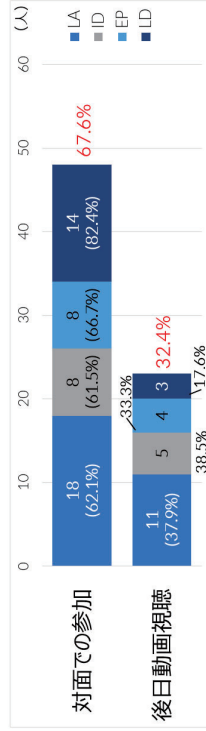
大学教育基礎力科目
受講者アンケート結果
【第3期】

回答者数

コース名	当初 受講者数	基礎力科目 修了者数	回答者数	%
LAコース	35	32	29	90.6%
IDコース	18	18	13	72.2%
EPコース	16	15	12	80.0%
LDコース	22	20	17	85.0%
合計	90	85	71	83.5%

オリエンテーションについて

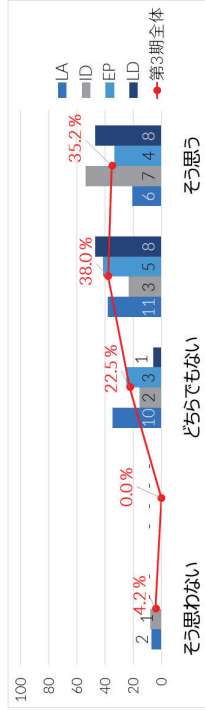
①オリエンテーションにはどのように参加しましたか (N=71)



- 67.6% (48名) の回答者が対面で参加
- オリエンテーション当日は全受講者の70.0% (63名) が対面で参加

オリエンテーションについて

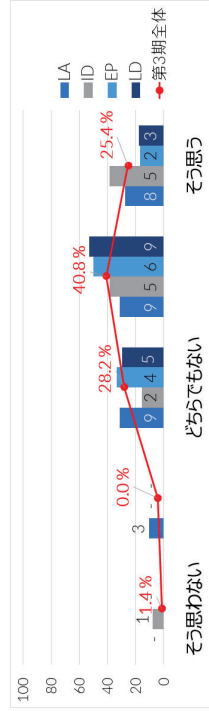
②オリエンテーションの内容は有意義であったと思いますか (N=71)



- 73.2%の回答者が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答

オリエンテーションについて

③オリエンテーションの内容はプログラムの理解に役立ちましたか (N=71)



- 66.2%の回答者が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答

④オリエンテーションに関して、ご意見、ご感想等があればご記入ください

[LA]

- コース毎での説明、人数が多すぎたので、聞きにくい状態だった
- オンライン参加に支障はありませんでした。
- コースに分かれてからの時間が短かった。
- 分かりやすい説明でした。
- 参加者としては、LA以外の方と同じタイミングや場所にいる意義を感じなかったが、これまでの受講者の方との接点など、有意義なアレンジも多かった。
- LAグループ同士で、もう少し会話が交わらせたら良かったと思います。
- 夏季休暇期間でもあり、オンラインで十分な内容だと思います。
- 開催時間を長く取っていただき、基礎力科目の受講の仕方等を詳細に説明いただけるとうれしい。最初の一歩目なので非常に受講方法、掲示板への投稿に不安がある。詳細に説明していただけたらとストレスがなくなると思っています。
- 対面での説明は先生方が様子も分かり、これから始まるという高揚感を待つことができました。
- 全体像が見えないかでのオリエンテーションだったので、疑問が残ったまま終了したという印象でした
- 1. 対面でのオリエンテーションは、その後の同期オンライン講義、受講者同士の投稿を通じた議論、事務局の方へのお問い合わせ等、プログラムでのさまざまなコミュニケーションを円滑にするために有意義だと感じました。2. 冊子のハンドブックを事前にご用意いただけただけなので、プログラム内容について確認することができ、オリエンテーションで質問がしやすかったと感じました。3. オリエンテーション・交流会の前と、前年度受講者の方にプログラムを受けての感想や体験談を伺えるようにすると受講者がイメージを持ちやすいのではないかと思います。(オリエンテーションの時間を効果的に使うために、事前に事務局の方と前年度受講者のインタビューを実施・録画を作成し、Web視聴できるようにするのが効果的です。)
- 対面での参加を熱望しておりましたが、残念ながらコロナに罹患してしまい参加が出来ませんでした。対面でのオリエンテーションへ参加し、お互い顔と名前を一致できるような場面があることは、その後取組む学習への取り組みやすさに良い影響があるのだろうなと、参加出来なかった身としては痛感いたしました。
- オンラインで十分だと思います。
- 特にありません。
- OBOGのお話は大半参考になりました。先に講演を行うと、それを話のきっかけにさらに交流が深まったかもしれません

[ID]

- オリエンテーションの内容は大変分かりやすく、プログラムを開始するための同期生との交流機会もあり大変参考になりました。
- 慌ただしかったです。
- 受講の動機づけとなった。
- 自分自身がやりたい教育やなりたい像を考えることが出来ました。
- 動画視聴で会場の雰囲気は伝わりました。
- 懇親会など企画がある場合には事前に知らせていただくと準備ができると思っています
- 講座の進め方がわかり、不安が軽減されました。
- 会場に出かけること自体が気分転換になるし、対面は新鮮。
- 先輩方との交流で話を聞けたのがよかった

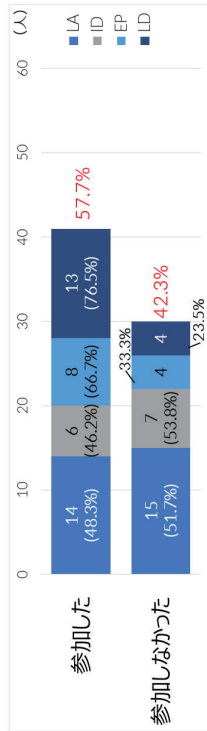
[EP]

- 同期の方との会話時間がもう少し欲しかった。
- リモートでも同様の成果が来たような気がします。

[LD]

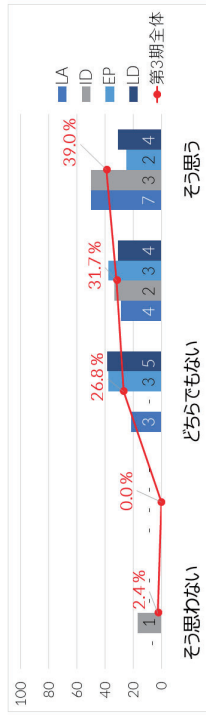
- 対面での開催は、やはりwebにはない立体感というか、リアリティがあったよかったです。ちょっととした雑談ができてこと対面の良いところだった。
- 講師の先生方はじめ、スタッフの皆様のアットホームな感じのご様子がうかがえ、大変安心いたしました。
- まだ8月は対面での実施に諸問題がある時期でしたが、やはり短い時間でも最初に一回が顔を合わせることは価値は実感としてありました。良いスタートアップになったと思います。
- 大学基礎力講座について、カリキュラムやプランニングの仕方、提出レポートのポイント等についてより詳しい説明があった方が良いと思う。
- 大変分かりやすい説明で良かったと思います。
- 後日動画視聴はありがたかったです
- リアルで参加できたことで、先輩受講生と一緒に同じ目的に取り組む受講生の方と話せたことがモチベーションアップに繋がったのでよかったです。一方でコースの説明や、ネットワーク構築については事務局側がもう少しリードして設計をしてもええとより良くなるのではと感じました。例えば、オリエンテーションで教育イノベータープログラム全体の話は聞けたが、自分が所属するプログラムの説明はあまりなかったように思う。先輩受講生に自主的に聞きにいったのでなんとかイメージを持てたが、ガイドブックに書かれていない部分については初めて参加する側は当然イメージが得られないので、どのようにグループで模擬セッションに取り組むかや、その結果どのようなことが得られるのかなど、情報発信があると良いと思う。それがないとゴールのイメージも持てず、結果プログラムを通じて得たいものも明確にならないのであったいなかっただ。また、参加者同士の交流もかなり各自の自主性に任せられていたが、目的や背景が異なる参加者が各自名刺交換してもなかなか有益なネットワークに繋がらないと思う。せめて、例えば強制的に4.5人のグループを作ってから全体で交流の時間をとる、交流のきっかけとなるワークをさきむ等がないと、単なる名刺交換で終わってしまう、名刺は交換したけど、お互いのことはなんとなく印象に残らないなど、もったいないと感じた。
- 平均的な必要自主学習負荷(時間)の説明があるとスケジュールイメージが立てやすいと思います
- 取り組み方についてももう少し実際の、具体的な説明があると良いと感じる
- コースの参加者、講師とは個別ではなく、全体として交流できる時間が欲しかった。

⑤修了者 & 受講者交流会には参加しましたか (N=71)



- 57.7% (41名) の回答者が参加

⑥修了者 & 受講者交流会は有意義であったと思いますか (N=41)



- 70.7%の回答者が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答

⑥-B 修了者 & 受講者交流会に参加しなかった理由を教えてください

[LA]

- 当日対面での参加ではなかったため (9件)
- 時間の都合から
- 当日は仕事中であったので、時間を確保出来なかった。
- 別の用事 (仕事) があったため
- 海外在住で当日帰国できなかったため
- 特段アシリテーションもなく、質問したい内容もなかったため
- 初対面、同じ年齢層が多く、特に聞きたい話もなかったため。

[ID]

- 当日対面での参加ではなかったため (3件)
- 仕事を休めなかったため
- 他の予定があったため

- 当日に所用 (医学教育学会への参加、ポスター発表) があったため
- 途中まで参加して帰った。名刺交換会のようになっていて、疲れた。

[EP]

- 当日対面での参加ではなかったため (2件)
- 当日のスケジュールが詰まっていた為。
- 先約あり。

[LD]

- 当日対面での参加ではなかったため (2件)
- 直前にコロナに感染してしまい、安全を見て不参加としました。
- 予定があったため

⑦修了者 & 受講者交流会に関して、ご意見、ご感想等があればご記入ください

[LA]

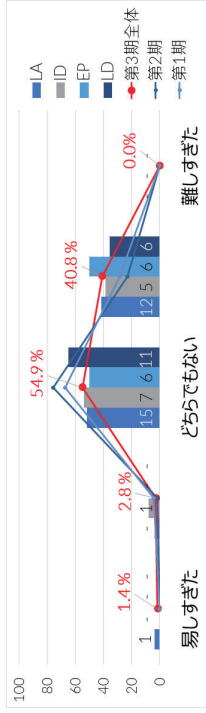
- 事務局で事前に企画を準備してもらいたかった。
- 卒業生が多すぎて同期と話す機会が殆ど無かったのが少し残念でした。
- コースと地域に分かれましたが、受講者の人数に偏りがあったため、うまく交流することが少し難しかったです。
- 人数が多かったせいもありますが、zoomのブレイクアウトセッションを利用し、講師の先生方も多く参加頂くオンライン方式のほうが有意義だったと思います
- 修了者からのアドバイスはその後の学習の支援にとっても有意義な情報でした。
- 仕方がないと思いますが時間が限られていると思いました。長くすることがいいとは思えないので、何か疑問を話し合う

- 1. (オリエンテーションに関する質問への回答と重複しますが、再掲します。) オリエンテーション前に、前年度受講者の方にプログラムを受けての感想や体験談を伺えるようにすると、受講者がイメージを持ちやすいのではないかと思います。(オリエンテーションの時間を効果的に使うために、事前に事務局の方と前年度受講者のインタビューを実施・録画を作成し、Web視聴できるようにするのが効果的です。)
- 2. オリエンテーション時の交流会セッションは5~6名程度のグループに振り分けて20分程度のセッションを2回程度実施し、最後にオープン (今回採用したコース毎、コース混成) のセッションを2回実施する形態にすると、密度高まって良いと思います。(初対面の方が多い、プログラム全体の人数が多いので、参加者同士の交流が偏り易いので、ブレイクアウトセッションがはじめにある方が、その後のコミュニケーションが活発化しやすい印象を受けました。)
- 3. オリエンテーション後に、Web形態でのコース交流会 (コース毎、コース混成) を複数開催すると、受講者同士の投稿を通じて議論活性化に有益だと思いましたが。(8月、9月) に実施していただいたQ&Aセッションと受講者交流会が後日のWeb学習に効果的だと感じました。受講者交流会が任意参加で複数回用意されていると、参加者同士でWeb講義、参考文献に関する質疑ができたり、講義内容に関するディスカッションができると思います。)
- 参加が出来なかったため、特にございません。
- どんな様子で進めていけばよいかかわかり、大変有意義でした。また、同じコースの方々とお会いできたことで、掲示板での投稿でもやりやすい面がありました。
- 交流会等目的の遠方参加は難しいと思います。
- 最初お見合いになってしまったのでアイスブレイク的なものがあればスムーズだったかもしれません。

大学教育基礎力科目の学習項目について

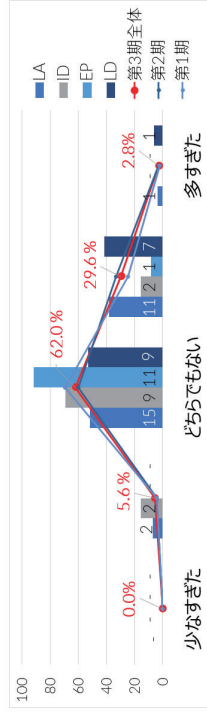
大学教育基礎力科目の学習項目について

①大学教育基礎力科目の【難易度】は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか (N=71)



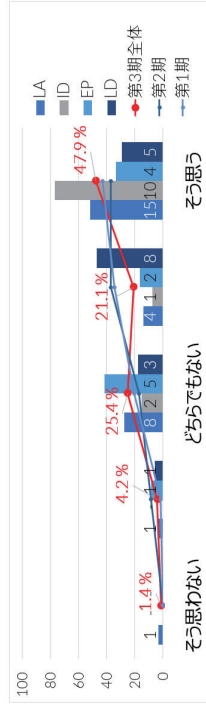
- 54.9%の回答者がちょうどよいと評価 (第1期：67.3%，第2期75.7%)
- 「難しすぎた」とする評価はなかった

②大学教育基礎力科目の【分量】は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか (N=71)



- 62.0%の回答者がちょうどよいと評価 (第1期：69.4%，第2期60.6%)
- 履修要件の調整を実施したが過年度と同様の回答状況

③大学教育基礎力科目の内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだったと思いますか (N=71)



- 69.0%の「どちらか」という「そう思う」「そう思う」と回答 (第1期：77.6%，第2期：74.2%)
- 「そう思う」とした回答者の割合は過年度を上回る

- オンラインで十分だと思います

[IP]

- 修了者から体験談や苦勞話を向うことができ有意義な時間でした。
- 懇親会をしてほしい。非対面のやり取りを始める前に、対面でのやり取りは有意義。
- 修了者の苦勞話や対応方法を、一緒に受講する仲間として聴けたことが良かったです。
- コロナでやむなしかったと思いますが簡単な軽食、飲み物などあれば会話が進みやすいと思う
- 修了者から話を伺い、講座の流れのイメージをつかむことができました。
- テーマが明確になるとも良い。
- 先輩方の話を聞けるのはとても有意義でした。
- 参加していないので、特にありません。

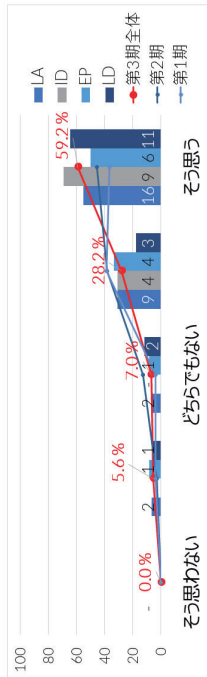
[EP]

- 先輩方からのアドバイスが有意義だった。

[LD]

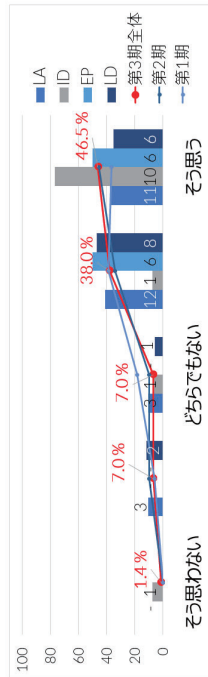
- 経験者ならではの話や修了後の進路の話が聞けてたいへん参考になった。
- 楽しそうだなによりでした。
- 1期生、2期生の方々の実際に経験したお話を聞いて、これから受講するにあたっての覚悟ができました。
- 先輩方に感謝しています。
- 学習を進める上で、大変参考になった。もう少し少人数での車座ができるように私も働きかければよかったと反省しております。ありがとうございます。
- 地域別に分けたのは効果的なのか良くわからなかった。コースにまたがって交流するようなトピックスはもう少し検討したほうがいいと思った。
- あまり交流にはならなかった
- バラバラに話せる人と話すという感じだったため、できれば全体として交流できる時間が欲しかった。その後個別で話すのは良いが。

④ 大学教育基礎力科目の受講を通して、**知的好奇心が刺激され、自身の意欲が高まった**と思いますか (N=71)



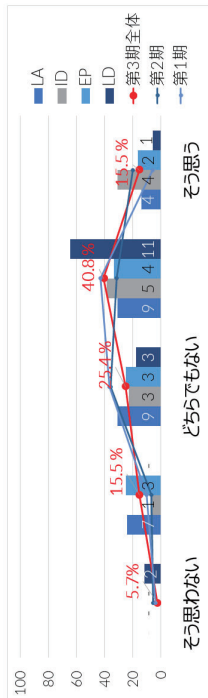
- 87.3%が「どちらか」と思う「**そう思う**」と評価 (第1期：75.5%、第2期：84.3%)

⑤ 自身の**業務経験**を活用して各課題について考えることができたと思いますか (N=71)



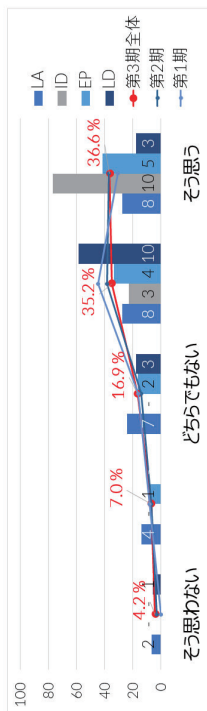
- 84.5%が「どちらか」と思う「**そう思う**」と評価 (第1期：75.5%、第2期：80.0%)

⑥ 他受講生の**投稿からの学びやディスカッション**に積極的に参加することができたと思いますか (N=71)



- 肯定的評価が56.3% (第1期：49.0%、第2期：51.4%)
- 「どちらでもない」以下が43.7% (第1期：51.0%、第2期：48.5%)

⑦ 他受講生の**投稿の閲覧やコメントの付与**といった活動は有意義であったと思いますか (N=71)



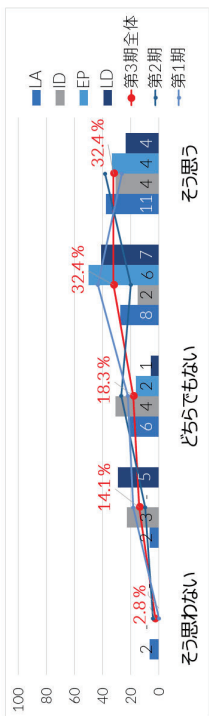
- 71.8%が「どちらか」と思う「**そう思う**」と評価 (第1期：75.5%、第2期：75.7%)

⑧ 各学習項目の**学習にどの程度の時間**がかかりましたか (平均時間を回答) (N=71)



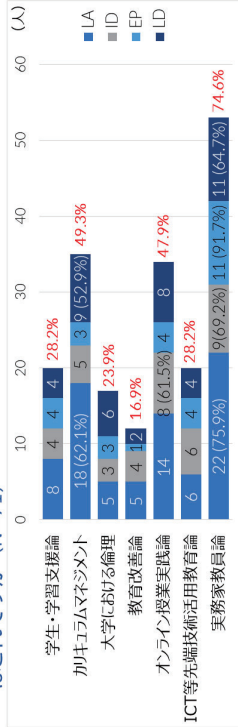
- 5時間以上かかった回答者が29.6% (第1期：22.4%、第2期：21.4%)
- 1.5~3時間程度で学習できた回答者が39.4%
- LAコースが時間をかけすぎている傾向あり

⑨ 履修期間として2か月間の設定は適切だったと思えますか (N=71)



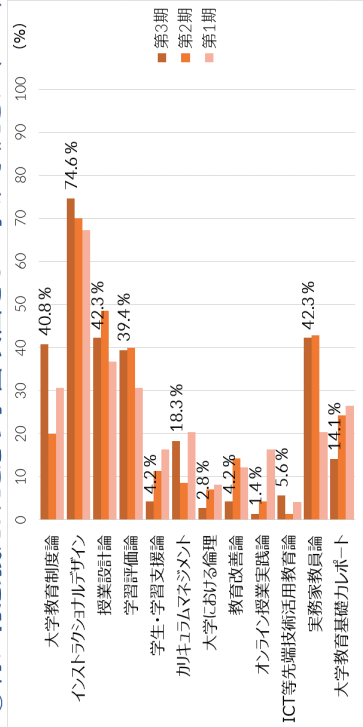
- 64.8%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答 (第2期：58.6%，第1期数値は「3か月間」の受講期間について質問)

⑩ 選択学習項目のうち、学習をしたもの (クイズ・投稿課題を実施) はどれですか (N=71)

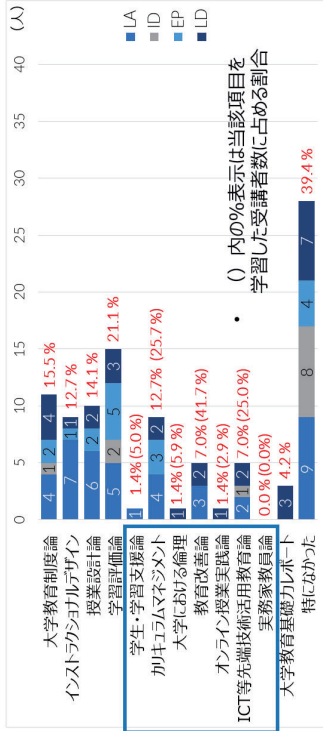


- Q&Aセッションの講師が担当した項目 (「カリキュラムマネジメント」「実務家教員論」) の選択者が多くなる傾向

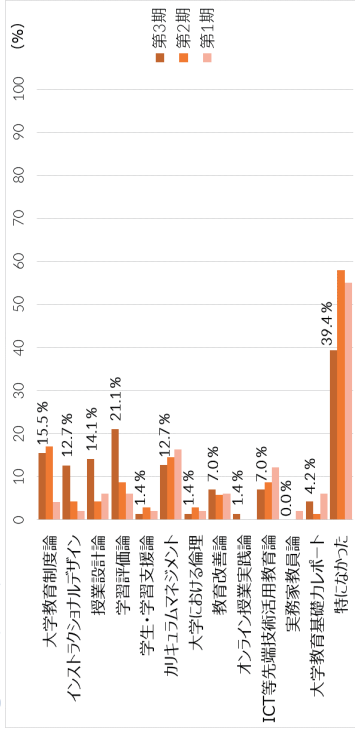
⑪ 特に有意義だったと思う学習項目を3つ挙げて下さい (N=71)



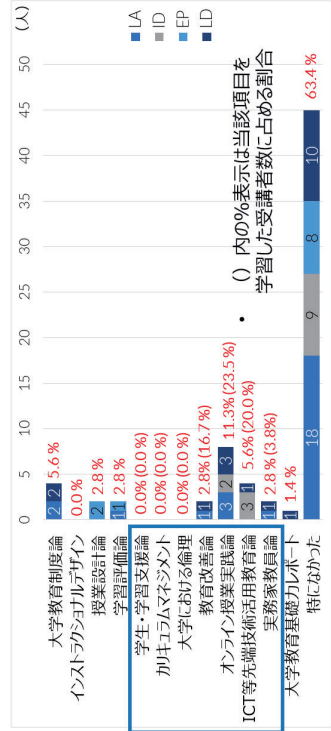
⑫ わかりにくかった学習項目があれば、挙げて下さい (N=71)



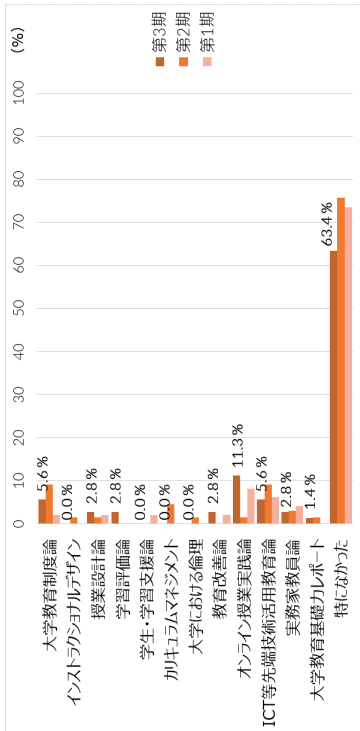
⑬ わかりにくかった学習項目があれば、挙げて下さい (N=71)



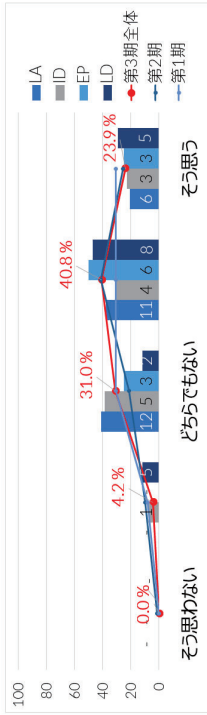
⑭ あまり意義を感じなかった学習項目があれば、挙げて下さい (N=71)



⑬ あまり意義を感じなかった学習項目があれば、挙げてください (N=71)



⑭ 大学教育基礎力レポートの課題内容や書き方については、よく理解できましたか (N=71)



• 65.4%が「どちらかというと理解できた」「理解できた」と回答 (第1期: 61.2%、第2期: 67.1%)

⑮ 科目全体または各学習項目に関して、ご意見、ご感想等があればご記入ください

[LA]

- "大学教育基礎力科目、汎用教育実践力科目、専門領域別科目をすべて包含した構造(例えば、専門性を縦軸にとり、教科の性格を横軸にとり、ポートフォリオ的に示す等)を明示して頂き、学修時期を、ステップなのかあるはずはレベルなのかはともかく、意味づけして頂くと、今自分がどこにいてどこに向かおうとしているのか、自覚できると思います。
- 大学教育基礎力科目については、その構造体系において、こういう理由だから必須科目はこれこれ、選択科目はこれこれ、というように提示して頂けると助かるのではないかと思います。到達目標を踏まえた道程を認識することで、学修意欲もまた高まると考えております。"
- 実務家教員論は必修にすべきと思う。
- 全般的に見て、資料の通読と動画の視聴、投稿による勉強は、教員に必要な知識を学ぶ最初のとっかかりとしては良いかと思うのですが、それだけでは自分の理解がどの位のレベルなのか、考え違いをしないか、どのような知識が足りていないのか等を知ることがは困難だと思います。その程度の知識レベルで実務家教員になることには不安を感じますので、基礎科目をもっと掘り下げられる機会が必要かと思いました。

- 働きながら学ぶのには時間的な余裕がなく、かなり大変だった。
- コメント投稿はレポート作成の準備にもなり効果的でした
- "自身のレポートの書き方が、ルーブリックの評価ポイントに則した書き方(表現)になっているののか不安があります。
- 非同期で予備研修のようなプログラムがあると嬉しいです。"
- ほぼ初めて近い教育に関する学習に対して、とても心強い支援材料となりました。
- 個人的には学習評価論が一番でこずりました。いままも理解しようとしているところです。
- 新しい学びが多くあり刺激的でした。任意選択科目はもう少し受講したかったのですが、取り組む余裕なく3項目だけの履修となりました。正直なところ、勿体なかった感覚です。最低限の履修クリアした人は、他の選択科目は軽めに受講してもよい(掲示板へのレポート提出しなくてもよいなど)が許されれば、動画だけでも見るなど、コンテンツに触れることが出来るので、より学びが広がると感じました。
- "1. 非同期オンライン講義は働く社会人にとって大変便利な学習手段であることを実感しました。一方、Q&Aセッションを計2回4科目で実施して頂きましたが、理解が深まり有益でした。2. 非同期オンラインのWeb講義は一定期間アップデイトを行わない前提でベシカルな恒久的なコンテンツとされていると思いますが、全科目についてQ&Aセッションが用意されていると、受講者の理解が深まると感じます。贅沢なお願ですが大学教育基礎力科目についても、各年度に1~2回程度同期オンライン(参加が難しい方は後日Web受講)の講義があると良いなというのが本音です。3. Q&Aセッションの日程が予め提示されていると学習のペース作りにもなります。4. 大学教育基礎力レポートの提出後に、Q&Aセッションの動画を再視聴しましたが、学修内容の良い振り返りになるとともに、理解の確認にもつながりました。受講生が大学教育基礎力レポート作成に際し、講義内容を復習できる良い教材にもなると考えます。5. 大学教育基礎力科目の内容は充実しています。一方で質・量ともに盛りだくさんの内容であることから、受講期間が3ヶ月程度設けられていると、より充実した学びができると思います。(プログラムの開始時期が1ヶ月程度前倒しにできると良いと思います。)6. 講義に関する必読文献、参考文献についてのご提案ですが、より深度のある学びができるように、参考文献について幅広くご指示いただくと効果的ではないかと思いました。受講者自身が参考資料を探す(情報収集する)ことも重要な学修であるということは理解しています。次のような点を考えると、著作権の問題をクリアできる範囲で、PDF等を提供いただくとありがたいと感じます。(1) 社会人の場合時間的制約が大いこと、(2) 対面で在学している学生と異なり、頻繁に教員の方に書籍や文献に関する照会・質問ができないこと、(3) 参考文献の難易度や適切性、参照する順序(どの順番で論文を読むのが良いのか)について、受講生単独ではわからないと思われること、(4) 教育分野の書籍は出版・流通量の関係で入手が難しく、大学の図書館等で閲覧するしかない場合が多いこと(Amazon等で中古書を探しても入手できない、高価である、といった制約がありました)"
- 掲示板への投稿が、やはりハードルが高く感じてしまいました。自身の学習レベルの低さの裏返しではあるのかもしれないのですが、投稿内容のレベルが非常に高く、安直な投稿ではないか、とか、他受講者の方の投稿内容を指すにしても、こんな指摘でいいのか、トンチンカンなことを指摘していいのかなど、恐さを感じていた部分は正直ありました。そのような不安な点について、オリエンテーション以降の受講者の方々との交流会を通じて、不安になっていたのは自分だけではなかったことを知れたのは、その後、若干投稿のしやすさに繋がったところはあります。また、掲示板投稿について、リアクションマーク(InstagramやFacebookでいうところのいいね!みたいなもの)をつけられるだけでも、コメントに対して読みました!という目に見えるアクションを付けられるので、リアクションマークつきたいなあとか幾度となく思いました。(わざわざ掲示板投稿でコメント残すほどではないときに、リアクションボタンがあったらいいのに、と思います、という内容です)

- 受講〜クイズ〜論説投稿という流れの中で、学習者としてあるべきアティテュードを確認できたことが大きいです。論説を書くことに一番時間をかけましたが、書くことの準備が重要と認識し、特に学問の厳正さというのを常に意識するように自分の感覚が変容したと感じています。
- "どこまで深掘りするかもよりますが、日常仕事をしながら「授業外学習」を納得いくまで行い、それなりの投稿(小レポート)を作成し、他者にコメントするためには、「1科目1週間」が限界のように感じました。そのため、11科目すべてを修了できず、残念に思っています。勿論、自身の能力の限界でもありませんが、最終レポート作成のスケジュールも踏まえると、2カ月はなかなか対応できないようにも思います。
- 事前学習に想定以上に時間をかけることになったが、集中した結果なので非常にいい勉強の機会となった。相互のコメントのやり取りがタイミミングを逃したり(それぞれの学習のタイムラグ)等、難しさがあつた。
- 学修期間の短縮化を図れるのではないか。他参加者へのコメントは相互に取り組みの時間軸が異なり、コメントしなくても未投稿の状況もあつた。
- 各科目のクイズが、とても工夫されていると感じました。その科目の内容の理解に非常に役立ったと思います。
- 各科目について個別の設計がされているのではと思つたが、それぞれの科目でのコンテンツの学びの深さがかなり違う印象を受けた。
- 投稿文が冗長すぎるとは？各人の論文掲載になっている感があります。字数目安など設けたらいかがでしょうか？
- 学修リズムがなかなか作れない中で時間に追われた感じがある
- 投稿内容、スタイルの個人差が激しいため、もう少し均一化した方法が必要だと考える。自身の授業内容を検討、準備するための学びの学習項目が欲しい。なぜなら、汎用的教育実践力科目ですぐに、細かい組み立ての仕方に入るため、その前にもう一段階の学びが欲しい。

- 一部科目がかぶっているような気がします。
- 覚悟の上ではありましたが初めて習う内容はかりでした。コースが始まる前に易しめの参考図書(新書など)を紹介頂けると、少なくとも心の準備ができたかもしれません。
- なぜこの科目が必修で何を学ぶことを期待されているのか？が非常に不透明に感じます。

[ID]

- 休暇の都合で、次のステップを前倒しで受講したかったが、10/9開始になっていたので、非常に苦労している。
- ループリックはレポート作成の役に立った。
- 特にありません。
- レポートについては、字数や形式を指定した方が、受講者は取組みやすいと思います。
- 選択科目は最低2つとのことでしたので、とりあえずは2項目を受講しています。しかし、他にも興味がある学習項目がありますので、学習項目として認定されなくても後日に学習を進めても良いのでしょうか？
- レポート作成に関して、Q&Aや早めに提出した場合の指導などあればよいと感じます
- 仕事に関連する内容で、とても興味深く学習させておられます。
- 同期型は使い回しの映像を見る後ろ向きなイメージがあったが、使ってみると便利だった。
- 選択科目すべて閲覧したかったが時間が取れなかった。残念。

[EP]

- 学習項目に沿ったプログラム内容を体験出来て良かった
- 各項目の Moodle の考察投稿時の行の文字数と実際の反映される文字数が違うのが不便。
- 講義の視聴時間がおおよそ30分ぐらいただと思われませんが、それでは少し短いように思います。せめて1時間〜1時間半ぐらいの講義にしてほしいです。講義内容がエッセンスすぎないように感じました。
- レポートに関してです。名前記入だけでなく、書体や文字の大きさなどの決めがあっても良いかと思いました。

- "授業設計論とインスタラクシオナルデザインは統合できると思う。カリキュラムマネジメント論は重要なテーマであり必修でも良いと感じるが、学習内容量が多すぎると敬遠されがちかもしれない。もう少しコンパクトに「実務家教員にとつてのカリキュラムマネジメント論」に絞ってはどうか。実務家教員論については、歴史的背景や文科省の意図は理解できたが、最新の実態について知りたいと感じた。理想と現実があるはずなので、そこらへんの「実情」(実務家教員が期待されている側面と、実際には上手く機能していない箇所等)についての内容があると当事者意識が芽生えやすいと思う。レポート評価について、点数のみイーロードバックは再考された方がよい。評価者名も提示されないのは、学習評価論で解説された「あるべき評価の方向性」とも合致しない。我々実務家は「点数」が欲しいのではなく、既存教員から見た実務家の長所と短所をレポートで拾ってくれることを期待する。人数が多くてコメントできないというの理由(excuse)にはならないと思う。もしそうだとすればカリキュラム設計上のエラーではないか。インプットよりアウトプット、アウトカムの点を「アセスメント」でできる仕組みに発展されていくことを期待する。"

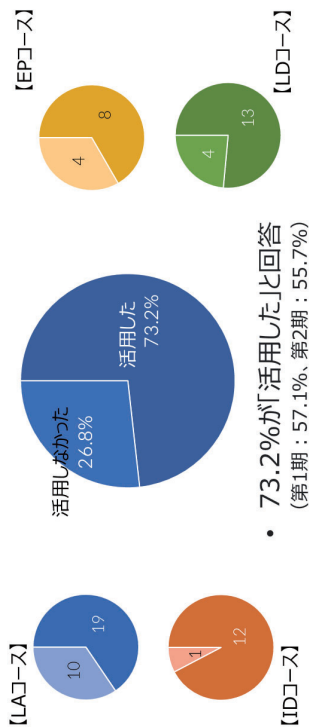
[LD]

- クイズの難易度に学習項目によって差があった。インスタラクシオナルデザインは、何通りものクイズが用意されており、学習成果を試す工夫がされていたと感じた。
- インスタラクシオナルデザインの学習内容は、(本業でなく趣味でやっているものですが)自分のこれまでの市民教育のあり方、やり方をグレードアップできる、大変良い機会になりました。改めて感謝申し上げます。

Moodle の操作性について

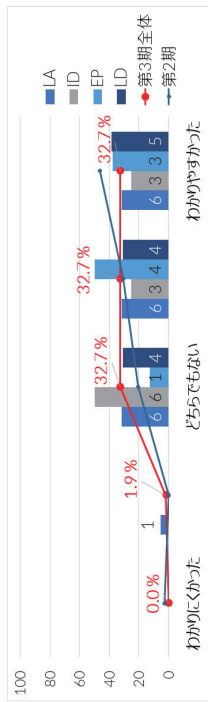
Moodleの操作性について

①プログラム・サポート等で提供したMoodleの使い方等のマニュアルや解説動画を活用しましたか (N=71)



Moodleの操作性について

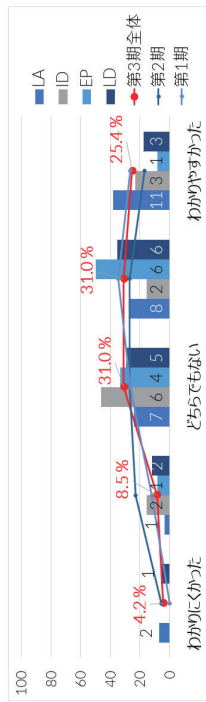
②プログラム・サポート等で提供したMoodleの使い方等のマニュアルや解説動画はわかりやすかったですか (N=52)



- 65.4%が「どちらかというとわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答 (第1期：63.3%、第2期：77.0%)

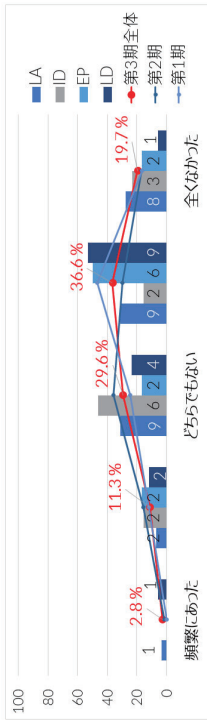
Moodleの操作性について

③Moodle上のコンテンツの構成 (見たい目、何がどこにあるのか) はわかりやすかったですか (N=71)



- 56.3%が肯定的評価 (第1期：61.2%、第2期：44.2%)
- 12.7%が否定的評価 (第1期：12.2%、第2期：28.6%)

④Moodleの使い方について困ることはありませんか (N=71)



- 14.1%が「困ることが頻繁にあった／あった」と回答 (第1期：12.2%、第2期：17.1%)

⑤Moodle を利用した学習について難しかった点、使いづらいつらいつらと感じたこと等があればご記入ください [LA]

- よく工夫されていて、特に問題はないと思います。
- 動画は閉じると切れてしまう
- 段々と投稿の件数が増えて、自分が返信したい投稿を探すのが大変だった。例えば、書き出しから数行だけを見えるようにして、以降は「もっと見る」のように掲示することで、一覧性が高まるのではないかと思う。
- 投稿を訂正できる時間に限りがあることに難儀を感じました。
- 画面にテキストと動画が同時に映らないので横スクロールが必要となり、面倒でした
- 学習項目ごとの説明が分かりにくかったです。課題は何で、何をもとに学習するのか、そしてレポートを書くのか。何度も読み返して、やっとわかったという感じです。さらに投稿についてが、対面で話したこともない方どこまで話していいのか、最初は戸惑いました。
- フォントの調整がしにくいか投稿欄が少々使いづらく感じました。
- 「1. コンテンツの階層が3〜4階層 (例えば、学習課題→事前課題・動画講義・事後課題→それぞれの説明・ワークシートなどへのリンク・掲示版) あるため、指示が記載されている場合、内容が更新された場合などに見落としやすくなると思います。事前課題をはじめ、期日が設定された指示事項がある場合、第1階層の画面で一括して確認できると分かり易いと思います。汎用的教育実践力科目では、コンテンツの内容が更新について第1階層でコメントしていただいています (更新日時を時系列で並べる、更新内容を簡潔に表示する工夫して頂ければ大丈夫なのではないかと思いますが) (更新日時を時系列で並べる、更新内容を簡潔に表示する、更新メッセージを新規に追加、変更した場合、「New」、「Update」といったフラグが表示されるなど)。
- 2. 受講アドバイザーの方がリマインダーの投稿 (メール) を出してくださったことで、失念していたことに気付くことができたケースもあり、大変助かりました。ありがとうございます。アナウンスメントを事後的にも参照しやすいように、サポートプログラムのアナウンスメントの表示方法や表示内容を拡張する (第1階層で見やすくする、アナウンスメントの内容を簡潔に掲載する、若しくはメールのタイトルとメールの冒頭分掌を表示するなど) とリマインダー機能が強化されるのではないかと思います。(受講生自身がタイムラインやスケジュールの機能を十分活用できていないのかもしれないかも)
- "初めて使うツールですし、使いながら慣れるしかないかなと思います。ただ、自由投稿のできる掲示板はあまり動かないなあ、一度投稿しましたが、読んでくれたりもわかってもらえないし、それならもう投稿

しなくてもいいかなあ、と幾分思ってしまうました。それこそ、リアクションをいただけだったら、それだけでも、他にまた耳寄り情報あらば投稿してみようという気持ちにはななかったかもしれません。

- 困るほどでもなかったですが、選択科目を選ぶページがどれかを少し迷いました。

[ID]

- Moodle 画面で操作している際、30分以上経過すると、入力画面エラーになり、入力した文章が消失してしまいます。下記に詳述しています。
- 進捗、達成度がややわかりにくい

[EP]

- 投稿時の行の文字数と表示される文字数の違い。
- 保存されていると思っていたら、保存されておらず、困ったことがあります。各項目ごとにレポートを提出し、それにコメントを投稿しますが、投稿が増えくるとわかりにくいです。
- 何の不満もありません。想像以上に使いやすいです。

[LD]

- 初めてで分らないという点は、慣れで解決された。
- 今回初めて Moodle を触ってみて、すぐにとでも洗練されたツールだと感じました。シンプルなのが良いです。
- 自分が正しく対応できてきているのか、慣れるまで少し不安なところがありました。コメント投稿の時間的な制約はもう少し改善の余地があると思います。
- 見たいコンテンツに戻るにはどこから行くか、がやや難しかった。慣れると問題ない。
- レポート提出時のコメント送信がタイムリーにできなかった。
- 課題提出するための画面操作の仕方がわかりにくかった。

⑥その他、Moodleの操作性等について、ご意見、ご感想等があればご記入ください

[LA]

- 全般的にはとても使いやすいと感じました。
- 外部エディタで作成した文書をそのまま貼り付けただけでは一部が崩れるため Moodle 上での編集が必要となり、Moodle 上で編集したものを外部エディタに反映した後もまた同様の手間が発生すること、並びに図表の作成方法に難があると思います。
- 初めて Moodle を使ったので、慣れるまで、最初はとまどいがあった。
- なるるまでは都度、使用方法を確認しながら使用しました。どのページからも簡易的に確認画面が見れるボタンがあると嬉しいです。
- 投稿する際に、ファイルを追加する時には、一度、投稿してから「編集」しなければならぬ点や難点でした。(汎用的教育実践力科目では、文字の装飾も一度、投稿してから「編集」しなければならず、さらに時間を要しました。)
- 一番は、どこまで自分が進んでいるのがわかりにくいことです。アドバイザーの方には丁寧に対応していただきましたが、それが一目でわかる工夫がほしいです。それも細かくわかるようにしてほしいと思います。
- 受講者同士の投稿にあたって、親投稿 (オリジナルの投稿者) にコメントをされる方が、親投稿者に既にコメントした他の受講生の投稿に返信しているケースが多くありました。(1) Aさんの投稿に Bさんがコメ

ント。(2) CさんがAさんの投稿にコメントする際、BさんがAさんに返信したコメントに返信。というケースです。(3) (2) でCさんがAさんの投稿にコメントする際、Aさんのオリジナルの投稿に返信しなくて大丈夫なのか、疑問に思いました (2) のケースの場合、Cさんから投稿があったことを通知するシステムからのメールがBさんにだけ届いているのではないかと疑問です)。掲示板上でみると時系列に並んでいるようなので、問題ないのかもしれませんが。

- 質問等に対応するための返信機能が良かった方が良いと思います。(例えば1.

[ID]

- 特にないが、使いやすいかった。動画のスピードは、任意に指定できると一層良いと思います。(例えば1. 7倍を指定できる等)。
- Moodle の設定についてですが、他の学習者へのコメントや講師への質問を入力している際、30分以上経過すると入力画面がエラーになります (入力した文章も消失してしまふ)。編集中の文章を、投稿せずに一旦保留 (moodle 上には反映されない) しておく方法があれば教授ください。隙間時間に受講している、仕事で即時対応すべきことが出てきて、PCに戻ってくるまでに30分以上かかることがあり、何度か入力した内容が消えてしまったことがあります。もし、設定上難しいようでしたら、毎回、文章を Word 文書に事前に入力しておき、コピー&ペーストで貼り付けるようにします。
- 投稿返信の記入スペースがやや行数が少ないと感じた

[EP]

- 最後のレポート提出時の選択科目チェックが分からず探すのに苦労した。

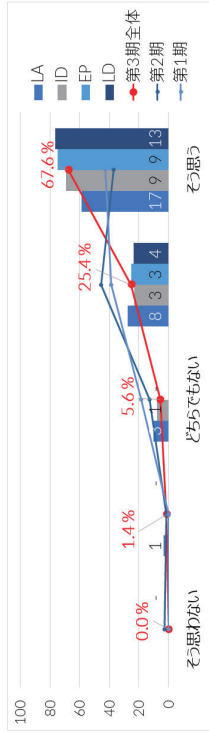
[LD]

- 投稿周りの構造や操作は、直感だけでは迷った。
- 大変な良くてできたシステムと感じました。使い勝手も特に支障ありませんでした。
- 私はメール通知等も便利に感じました。日々の実務をしながらの受講でしたが、Moodleのおかげで細かく時間を活用することができました。
- より分かりやすい、簡素なものを期待したい。
- 細かいことですが、投稿する際に、改行すると大きく行間が空いてしまうのでが気になりました。
- Moodle を使いこなす必要があることを受講開始前にもっとアピールしたほうがいいと思います。スマホ感覚で自己流で使っていましたに限界がありました。最初からマニュアルを読んでもいけばと後悔した次第です。1講座設けてガイドダンスしてもいいと思います。
- 操作としてステップを踏まないといけないこのフォローをわかりやすくして欲しい。言葉の説明が多く、視覚的にわかりにくい。

受講者支援について

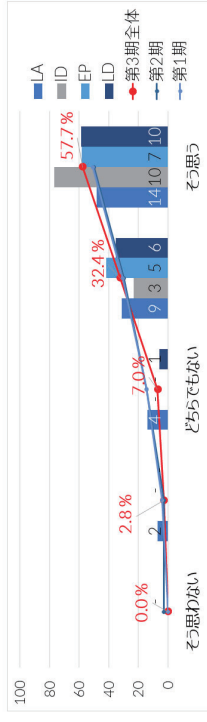
受講者支援について

①産学連携教育イノベーター育成プログラムハンドブックは受講に役立ったと思いますか (N=71)



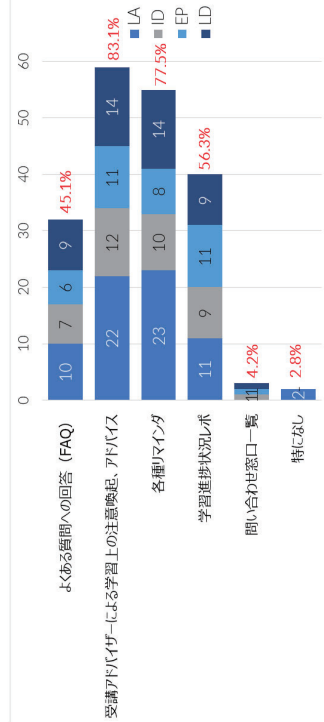
- 93.0%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第1期：81.6%、第2期：82.8%)

②産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 (メルマガ) は受講に役立ったと思いますか (N=71)



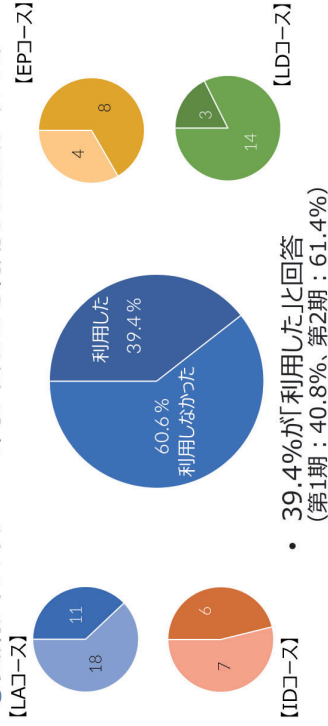
- 90.1%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第1期：81.6%、第2期：80.0%)

③有意義だと感じた通信の内容を選択してください (N=71)



受講者支援について

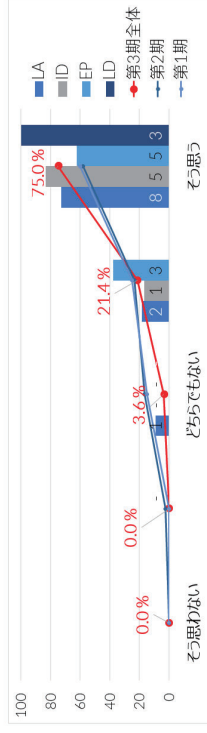
④受講アドバイザーへの問い合わせを利用しましたか (N=71)



- 39.4%が「利用した」と回答 (第1期：40.8%、第2期：61.4%)

受講者支援について

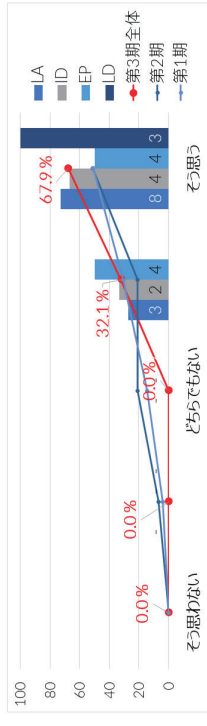
④-A: (受講アドバイザーによる)質問への回答や不具合への対応の【質】は適切だったと思いますか (N=28)



- 96.4%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第1期：85.0%、第2期：81.4%)

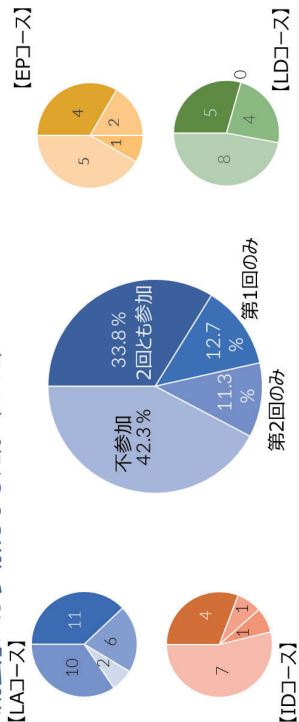
受講者支援について

④-B: (受講アドバイザーによる)質問への回答や不具合への対応の【タイミング】は適切だったと思いますか (N=28)



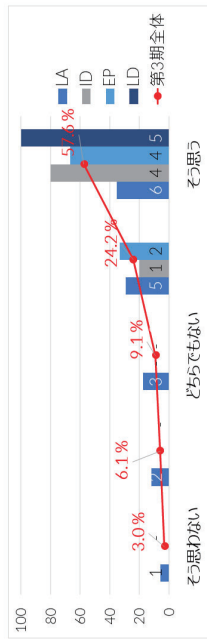
- 100%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第1期：81.6%、第2期：72.1%)

⑤「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッションおよび受講者交流会」には参加しましたか (N=71)



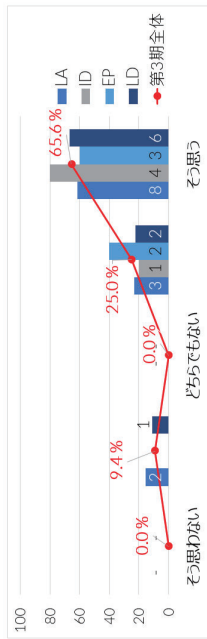
- 57.7%が少なくとも1回は参加 (第2期: 64.3%)

⑥第1回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」は有意義だったと思いますか (N=33)



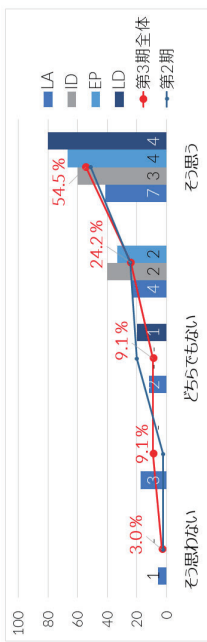
- 81.8%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑥第2回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」は有意義だったと思いますか (N=32)



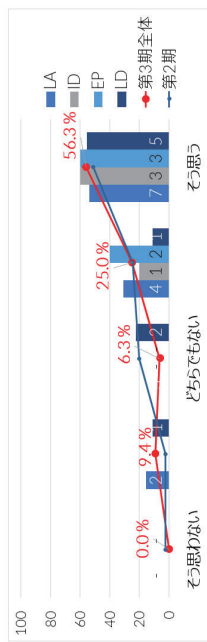
- 90.6%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑦第1回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」は大学教育基礎力科目の学習を進めるうえで役立ちましたか (N=33)



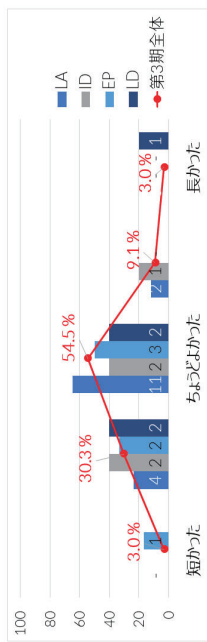
- 78.8%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第2期: 75.5%、ただし2回開催分をまとめて設問)

⑦第2回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」は大学教育基礎力科目の学習を進めるうえで役立ちましたか (N=31)



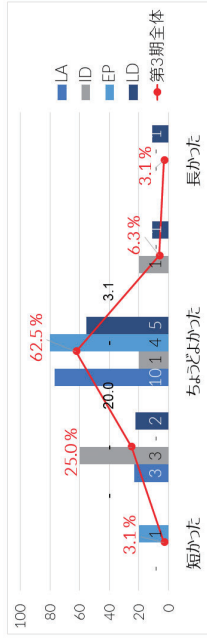
- 81.3%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答 (第2期: 75.5%、ただし2回開催分をまとめて設問)

⑧第1回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」の設定はいかがでしたか (N=32)



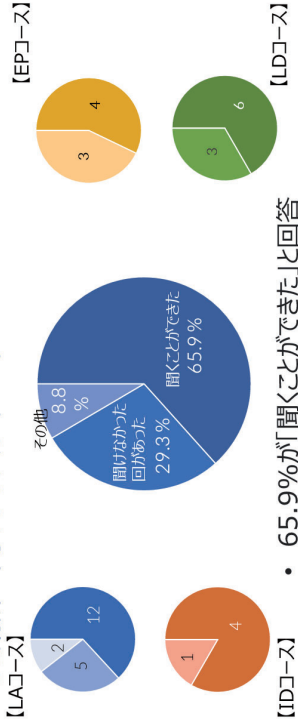
- 54.5%が「ちょうどよかった」と回答
- 33.3%が「どちらかという短かった」「短かった」と回答

⑧第2回「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」の時間設定はいかがでしたか (N=32)



- 62.5%が「ちょうどよかった」と回答
- 28.1%が「どちらか」と短かった」「短かった」と回答

⑨「大学教育基礎力科目講師Q&Aセッション」では質問したいことを講師に聞けましたか (N=46)

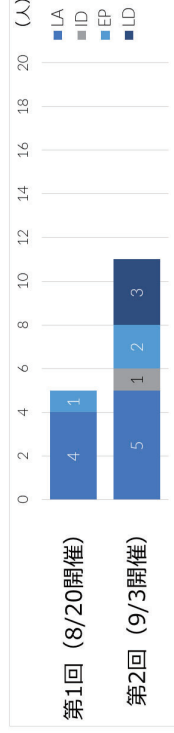


- 65.9%が「聞くことができた」と回答

「その他」の具体的回答内容

- 全部の疑問は聞けなかった
- 事前に受講生から質問を提出させて、その内容を集計した資料を受講生にも提示し、事前質問の内容を前提に説明をしていただくと、さらに質疑の内容が深まると感じました。
- 開催対象とする授業科目や開催のタイミングについても、プログラムの効果的な受講に資するよう事務局の方に構成していただくと効果が高まると思います (そのような意図で構成していただいているのかもしれないが)。

⑩質問したいことを講師に聞けなかったのはどの回ですか / 「その他」で回答した内容に該当するのはどの回ですか (N=14)



⑪質問したいことを講師に聞けなかった理由、「その他」の理由を教えてください

【LA】

- アトラダムに手を挙げる形式で、少し尻込みした。
- 特定の参加者の質問と回答で時間が過ぎた
- 時間的なこともあるが、この段階で自分の疑問点が細かすぎるとして、質問を躊躇した
- 受講生側で質問内容を整理仕切れていないと、質問の発言で多くの時間が消費されてしまい、非効率だと感じました。
- 受講生からの質問(疑問)が多いので説明が必要なこと、受講生の理解に誤解があると推測されるので説明・指導が必要なことを、予め把握していただけたらよかったと思います。
- 質問とそのリスト化によって、Q&Aセッションで時間が足りなくなつた場合に、汎用的教育実践力科目「授業デザインとシラバス作成」で実施していただけたらいいように、事後、質問・回答リストの形態で提示していただけないかという期待があります。
- 時間が来てしまった
- 特定の回答者が時間を長くとった

【ID】

- 時間の関係

【EP】

- あまりに初歩的なことで、皆さんの前で聞くことが恥ずかしかった。
- タイミングを逸しました。

【LD】

- 参加者数と時間の関係がもたれません。
- 時間の制約

⑫ 「大学教育基礎力科目講師 Q&A セッション」不参加の理由について教えてください

[LA]

- 日程があわず
- 業務等所用があり参加できなかった。
- 別件の予定が既に入っていたため。
- 休日は課題に時間を取られて参加する暇がなかったため、
- 先約もあり、参加できなかった
- 仕事で忙しかったので時間が取れなかった。
- 夏風邪にかかり寝込んでおりました。
- 体調不良

[ID]

- 仕事を休めなかったため
- 日程調整ができなかった。
- 業務のため、やむを得なく不参加とさせていただきます。
- 8月20日は所属大学の教育ワークショップ（終日）が開催されており、こちらに出席する必要があったから。9月3日は当初参加を予定していたが、急に診療が入ったため、参加できなかった。
- 自己の都合（仕事）による。都合がつけば参加する予定であった。
- 時間が取れなかった

[EP]

- 予定が合わなかった
- 仕事と重なったため
- スケジュールが合いません。
- 先約あり。
- 時間が合わなかった

[LD]

- 他の用事があり、都合がつかなかったため
- コロナ感染、ビジネスアポイントがあったため
- はずせない用事（部活の練習試合）があったため。
- 仕事の都合です
- 業務上予定が合わなかった
- 仕事の都合により
- 時間的に合わなかったため
- 本来の業務都合のため。

⑬ 「大学教育基礎力科目講師 Q&A セッション」に関してお気づきのこと、ご要望などがあれば教えてください

[LA]

- 業務等所用のため参加できなかったが、後日動画を視聴できたので、ありがたかったです。
- 現在、録画を視聴しています。
- 第1回は必修科目の先生方が全員参加いただいたほうが良いように思います。また質問を事前投稿できる仕組みがあるとよいと思いました
- 他の科目についても開催してほしいです。
- 時間を長くするのは反対ですが、参加人数は少なめのほうが良いと思います
- Zoomでの質問の問合いか難しく感じる局面がありました。
- 質問⑥「科目全体または各学習項目に関する意見、感想等」でも記載致しましたが、再掲載致します。1. 非同期オンライン講義は動く社会人にとって大変便利な学習手段であることを実感しました。また、Q&Aセッションを計2回4科目で実施して頂きましたが、理解が深まりました。2. 非同期オンラインのWeb講義は一定期間アップデートを行わない前提でバージョン的な回久的なコンテンツとされていると思います。全科目についてQ&Aセッションが用意されていると、受講者の理解が深まると思います。贅沢なお願いですが大学教育基礎力科目についても、各年度に1~2回程度同期オンライン（参加が難しい方は後日Web受講）の講義があると良いのではないかと本音です。3. Q&Aセッションの日程が予め提示されると学習のペース作りにもなります。4. 大学教育基礎力レポートの提出後に、Q&Aセッションの動画を再視聴致しましたが、学修内容の良い振り返りになることともに、理解の確認にもつながりました。受講生が大学教育基礎力レポート作成に際し、講義内容を復習できる良い教材にもなると考えます。
- やや人数が多くて質問しづらいなど感じることもあった回もありましたが、質問したい内容は他受講者の方が質問されたりもしたので、同席しているだけでも、Q&Aセッションはためになりました。
- できれば全科目の先生に登壇していただきたいです
- 可能であればもう少し人数を絞ればと思います。私のように厚くまじいタイプはすぐに質問しますが、おとなしい方は質問しきれなかったかもしれません。

[ID]

- 夜間に催していただけるとありがたいです
- ライブでの質問回答に加え、メールでも質問ができると助かります。一定の人に偏らない工夫をお願いします。
- 後日動画を視聴しました。どの動画もかなり長かったので、動画と別に「質問項目リスト」があると、その動画を優先して見られるのでありがたいです。
- 質問は一人1件で限定するなど参加者に広く機会がいきわたるような工夫

[EP]

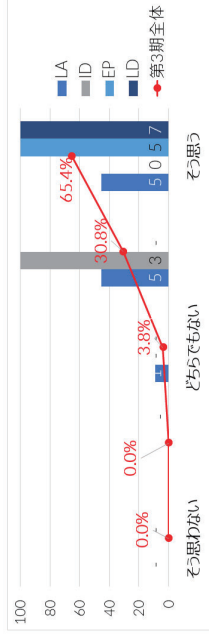
- 事前に質問を集めてもよかったとおもいます。
- 全体の印象としては「忙しい」と感じました。なんか事務局ペースで、とにかく急がされているムードはあまり好印象ではないですね。社会人の学びは「じっくり」「ゆったり」感を醸し出して欲しいです。また対応教員の方々のお答えする姿勢も、一部不快さを感じる場面もありました。実社会ではあり得ない対応方法も含まれていると感じました。若い学生たちと違って、受講している実務家たちは、担当教員たちと同世代であるので、もう少しオンライン上での態度を改められた方が良い方もいらっしゃいました。

[LD]

- ビデオで一番拝聴しました。勉強が進んでおらず、ライブで参加できなかったのが残念でした。

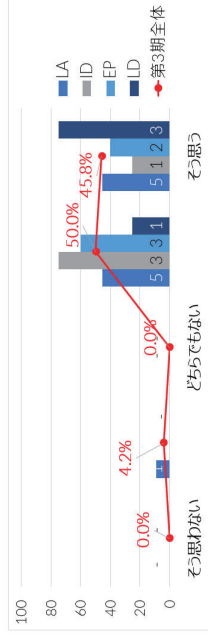
- 講師の方と実際にお話しして、受講した内容により実感が持てました。また、他の参加者の方との質疑が答は聞いているだけで得るものが多かったです。参加してよかったです。
- 学習を進めるといふより、産学連携教育イノベーターへの参画意欲がより高まる機会となった。
- よりフレンドリーに問いに答える講師の姿勢も必要ではないか。

⑮第2回「受講者交流会」は有意義だったと思いますか (N=26)



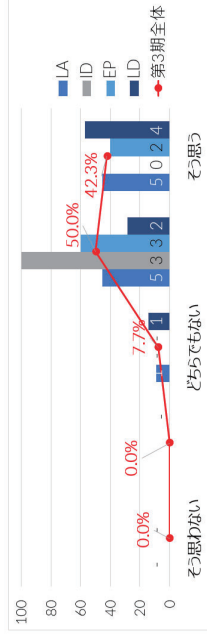
- 96.2%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑯第1回「受講者交流会」は大学教育基礎力科目の学習を進めるうえで役立ちましたか (N=24)



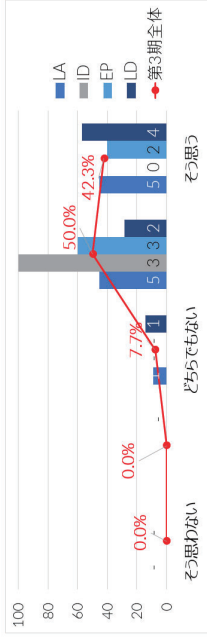
- 95.8%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑰第2回「受講者交流会」は大学教育基礎力科目の学習を進めるうえで役立ちましたか (N=26)



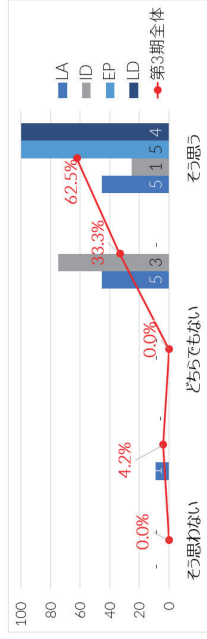
- 92.3%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑱第2回「受講者交流会」は大学教育基礎力科目の学習を進めるうえで役立ちましたか (N=26)



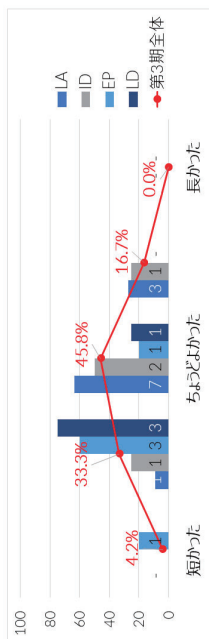
- 92.3%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑲第1回「受講者交流会」は有意義だったと思いますか (N=24)



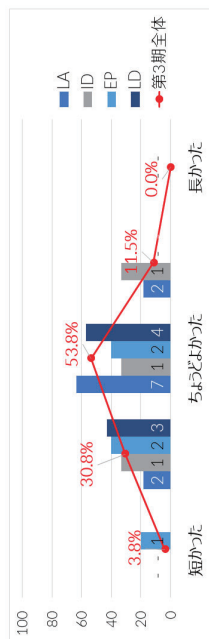
- 95.8%が「どちらかというと思う」「そう思う」と回答

⑩第1回「受講者交流会」の時間設定はいかがでしたか (N=24)



- 45.8%が「ちょうどよかった」と回答
- 37.5%が「どちらか」と短かった」「短かった」と回答

⑩第2回「受講者交流会」の時間設定はいかがでしたか (N=26)



- 53.8%が「ちょうどよかった」と回答
- 34.6%が「どちらか」と短かった」「短かった」と回答

⑪「受講者交流会」不参加の理由について教えてください

[LD]

- 日程があわず
- 業務等所用のため参加できなかった。
- 既に予定が入っていたため。
- 土日は課題に時間を取られて参加する暇がなかったため。
- 多忙のため
- 大学教育基礎力科目講師 Q&A セッションに参加していない
- 参加要件を満たしておりませんでした。
- 予定があったため。
- 他の予定があったため
- 時間の制約上参加できなかった
- 時間の制約上参加できなかった。
- 体調不良
- 他に予定がありましたので。

[LA]

- 日程があわず
- 業務等所用のため参加できなかった。
- 既に予定が入っていたため。
- 土日は課題に時間を取られて参加する暇がなかったため。
- 多忙のため
- 大学教育基礎力科目講師 Q&A セッションに参加していない
- 参加要件を満たしておりませんでした。
- 予定があったため。
- 他の予定があったため
- 時間の制約上参加できなかった
- 時間の制約上参加できなかった。
- 体調不良
- 他に予定がありましたので。

[ID]

- 都合が悪かったため。
- 仕事を休めなかったため
- 遠隔のため
- 業務のため、やむを得なく不参加とさせて頂きました。
- 別の用事があったから。
- 両日とも所用があったから。
- 予定が入っていたため
- 自己の都合 (仕事) による。
- 時間が取れなかった

[EP]

- 予定があわなかった
- 仕事と重なったため
- 日程が合いません。
- スケジュールの都合により
- 先約あり。
- 時間が合わなかった

[LD]

- 時間の関係。
- 他の用事があり、都合がなかったため。また、学習が進んでおらず、物理的に参加できなかったため。
- はずれない用事 (部活の練習試合) があったため。
- 仕事の都合です
- 予定が合わなかった
- 仕事の都合により
- 私用のため
- 時間的に合わなかったため
- 都合がきませんでした。

⑫受講者交流会に関してお気づきのこと、ご要望などがあれば教えてください

[LA]

- ネットワーキングについては、必要性がそれほど強くないと思いますので、適度なご案内の仕方だと思っています。参加すれば、それなりに交流が深まりますので、参加者にとっては有意義であったと思います。休日にとりあえず教職員各位も受講者もリソースを投下できるのか未知数でもあり、主催者としては悩ましいと思われまます。
- とても刺激になりました。
- 最終的には自分の疑問が聞けたと思います。できればアドバイザーにオンラインで聞ける時間が欲しかったです。正直、先生に聞くよりも有意義だと思います。
- 1. (質問⑦「修了者 & 受講者交流会に関する意見、感想等」でも記載致しましたが、再掲載します。)

- 本プログラムを受講された1期生、2期生からの「生の声」があれば、より実感が高まる（＝危機感を感じる）のではないかと思う。
- 投稿数が多すぎるため Moodle 上で自分の投稿に辿り着くのに時間がかかるので、自分の投稿とリンクの閲覧が必要だと思います。
- 個別の質問に、事務局の方に応えてもらう機能。
- 投稿に対する先生からのフィードバックがあると励みになると思います。
- 締切日の時系列に沿った一覧表があると大変助かります。
- 事前学習や課題の進行確認が簡単に出来る方法
- 受講生からさまざまな内容のお問い合わせがあるのではないかと思います。ご対応ありがとうございます。他の受講生の参考になるような場合があれば、掲示板やアウンズメントの機能で公開して頂いても良いのではないかと思います。プログラム通信（メルマガ）で還元して頂いているものもあると思いますが、常時間閲覧できるようにコンテンツ化するとより汎用性や利便性が高まるかもしれません（事務局の方のご負担軽減になるかどうか少し懸念材料ですが）。
- 毎週のメルマガ、毎度参考にさせていただきます！
- 講師の先生に質問できる機能の具備
- よくわからない

[LD]

- 受講者同士の交流の場があると良いと考えます。
- レポート提出後、点数だけでなく、講評をいただければと思います。
- 特になし。
- メールではなく、チャット機能・アプリがあるとさらに便利

[EP]

- 受講者同士が交流できる場があればいいなと思います。
- 1つは、フィードバックの在り方を再考して頂きたい。学習しっぱなし、レポート出しっぱなしの印象を持ちましたので、可能な範囲で、指導者と学習者とのキャッチボールが出来る環境をお考え下さい。2つ目は、レポートやコメント投稿に対するガイドラインをもう少し明確にして欲しいです。特に「自分で調べて」という点が曖昧と感じました。実務の傍で、査読型のレポートは実質的に困難な学習者もいると思うので、実務経験からの考察や、オピニオンを主体とする投稿やレポートも実務家教員らしいアウトプットではないでしょうか。3つ目は、学習進捗%はとても参考になりました。全体ベースを掴むには、この情報はやる気を奮立たせてくれます。これは Moodle 上でも常時提示されてはどうでしょうか。

[LD]

- LINE のような機能があれば、もっと気軽に聞けるかもしれません。
- スケジュール管理支援（アラーム、リマインドなど）があれば有難いです。
- moodle 上で受講アドバイザーと 1on1 で連絡を取れる機能が欲しい。

②①その他、受講者支援に関する事について、ご意見、ご感想等があればご記入ください

[LA]

- アドバイザー各位の親身なご対応にいつも感謝しております。大変ありがとうございます。

- 受講期間が開始され、2~3週間後以降に、Web 形態でのコース交流会（コース毎、コース混成）を複数回開催すると、受講者同士の投稿を通じた議論活性化に有益だと思います。（8月、9月に実施していたQ&Aセッションと受講者交流会が後日のWeb学習に効果的だと感じました。受講者交流会が任意参加で複数回用意されていると、参加者同士でWeb講義や参考文献に関する質疑ができたり、講義内容に関するディスカッションができると思います。）2.（可能であれば）受講期間開始後に、前年度受講者の方へのQ&Aセッションを設定していただけたらと現役受講生が学習の進め方（計画）や学習の深度（どの程度の時間をかけたか）などについて、大いに参考になるのではないかと感じました。
- オリエンテーションに参加出来なかった私にとって、初めての他の受講者の方とコミュニケーションの取れた非常に貴重なタイミングでした。その場面で交流できた方々の名前と顔も一致がしたので、その後の掲示板投稿なども、すぐやりやすくなりました。
- 受講者はある意味ライバルであり、その観点からは交流は不要ではないでしょうか？別の履修目的なら交流が必要だと思います。

[ID]

- 夜間にも催してもらえたらありがたいです
- 後続の会話がなるように MOODLE など自由なチャットサイトを作ればと思います

[EP]

- これはもっと開催回数を増やされた方が良いと思います。毎週のように「オープン参加型」で開催されても良いでしょう。同一コース、別コースの方との交流は意義で、お互いを知ることにより、Moodle 上のコメント交流もスムーズ化できるでしょう。時間的にはもう少し必要ですね。自己紹介を一巡して、一話題程度で終わってしまうので、人数を減らして同一時間が、同じ人数でもあと5-10分程度はると良いかもしれません。グループによってリードできる座長がいれば活発に交流できたことでしょう。

[LD]

- 多分ここでしか顔を合わせて話ができないうちの機会は短いながらもたいへん貴重でした。当然ですがそれぞれ受講者で考え方や動機なども様々で刺激を受けました。他のコースの方とお話しできたのも良かったです。
- プロフィール一覧的なものがあればよかったのではないのでしょうか。
- 受講者の顔がわかるのはありがたい。一緒に学習する仲間という認識が持てたことで、その後のコメントのやり取りもハードルが下がった。
- アドバイザーの方の真摯な対応には感謝。
- グループメンバーとの交流と、グループメンバー以外との交流の時間に分けることでどちらとも時間が短くなり消化不良だったのが残念だった。

②①希望する受講者支援の機能、対応等があればご記入ください

[LA]

- 私の場合は、実務家教員を明確に目指しておりますので、実務家教員としての適格性に対するアセスメントや、実務家教員に関するいわゆる就職支援室機能のような支援機能を希望します。Q&A セッションでは、これに類する質問が他の参加者から出されましたが、その場がそういう場ではなかったと思われることと、質疑に応じられた先生もまた、そういうことへの情報は持ち合わせていないという状況でしたので、このようなことについては別途十分な設営があれば(予定頂いているようにも思います)と思います。

- メルマガは大学教育基礎力科目の期間までとのことですが、たいへん有意義なものと感じておりまして、可能であれば、このプログラム修了時まで継続していただきたいと思えました。
- 今野先生にはメールにて学習支援頂き、お陰でなんとか期間内に履修することができました。有難うございました。
- 自分の投稿に対する学生からの返信だけでは学習に十分であるとは感じられず、先生方からのご意見や指導が必要なのではないかと思えました。
- 本プログラム受講後に、実際の教鞭の機会までの出口戦略を知りたいです。

サポート機能

- 汎用的教育実践力科目のことになりますが、ガイドブックに記されている締切日と実際の締切日が異なっている（実際はガイドブックに記されている日にちよりも前だった）、直前に慌てることになりました。最新の締切日が一覧できるようにならなければ助かります。
- 受講アドバイザーの方にメールで質問をさせて頂き、丁寧なご説明を頂戴しました。また、同時に質問の背景や問題意識を捉えて、学習の進め方などについてもアドバイスをしてくださり、安心して取り組むことができました。ありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。
- アンケート回答が、遅くなってしまい申し訳ございませんでした。社内セキュリティの関係でGoogleドキュメントやGoogleドライブにはアクセスが出来ないため、個人メールアドレスへリンク先を転送するなどしているのですが、その後すっかり失念しておりました。遅れての回答となりましたが、よろしければお目通しいただいただけだと思います。また、アンケート回答100%目指す！ということでしたらアンケートに関するリマインドメールを締切日前に、しつこいと思われてしまうかもしれませんが、複数回お送りするのも良いのではないかと思います。※自分が回答忘れていたことを棚上げのコメントであることと、ご容赦ください、そして、リマインドメールは配信済みで、ただ私がメールを見落としていただけでしたら、大変申し訳ございません。。。

[ID]

- 受講アドバイザーの仕組みは有意義。単位履修状況と同じ受講生に聞けない分、全体から見た進捗把握等に役立った。
- 学習の進め方については、ややわかりにくいと思いますが、プログラムだけでは不十分で、Webで説明をしていただきたい。
- コース受講者の学習進捗状況が分かるのは、参考にできるのでありがたいです。しかし、仕事が入り込んでくると、自分の学習が進まないために他の受講者との進捗状況の乖離に焦ることもあります。
- 大学教員公募について、願書の書き方など情報提供して頂くことも助かります。
- これまでは問い合わせ等はしていませんが、いつでも不明な点について問い合わせができる体制は本当にありがたいと思います。これから利用させていただきたいと思っています。アンケート回答が期限を過ぎてのこととなり、データの集約に反映されないかと思いますが、大変申し訳ないです。

[EP]

- Moodle上で、メンバーの名前をクリックしたら自己紹介とリンクするようにして欲しい。
- いろいろと工夫されているプログラムだと感じます。第3期生であることも、過去2年の教訓が生かされているのだと推測されます。私が上記で指摘、提案した内容も、一つの考え方として参考にして頂き、より良いプログラムに向けて改善していただきたいと思います。基礎力レポートにも記載しましたが、自らの学び直しとして、自問自答しながらの学修スタイルで、今のところ大変満足しております。このような機会を得たことを光栄に感じると共に、受講者支援に携わってくださる皆様の方々に感謝しています。いろいろと注文を出す私ですが、嫌がらずにお付き合い頂きながら、一緒に良いプログラムを創っていきましょ。

[LD]

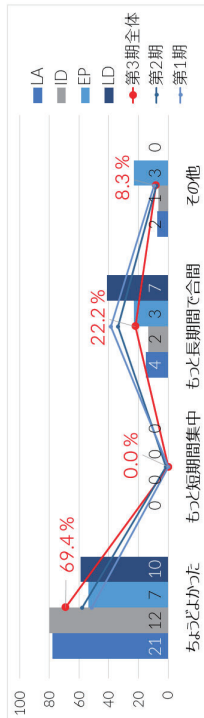
- 最終レポート提出がギリギリになっていたので対応いただき、即座にご対応いただき、なんとか提出することができました。改めて御礼申し上げます。
- アドバイザーの方々からの週報メールはとても良いです。毎週楽しみにしていましたし、より一層勉強を頑張ろうと思えました。

汎用的教育実践力科目 受講者アンケート結果 【第3期】

回答者数

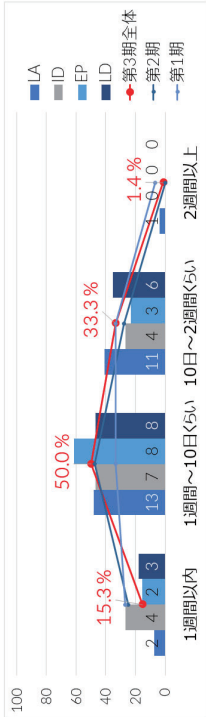
コース名	対象者数	回答者数	%
LAコース	31	27	87.1%
IDコース	17	15	88.2%
EPコース	15	13	86.7%
LDコース	20	17	85.0%
合計	83	72	86.7%

①汎用的教育実践力科目の実施期間についてどう感じましたか（予習・復習・レポート作成に必要となる時間を踏まえてお答えください）（N=72）



- 「ちょうどよかった」とする回答が69.4%（第1期：51.6%、第2期：57.9%）

②一学習項目あたりの予習復習・レポート作成のための理想的な学習実施期間はどのくらいですか（N=72）



- 理想的な学習実施期間については「1週間から10日間」が50.0%（第1期：33.3%、第2期：47.7%）

③「研究指導演習」について、ご意見ご感想があればお寄せください

[LA]

- セッションが良かった
- 型にはまらない独自の演習内容で、気づきや自分の能力向上にとっても貢献した内容でした。
- コーチングという内容は全く知識、経験がありませんでしたが、この演習で受講出来て良かったと思います。「汎用的」という意味では全体の中でも最も役に立つ内容になるかもしれません。
- コーチングノートの作成は、形として残るので、良い課題だと感じました
- 自分だけのコーチングノートは、今後の成果物に関して、ヒントとなりました。
- 事前に講義動画を見て、オンライン上で講師の先生方と双方向的なコミュニケーションが出来たことで、理解がととても深まった。より実践的なコーチングのワークがあったのも良かったと思う。
- 求めている成果がイマイチよくわかりませんでした・・・
- コーチングについて学べたのでとても良かった。
- 事前質問に対して、共通した質問等の回答はありましたが、それぞれ個別の疑問に対しての回答も何らかのかたち(個別メール等)で回答いただけたら嬉しいです。
- 事前の質問に対して、とりまとめの上、丁寧な回答が欲しかった。
- 事前に動画を視聴し、掲示板へ質問も投稿するなどしたものの、その掲示板投稿の質問に対する回答もあるかわけでは無かったのです。このタイミングでの受講者からの掲示板への質問投稿にはどれだけ意味があったのかよくわからなかったです。掲示板へ投稿いただいた質問から一部授業で回答します、あるいは、掲示板への質問には別途全て回答します、というガイドはあったのも良かったかたかもかもしれません。投稿したけれど、質問しっぱなしで終わってしまい、回収されていない気がしていました。
- 倉庫講師による「コーチング」コーチングプログラムの授業はとても役立った。
- 外部のプロフェッショナルコーチに学ぶことができたのは、非常に為になったと思います。
- コーチングセッションを担当された倉重先生は、たいへん進め方が上手く、充実した時間であり、多くの学びに繋がりました。本来であれば、対面で受けたいと思える演習でした。
- どのようなアウトプットが求められているのかよく分からないところがあった。
- 内容については特にありません。指導日をもう1日ほど増やしていただけたら良かったと思っています。
- 大変参考になりました。

- 事前学習、演習、事後学習が非常にうまくつながっていき、それぞれで進められてきた。特に演習の内容は講義に近いが参加型で聴衆を引き込む形で印象に残っている。コーチングノートは進化させていきます。

[EP]

- 東北大学/出江教授、(株)イグニタス/倉重講師のご二人の講義内容はいずれも「Leadership」の学びにとっても有益であった。特に「自分だけのコーチングノート」は将来においても自分の宝物になる。
- 非常に参考になりました。いい経験ができました。
- 全体像が掴めて大変有意義だった。
- 社会人の場合、コーチングについて何らかの形で学習したり実践的に受けたことがある人も多いと思いますので、クラスを分けるなり、それぞれの経験に基づいて演習が行われる方がいいのではと思いました。
- 実践的な内容で大変良かったです。
- 質問の機会があるので有効な場と理解しました。ただ、全体的に運営側も先生側も「時間がない」雰囲気が強く、焦っている感じの印象だったので、受講生にとっては「質問したら迷惑かもしれない」と遠慮した人もいたことでしょう。これは日本の教育現場の大きな問題点＝学生が授業の時間で質問しやすい雰囲気を作れない課題、とも繋がると思います。
- 楽しく有意義な時間でした。
- 昨年度の発表をアカイブ配信で観れると大まかに制作物が把握できブラッシュアップが毎年期待出来る。
- 自分に向き合うセッションである意味辛い時間だったが、人に向き合う指導者として学ぶことの多い内容であった。
- コーチングのお話は、大変ためになり良かった。
- 特になし

[LD]

- 特にありません
- 実践的で大変学びになりました。
- とても学ぶことが多く、また、わかりやすい授業でした。コーチングは、リーダーシップ教育に参考になることが多いため、2回くらいのシリーズが欲しかったです。
- 事前課題・当時の演習ともに興味深い内容かつ、考えながら理解を深めるような時間であった。事後レポートにて、自分の言葉でまとめると、リフレクションの機会ともなった。一方、自分自身の経験が偏っていることもあり、ビジネスの中で活用するイメージは沸いたが、学生を相手としたコーチングのイメージが少し持てない状況で終えた。
- 新たな学びは少ないものでした。
- 大学や企業等でコーチングの必要性を理解してコーチングを行う人と、プロとしてコーチングを行う人のタイプの差を感じた。講義全般を通して、プロとしての人間性が強く現れてきたため、隔たりや難しさを感ずいた。一般の実践者は、おそらくタイプは異なると思う。参加者の関わり具合、発言内容等でのいろいろな考え方に触れることが良い面となる一方、ゴールが見えにくくなったとも感じた。ポイントをとまとめた資料を用意していただけたらと理解が深まったのではないかと感じる。ただし、書籍に書かれていない実践的なこと、注意点など取引量が多かった。特に最後のまとめは、有益であった。
- コーチングについて、実例をとまなう事前ビデオはわかりやすかったと思います。一方、最終成果物についてですが、「具体的に何を作成するのか」が分かりにくかったと思います。自身で解釈して作成しましたが、「コーチングノート」なのか、それを踏まえた「レポートなのか」明確にする必要があったのではと思いました。

- コーチングに関する具体的な演習であり、よかったですと思います。
- 気付きの多い演習でした。コーチングについてはある程度知見があると思いましたが、基本の考え方や等々れていることも多く、よき整理になりました。また倉重先生のリズミカルな話は人のモチベーションを高める「使える」言葉も多く実用的で、会社での部下の指導などに早速使わせて頂いています。

- (1) コーチングは企業の管理職研修で受講した経験があるが、大学教員の方向けにも活用されていることを知って新しい発見がありました。(2) 研修内容は以前に管理職研修で受講した内容の振り返りとして役立つと思いました。同時に、自分が大学で教育に携わる場合に、どのような視点・姿勢で教員、学生、職員に向き合うべきか、自分が大学教員として置かれるシーンを考えるきっかけとなりました。(3) 特に、事後学習で視聴した【座談会】コーチングを活かした研究指導、大学・大学院教育の内容がとても密度が高く、大学教育におけるコーチングを理解する上で大いに参考になりました。ビデオをコンパクトに編集して頂いていましたが、できれば素のままもっと長い時間で視聴したいと感じたほどで、飽きることのない内容でした。(4) 今回受講した演習を「研究指導演習-学習編(知識編)」と位置づけ、座談会に参加されていた現役の教員の方と意見交換会を開催したり、テーマを決めてグループディスカッションさせていただくような「研究指導演習-実地応用編」のような演習をプログラムのメニューに追加すると、受講生の理解がより深まり、実践で活用するヒントがみつかるのではないかと思います。(5) 将来、本プログラムの応用・実践編のようなコースが開設されることがあれば、(4)のような視点を是非盛り込んで頂けると良いと思います。(6) コーチングの基礎について、配布されたレジュメ以外にも事前学習を行うことは意味があると感じました。市販の基本書を推薦して頂き、受講生に事前読了を勧めるのも一案ではないかと思えます。自分の場合は事後課題の作成過程で市販の基本書を読みました。事前読了は、事前に読んでおくことで理解が深まるのではないかと感じました。(7) コーチングと並んで「経験学習」に関する講義・演習を設定して頂くことで効果的ではないかと思えます。実務家の場合、所属企業や協働プロジェクトなどのOJTを経験しているケースが多いため、コーチングだけでなく経験学習も、大学での教育に有益な知識になると考えます。

[ID]

- ティーチングとコーチングの違いが明確になり、翌日からの業務にコーチングを取り入れ実践しました。
- 研究指導演習→ID 演習→ラボパス作成の順に受講できると良かったです。
- 新たな気付きがあり参考になりました。
- 演習の後に本やサイトを紹介しますが、事前にいくつか読んでおけば、より深く理解できたかと思えました。コーチングにはさまざまなフレームワークがあるので、当日の演習で用いられるコーチングの「キーワード(例:GROW モデル等)」を事前に挙げてくださると学習すべき方向性が分かるのでありがたいです。しかし、学習者の先入観なしに、ライブでコーチングを体感してもらったことを倉重先生が重視しておられるのであれば、今回の方略のままで良いかと思えます。
- 基礎から実践の重要性を理解することが出来た。
- 凄く役立った。倉重さんの授業をもっと受けたい。
- 非常に興味深い内容でした。人数が多いこともあり、発言の機会が全員に回らないのが少し残念に思えました。授業を複数回に分けても良いような気がします。
- お忙しいなか熱心に指導して頂きました。
- コーチングの学びを受講することができるとは思っていないが、非常に有意義で充実した演習であった。機会があれば、また継続して学びたいと考えている。
- ちょうど良かったです
- 本日、成果物を読み返すと、作成当時の考えや成果物を通して私の軌跡が読み取れた。折に触れてコーチングを自分に問い直せるよい演習であったと思います。

- 授業デザインワークシーンの記載列の良い点悪い点等の解説をいただければありがたいと感じました。
- 授業が緻密にデザインされた上で行われていることを知ったこと、また実際に授業をデザインする演習ができたことは貴重な経験になりました。
- 自動計算ソフトを使った学修時間と、配分率について、10ポイント差があれば修正というガイドにも沿って作成したものの、今でも自分の作成した成果物があの内容でよかったのか、シラバスおよび学修時間を示すものとして、実際に大学の現場で活用できるのか手触り感がない印象です。実際の授業をベースとしたサンプルがあると、よりイメージが掴めた気がします。
- シラバス作成という初めての経験を体系的に行い、こうしてカリキュラム・授業が作られるのかという学びが多くあり、自身が実務家教員として教壇に立つ機会があればどう自分が授業を設計するのか、という実践的なイメージが来たのは大きな収穫でした。何より自分で手を動かす実体験は地となり肉になる実感ありました。
- (1)大学が公表しているディプロマポリシーとシラバスとの関係性を理解する上で、授業の構造化の考え方が大変参考になりました。(2)この講義で説明を受けたような構造化がどの程度しかりと組み込まれているかという視点で、さまざまな大学が公表しているシラバスを見ることができるようになったのは有益な成果だと思います。(3)授業デザインやシラバス作成にあたっては、カリキュラム（と授業と関係）の理解、1学期間の全15回の授業デザイン、1回毎の授業運営が密接に関係しているのです、こうした分野全般を幅広く理解できる大学教育基礎力科目を開設して頂くと良いのではないのでしょうか。(4)あるいは、基本書の参考文献を紹介して頂き、事前学習することも受講生が理解を深める方法として望ましいと思います。私は『もっと知りたい大学教員の仕事』羽田貴史編著の第3章～第5章を講義の事前・事後学習に参考にしました。(5)「インストラクショナルデザイン」や「カリキュラムマネジメント」の基礎力科目講義では、少し概念のつかつ包括的な内容になってしまうので、「講義法」や「授業設計」といった実践的方法論について詳しく理解できる基礎力科目が欲しいと感じました。

[ID]

- 授業設計からシラバス作成の流れがとても良かった。
- より計画的な事前準備が必要であることを痛感しました。
- 構造化された授業デザインのワークシートが使いやすいと思います。今後も自分の授業をデザインする際に活用させていただきます。授業外活動の所要時間は、設定のしかたが難しいと思います。教員がこれくらいでできるだろうと思っていた時間より、実際にかかった時間の方が長くなることが多いです。授業を行いながら適宜修正していきたいと思えます。
- シラバスを如何に学生の理解が出来るようにかをするか学んだ
- 具体的な動画での解説をして欲しかった（事例の紹介等）。
- やって良かった
- シラバスを作成するにあたり、授業目標と内容構成とのバランスの取り方に大変苦労しました。ここで作ったシラバスは、その後の授業において何度も修正を行い、最終的な授業プランの完成に至りました。
- 実際にシラバス作成を学ぶことができ、大学での教員の経験がない者として参考になることが多かった。
- ちょうど良かったです
- オンライン演習に参加するまで、何をこれからするのかわからなかったのも、ある大学のシラバスをそのままはりつけてスタートしたが、無茶苦茶でもじぶんなりに作ったシラバスを改善していったほうがよかったと思う。（編集注：「インストラクショナルデザイン演習」と混同？）

- 大変参考になりました。コーチングについては会社でも何度か学びましたが、今回は気付きや学びが非常に多く、いくつかをすぐに実践始めました。
- Zoomの活用法を知るうえで良かったです
- 当初、事前学習の内容が理解できなかった。また、演習時、講師の一方的な話が多かったように感じた。そのため、成果物作成への糸口が掴みにくかった感がある。
- "「コーチング」を題材にされた点はよかったです。今後、大学教育の中で指導する立場を想定すると、コーチングとコーチングの両面のバランスが重要であると考えている。コーチングのプローチで、学生一人一人のニーズやレベル感に応じた対応ができる限り心掛けることも同時に重要であると認識している。このティーチングとコーチングの2つのアプローチのバランスで指導を心掛けたいとの考えに至ったことは自身の財産である。
- 出江先生の事前学習と倉重先生の演習が重層的かつ密接にリンクした内容になっていて、コーチングについての理解を深めることができました。事後学習の動画も実際の現場の様子もわかってよかったです。
- あまり効果的と思えない内容であった。コーチングならコーチングでもっと掘り下げられるべきだし、学生指導にどう生かすのか、接続方法に丁寧に焦点をあてるべきだと思った。二人の講師の言っている内容がバラバラで、関連性がどこにあるのか、よくわからない。
- 自分だけのコーチングノートとしての創意工夫というテーマが自分事として捉えることができよかったです。

④「授業デザインとシラバス作成」について、ご意見ご感想があればお寄せください

[LA]

- セッションが良かった
- シラバス作成の基礎が学べて、その後の演習や模擬授業につながる入り口として有意義でした。
- シラバスと授業時間の配分が難しかった。
- デイプロマポリシー、シラバスに対する知識は全くない状態で受講したため、講義のスピードに着いていけない局面がありました。
- 専門領域科目になってから、授業デザインとシラバスの作成の重要性が、再認識できた。
- 初めにシラバスを作成しました。非常に参考になりました。
- 例えば15回シリーズ、と仮定したときに、全体の構成や各回あるいは各まとまりとしてのシラバス構成のあるべき設定等についての指導があるときに、全体の構成が深まるのではないかと思います。
- シラバス作成において、ペアになった方とのやり取りだけでなく、お互いわからない同志で進みにくい部分もあったため、小グループでの実施のほうが様々なアイデアや意見交換が期待できると感じました。
- わかりやすかったが内容が薄い感じがしました……
- よく理解できた。
- 講義中だけでは理解するための時間が足りなかったように感じた。説明の速度が速く、ついていくのが大変だった。
- どうしても、時間数を合わせるバズル感が否めず、本質的な授業デザインの構造化の議論をしたかったように思う。とすれば、もう少し長く時間を取って（細分化して）授業デザインの議論とシラバス作成の手順を分けて学んでも良いのでは？と思います。
- 串本先生による授業シラバス作成の演習は、体系立てられており、演習内で十分理解し実践に繋げることができるよう内容でした。本来であれば、対面で受けたいと思える演習でした。
- 事前に自分なりの簡単な模擬授業を行ってから聞いた方がより理解できたと思う。日程を増やすなど参加人数が多いの論点がばらばらで意見のまとまりをみなかった場面がありました。日程を増やすなどし、もう少し参加人数をコントロールするのと受講者側にも例えば1分以内に要領よく意見を出すよう促すなど工夫が必要だと思います。

- シラバスを具体的にどのようなように作成するか、構成が非常にわかりやすく解説されていた。授業の内容を説明する目的と想っていたシラバスが授業設計の位置づけであることを知るきっかけとなった。

[EP]

- 事前に何を作成しておくべきかを受講生に周知したほうがスムーズに進行すると思います。(編集注：「インストラクショナルデザイン演習」と混同?)
- いわば実務のキモになる部分だと思いますが、難易度がやや高く、指導時間も欲しかったです。
- 実務家の我々にとって、実務家教員を目指すにあたって、特にしっかり学ばなければならぬ重要な科目だと思います。大学の学ぶ仕組み(ディプロマポリシーと授業の関係)が良く理解出来ました。
- 最初、授業のゴールのイメージがわからず、多少なりとも混乱した時間を要した。事前の予習(シラバスの閲覧など)があると、もう少しイメージし易かったと思います。
- シラバス作成に取り組むための基礎となった。
- 実際に授業担当する機会があれば非常に役に立つと思います。
- 研究指導演習の翌日で、頭の整理がつかないまま授業に臨み、理解に苦しんだ。
- この段階で急にシラバスを作る準備になった印象なので、もう少し前にこの流れをサジェストする授業があっても良いかと思いました。
- とても明確な授業でした。ただし、この段階で「構想」が練られていない人にとっては辛い授業だったと思います。実務家教員へ明確なプランのある人と、そうでない人によって、授業デザインを行う時期を再吟味されても良いかもしれません。
- 色んな指摘があり、新しい発見がありました。

[LD]

- 特にありません
- シラバスを自身で作成する場合とそうでない場合に大きな違いがあると思われ、効果的だったかどうかは多少疑問。
- 先生のご説明はわかりやすかったです。シラバスの作成の説明の授業が欲しかったです。いきなり、授業設計を行うのは戸惑うことが多かったです。
- 「授業デザインとシラバス作成」「インストラクショナルデザイン演習」両方の事前課題として、一度シラバスを作っておく必要があると感じました。授業デザインとシラバス作成の授業内ワークは、自分のシラバスがないと意味のあるワークにならないように感じました。インストラクショナルデザイン演習の事前課題でのシラバス作成を、指定の3日前以前に作成していたため、この授業で自分の手元で使うことができました。もし作成していなければこの授業のワークができなかったと思います。授業内のQ&Aについても、参加者が何を準備して臨んでいるのか、先生が理解していらっやらないような感じを持ちました。
- ひな形のエクセルに書き込んでくれ、という丸投げの印象を受けました。オンラインだとあれが限界なのかと思いますが、雑な感じで残念でした。
- 各大学のホームページに公開されているシラバスを見ただけでは、その中に、講義で教えていただいた「構造」があることには全く気づかなかった。また「作成要領」によって、「構成要素」が何であ

るか、またそれらをどのように効果的に組み立てていけば良いのかがよく理解できた。次の「ID演習」で活用することができた。

- ワークシートのフォーマットは実務上のツールとして役に立つと思います。
- 授業デザインについて理論的に学ぶことができ、非常に参考になりました。
- 他受講者とコミュニケーションが取れて作成の参考になりました
- 演習時間内で、授業内容の意図することが理解できた。また、考える時間的ゆとりがあった。シラバス作成の良い体験学習となった。
- 演習はとても実務的で参考になった。ただ、この時点では、高等教育においてどんな授業をしたいか、という具体的イメージが描けていなかったもので、構成を考えるのが難しかった。が、キャブストーションプロジェクトに向かう時点でとても役に立った。
- 実際に手を動かしながらの演習で、やっているときはついていくことに必死でしたが、演習後に再度同じ作業をしてみても、なるほどと全体を理解することができました。体感できる授業内容でした。串本先生と受講者の方の質疑応答もたいへん勉強になりました。
- 事前学習の内容は効果的であった。本科目は総じて有益であった。
- 手を動かす事で理解が進んだ。進めるうちに最初の不安が和らいだ。

⑤ インストラクショナルデザイン演習について、ご意見ご感想があればお寄せください

[LA]

- ペアワークにより、多角的な視点での理解を獲得することができ非常に印象に残っています。
- ペアワークはやはり時分の気づかない点についての気づきが多く有益だった。
- 事前学習のペアワークから、オンラインワーク、最終レポートまでの期間とボリュームを考えると、この演習が一番タイトでした。また、ペアワークでは私は相手に恵まれて進めることが出来ましたが、掲示板で他の方の状況を見るに、「相手次第」で進捗や内容が異なると感じました。また、このワークで作成したシラバスを基に、その後の模擬授業からキャブストーションの成果発表まで持っていきましたが、内容が纏られていなかったと感じます。なお、オンラインで鈴木先生にご教授頂いた「毎回の授業を楽しむ」ということは、最も印象に残る学びとなりました。
- 他の受講生との繋がりを深めるタイミングとして、オンラインと対面の選択で実施でも良いと思う。
- 他の受講生との議論がどのくらい成果があったのかわかりませんでした。
- もっと授業を見たかったですし、私自身の発表についてのアドバイスもほしかったです。授業の実践の場もあるので、FBも別の機会を設けてもらっても良いと思います。
- 必要としている成果物がどこまで(以前提出した内容も含めて)なのかわかりずらかった感じがします。(結果的に何度もデータのやり取りが発生しました。)当日のタイムスケジュールも含めて様々な点が以前いただいた資料と違う感じがしておりますが私だけでいいのでしょうか?
- ペアでワークシートをチェックし合うところが、斬新な手法で勉強になった。
- ペアの方と、どの様な考え方に基づいたデザインをすればよいかディスカッションできたことは大変有意義な時間でした。
- 講義の内容については特段ないが、他の学習者との議論は、その後も関係性が設立った。
- いきなりのピアコーチングでは、授業デザインの深い部分の議論には、到達しないように思う。その前に、少しデザインの考え方を深める目的で全体でのケーススタディや誰かをサンプルとして取り上げ、議論

のポイントを十分理解した上で、ピアコーチングを行う方が適切なアプローチに思える。大事なところなので、時間をしっかり取りたい。

- この演習は、ペアワークが基本でしたが、もう少しレクチャーや教員とともに進めるワークショップのセッションがあると、より深い学びに繋がると感じました。本来であれば、対面で受けたいと思える演習でした。
- 何を求められているのかよく分からない部分があった。
- 受講者側の意見の中にはIDのコンセプトとは関連の薄いものが散見しました。限られた時間なので、こうした意見への対応はもったいないと思います。事前学習用の図画などを推奨するなど工夫が必要だと思えます。
- ペアの相手方から適切な学びをいただきました。
- 職種が異なるメンバーとの意見交換は、通常の講義とはまた違った学びの場になりました。
- 合格基準に対して、どこが足りなくて、採点された点数になっているのかがわからなかったです。この授業だけでは無いのですが、ルーブリックで評価されているのだから、ルーブリックで言うところの項目は何点、この項目は何点、と言うのがないと振り返りようがないなと思います。特に、インストラクショナルデザイン演習の採点は、どこがどう足りていないかの点数で、どうやってより良いものにすればよいか、振り返るうにも振り返りにくさを感じた内容でした。いささか消化不良感があったのは正直な所です。
- 「授業デザインとシラバス作成」との連関があり、理解が深まりやすい構成でした。これをもって、「授業設計のワークシート」が完成し、実際に教える場合の要点が頭に入る感覚でした。ペアレビューはやや表面的になりがちなのところもありました。演習当日は受講者同士のコミュニケーションの時間も多く充実感があって一方、何をやればよいか、何が目的なのかが分かり辛いところあり、学びが後に残りにくい印象もありました。
- (1)「授業デザインとシラバス作成」の講義と「インストラクショナルデザイン演習」の講義の組み合わせは秀逸だったと思います。2つの講義内容を行き来しながら考えられるようになりました。また、「インストラクショナルデザイン演習」では、受講アドバイザーの方がペアとなってくださったこともあって、ペアワークで多くの深い洞察と有意義な数多くの示唆を与えてくださり、感謝しています。(2)私自身にとっても「汎用的教育実践科目」の3つの演習と「専門領域別科目」の「リベラルアーツ・セミナー実践演習」が有機的に結び付けて体得できたという実感も強く持っています。模擬授業の準備を行う課程で、インストラクショナルデザインのワークシート作成の作業が非常に参考になりました。今後、大学で授業を行う機会があった際には、ここに立ち戻って考えれば良いというベースができてきたと感じています。(3)ペアワークの運営形態によって実効的な成果の得られる演習となりましたが、一方で、他の受講生の演習成果（ペアワークの内容）や最終成果物を踏まえて、講師の先生からのコメント・講評同僚フィードバックの機会があることにより意義深い（気づきの多い）演習になると思います。(4)「授業デザインとシラバス作成」、「インストラクショナルデザイン演習」を中心に、汎用的教育実践科目の内容をリデュームアップしたプログラムを新たに作って頂くと強力かつ更に実践的なプログラムが提供できるのではないかと思います。是非、ご検討頂きたいです。

[ID]

- 学んできた内容を整理して、それらを活用することで、シラバスやアクションプランをブラッシュアップする機会となった。
- 教わりに来るのに、教えない授業、というのは面食らいました。詰め込み学習してきた学生を、主体的な学びに導くには、教えない授業、ということなのでしょうが、単に感想です。
- 改めて設計する（デザイン）することの難しさを学びました。

- これまで担当科目のシラバスは主に他の教員が作成していたので、真剣にシラバスを書いたことはありませんでしたので、汎用的教育実践科目の中で、一番学びの多かった演習でした。早速、中間の教員の担当科目（肉眼解剖学）のシラバス改訂を提案しました。
- デザインは学生が起点であることをしっかりと理解した
- ペアワークだけだったので授業内でのグループワークがあることよ。
- ペアから建設的な意見をもらい、様々な気づきとともに多くを学ぶことが出来ました。授業を通じて、改めてペアワークの利点を再認識した次第です。
- 相互教え合い、学び合いは有意義な時間でした。
- IDの基礎を学ぶことができ、その後のIDの学びにつながるものであった。
- ちょうど良かったです
- 2月19日の成果発表の根になる演習だったので、締め切りに間に合うように生活を工夫するなど苦労は多かったが、学べてよかった
- インストラクショナルデザインの考え方を実践する場としては非常にためになったが、ペアワークでは時間の使い方が難しく、どちらかと言えば、お互いの意見や考え方を会話する時間になってしまった。ただし、間違いないこの授業でシラバスの考え方、構成が大きく変わるきっかけとなった。

[EP]

- 設計のキモになる部分だと感じました。極めて有意義でした。もう少し時間を厚くしてもいいと思います。ありがとうございます。インストラクショナルデザインという概念を知り、触れる事が出来たのは極めて有意義です。こういう授業設計がきちんと出来ていれば、群芳大学の様な事件？は起きなかつたと思います。学生は「アカハラだ」と悲鳴 群馬大医学部3年生「3分の1が留年」の異常事態 <https://news.yahoo.co.jp/articles/3115f04f9cc25de55e4a4424bfeb9d3be7f37b7>
- 講義受講後のシラバスが、とても濃い成果物になった事が収穫でした。
- 1回ではなくペアを替えてなど複数回あると、もっと学びが深まったと思います。
- 大変有意であった。
- とても勉強になりました。
- 事後課題で求められている成果物の理解ができず、再提出となった。
- この段階で急にシラバスを作る準備になった印象なので、もう少し前にこの流れをサジェストする授業があっても良いかと思いました。
- ID演習は、果たしてあのようなおフォーマットの授業で満足度が得られるかは疑問です。授業の意図が分かりづらく、かつ、本来ならばマンツーマンで行うべき重要な作業だと思います。第2ステージで1回だけ良いのか、最終ステージでもう1回あるべきなのか、吟味が必要と感じました。
- 新しい気付きがあり、有意義でした。
- 社会人の実務を知識化するにおいて、また社会人のリカレント教育方法においても大変有効な手法で大きな学びになりました。
- これまでに体験したことのないスタイルのセッションでこういうやり方もあるのだということを知ることができた。

[LD]

- 大変勉強になりました。今後の自身の活動を高めていく上で、もっと内容を深く学びたいと切に思います。
- ペアでワークシートをチェックするとのことだったが、お互いがよく理解できておらず、あまり良い指摘をしあうことができなかった。

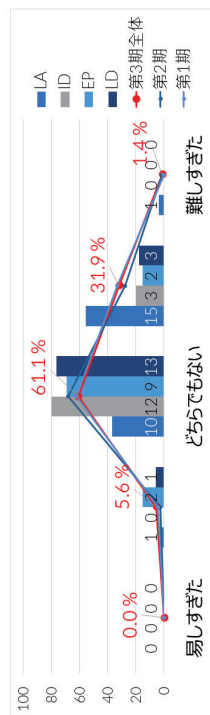
- 2の授業と、日程が接近し過ぎており、慌ただしい課題対応となったのが残念でした。2と3の授業のところで、シラバスの作成の仕方をよく学びたかったです。この授業で学んだワークシートの作成は、その後のキャプストーンのときも、授業構想を考える基本となり、とてもためになりました。また、「インスタラクショナルデザイン」についての学びは、発見が多く、教え方の大切さを学ばせていただきました。
- 自分自身がどのような授業をイメージするのか、10月7日の大学基礎力レポートを終えた後に、しっかりと考えてシラバスを作成しておくようなインスタラクションがあると感じております（自分の問題でもありますが）。事前課題としては明示されていましたが、コトの重要性がわかっておらず、直前に準備することになり、思考が浅い状態でのシラバスになりました。ペアワークでも思考が浅い状況の為、お互いの指摘が表面的になってしまった反省があります。授業内容としては極めて重要な演習だと思うので、全員が事前準備をしっかりして臨むような設計となればと感じました。学びの内容としては、今後の実務家教員として、また、ビジネス上でも大変役に立つ考えばかりだったように思います。
- 「授業設計の点検ワークシート」は綿密に計算されている教材であり、基礎力科目のIDの学習成果や事前のペアワークの結果を反映させることで、自動的に点検が可能であった。そのため、最終的に作成したシラバスは、自分なりに納得のいく出来になったと感じている。シラバス作成の趣意を学んだと感じている
- 授業プログラム全体として、1回の授業で実施するにはボリューム・内容的にもかなり無理があると思いましたが。進め方にも問題無しと言えなかったように感じています。また、最終レポートの合格基準の表記がシンプル過ぎており、もう少し具体的に何を求めているのかの説明が必要なのではないかと思えます。ある程度、仕方ないとは思いますが、基準設定が「評価者の都合」に傾いているようにも感じられました。
- ペアでの学習であったので、とても楽しく、また自分のレベルを知ることができ、有意義な演習でした。
- 事前準備でのペアワークは参考になる部分が多かった。最終レポートについては、いくつか質問が出ており、事務局からの訂正回答等もあり、まとめるのに苦労したが参考とすべき事項を多く学べたと感じている。
- 「授業デザインとシラバス作成」と同様、高等教育に適応していくための具体的な方法論を学ぶことができ、有益だったと感じている。
- シラバスとは何か、シラバス作成にあたり何が重要かを、事前学習の段階からしっかりと学ぶことができました。インスタラクショナルデザインについて一貫した考えで授業が作られていて、この段階で学ぶ内容として最適だったと思います。
- 自らシラバスを用意することはまずもって難しいのではないかと、既存のものを活用させていただいた。よってペアリングワークも効果は限定的であった。
- フィードバックを拝読して、脱落しやすい部分とモヤモヤする部分があり、全体として消化不良だった。

専門領域別科目 受講者アンケート結果 【第3期】

回答者数

コース名	対象者数	回答者数	%
LAコース	31	27	87.1%
IDコース	17	15	88.2%
EPコース	15	13	86.7%
LDコース	20	17	85.0%
合計	83	72	86.7%

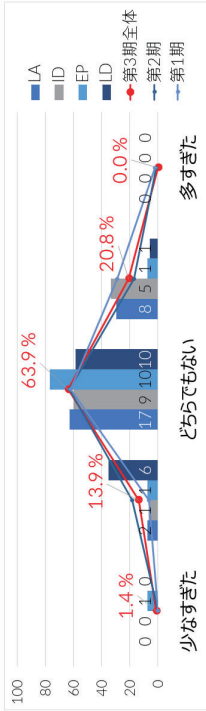
①専門領域別科目の【難易度】は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか (N=72)



- 61.1%の回答者が難易度はちょうどよいものだったと評価
(第1期：62.2%、第2期：68.4%)

4コース共通

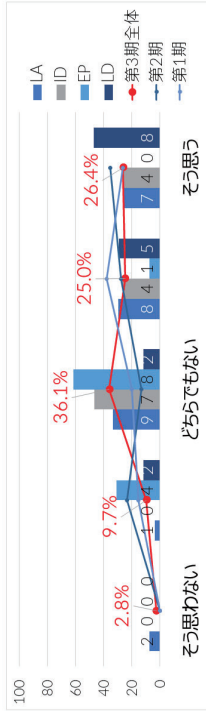
②専門領域別科目の【分量】は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか (N=72)



- 63.9%の回答者が分量はちょうどよいものだったと評価
 > 第1期：62.2%、第2期：63.2%

4コース共通

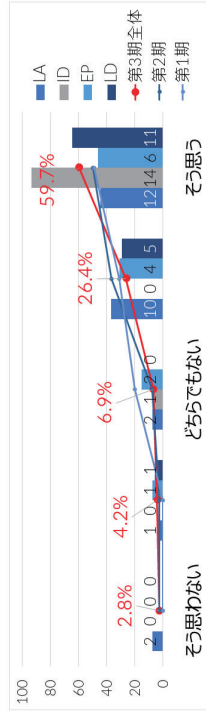
③専門領域別科目の内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだったと思いますか (N=72)



- 51.4%が「どちらかというそう思う／そう思う」と回答
 (第1期：64.5%、第2期：63.1%)

4コース共通

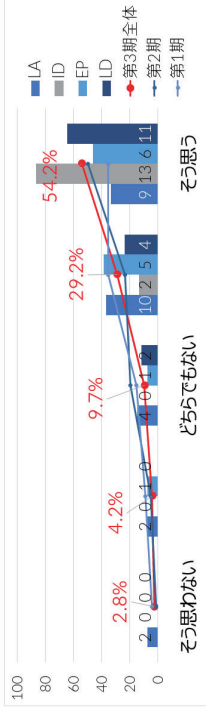
④専門領域別科目の受講を通して、知的好奇心が刺激され、自身の意欲が高まったと思いますか (N=72)



- 86.1%が「どちらかというそう思う」「そう思う」と評価
 (第2期：86.8%、第1期：80.0%)
- 「そう思う」の回答比率がアップ (第2期：50.0%→第3期：59.7%)

4コース共通

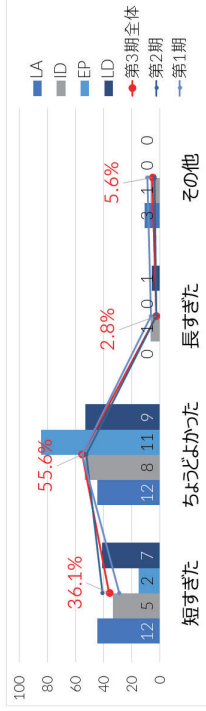
⑤自身の業務経験を活用して各課題について考えることができたと思いますか (N=72)



- 83.3%が「どちらかというそう思う」「そう思う」と評価
 (第1期：71.1%、第2期：73.7%)

4コース共通

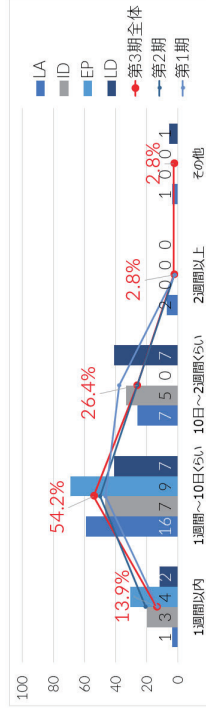
⑥専門領域別科目の実施期間についてどう感じましたか (予習・復習・レポート作成に必要な時間を踏まえてお答えください) (N=72)



- 55.6%が「ちょうどよかった」と評価 (第1期：55.6%、第2期：52.6%)

4コース共通

⑦一学習項目あたりの予習復習・成果物作成のための理想的な学習実施期間はどのくらいですか (N=72)

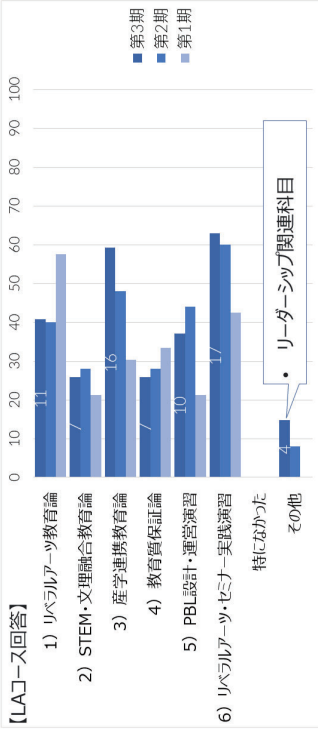


- 理想的な学習実施期間については「1週間から10日間」が54.2% (第1期：47.7%、第2期：50.0%)

専門領域別科目 LAコース回答結果

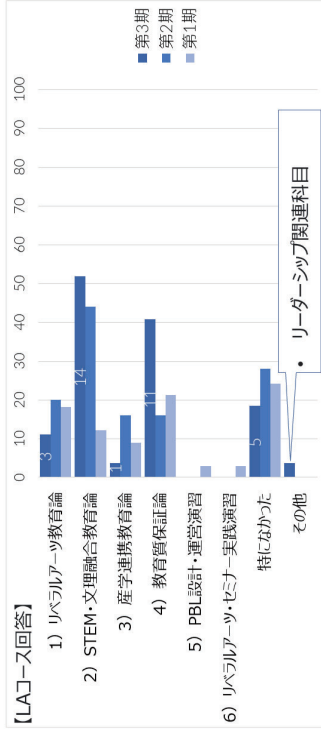
LAコースのみ

⑨特に有意義だったと思う学習項目を挙げて下さい (N=27)



LAコースのみ

⑩わかりにくかった学習項目があれば、挙げて下さい (N=27)



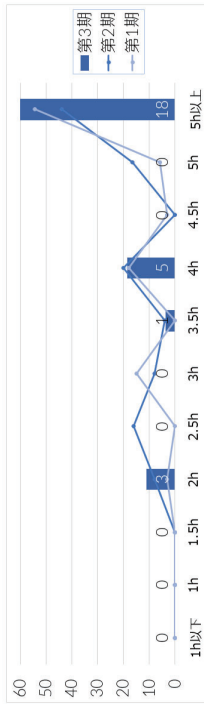
⑪専門領域別科目全体、または各学習項目に関して、ご意見・ご感想等があればご記入ください

[LA]

- 1～4は古いビデオを見るだけ。講師本人にも質問できそうになかったのが残念。
- リアルの授業参観の開催曜日、時間をもっと分散されて開催されると参加機会が増えたかもしれません。対面の模擬授業は何よりも貴重な体験となりました。
- 今回の学びでの一番の成果であるPBL型授業に関し、模擬授業を通じて学生からのフィードバックを得られたこと。そして、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めることができた。
- 受講前から、LAコースの核心は専門領域科目の模擬授業だと思っています。私自身はリベラルアーツ・セミナーの参加者全員の模擬授業に教室参加することが出来て、非常に有意義でした。希望を言えばPBL演習の模擬授業も聴講したかったです。
- 選択項目を使いきれなかったため、期間を延長し全てを必須にしても良いと思う（どれも大切です）
- 折角の機会ですので、模擬授業にももう少し時間をいただけたら良かったです。
- より期間を長く設定して頂き、専門領域における必修科目をより多く指定して頂くような形で充実が望ましいと思います。

LAコースのみ

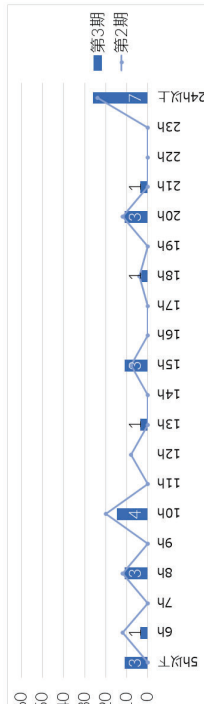
⑧-1.学習項目1～4の学習にそれぞれの程度の時間がかりましたが (平均時間を回答) (N=27)



- 5時間以上かかった回答者が66.7%
- 3時間以内で学習できた回答者は11.1% (第1期：15.5%、第2期：23.1%)

LAコースのみ

⑧-2.学習項目5,6の学習にそれぞれの程度の時間がかりましたが (平均時間を回答) (N=27)



- 5時間以内～24時間以上と個人差が大きい
- 5時間以内は11.1% (第1期：53.8%、第2期：0.0%)
- 6時間以上が88.9% (第1期：42.3%、第2期：100.0%)

と PBL 演習のみ)を10月(汎用的教育力科目と並行して授業参観)、11月(授業参観+複数回の準備講義)、12月(演習準備+プレゼンテーション)の3ヶ月間とする、といったイメージです。LA1~LA4の講義は大学教育基礎力科目のなかに取り込む場合、大学教育力基礎力の中にもコース別(LAコース受講生は必修とする)科目が設定されていても良いのではないかと思います。専門領域別科目では、知識習得科目(LA1~LA4)と実践演習科目(LA5、LA6)を明確に分けて設計されておられるのかもしれませんが、両者の関連性が曖昧(不明確)な印象を受けました。実際に受講はできないかと思いますが、LA5やLA6の実践演習を行うに当たって、ID1~ID3の専門領域別科目が参考になるのではないかと思いますので、LAコースの専門領域別科目に取り入れることを検討して頂いても良いかもしれません(ID1~ID3の演習は汎用的教育力科目のシラバス作成や授業設計の応用編となる内容と理解しました)。

できれば選択科目も含めて、全部受けてみたかったです。それぞれの項目の学習時間が少なすぎました。論文として考えるだけでなく自身が実際に講義をするという前提で考えればもっと学ぶべきことがあったと今でも思えますし、そういう学修項目がさらにあっていいのではないかと思います。

それぞれの科目の関連性やレベルの違いが顕著で「基礎科目に戻ったのか?」と戸惑いました。また、プログラム全体が今後どのように進んでいくのか想定できず戸惑いが大きかった感じがします。

今後の私の研究に直接繋がる勉強ができ、大変立派だった。

一つの項目を理解するため、多くの文献や論文を読む必要があったので知識の幅が広がった。

仕事との関わりで多忙になり、全般的に時間が足りず、常に締切に追われる状況だった。

産学連携教育イノベーターの立ち戻るべき位置は、「産学連携教育論」であるように思います。とすれば、VTR講義だけでは、物足りない感じが否めません。いろんな事例や現状を理解し、議論をする場があると学びも大きく、大いに刺激になると思います。

専門領域別科目を受ける期間は、受ける科目の質や量に比べて時間があまりに足りないように感じました。一つひとつの科目をしっかり取り組みたいと思えば思うほど、そのように感じました。ただ、科目構成の内容としては、充実していると思います。

事前学習の時間が足りずレポートがやっつけ仕事になった。

各科目個々の知識をもっと深めたいと思いました。一時間程度であっても対面講義の場があればよかったです。

実施期間を延長して、「PBL設計・運営演習」と「リベラルアーツ・セミナー実践演習」の両方を受講できればありがたいと感じました。

動画コンテンツは分量・内容ともコンパクトで良かった。他方、とっつきにくいトピックもあったので、もう少し参考文獻があったらよかった。

これまで学んだことがない授業ばかりだったので、新鮮で勉強になりました。

受け入れ人数の問題ではあれど、東北大学で実際に授業をできるということが、魅力ではあったと思うので、東北大学の実践演習の受け入れ人数がもう少し多くても良かったのかな?とは思いました。ただその一方で、私の場合は、スケジュールや事前準備の必要な提出物の時間軸などを踏まえると、どうにも東北大学の方は受けようが無かったので、短期集中型のPBL演習の授業があったのは本当に有り難かったです。また、一緒にPBL演習を受けた受講生と意見交換もしましたが、PBL演習の方がやりやすかったことに近いと言います。

希望する方も多しそうですね。せつかく自己投資をしている分、希望する授業を受けられるような受け皿を準備しておくのが望ましいように思います。希望者数が見えていない立場からの意見にて申し訳ございません。

的外れの内容でしたら、お読み飛ばしてください。

学習項目1-4はとっつきにくかったのが正直なところです。表面的に動画を見ても小レポートを書くまでの内容が作れず、何度も見直し、キーワードを拾いながら自分で調べ直し、ようやくある程度修得出来た、という流れでした。実際のところ、相当ストレスのたまる授業でした(表面的にやれば出来る、という悪魔の誘惑もありました)。それが目的であるというのとは分かりますが、この科目がどうして選ばれたのか、各科目間で

どういった繋がりがあるかなど、全体像がないまま各項目の学習を進めることになり戸惑うことが多くありました。演習科目5-6への繋がりも見えにくいのが正直なところです。

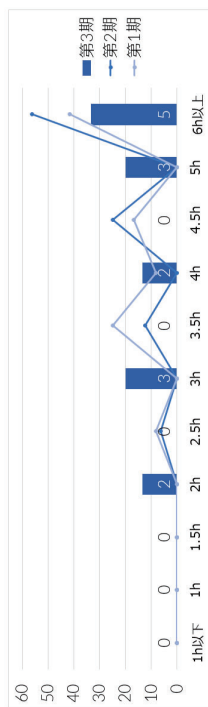
以上でご回答した内容を改めて少し整理してお伝えします。LA1~LA4の講義は大学教育基礎力科目のなかに取り込む、それによって大学教育基礎力科目の学修期間を少し延長しても良いと思います。加えて、現在の大学教育基礎力科目の提供形態は独自学習を進めやすいので、プログラム自体の開始時期を1ヶ月程度早めることもできるのでないかと思えます。

例えば、大学教育基礎力科目を7月、8月、9月中旬までの2.5ヶ月間、汎用的教育力科目を9月中旬から10月までの1.5ヶ月間、専門領域別科目(LAセミナー演習

専門領域別科目 IDコース回答結果

IDコースのみ

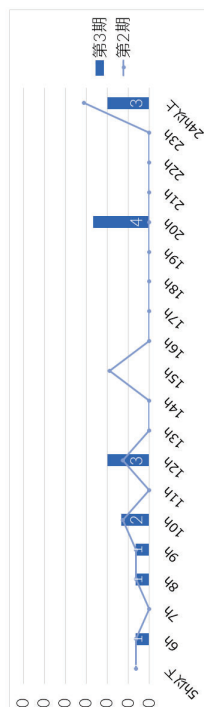
⑧-1. 学習項目1～4の学習にそれぞれの程度の時間がかりましたか
(平均時間を回答) (N=15)



- 6時間以上かかった回答者は33.3% (第1期：41.7%、第2期：56.3%)

IDコースのみ

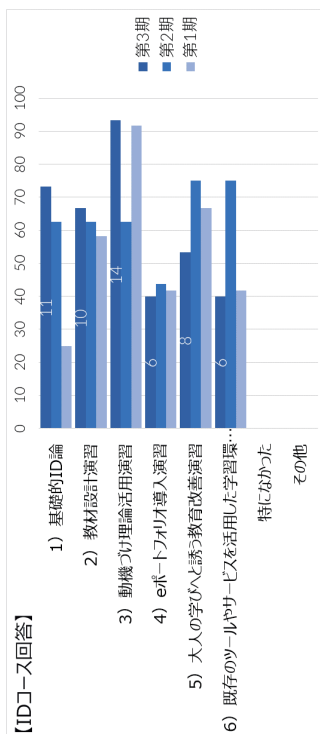
⑧-2. 学習項目5, 6の学習にそれぞれの程度の時間がかりましたか
(平均時間を回答) (N=15)



- 24時間以上かかった回答者が20.0% (第2期：31.3%)

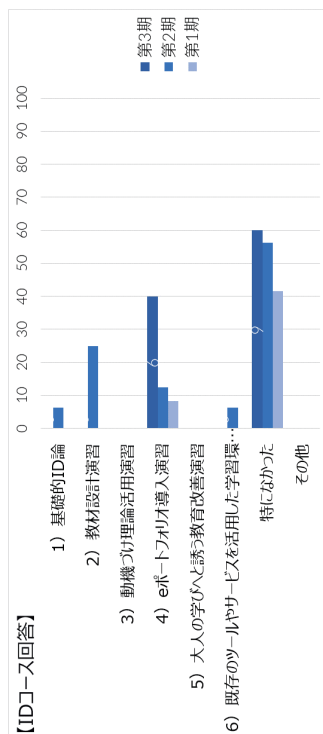
IDコースのみ

⑨. 特に有意義だったと思う学習項目を挙げてください (N=15)



IDコースのみ

⑩. わかりにくかった学習項目があれば、挙げてください (N=15)



⑪. 専門領域別科目全体、または各学習項目に関して、ご意見・ご感想等があればご記入ください

[ID]

- 特にありません。
- 選択するコースによって、キャプズトーンの着地の方向性に違いがあるように思いました。志願者が、キチンと選択できるよう、事前のアナウンスは大事だと思います。(自分自身はコース選択に誤りはなかったと思っています)
- 非常にいいカリキュラムだと思います。私見で恐縮ですが、受講者間の討議は掲示板よりもチャットを使った方がいいかもしれません。掲示板だと、投稿者別に意見が分断されてしまうためです。
- Mahara や moodle 等で、eポートフォリオのフレームワークを作成するような演習があると、大変ありがたいです。今後、eポートフォリオの導入を検討していく上で、実務家教員がeポートフォリオの設計経験があり、説明する素材として、供覧できるような自作eポートフォリオがあるのとそうでないのでは、説得力が違うのではないかと思います。鳥取大学医学部の場合ですと、moodle上にeポートフォリオを載せているようです。(https://www.med.tottori-u.ac.jp/current/3423/4143/) 学習項目6で、moodleを使っ

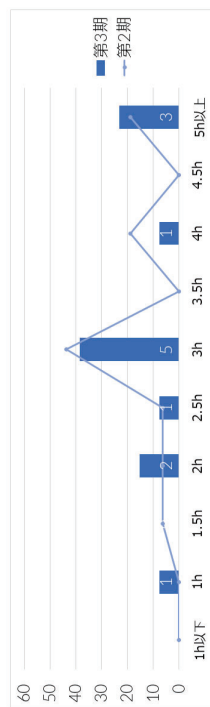
た学習コンテンツが作ることができるのであれば、学習項目4でもeポートフォリオの一部を自作することができるようになります。是非ご検討ください。

- 横断的なスケジュールが、やや複雑でわかりにくかった。実務家教員になるための公募書類の書き方等の授業があればもっと良かった。また、実務家教員になった人の実例の紹介とかあれば参考になったと思う。
- シラバスを繰り返し改善する機会があったのは良かった
- 必修項目の学習にかなり時間がかかり、他コースの「自由選択学習項目」が全く受講できなかったことをとても残念に感じています。
- 学習1～4の学習時間がもう少し長くとれるといいかと思う。
- ニーズに合致したものでした
- 選択の学習項目5も、学びたかったが、同期学習の日が2日とも都合がつかなかったり、他の項目すべての時間をとられて学ぶ時間をつくれなかったのが、とても残念だった
- 学習項目5、6の両方をチャレンジしたかったが丁度業務ピークと重なり今回は6だけに絞った。6の目的がたった後、5に少しとりかかり内容はほぼこなしただが演習まで行えなかったことが残念だった

専門領域別科目 EPコース回答結果

EPコースのみ

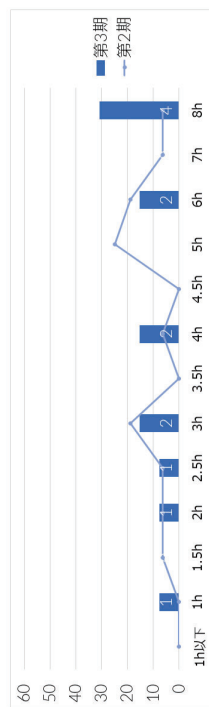
⑧-1. 学習項目1「技術マネジメント基礎力」の学習にどの程度の時間がかかりましたか (N=13)



- 3時間との回答が38.5% (第2期：43.8%)

EPコースのみ

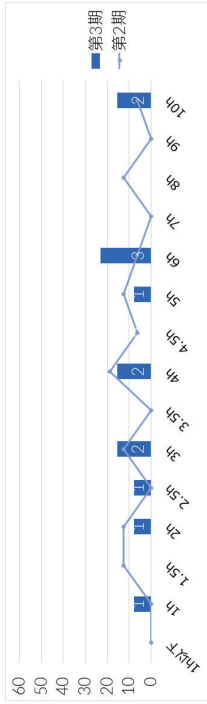
⑧-2. 学習項目2「アントレプレナーシップ基礎論」の学習にどの程度の時間がかかりましたか (N=13)



- 8時間との回答が30.8% (第2期：6.3%)

EPコースのみ

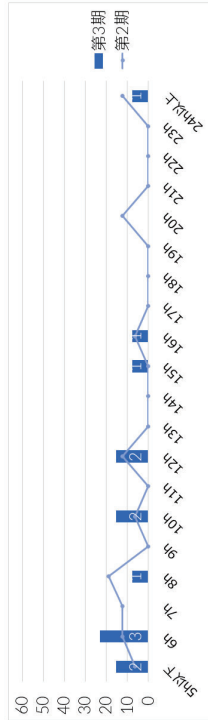
⑧-3. 学習項目3「技術マネジメントコンサルティング演習」の学習にどの程度の時間かかりましたか (N=13)



- 1～10時間と回答にバラつきあり

EPコースのみ

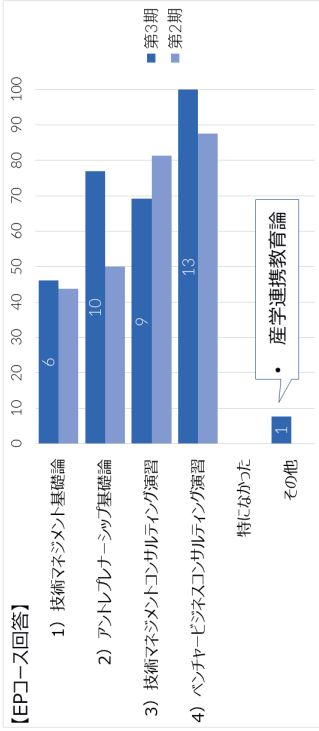
⑧-4. 学習項目4「ベンチャービジネスコンサルティング演習」の学習にそれぞれの程度の時間かかりましたか (平均時間を回答) (N=13)



- 5時間以下～24時間以上と回答にバラつきあり

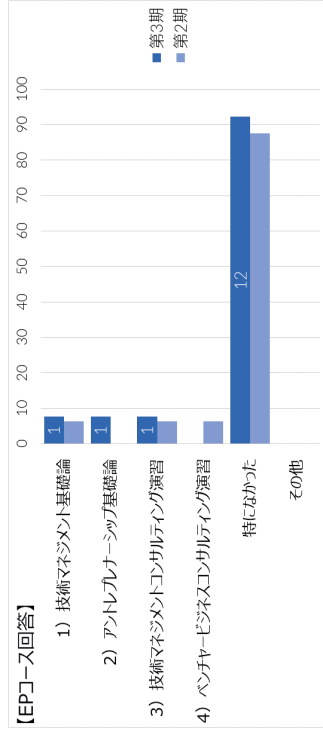
EPコースのみ

⑨. 特に有意義だったと思う学習項目を挙げて下さい (N=13)



EPコースのみ

⑩. わかりにくかった学習項目があれば、挙げて下さい (N=13)



⑪. 専門領域別科目全体、または各学習項目に関して、ご意見・ご感想等があればご記入ください

[EP]

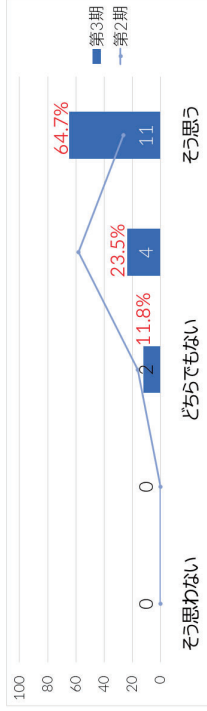
- 感謝感謝感謝！です。驚沢を言うともう少しディスカッションや実際の授業現場での講義を増やしてほしいです。
- やはり、実面での受講がとても楽しかったですし、学びが深まりました。
- EP コースを受講できてよかったです。先生方並びにスタッフの皆さん、一緒に受講できた仲間にご感謝です。ありがとうございました。
- 技術マネジメントに関しては、大学教育における科目なので技術寄りなことは理解しますが、大学生にとって、一般的には、技術マネジメントというよりはサービス開発マネジメントの方が好まれるような気がします。
- 鐘ヶ江先生、広瀬先生とも講義が面白く参考になる点が多かったです。
- 自分にとっては、テーマ・教材・講義、さらに同期生との交流、学生の授業に参加できたこと、など、このプログラムの中で最も有意義な時間で学びが最大となった。
- アントレプレナー育成人材（教える側）を養成する体系としてはまだまだ未完成の印象を受けた。少し古い手法がベースになっていて、時代を先取りできる内容は少ないと感じた。

- たいへん刺激的な時間でした。また受けたいです。
- 鐘ヶ江先生と広瀬先生のバランスが絶妙でした。鐘ヶ江先生はMOTの肝を直球で攻める理論派で、その視点、枠組みを数多くの事例を通して、学ぶことができました。広瀬先生は全てを破壊するかのごとく、次々と我々に問いかけてきて、瞬時に考えさせる。久しぶりに脳みそに汗をかいた気がします。

専門領域別科目 LDコース回答結果

LDコースのみ

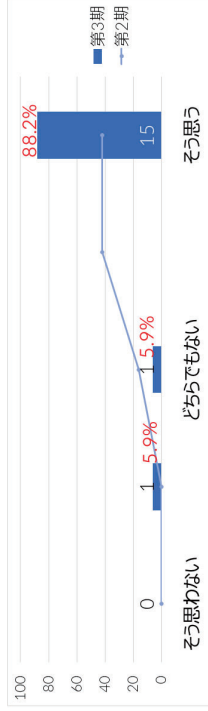
③-b. 事前の動画視聴とオンライン授業を組み合わせて実施する方法・内容について、**自身の理解を深め、見識を広めるために有効**でしたか (N=17)



- 88.2%が「どちらか」というと「そう思う」/「そう思う」と回答 (第2期: 84.2%)
- 「「そう思う」の回答比率がアップ (第2期: 26.3%→第3期: 64.7%)

LDコースのみ

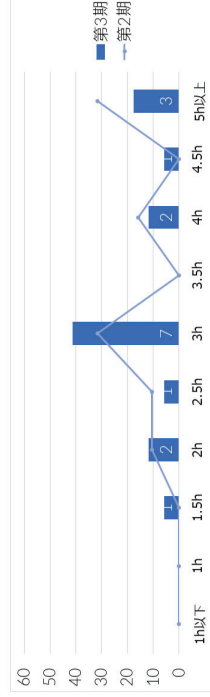
③-c. 各学習項目で提供された動画の内容は、**自身の理解を深め、見識を広めるために有効**でしたか (N=17)



- 88.2%が「「そう思う」と回答 (第2期: 42.1%)

LDコースのみ

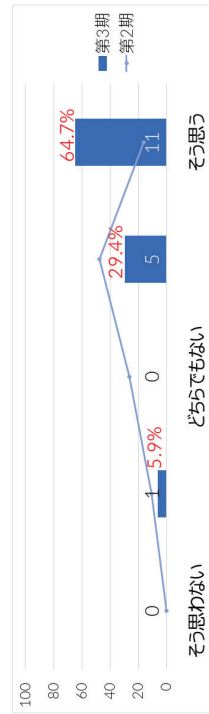
⑧-1 学習項目 1～5、10の学習にそれぞれの程度の時間がかかりましたか (平均時間を回答) (N=17)



- 64.7%が3時間以内と回答

LDコースのみ

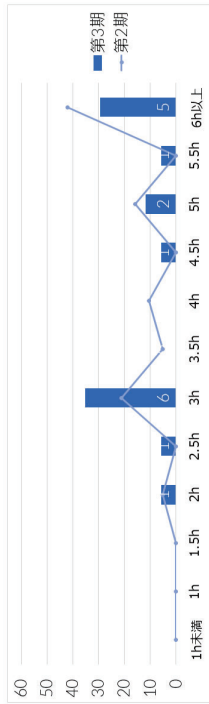
③-a. オンラインにオンラインで実施する授業 (同期型オンラインでの実施) の方法について**自身のニーズに合致するものでしたか** (N=17)



- 95.1%が「どちらか」というと「そう思う」/「そう思う」と回答 (第2期: 63.2%)

LDコースのみ

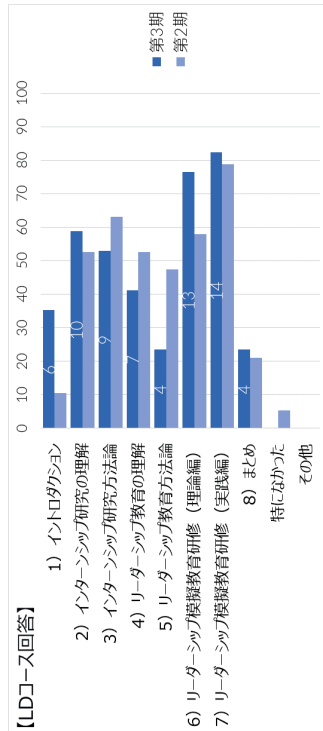
⑧-2 学習項目 6～9 の実践編の準備にそれぞれの程度の時間が
かかりましたか (平均時間を回答) (N=17)



- 47.1%が3時間以内と回答

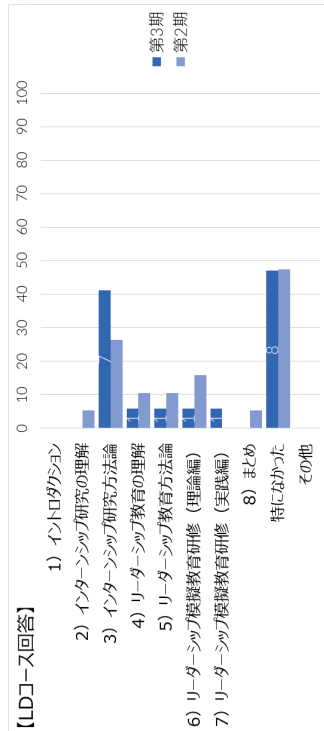
LDコースのみ

⑨ 特に有意義だったと思う学習項目を挙げてください (N=17)



LDコースのみ

⑩ わかりにくかった学習項目があれば、挙げてください (N=17)



⑪ 専門領域別科目全体、または各学習項目に関して、ご意見・ご感想等があればご記入ください

[LD]

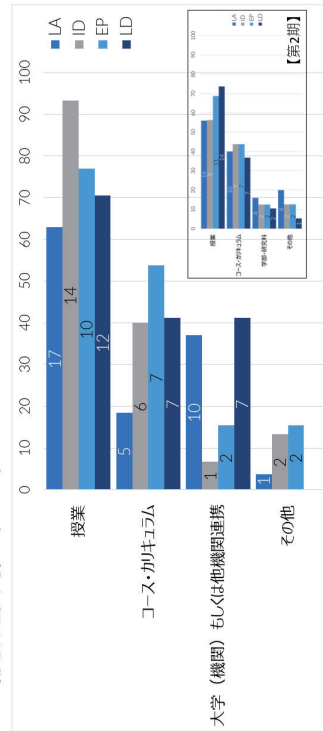
- 特にありません
- 大変学びが多い機会でした。事前動画も非常によく作りこまれていて、何度でも見直したいと思います。模擬授業は、どうなることかと思いましたが、順番が最後だったので助かりました(笑)。先生方が、真摯に授業に取り組んでくださったことで大変感謝しております。
- どの科目も予習、復習、授業の設定がよく、学びやすかったです。実践以外は、どれも2コマずつ、倍の授業時間でもっとじっくり学びたいと思いました。
- 私自身は期待した以上の内容でありました。動画及び参考図書や論文の読み込み+当日の講義+ディスカッション+レポートでの思考の整理や振り返り、と短期集中で取り組めたことは大変有意義でした。リーダーシップについてはこれを機会に集中して学びたいという思いもあり、関連図書の読み込みも含めて、朝晩・週末と時間を費やしましたが、やると決めて臨んだので、質的に大変よかったですと感じています。さらに期待とすれば、毎回の授業をあと30分延長して頂き、先生方とのQA時間をもう少し取れたら学びが深まったように思います。他の皆様のQAも自分にはない視点が学べました。ありがとうございました。
- 全ての授業が初体験で、有意義でした(質問⑨は全てにチェックを入れました)。当初、最も学びたいと考えていた「リーダーシップ教育の方法論」等の内容は具体的で、すぐにも実践してみたいと感じています。また、専門領域別科目の講義で、新たに気づかせていただいたことがあります。それは、リーダーシップ研究や理論についても学び、それらを実践に活用することの重要性です。実践に理論を裏付けることで、より有効なリーダーシップを発揮出来る、また自信を持って実践できることを理解しました。更に、リーダーシップが進化していることも学びました。今後発生する新たな課題に対応するためにも、リーダーシップに関する理解のアップデートの必要性を理解しました。
- 模擬授業は複数回実施できればベターと思います。
- リーダーシップの定義を軸に体系的に学ぶことができ、理解が深まりました。また、石川先生の元氣な授業を受講したことで、さらなる学習意欲が高まりました。いろいろな課題が多いことは十分に分かっています。もう少し対面で受講できるともっと効果が上がった気がします。
- 金先生への質問について、事後に丁寧な回答を頂きました。納得する内容でした。
- 専門領域別科目での大きな気づきは、「エビデンスベース」であることが重要、と学んだ。
- 教育は、査読論文を中心とした研究成果を基に概念を教えることが重要、と学んだ。
- 通常、企業におけるリーダーシップは、業務遂行や役割に応じたリーダーシップである。いわゆる、「役割・職責」として発揮すべきリーダーシップ行動」ともいえる。しかしながら、大学教育においては、その「役割・職責」という前提に立つことができないが、教育機関としての強み・特徴を発揮するという点で、「過去の研究成果に立脚したリーダーシップを論じること」が説得力を持つ(効果性を論証している)。
- この「エビデンスベース」の点は私にとって新鮮な学びであり、今後の知見獲得における重視点にしていきたい。もっとリーダーシップに関する査読論文をたくさん読み取りたいと感じている。
- リーダーシップ研究方法論が特に印象深いです。現代の大学教育の在り方について実践的な理解が得られました。事前学習(任意視聴の動画コンテンツ)と授業後課題が密接にリンクしていて、よくできていると感じました。各講義の事前学習動画はそれぞれ最低でも3回以上視聴していましたが、この一週間は本講義の動画を何時間も見て、たいへんでしたが濃密な学習経験となりました。金先生の熱意と創意溢れる授業が素晴らしいし、私自身も今後見返って行きたいと思います。
- リーダーシップの理論がどのように構築されるのか、実証研究の方法とは、等につき、結局、よくわからなかった。統計的手法の理解が必須なら、その講義も含めるべきではないだろうか。実務家が現場で取り組んでいる内容と、大学で研究者がなされていることとのギャップを感じさせられた。
- 各学習項目への興味が高く、もう少し深く学習するため、時間を取ってもよいのではないかと感じた。

教育イノベーター実践演習科目 受講者アンケート結果 【第3期】

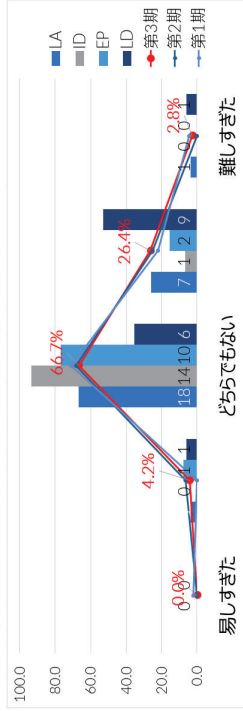
回答者数

コース名	対象者数	回答者数	%
LAコース	31	27	87.1%
IDコース	17	15	88.2%
EPコース	15	13	86.7%
LDコース	20	17	85.0%
合計	83	72	86.7%

① キャップストーン・プロジェクトで構想した取組内容の対象 (複数選択可) (N=72)

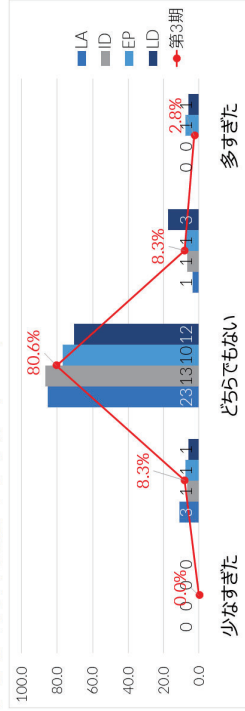


② キャップストーン・プロジェクトの【難易度】は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか (N=72)



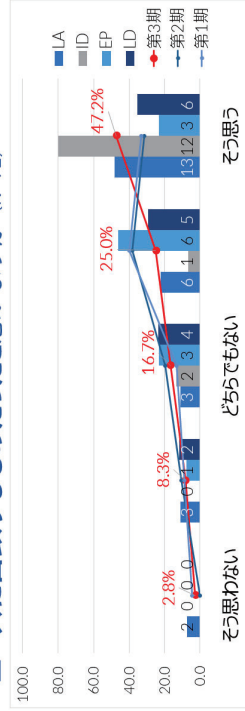
- 66.7%の回答者が難易度はちょうどよいものだったと評価
 > 第1期：71.1%、第2期：68.4%

③ キャップストーン・プロジェクトの【分量】は、自身のニーズに合致するものだったと思いますか (N=72)



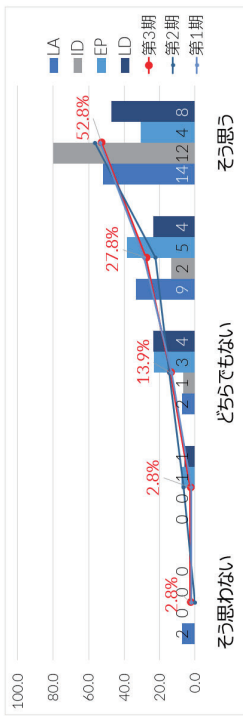
- 80.6%の回答者が分量はちょうどよいと回答

④ キャップストーン・プロジェクトの内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだったと思いますか (N=72)



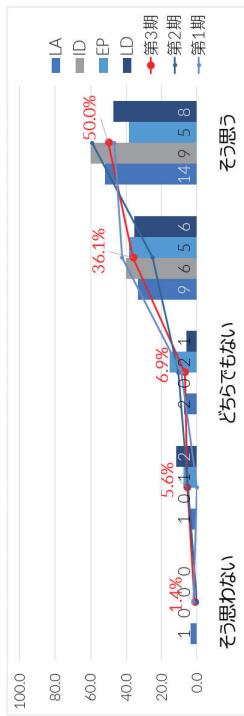
- 72.2%が「どちらかというと思う」「思う」と回答

⑤ キャップストーン・プロジェクトは、学習成果の総まとめとして有意義だったと思いますか (N=72)



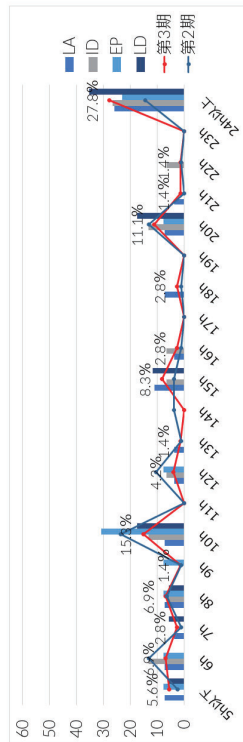
- 80.6%が「どちらか」と思う「そう思う」と回答 (第1期：82.2%、第2期：79.0%)

⑥ キャップストーン・プロジェクトを通して、今後の自身の成長課題を明らかにすることができましたか (N=72)



- 86.1%が「どちらか」と思う「そう思う」と回答 (第1期：88.9%、第2期：84.2%)

⑦ 成果発表会の準備にどの程度の時間がかかりましたか (N=72)



- 5時間以内～24時間以上と個人差が大きい

⑧ キャップストーン・プロジェクトに関して、ご意見・ご感想があればご記入ください

[LA]

- もともと持っていた企画をブラッシュアップすることに大いに役立った。
- 本プログラムの当初からキャップストーンのことを意識して取り組めたことは、本プログラムの学びの過程で大きな道標となり、効果的な学びを得られたように思います。
- 大変だが、練習回数を増やす方がより実践的になると感じた。
- 先に述べた通り、自身はインストラクショナルデザイン演習で設計した授業を押し通してしまっただけで、その時点でキャップストーンでの発表まで考えていなかったため、内容的に浅薄なものになってしまった反省している。また、4日分で見られる発表は視聴したが、コースを問わず、以前から問題意識や行動計画を持っていた方の発表の内容はとて素晴らしいと感じた。特定すればEPコースの及川さん、LAコースの市川さん、LDコースの丸丸さんのご発表で、これらの方は、学習開始当初の意見投稿、授業設計の段階から非常に高度な発言、資料作成をされており、こうした優秀な方から学ぶことが出来たのも、本プログラムの大きな意義と感じている。
- 全員のプレゼン資料を共有してほしい
- 発表時間が10分というのは短いかと思いますが、もう少し長く(20分程度)してもいいのではないのでしょうか？
- 本プログラムの集大成として、対面で実施出来ると良かったと思います。
- 例えば、事前テーマ段階でグループ編成をして、グループでの成果発表にする、というような方法もあるのではないかと思います。一人のリテラシでは、なかなか<成果>に値するレベルに到達していくのが難しい面もあるのではないかと思います。
- 同時進行されているグループのセッションなど、後見することが出来るとうれしいです。
- 可能であればオンラインでなく、リアルのほうが良かったかなと思います。受講者だけでなくどこかに集まって、リアル参加にするとか？ なかなか難しいと思いますが、リアルとオンラインの選択制にするとかご検討いただきたい。
- オンラインとリアルタイムの違いはあるかと思いますが、本プログラムの集大成としては若干の物足りなさを感じられました。
- キャップストーン・プロジェクトを通して、自分の今後の研究目標をもつことができ良かった。他の受講生の取組の気合が素晴らしい。
- 発表時間10分にまとめるのが非常に難しく、学びや構想が伝わったか不安が残った。
- 12月のリベラルアーツ・セミナー実践演習(模擬授業)からキャップストーンの結果発表までの時間が空きすぎて、モチベーションを維持することが難しかった。次回はもう少し間隔を詰めて、早めに修了できた方がいいのではないのでしょうか。
- オンライン指導は確かに有益なセッションで、先生方の時間負担が申し訳ないですが、中間の1回に限らず、もっと時間をかけても良いかもしれません。そういった対話、個人指導が有効な気がします。また、私を取り上げたのは、インタビューセッションの話で、授業内容の構想ではないので、現状の理解のために、実際の大学のキャリアアドバイザーに赴き、実地調査的な活動もしたかのように思います。そこまでの支援・指導がいただけると、もっと良いプログラムになるような気がします。
- 年明けのキャップストーン・プロジェクト全体の流れに際して、他の科目のような「オリエンテーション」があるよかったです。キャップストーン・プロジェクトの趣旨や流れに関する説明をはじめとし、前年度までの好例をいくつかご紹介いただくなどの内容で展開するものです。また、大学においては入学試

験の実施時期等もあり、多忙な状況であるとも言えますが、キャップストーン・プロジェクトの期間が他の項目の流れと比して、少し緩やかすぎないように感じ、間延びしているような印象がありました。

- 教育イノベーションは授業だけではなくカリキュラムや仕組みの変革を通じて達成するのでも良いというところが予め分かっていたら実践演習の内容に囚われずに済んだと思う。
- 成果発表会はぜひ対面で行いたかったです。
- 参観したい発表が同時間で重複してしまい残念でした。後日、受講者限定等の方法で視聴できればありがたく存じます。

ブレゼンの時間が少し身近過ぎた。よって、自身の構想を詳しく述べるのが難しかった。(他方、長いと聞いてくれないかとも思う部分もあります)

これまでの授業で学んだ学習内容を踏まえ、その成果物として自らが企画した内容を企画書にまとめ、それを発表し、指導教授や参加者から指摘やコメントを受けるという授業は、非常に勉強になりました。プログラム全体の総括としてふさわしいプロジェクトでした。

成果発表会の前に、他の受講生の皆様とどんな構想を考えているのか、コミュニケーションの取れる機会があっても良かったかもしれません。PBL 演習を受けた方と、リベラルアーツ実践演習を受けた方とは、プロジェクトの期間中全く交流が無かったように思います。私は PBL 演習を受けた方とは演習を機に仲良くなれましたが、その一方でリベラルアーツ実践演習の方とは接点がないままプロジェクトが終わってしまいました。例えば、夏頃に実施いただいた受講生同士の交流機会のような形で、どんな構想をしているのか

を共有しあう機会を1月中に設けたら、そこで質問をしあう学び合いの時間にもなるでしょうし、受講生同士での質問から気付きや自分のアイデアのブラッシュアップのきっかけやヒントを得られる気がします。また、夏場の交流会のようなセッションを、キャップストーンプロジェクトの合同に開催するのもありなのではないでしょうか。そのタイミングで、前年の受講生に来ていただき成果発表会の様子であったり、資料の準備の仕方などのアドバイスをもらえるような新旧メンバーの交流の機会としても良いかとも思いました。

これまでの学修の成果の集大成として有意義で、発表することで自分の問題意識を整理し、深められたのは良い機会でした。他の人の発表を参照することで自分の課題や問題も見えてきて、本番としての緊張感も伴い、深い学びに繋がりました。達成感が高い一方、これは自分の課題ですが、次の一歩をどうするかを更に悩むことになりました。

(1)プログラムのアウトプットとしては、大別して①自分自身の教育力に関する成果(実践してみたい授業設計の構想を完成させる)、②教育イノベーターとしての変革力に関する成果(実務家として大学教育に提言できる内容を整理する)という2つの方向性があると思います。テーマの取り上げ方に自由度がある反面、幅が広すぎる面もあるので、キャップストーンとしての方向性・位置づけを明確にしても良いと思います。

(2)あるいは、各自が①と②のテーマをそれぞれ1つ考えるようにするとプログラムの趣旨が貫徹されるのかもしれないと感じました。自分は②のテーマを取り上げましたが、他の方の発表内容を視聴して、①のテーマを取り上げた方がプログラム受講の総仕上げとして有益だったかもしないと思います(12月に実施した演習を出発点として完成形にする位置づけにできるので、自分自身の頭の整理として有効であるだけでなく、自身で実践に活用する参考にもなりますので)。(3)一般公開された発表会となっていたですが、各セッションの一般視聴の参加人数はどの程度だったのでしょうか。キャップストーン・プロジェクトの発表を本プログラムの成果として、対外的なPRに利用する趣旨があるのであれば、発表会の設計(テーマ設定、開催時期や開催方法、事前広報のやり方)を工夫すると良いのではないかと感じました。例えば、他の3拠点で実施されている産学連携共同人材育成プログラムの実施校との相互開催にする、本プログラムの運営校の中で積極的にPRし、大学内の一般参加者を増やすことで、将来、実務家教員の活動領域

大に資する端緒とする(せめて、東北大学内ではもう少し注目されて欲しいと思います)、発表テーマを予めいくつかの分野・項目・内容に絞って受講生に提示し、テーマ別に発表会を構成する。(4)(キャップストーン・プロジェクトの資料をLAコース内で共有して頂けることになりましたが、)本プログラムの成果報告書の別冊としてまとめ、本プログラムの受講生(過去、将来の他年度の受講生を含む)で共有できるようにするのにも有益ではないかと思えます(他の受講生のアイデアを応用・発展させて、更に良いものが出来る可能性があると思います)。

[ID]

- 他の方の発表も聴くことができ有意義だった。
- オンラインのブレゼンという貴重な機会を得ることができ、よかったです。
- 如何に短時間で言葉で伝えるのが難しいかを構想しました。
- いい取組だと思えます。
- 自分の発表内容の分量からすると、10分間の発表時間はかなり短かったので、かなり端折った説明になってしまっていて反省しています。仕事があり、別日程の方の発表が聞けなかったのが残念です。逆に、別日程で発表された方が関心を持って聴きにきてくださったのは大変ありがたかったです。
- キャップストーン・プロジェクトの意義を、もっと説明して欲しかった。質問を同期の授業でしたが、途中で遮られてしまいました。
- 新しい構想が必要かと思っていたが、他の人は授業での取り組みをまとめた人も多かった。要件には新しいと書かれていた気がしたので、解釈を間違えたのでしょうか。

プログラムを通じて学んだことを踏まえて、実務家教員として何が出来るのか、またどのようなことをやりたいのかを深く考えさせられました。又その一方で、教育者としての未熟さを痛感し、もっと自己研鑽に努めなければいけないと感じました。

先生の事前指導も含め、全て有意義であった。また、発表会での受講者同士の意見交換が非常に充実し、楽しく、終わるのが非常に残念に思うほどであった。発表会を最後だけでなく、中間時に1度実施するようなことがあっていいかと思う。

- 個別指導以外の学びがあるとよかった
- 学習の到達点であることととても実感できるもので参加できてよかった
- ブレゼン資料が最終まとめ資料となっていたが、レジュメとブレゼン資料の構成にすると、ブレゼンは比較的ブレゼンに特化資料とすることができ、レジュメは詳細を記述することができたように感じます(その分、作成は大変になります)

[EP]

- 特にごさいません。
- 二回くらい指導機会が欲しいと思いました。一回だけだとちょっと物足りない印象です。
- オンラインではなく、実面で一堂に会して実施すべきであると思いました。
- オンライン指導の機会が複数回あるとよかったですと思います。もう少し、皆さんの意見を聞く機会が私には必要でした。
- 適切な指摘を先生から頂けたことで、大変有意義でした。自身の都合によるのですが…他のメンバーの発表を聞けなかったことが残念でした。

- 時間はどれだけあっても足りないもの、やりたいことをどうやるのか？など途中で質問したいことが多く、オンライン実習以外にも期間中、質問などがやりとりができることより効果的な精度の高い発表ができるのではないが、全体としては、一つの集大成としてまとめることができたので良いプロジェクトだと思う。
- 事前指導は短い時間ながらも大変有意義でした。ID指向性を強調するならば、汎用科目に入る前に、自らの構想をプレゼンする（=志望書類をベースにした5分程度のピッチ）をしてから、最後にもう一度、それをブラッシュアップする手法が良いと思う。
- 面白かったです。仲間のプロジェクトはとても刺激的でした。
- 昨年度の発表をアーカイブ配信で観れると大まかに制作物が把握できブラッシュアップが毎年期待出来る。
- 集合対面でプレゼンする形式でやってほしかった。

[LD]

- 特にありません
- インストラクションが少なく、かなり迷いました。オンライン指導でいぶ修正できましたが、オンライン指導から発表までの期間が短く少し大変でした。
- 事前相談が数回欲しかったです。また、石川先生ともしたかったです。専門科目が終わってから、キャップスタートの間に、もう少し学んだことを振り返る時間、キャップスタートについての意見交換ができる場が数回欲しいと思いました。
- AIBET 全体を通しての学び、実務家としての経験を活かすこと、さらには教育イノベーターとしてのようなことを考えるのかということ、総合的に問われました。この思考プロセスが大変学びとなりました。事前指導会にて山口先生・折戸先生からのアドバドバイスの大変役に立ち、発表内容に加え、自分自身の思考や心の癖にも気づくことができました。事前指導会の手前で、構想検討会のようなものがあったかな、とは思いますが、事前指導会以降は、根本的な手戻りはできない時間軸なので、構想レベルのラフ案で皆さん及び先生とディスカッションをする機会があれば、視野が広がったり、自分の思考を深めるきっかけができたように感じました。
- コースで学んだことを活かして、実務家として、という割には大学経営や要望に沿うようすることを求められ過ぎていたと感じました。結局変わらないのはどこなのか。変わるべきなのはどこなのか。それまで学んできたことと、最後の発表とその講評とどうつながって意味が出ているのか、私にはうまくイメージできませんでした。力不足ですみません。
- 「授業」の構想には本プログラムでの学びを、「プロジェクトや他機関連携」の構想には実務家としての経験を活用することが出来たと考えています。途中かなりの苦労がありましたが、結果的には楽しくまとめることが出来ました。
- 発表時間は15分は必要かと思えます。また、聴講者は実質的にコース受講者主体になるとは思いますが、外部聴講者(特に他大学関係者や協賛企業関係者)にアプローチして増やす必要があるのではないのでしょうか。
- オンライン指導は事前には的確なご指摘を頂くことが出来ましたので、大変有効だったと感じています。
- 非常に有意義なプロジェクトでした。最初は何をやって良いのか分からず戸惑っていましたが、それまでの学びと自分の思いを融合させることで(レベルはさておき)何とか終えることが出来ました。途中の山口先生の指導や、折戸さんのアドバドバイスがとても参考になりました。
- 最後の作りこみで、実務家としての思いと学生のニーズや関心を高めることへのギャップを埋めることや葛藤がありました。授業やフィードバックを通じて実務家の視座が一方的にならないように多くの示唆が

あったことを感じました。もちろん大切なことと思う一方で、やや大学側が学生に寄りすぎているのではとも感じました。当初考えた実務家として学生に伝えたい構想がありましたが、今ふりかえると多少軌道が変わったなと感じております。ただその良し悪しの評価は別として良い学びになったことは確かです。偏差値だけでなく、大学ごとに特徴を出して学生に選択してもらうことに力を注ぐことはとても良いと思います。立教のリーダーシッププログラムは成功例とあらためて感じました。

- もっと早くに取組内容の対象を決定すべきであったと思う。どうしても様々な迷いがあり、準備・内容構成・資料作成に遅れを生じてしまった。結果、再修正に多くの時間を費やしてしまった。(反省)
- 私にとってはとても良い経験だったと感じている。大学教育にもっと「リーダーシップ」のカリキュラム導入が必要、特に、大学以外のステークホルダーとの交流・対話・連携が今後非常に重要、との思いを形にし、多くの方々に見ていただくことができたことは大きな成果だったと考えている。一方で、その内容が果たして大学教育の実情に合致しているのかをあまり確認する術を持たず、不安を感じながらもブレゼンをしたことは事実である。山口先生からのフィードバックは少々伺ったが、より多くの大学関係者からのコメント・フィードバックをいただくと実感が高まるのだろう。
- 自分にとつての現状の課題が浮き彫りになる取り組みでした。事前指導も含めまして、他の受講者の方の発表と質疑応答がとても勉強になりました。山口先生の発表者へのフィードバックにより、個々の発表内容がより理解できて、すごいと感じました。本プロジェクトの取り組みを通して、自分はまだまだ実力不足、経験不足と痛感しました。
- オンラインでの事前指導に、他受講者の参加を必須にしたら良いのではないかと、思った。自分の場合は、そのことによって多くの学びがあったし、逆に、自分のパートだけ向き合っている、ヒントも展開も得られなかったと思う。もとより、このプロジェクト課題は、何をやるべきなのか、漠然としすぎていて、受講者は戸惑っていると思うので、有効な指針を何らかのかで与えるようもっと工夫したほうがよいと思われる。
- オンライン指導は、事実上完成版のリハという位置付けなので、そのままに構想の意見交換、指導のようなカリキュラムを挟んでいただくと、より寄り添う印象になると感じた。

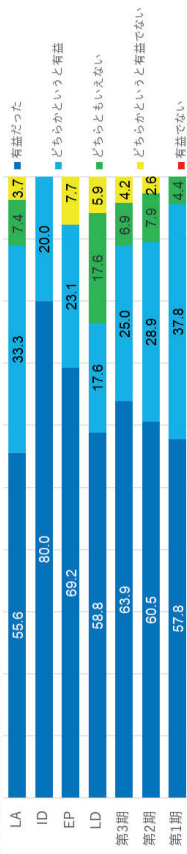
プログラム全体に関する 受講者アンケート結果 【第3期】

回答者数

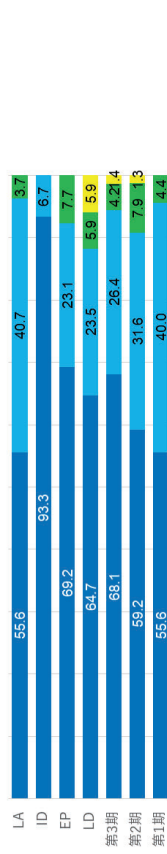
コース名	対象者数	回答者数	%
LAコース	31	27	87.1%
IDコース	17	15	88.2%
EPコース	15	13	86.7%
LDコース	20	17	85.0%
合計	83	72	86.7%

①-1「学びと社会をつなぐ学生の大学教育への動機づけを高め、社会をリカレント教育へ引き付ける教育者を育成する」というプログラムの目的に対して、それぞれの科目はどの程度有益でしたか (N=72)

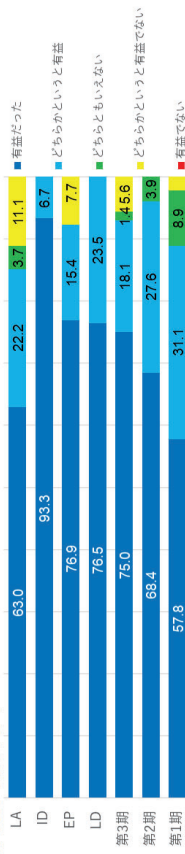
大学教育基礎力科目



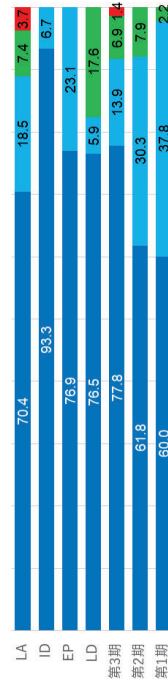
汎用的教育実践力科目



専門領域別科目

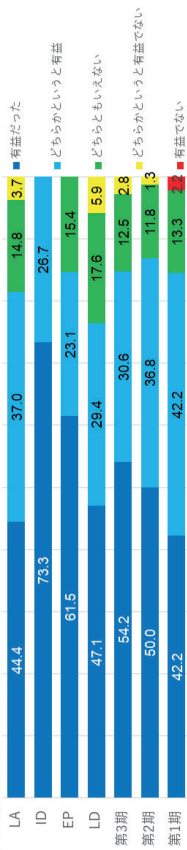


教育イノベーター実践演習科目

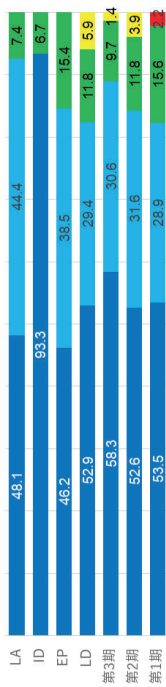


①-2「実務経験に基づいた実践知と、これに関連する理論・方法論など普遍的な学術知とをブリッジし、両者の対話・循環による相乗効果を目指す先導者を育成する」というプログラムの目的に対して、それぞれの科目はどの程度有益でしたか (N=72)

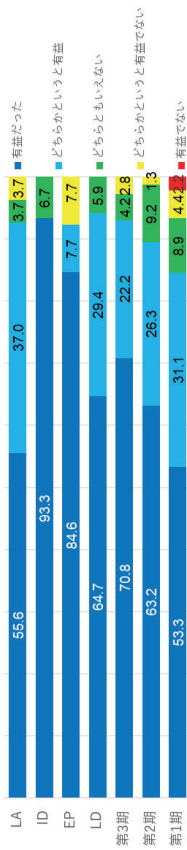
大学教育基礎力科目



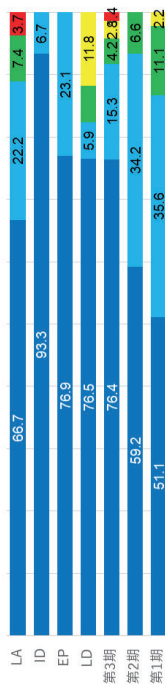
汎用的教育実践力科目



専門領域別科目

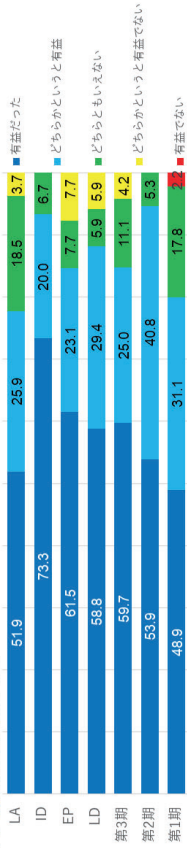


教育イノベーター実践演習科目

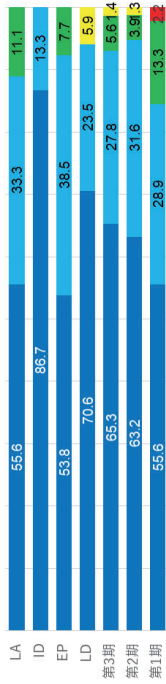


①-3「学生・受講者が学ぶことに焦点を置いて学習活動を効果的に促進し、学修成果の獲得・向上を実現する教育をデザインし実践できる変革者を育成する」というプログラムの目的に対して、それぞれの科目はどの程度有益でしたか (N=72)

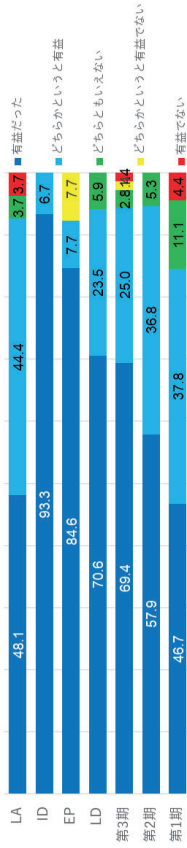
大学教育基礎力科目



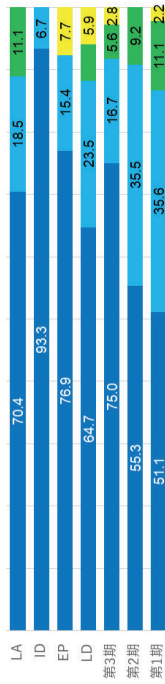
汎用的教育実践力科目



専門領域別科目



教育イノベーター実践演習科目



②本プログラムを受講して、ご自身のこれまでの教育観・価値観や行動について、変化や明確化が図られた点についてご記入ください

[LA]

- 今までは、講師が話す量の方が多かったが、それは学生主体ではなくなる危険があることに覚醒を得た。
- これから向かおうとしている教育のあり方について知識レベル、実践レベルの両方で考えることができるようになったことが大きな変化でした。受講前の教育観は30数年前の段階から止まったままだったことが今では、恥ずかしいばかりです。
- 教育者は学修主義に基づきプログラムを構成する必要がある点を学びました
- 実務家教員を目指す上で自分のレベル（授業・プレゼンのみならず、学術的に）がどの程度なのかを知る上で非常に参考になった。また、リカレント教育としても非常に有意義であり、そういうプログラムがあったも良い。
- 自身の中では「勉強しないのは大学生ではなく、社会にいる大人だ」と考えが変わった。コロナ禍の前には「働き方改革」、コロナ後には「テレワーク」が当たり前になり、企業は「ホワイト化」へという社会的な変化が起きている。その中で、若い世代は自分のキャリアを真摯に考え、旧世代の一生同じ仕事・同じ会社で働くという方向から、求める能力の開発と求められる能力が発揮できる場で働く方向へとシフトしているように感じる。自身が勤務する会社でも「優秀な」若手社員が流動化している事実がある。産学連携教育イノベーターとしての実務家教員は学生たちに「大学の名前で生きていける＝18歳ピーク」の社会は終わりを告げていることを知らせる役目があると感ずる。そして、大学の勉強が社会で生きる力となり、社会を作る基盤となることを、伝えていくべきと考え。
- 自身の学びを実現する手段として、大学院へ進学し、内部から提案していくこととした
- 受講前と後では、実務家教員としての期待役割が明確となり、やるべき事が明確になりました。
- 自身の考えが明確に言語化され、行動の礎となったように感じています。
- 学修者主体の学びのために教壇の賢者から支援者の立ち位置をとる、という概念について、そうあるべきだと深く共感しました。
- まずは、自身が本コースを希望した「大学教員を目指す」という単純な理由であったものが、「教育」についての理解が深まり、自身の潜在的な社会における問題意識が顕在化された。その社会問題を今後どう考え解決していくかを「考え行動できる人材育成」のための実務家教員としての役割を理解することが出来た。また、「リベラルアーツ教育」の歴史や大学の背景など様々な学びにより、大学教員、実務家教員のバックグラウンドの影響や奥深さを知ると同時に、現在の実務以上のコミュニケーションやチーム連携が必要であると気づくことが出来た。短時間で、自身に全くなかった知識と情報量が未だ処理できていないため、これからアウトプットしながら自分の物にしていきたい。
- 私自身の学びについては事前に想像した以上のものが得られたと思います。細かく書くとながくなるのですが、キャリアブトン・プロジェクトでも話をした通り、現在の教育界や大学の教育現場の端的な事例を見ることができただけでなくかなり有益でした。
- 自分自身の専門分野のみならず幅広い知識や様々なノウハウを身に付ける必要であると感じました。
- 自分の知識領域を広げて深めることができた。自分の今までの勉強の仕方を大学の研究方法へと高めることができた。最近体力の衰えを理由に就寝時間が早くなってきたが、まだまだ遅くまでやれることが分かった。
- 教育することの意味や難しさ、学び続ける意味や必要性を明確に第三者に説明できるようになった。

- 自分が大学を卒業してから時が経過していたため、近年の大学教育の状況がわからなかつたため、最新の情報は役立った。
- 大学のことを知らない自分に気が付いた。さらに、大学の仕組み、そこから発展して、民間企業との思考の違いなどを認識することができた。自身の思考が、平行線の2つの世界をどのように繋ぐことができるかにシフトすることができた。大きな意識の変化であり、具体的なアクションへ近づいた気がします。
- Moodle内におけるコメントをし合うことや演習のデザインなどを通じて、常に「リアクション」することを基本として進められたことに大きな学びがありました。「リアクション」することの大切さを認識したことで、これからの学びへも有用なものと思えます。
- 教育観や価値観は時と共に変化するので常に自身のアップデートを怠らないことが時代に取り残されない唯一の手段であると自覚した。
- 大学等、高等教育現場の状況
- 大学組織内部の文化を知ることができたことは大変有意義でした。
- 大学教育（学部教育）が自身が受けた時と較べて、大きく変容していることへの理解。日本の高等教育を国際比較を通じて相対化することの重要性。
- 産学連携の必要性は以前から言われていることですが、なかなか具現化されていない印象がありました。本プログラムを受講し産と学の間にあるギャップに改めて気づき、大学として本来の存在意義やあるべき姿について深く考える機会を得ることができました。また、リベラルアーツについては、これまでの社会人経験の中でその重要性を感じていましたが、本プログラムの授業を受け、再認識することができました。
- 教育現場においては、学生と学び合い、お互いに高め合っていく関係性が大事であることを学びました。漠然と、教育者は教えることがベースにあるということを考えていたのですが、学生が何ができるようになるかを考えながら、学生が自ら学びたいと思えるような、ハートに火を灯せる存在になりたいと強く思いました。また、実業における経験を持っているからこそ、その経験を大学教育において活かすこともできるという手応えも得ることができました。まずは小さくとも大学教育に関わって行けるよう引き続き大学へのアプローチを行なっていきたいと思います。
- 漠然と教育に対する関心がある程度であった自身の問題意識が、様々な学修や議論を通じて体系化し、明確化されていく実感がありました。同時に自分がやりたいことは本当のところ何なのか、実際に一歩踏み出す意思があるのかなど、様々な現実的な課題も感じ、このプログラムを終えて一気に教育界に踏み出すというよりは、ここで得た学びを日常生活・社会業務を通じて再度整理しながら自分のキャリアを考えていきたい、という思いになったのが正直なところです。本プログラムに申し込んでいなければ気が付く機会すらなかった、教育論や授業設計といった知識のみならず、今の高等教育に実に多様な問題が山積みしていることに気付いたことも大きい経験でした。また一人の学生という立場で授業を受け小論文を書き仲間と議論するという行為そのものが新鮮で、学ぶことの楽しさと同時に自分の今後の人生を改めて考え直す機会になりました。(1)実務家教員を目指すに当たって、大学に採用される機会を増やすためには、自分自身の研究実績（学術誌への論文の投稿）を少しでも多く積み上げないといけないという意識を強く感じましたが、（研究実績という観点では現役の大学院生・ポスドク・教員の方には及ばないで）実務経験とその実践知・経験知を教育に活かすことができるという“実務経験者＋教育者としての強み”をどのように磨いていくのが重要だと考えるようになりました。(2)約10年ぶりに大学のコースでの教育プログラムに参加し、改めて学ぶことの楽しさを感じることもできました。また、いわゆる大学教育に関する理論や実践、大学教育を巡る現状や課題について知る機会が無かった（自分から積極的に知ろうとする意識が生まれにくかった）ので、大学教育について大きな広い視点で理解し、問題意識を持てるようになったことは大きな収穫だったと思います

ウロコの出來事でした。学ぶことの楽しさを知らないままに、数々の試験に追いつかれていた医学生の中に「牢獄に居るようだ」と表現する人もいます。自分自身は独りでも仲間とも学ぶことが面白いのですが、その楽しみを学生達に是非味わってもらいたいと思います。また、中には留年を重ねて放校処分になり大学を去っていった学生や放校が決まった日に自宅で縊死してしまったり学生もいます。彼らの顔を思い浮かべると、自分には当時もってできている患者さん達や家族などの周りの人から本学出身であることを馬鹿にされてしまったら、自分の診ている患者さん達や家族などの周りの人から本学出身であることを馬鹿にされてしまったら、最後に本人の努力で得た診療能力そのものを疑われてしまったりする卒業生の医師達も心気さの毒でなり返る。逆に、能力獲得が不十分なままの大学の医師を現場に送り出してしまったことで、その診療を受けざるを得ない患者さん達にも何かしらの迷惑をかけているかもしれません。また、これまでは本学の教員(大学幹部)の教育方略を改めようとし、その様式が全く理解できずして。しかし、本プログラム(ム受講の合同)に様々な本を読み漁ったところ、典型的な日本の組織では、意思決定が「科学的根拠」によるのではなく「空気の判断」で行われることを知りまし。その場を支配する「空気」に水を差す意見(問題提起)を出す者は「空気を読めない」人という扱いをされがちです。また、「都合の悪い現実」は、集団全員で「なかったものとして無視される」ことになり。都合の悪い現実を無かったことにしている実例としては、①本学のHPには医学科の国試成績がきちんと掲載されていないこと、②例年「成績不振はいたしかたない」という付度の文言が同門会誌のコメントに記載されていることなどです。本学の国試成績を「身内の恥」としか捉えられないと、「できるだけ隠そう」という行動にしかありません。しかし、「教育は社会基盤(インフラストラクチャー)である」と視点を換えてみることでできれば、本学に山積する教育課題は「社会基盤の整備のために今後解決すべき課題」として客観的に捉えられます。本学には時代の変化に合わせて「自ら変える力」が圧倒的に不足しています。学外出身の教員達のうち問題意識を持つ人たちが、本学の有り様を客観的に見つめることができ、本学を変えようとする力(動機)になり得るのではないかと考えました。その中心に自分があり、これらの人たちの役に立つことが、社会貢献に繋がります。本学の教育をきちんと整備して「自頭で考え、生涯学習を続けられる」人材を世に送り出すことは、結果的に地域社会への貢献に繋がります。また、上述のステークホルダー達から不満を言われることも多々あるのですが、プログラム受講を通して、自分自身はやはり人と関わることが好きだし、一人一人の成長ぶりを共に喜ぶことが心地好きなのだと思分分析できました。ところで、リーダーシップ開発で学んだ「ジョハリの窓」は、自己の捉え方の4象限のことです。ジョハリの窓の象限に沿って、本学の問題を「明らかになっていない/なっていない」に分類した場合に、「秘密の窓(自分自身は知っているが、他の教員が気づいていない、本学の問題)」に当たる部分を可視化し、これを改善するための現実的な方策を提案し実行していくことが「新たな知の発見/創造」つまり実務家教員としての自分の「研究」であると考えました。これまで本学には実務家教員がおらず、秘密の窓を可視化する作業をしてきませんでした。したがって、本学には医学教育の改善という手付かずの「研究分野」が存在していることに気づけました。ビジネス用語で、競合者がまだいない未開拓の市場を「blue ocean」と言いますが、本学のblue oceanは「改善の余地の大きいある医学教育」です。自分のもつアイデアで教育実践できている学内の教員がまだまだ少数しかいないので、本プログラムで学んだ、学習の効率・効果・魅力を高めるための理論に基づいた提案を行いながら、広大な研究分野を自ら開拓していきたいと考えています。発表会で河中さんから頂いた質問に十分な答えができていなかったのですが、医師の自分にとっては「自分が介入しないか非常に悩ませる症例」は実はあまり面白くないで、「どうやって診断して治療したらいいのかわからない」と非常に悩ませる症例の方が面白くないで、後者の方が「治療介入する意義」がありますし、無事に治療し終えた時にとってもやり甲斐と達成感を感じられます。本学の医学教育を変えるために、解決すべき課題の解決(実務家教員としての研究)に取り組むことは

た。(3)「学生に教えること」と「自分が学ぶこと」が表裏一体であるという感覚が以前よりも強くなったので、以前にも増して大学教育に携わりたいという気持ちが強くなりました。また、自分でも不思議に思いましたが、従前から自分自身がイメーজしている授業設計や研究室運営を自分が実践を通じて発展させていくということに留まらず、学部学科や大学といった大きな組織の中での改革・変革に貢献できるような活動に主体的に参加していきたく思っています(実務家教員と研究者教員の連携組織の運営)もしてみたいと思っています(そうした活動を行うことが学マネジメントに関わるということかも知れないと考えました)。(4)一方で、本プログラム終了後の自分自身の具体的な活動プランは、相変わらず具体的な見通しが全くないので、大学教育に関わるまでのロードマップを描く次のステップを考え、見つけていくことが自分自身の課題であるということは改めて実感します。

- 理論的な教育体系を学ぶことができた
- Active learning を学べた

[ID]

- ティーチングからコーチングに切り替えられたこと。
- 教えない授業、主体的な学びへの誘導の仕組み方、参考文献、先導者の存在を知ることができた。
- 自身の課題、特に若い人への伝え方を改めて学ぶことができた。
- 授業設計と学習評価の関係について、これまで間違っていたことを気づくことができました。私は授業設計をしてから学習評価を設計するものだと思っていたのですが、逆だということを知りました。確かにビジネスの世界でも、経営の達成目標であるKGIを設定してから、KGIに近づいているかどうかを評価するKPIを設定し、施策を考える流れに変化しています。分野は違いますが、同じ概念なのですね。
- プログラム受講中は、医学部というガチガチの前例主義組織の中で、教育改革に率先して手を挙げる(=火中の栗を拾う)ことの自分にとってのメリットとリスクをひたすら自問自答していました。「火中の栗を拾う」お話を元にした、ラ・フォンテーヌの寓話のように、「そうせざるを得ない状況に追い込まれる」こととはあると思います。しかし、自分にとっては、他のラクな選択(自分にとって楽しいことだけを選んで仕事をやる)が存在している中で、あえて「火中の栗を拾っていく」ことをかなり逡巡しました。本プログラムを受講したことで、自分が人生の中で本当にやり遂げたいことは何なのか、つまり「本学の医学教育の改革をどうして実現したい」が明確になったことが、自分にとっても大きな変化だと思いました。(プログラムの応募書類には「今後も教育に携わりたい」と記載しておりましたが、そこまで強固な意志ではなかったように思います...) キャラップストーンプロジェクトでご紹介したメンバーのほとんどは、以前からアクティブラーニングを共に細々とやっていた同志や上司たちでした。しかし、本プログラム受講中に「ARCSモデル」の練習のつもりで、学内で科研費獲得の取り組みについてプレゼンした際に、その場に居合わせた教授からお声がけをいただいて、新規プロジェクトの立ち上げに関わることに繋がりました。普段は全く接点のない部署の先生でしたので、本プログラムののおかげで、新たなご縁をいただいたことに大変感謝しています。これまで自分が良いと思ったことを色々と学内で提案したり、オンライン実習中の学習意欲や学習の質の低下を懸念して、臨床実習中の学生向け学習コンテンツの作成などを率先して行動したりしてきたのですが、実質的に本学の「実務家教員」として機能してきたのだということに、本プログラムを受講している途中で気がつきました。おかげさまで、本学の惨状を打破するには、学内の誰も手がつけてこなかった仕事(教育の改革)に自ら着手するしかないという心構えができました。私は世の中の人の役に立つために医師という職業を選んだのですが、身近に居る本学のステークホルダー(学生、卒業した医師、地域の患者さん、学内の教員など)が、実は一番困っている人達なのでは?と気づけたことは、目から

「大変やり甲斐のある治療介入」だと思っています。何とか熱傷を受傷せずにおいしい票を取り出せれば良いですが、多少の熱傷は覚悟して、諦めずへこたれずにやっていたいと思います。組織全体と上述のステークホルダー達の主体性を引き出し、よい方向に変化させることができれば彼ら自身がhappyになりますし、かつ自分の人生の満足度も上げられるような「三方良し」のやり方を頑張って追求してみます。これまでのご指導ご鞭撻下さり、誠にありがとうございます。今後とも引き続きご指導どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 学習者の個性をしっかり見る、聞くこと
- 実務ベースで大学の授業ができることができると実践した。研究実績について、これまでの実務経験とどう結びつけたら良いか、アドバイスが欲しかった。
- 効率的であり、学生が主体であること。
- 高等教育の在り方が「教員が何を教えるか」よりも「学生が何を学び、何ができるようになるか」といった学習成果を重視する形となる中で、基礎からの積み上げ式で教えるのではなく、実務レベルの応用問題から取り組む様式やアウトプットを中心とした授業設計を行うことで学習者が目標とする知識やスキルの習得が可能となることを学びました。
- 過去を省察して、未来に繋げるための大人の学びに対する気付きを得ることができました。主体は学生で、動機付けに力点を置くことが重要だと理解して行動することができるようになった。
- 受講前では考えていなかった多くの気づきを得ることができた。IDを学ぶことができ、本当に良かったこと心から感じている。ありがとうございます。
- 設計を自身の手で行い完結したことで自信になった
- 「教えたい」よりも学習者の支援者になるという自分の姿勢
- 「教える」から「学ぶ」への意識改革
- すべての科目が新鮮かつ学ぶことが多かった。特に、「授業は誰のためにあるかという点」の気づき、教育イノベーターとして目指す方向は、実務を単に教えるだけではないこと、講義のない授業を目指すなど今までの価値観、行動は根底から変わった。

[EP]

- 大学の在り方が昔と違うことに驚いた。
- インストラクショナルデザインへの応用→基礎という考え、コーチングにおける安心安全な場所の創造、学生への横からの指導というアントレプレナーでの実践授業での知見は極めて有意義でした。
- 実務家教員に求められている期待やその果たすべき役割が良く理解出来て、自身のこれまでの実務家経験に価値があることを認識出来ました。
- 一言で言えば、自らアントレプレナーになりたいと強く考えるようになったことです。今後の私の行動に現れることと思います。暖かく見守りください。
- 自身のやりたいこと、貢献したいことが明確になり、大変有意義でした。
- 今回のプログラムを通りして様々な学びがありましたが、変化や明確化が図られた点と問われると正直明確に述べる事ができません。というのも、アントレプレナーシップ教育力育成コースということだったので、今回の学びによってアントレプレナーシップ教育力が育成されたかどうかというと、自分でもなんとも言えないところがあります。（私がアントレプレナーシップ教育力という意味を間違えて捉えているのかもかもしれませんが）
- 従来の知識を教えるから、学生が考えて、能力を身につける教育に代わっていたことに、気づかされた。

- 専門課程のアントレプレナーシップで自分が本当にやりたいことを見つけていくことが一番大きな成果であり変化であった。
- 学生へ教えるのではなく、伴走者として一緒に考え、学んでいく姿勢が大事だと痛感致しました。
- 8割は実務・実践の"理論的裏付け"の確認作業として位置付けられ、残り2割は"新境地"として得られたと総括する。大学教育の変革を理想に掲げていることは理解できたが、実際のプログラム内容は、その理想からは少しかけ離れている印象を受けた。講義型の分量がまだ多すぎて、アクティブラーニングにはなっていないと思う。
- 講義をすることは相当の下準備が必要だということをお伝えされました。
- 自分のやりたい事が見つかった。自分が教えるのではなく共に学ぶティーチングではなくコーチングをしなければならぬ。
- 広瀬先生が繰り返言われていた実務家教員は自分の経験を教えるのではないということ。自分の過去の経験は個別の条件下で発生した事実であり、学生それぞれに求めるものが違うので他人事で役に立たないと思われてしまう。その経験の中でどのように考えたかということをお伝えすることが重要ということ。

[LD]

- 教育工学という考え方は、自分のこれまでの授業スタイルを見直す上で、大変有意義な内容でした。この考え方を、自分のものに定着させたいと思います。
- 現在の大学の置かれた環境・大学改革の方向性など、包括的に学ぶことができました。大学の教員として、研究だけでなく、教育や運営や社会貢献が必要だということが腹落ちできました。教育におけるイノベーションの必要性についても、先生方の危機感とともにひしひしと伝わってきました。
- 教育の在り方、仕方、それぞれについて、漠然とこうあればいいと思っていたことが、具体的にこうしなければならぬ、こうある必要がある、と明確に考えられるようになりました。また、教える、学ぶ現場だけではなく、大学全体としてのガバナンスの難しさ、大切さも学べ、知識が増えたことで、より深く考えるようになったりました。
- 「教師が教える・学生が学ぶ」ということではなく、「学生ができるようになる・共に学び続ける」という考え方が明確になったことは、大きな気づきでした。大変共感しております。実務家教員という立場、実務家としての経験を「伝える・こうしたほうがいい・」的なイメージが少々ありましたが、そうではないことと実感したことは意義のあることでした。キャップストーン・プロジェクトの最後に山口先生が「大学は未来の産業界と連携したい、未来の社会をよくする存在でありたい」とおっしゃってました。大変感銘を受けました。「産学連携」の意味するところは、実務家教員として何か授業をするということに加え、未来の社会をよりよいものにするために、その懸け橋となるという視点を持つ必要性を感じたのは、自分自身の大きな変化です。"
- 自分の教育観、価値観に大きな誤りはなさそうだと感じました。どこが問題で、誰に何を伝えるのか、は共通している感じも受けました。
- 大学教育に求められている変化や学生の変化を理解した上で、授業に取り組むこと。その意味では、大学教育基礎力科目は大いに参考となりました。
- 大学の教育の進化、変革志向、他の受講者の学びを窺い知り、学びへの興味・意欲が一層強くなりました。
- 大学教育プログラムのカリキュラムにおける質向上、効率効果・大学側の価値観、学生側の興味等、学ぶことが大変多かったです。今後は教育イノベーターとして、学生側の目線で社会人へのつなぎを意識して、サポート・携わってあげればと強く思っています。

- 大学教育基礎レポーターに概要を記載した通りですが、特に「大学として、学生が何ができるか」に注力していることを知り、従来からパラダイムシフトが発生していることを実感しました。大学教員には学問的素養のみならず、教育スキル・人間力が必要であり、自身の藤堂についても、それを日常的に意識することを心掛けるようになったと思います。

- 大学、大学教員のこの数十年の変革へのチャレンジを理解しました。(少なくとも授業に参加してくれた)学生の意識も高く、自分の子供にも推奨できる環境であると体感致しました。

- 最近の大学が置かれている状況や課題を知ることができ、日本の将来について考える良い機会になりました。若者の“活性化”がますます必要だと感じましたし、そのために何よりも自分自身が学びを継続し、レベルアップしていく必要があることを痛感しました。

- 大学改革が求められていてそれに対して一生懸命に取り組んでいることを強く感じました。アクティブラーニングに代表されるように能動的に関わるような仕掛けが必要だと感じました。これは大学だけでなく、小学生からもっと取り入れてやる(そうなるかもしれない)ことが教育改革に繋がると感じました。

- 多くの学びについて、振り返りを行う重要性について実感した。また、他者へのFB,他者からのFBの意義についても理解できたと感じている。また、自らの実践知を理論体系化し学生に提供できる学びとするため、基礎科目から専門領域別科目全体を通じ、再度、復習を行いながら自己の教育力を高める努力を続けたい。

- 多くの気づきを得たが、「大学生」といっても多様なレベル、問題意識、学習実践の学生が世の中には存在するわけで、その「対象」に対して適切な内容を企画し実行していくことの大切さ(難しさ)が私の中で鮮明になったことが大きかった。私はこれまで、産業界において人材育成の企画業務を行ってきた。今後、経営幹部・管理者育成の講師や指導する立場を選び、あらためて学び直している。また、大学教育でも教鞭をとり、未来のビジネスリーダーの卵を輩出していきたいと考えているが、高等教育や大学生の「現在地」をしっかり把握したうえで、適切なかわり方をしていくことが肝要であると感じている。

- 大きく変わりましたが、現時点ではまだそれをアウトプットできるところまで整理できていません。いずれ機会がありましたら共有できればと思います。

- 学修者主体とか、ポリシーの一致とか、大学教育改革のリアルを学ぶことができ、実務家教員になるに向けての具体的な行動内容がより明らかになった。一方で思い描いた姿とのギャップや違和感を覚えたのも事実であり、一筋縄ではいかないであろう課題をどう克服するか、次へのステップがみえたと思う。

- 大学教育の今をリアルで知ることができた。また、最新情報や最新知識で知らないことも多く、よいインプットができた。また、専門領域や教育イノベーター演習科目では、アウトプットすることで気づきや身につくことにつながった。

③本プログラム全体について、ご意見・要望・提案等がありましたらご記入ください

[LA]

- 全てが珠玉の科目ばかりなので、30万円の範囲として、履修できなかつた科目についても期間後も自習できるように、どうかご配慮いただきたいです。②今野先生のクイックレスポンスが大変ありがたかったです。③値上げしていいのではないのでしょうか。
- 大学教育基礎科目は比較的に長い受講期間があるのに対し、その後の汎用的教育実践力科目と専門領域別科目がそれに比べるるとタイトであると感じました。汎用的教育実践力科目はもう少し前倒しでのスタートでも良いように思います。(大学教育基礎科目の期限を前倒しにしても良いと思います。)
- 非同期講義は教育者育成を主眼としている一方、キャップストーンプログラムはイノベーターとしてのあり方を問うており、一貫性がないように感じました
- ペアワークを増やすと自分で気づけなない点の気づきが多く非常に有益だと思う。また、今後のフォローアップ(キャリア相談、講義内容)をして頂く体制を整えて欲しい。
- プログラム全体、各コースの内容は本当によくてきていると思う。また、先生方、運営事務局のご尽力を考えると、この費用で受講できることも非常に価値と感じる。上記で「勉強しない大人」問題を指摘したが、本プログラムの受講され、修了された方々はその中には入らない。おそらくこれからは私の世代ではなく、受講者の年代が下がる＝実務経験と高い専門性を備えた若い世代が本プログラムに参加するのではないかと予測する。マーケティング理論で言えば、そうした人たちがアーリーアダプターとして一定程度のボリュームになったときに、大学教育も社会も大きな変化が実現すると予想する。修了生として、本プログラムが進化していくことを期待したい。
- 実務家教員には、本プログラムおよび類似のプログラムを義務化するなどで、実務家教員の質を高めることができると感じる。評価も厳しくして、不十分な取り組みなどがある場合、終了できず次年度に留年する対応があっても良い。
- プログラム構成・運営・コンテンツ等、非常に工夫されており、有意義な7か月間でした。コロナも落ちつきつつある中、今回のプログラムでは、対面での学生間の接点・つながりがあると良いのではないのでしょうか? また、実務家教員の登用機会が限定的であり、「出口戦略(大学での登用/売込み)」を専門に担当機能が無いと、意識も高く、志を持って本プログラムを終了したものの、「続かない」となるのではないかと危惧します。
- それぞれの科目が自分自身の中に有機的に結合して腹落ちするに苦労しました。全体の学習の中での当該科目の位置づけなども少し示していただけると良かったと思います。
- 2年間の専門職大学院修士課程としての体系的な整備が望ましいのではないかと、思いました。その修士学位により、実務家教員として公募に応募していく、そういう方向が質保証にも資すると考えます。また、そのような方向となった際には、今回の修了成果を単位に換算して頂くとともに、そのコースに編入して頂ければと希望します。
- 先生方、事務局の方々に心から感謝いたします。今後とも繋がりを継続できるツールがあるとうれしいです。
- 本プログラムで学びを得られたと思う反面、運営しているみなさん、特に大学で教えられている先生方が、実務家教員の採用が広がっていかないことに引け目を感じているように思えました。現状は仕方ないとしても、JREC-INやresearchmapの活用法の講義があってもよかったです(簡単にはありませんが)、このプログラムを運営している大学が先んじて実例を作っても良いのではないかと感じました。少し手を付けられているという噂も聞いてはいますが、私自身は実務家教員の斡旋のコーディネーターにも興味があり、そういうルートも見つけさせようです。また、実務家教員になりたい人向けの書籍も面白いと感じています。その際にはあらためてご相談したいと思っています。
- 継続的なリカレント教育の支援機関としての様々なプログラムの提供。

があってもよいか、と思います。学びの多いプログラムで、もっと多くの方に知ってもらいたいものです。先生方、事務局の皆様、本当に有難うございました。

- (1) 既に数年間に亘って大学教員の公募 (JREC-IN) への応募活動を継続していますが、汎用的教育実践力科目の受講によって、授業設計やシラバスの作成の基本的な考え方やディボロポリシーと授業内容 (シラバス) との関連性など、大学の教務部署や教授会が、どのような観点で教員候補者の評価をするのかを理解できたように感じました (そのような観点をごまで重視されているかどうかはわかりませんが)。本プログラムの関係者の皆様 (先生方、受講アドバイザーの方、事務局スタッフの方) が実務家教員の育成に強い関心と熱意をもっていらっしゃる様子がよくわかりました。一方で、実際に研究や授業を実施している大学の学部や教授会では、こうした意識は高くない (現場では必要性を感じていない) ところが多いのかもしれないと感じました。キャプストーン・プロジェクト発表の講評でもお話ししましたが、やはり「教員の欠員募集は大学内若しくは他大学の研究者教員で埋められてしまう」という実態があるのかなと思います。本プログラムは実務家教員を目指す実務者の入門コースとして密度の高い内容で構成されており、ハイフレックスの講義提供形態をはじめ、技術的にもさまざまな工夫がされていたため、実務者が仕事をしながらでも学びやすい、かつコンテンツが充実した有意義なものとなっていたと思います。(4) 「入門コース」という言葉を取って使わせていただきましたが、その趣旨は次のようなことを考えたからです。まず、大学教育の基礎力科目や専門領域別科目の演習以外の講義は、大学教員の基礎知識として幅広く学び理解をすべきもので必要不可欠 (座学として自分一人でも学ばなければならないもの) です。一方、実務者が教員として評価をされ、大学教育で活躍するためには、「実務経験とその実践知・経験知を教育に活かすことができる」技術と姿勢の習得が最も必要であり、本プログラムで言えば、汎用的教育実践力科目の拡充、LAセミナー演習やPBL演習の配当時間増加を大いに期待したいと考えます。汎用的教育実践力科目や演習の拡充は現状のプログラム内では全体の授業時間内で吸収できない (受講期間が短すぎ) ことも十分考えられますので、本プログラムの「応用・実践編」の新設が1つの解決策ではないかと思えます (次にお伝えする TEEP の運営形態が参考になるかもしれません)。名古屋私立大学が運営中核校となって実施されている TEEP は「基本コース」と「専門コース」の2つが設定されています。TEEPの「専門コース」はスクーリングが前提となっているようなので、運営に難しさがありますが、内容としては興味深いものです。スクーリングを前提となくとも、本プログラムでの受講経験から、オンライン視聴での講義 (汎用的教育実践力科目の授業設計とシラバス作成やインスタレーションデザインはWebでも十分実践的でした) と複数回のスクーリングもしくはWebによる模擬授業やブレゼンの演習というハイフレックス形態でも実現できるのではないかと思います。また、最近知ったのですが、京都大学が提供している履修証明プログラムに「学校経営ディレクター資格プログラム」というものがあります。このプログラムは1年間120時間で原則スクーリング (①毎月1回土曜日終日、②毎月1回金曜日夜間、③年2回3日間の集中講義) という講義提供形態で、スクーリング不可可能な場合はWeb受講も可能としています。私立学校の運営に焦点を当てていますので、講義の内容は少し経営や組織マネジメントに軸が置かれている部分もありますが、教学マネジメントのできる実務家教員を目指すのであれば、大学運営に関する知識も持ち合わせた方が良いかもしれないので、本プログラムの拡張をしていく際の参考になるのではないかと思います。本プログラムの拡張に当たっては、現在事務局として運営していただいている高度教養教育・学生支援機構と実務家教員の活躍が期待できる学部学科が協働して運営するプログラムを新設していただくことを期待します。先に触れた TEEP の多職種連携 PBL 演習では、特定の学部・学科の教員の方が PBL 演習の講師となってプログラムに参加されています。プログラム運営校 (中核校) として、総合大学として学術領域の幅広い東北大学でこのような取り組みができれば、全国の中でもかなり注目されるものとなるのではないのでしょうか。この取り組みの中で本プログラムの修了生が実習の場とできる講義を年間複数コマ設定していただけると、実務家教員と研究者教員の実施でのFDも実現可能であると考えます。本プログラムの文科省の予算措置は5年間だったと思いますが、5年で終わってしまうのではなく、進化・発展したサステナブルなプログラムとなっていくことを

よく考えられ構成された素晴らしいプログラムだった。大森先生、杉本先生を始め今野先生、スタッフの皆様、ご指導いただき誠にありがとうございました。感謝申し上げます。

- 6ヶ月間、仕事と学修に非常に大変ではあったが、楽しかった。教員として採用されるためには論文発表が必要なので、自分の実務家教員としてのテーマ論文提出を課し、論文発表実績として認められる科目があるとうれしい。その科目分、プログラム期間も長くなるとうり学びが充実すると思う。
- 対面で学ぶ機会がもう少し多いと、モチベーションの維持に役立つと感じた。
- 私達で3期目ですが、プログラムの受講者数に比して、実際に実務家教員として活躍されている方の数がまだまだ少ないと感じます。それを乗り越えるのは、個々人の努力と技量、あるいは、研究成果なのは仕方ない現実? ですが、何とかして、この現実と仕組みを変えたいでしょうか? そのための取り組みもあって良いように思います。むしろ、有るべき、ではないかと。卒業生が集い、あるべき姿を議論する場、具体的な解決策のIdeationの場を設けることはかなりEasyでしょうが、それだけでは、変わらないようにも感じます。大学サイドの奮起を期待したいと思います。内から変わる意識が芽生えないと、外から何を言おうと響きません。何か変化のキッカケとそれによる大きなうねりを作りだせないでしょうか? 時間が許す限り、参画したいと思います。
- プログラム全体が体系的に構成されており、極めて精緻にデザインされていると感じました。インプットとアウトプットをほどよいフレクションを繰り返しながら展開することができ、受講者にとつての学びが大きいものと思います。感染症等の状況が許せば、演習をはじめとした科目において、対面形式を増やした方がよいこと、さらには、受講者間のつながりももてる仕組みを増やした方がよいことが要望事項として挙げられます。
- 目的や内容は良かったのですが通信教育的な側面が強いのもう少し先生方や受講生と意見を交わせる場があれば良かったかと思えます。掲示板への投稿は単なる同調で終わる傾向がありディスカッションには不向きかと思えました。
- プログラム終了後の効果測定であったり、希望者のみの対象であっても修了者による講義があるとも良いと思います。
- 本プログラム受講生の大学教員就職率を公表いただければありがたい存じます。
- 模擬授業の実践時間が短すぎた。(本番同様、90分実践したかった。せめて60分でも) ・他受講者と対面で学ぶ場面がもう少し欲しかった。・LAコース全員が集って、学ぶ場が最低一回は欲しかった。
- 本プログラムは、産学連携を促進する貴重なものであり、この受講生は人的資産だと思います。これらの人材をネットワーク化するための一歩として、アルムナイクラブを作ること提案いたします。コンサルティングファームなどでは、ファームを離れた後もそれを人脈として維持するために、このようなアルムナイクラブを作っているケースが多いです。
- 大変貴重な機会をいただき、ありがとうございます。学びと刺激の多い半年でした。本業では会うことの出来なかった受講生の皆様との学びを通じ、大所高所からの視点、視座からの知見や学び方、発信の仕方などを学ぶことが出来ました。また、各大学の講師の皆様様の授業内容やプログラムを通じてのアドバイスは非常に参考になるもので、学びの楽しさを体感することができました。今回の履修証明プログラを経て、他大学のプログラムも受講したいという火がつき、実際に他大学の履修証明プログラムの選考にも挑戦し、つい先日合格することができました。今回の学びをより広く実践していきけるよう引き続き自己研鑽に励みながら、大学教育の現場で自身の経験を活かして、産学連携の取り組みを進めていけるような存在になれるよう取り組んでいきたいと思えます。
- ネットで完結することが出来、遠隔地にいる自分が最後までプログラムを完遂出来たことは大変有難いことでも今後も続けて頂ければと思います。同時にもっとリアルな機会があったらいいかとも思いました (何れにせよ自分は参加出来なかったのですが)。教育基礎力科目・汎用的教育実践力・専門領域・教育イノベーター実践のそれぞれの科目の関連が最初から戸惑うこともあり、全体的なbig pictureが把握できる工夫

受講生の一人として応援したいと思っています。省庁が実施するこのような予算措置プログラムの一過性のもとなってしまうケースも多いので、文科省の予算措置終了後も、自律的な運営を継続して頂きたいと思えます。そのような価値がある取り組みではないでしょうか。本プログラムに参加した受講生・修了生は、私と同じように感謝している方が多いと思います。受講生・修了生の実務家ネットワークもプログラムの拡充の一助として存分に活用して頂ければ、協力して下さる方はたくさんいらっしゃると思います。お役に立てるためのインフラができて更なる発展性が高まりますね（自主的な勉強会など修了生による自律的運営が必要かもしれませんが、事務局の方にインフラをききかけを作って頂くことと賛同者が増えるような気がします）。7ヶ月間ありがとうございました。今後とも何らかの形でプログラムでの学びを進化させていきたいと思っています。

[ID]

- IDを体感しながら学ぶことができました。ありがとうございました。
- 良書をご紹介いただいた鈴木教授がご退官とのこと、改めて感謝申し上げます。
- 全国様々な経験やキャリアを有する方々と交流、意見交換ができたことは大変有意義でした。
- 学習理論について、基礎を学ぶための文献紹介などがあるとなお良いかと思えました。釈迦に説法ですが、教育学の全体像の紹介や重要な研究者の紹介、学習理論の歴史的経緯などの基礎的な内容を学ぶ機会があればより各講義の理解が深まると思います。

• 講師の先生方の熱心なご指導のおかげで無事にプログラムを終えられそうです。本当にありがとうございました。また、zoomの設定や同会議進行など、大きなトラブルもなく演習を進めておられたので、裏方の大変さを知る者としては、どれだけ一念に準備して下さり、スムーズな進行にご尽力くださったのだろうと、スタッフの方々の献身的にも感謝してもしきれないです。また、受講しきれなかった選択科目については、今後このことと学習を進めてまいりたいと思います。プログラム全体については、内容的に不満はありませんでした。提案としては2点あります。①学習項目の掲示版でのやり取り以外に、他の学習者と交流を深められる方法があると思います。例えば「この課題はやってみてと結構時間がかりますよ」等の情報共有をできる「メモ帳かチャット機能」があると、他の学習者の学習スケジュール調整のお役に立てるかもしれません。②また、Zoomでの演習を行った後で、時間的余裕のある学習者が残って「雑談できるブレイクアウトルーム」が設定されていると、他の学習者の考えを直接伺ったり、掲示版に書けないレベルの色々なことを聞けたりするので、もしあると大変ありがたいです。私の経験では、大学の授業が全てオンラインで実施されていた期間中、入学して2ヶ月経過した学生達から「直接は会えないから、せめて同級生とzoomランチをしてみたい」とか「放課後に雑談タイムが欲しい」と言われて昼休みと授業後にブレイクアウトルームをしばしば開放していました。対面形式の授業が全くなかった当時は結構好評でした。私も教員はブレイクアウトルームを監視せず、ブレイクアウトルームから学習者がいなくなったタイミングでzoomを閉じていました。自分が普段関わることのほとんどない分野の学習者の方たちと共に学べるせっかくの機会ですが、ほとんど対面でお話することがありません。特定の分野の勉強な価値観の中で生きている自分にとっては、10-15分くらいでもよいので、仕事の話ですとか別の分野のお話を伺える機会はとても貴重ですし、社会勉強になると思います。宜しければご検討くださいと幸いです。最後に、アンケートの選択肢についてです。③専門領域別に内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだったと思えますか？「多すぎた→非常に合致した」と読み替えて選択しています。④キャリアップストームプロジェクトの分量は自身のニーズに合致するものだったと思えますか？「多すぎた→非常に合致した」と読み替えて選択しています。以上、よろしくお願ひいたします。

- 有効なプログラムだったが、各大学の連携がもっと必要と感じた。実務家教員になれる実務的な内容（履歴書等の書き方等）については、情報が少なかった。
- たまに課題文が理解しにくいことがあった。もう少し、具体的な指示があれば理解しやすかったかも。
- 既に一部に提案がされているようでしたが、プログラム修了生の同窓会のような組織があると思うと思います。
- 自分の都合で想定より、受講者同士の意見交換等が十分にできなかったのが残念である。懇親会等にも参加がかなわず、申し訳なく思う。これから機会もあると思うが、過去の修了者同士の意見交換の場等もあると思う。よいと思う。（受講者自らがつくっていくことであるが）
- 継続して頂きたい、他のメンバーを学ばせたいです。
- オンライン中心のプログラムだからこそ、学習を続けられたので、ありがたいと思うが、鈴木先生にもっと直接伺いたかったなど、もう一歩踏み込めない、対面でないと感じた。交流会等も用意していただくだけでも嬉しいかと思う。（どんだんスタッフの皆さんの時間をいただくことになりません。すみません）とにかく感謝の期間でした。ありがとうございました。
- 最終的には、今後の自身の行動になると思いますが、教育イノベータとして、実務家教員を目指す立場としては、本当の学生に対して授業をする実践の時間などが30分でも1時間でもあるとよりイメージが膨らみ得ることが多いように感じます。実習の機会をぜひ検討をお願いします。

[EP]

- 約半年間ありがとうございました。とても有意義な時間をいただきました。オンライン受講とオフライン受講には大きな差があると改めて感じ、コロナ時代での大学生の苦悩がよく理解できました。この時代大学生生活を送った学生が、どのような社会人になるのかということに関心がいきます。
- 横（他コース）との方をませた授業またはそこの意思疎通機会を強化して欲しいと思います。また今後縦（年度）でのつながりも強化して頂ければより満足度の高い講義となるかと思えます。私は個人的に自由選択科目でお知り合いになった他コースの方とfacebookを通じてお友達になれましたが、そこがより促進されると更に楽しく、学びの機会になると感じます。このプログラムをうけなければ人生大損するところでした。受けて本当に良かったです。主催者側の皆様、中々人目に触れにくい部分で行って頂いている膨大な設計・作業・実務に厚く御礼申し上げます。
- 本プログラムの価値と認知度の向上の為に、本プログラムに履修認定者の今後の実務家教員への就職活動の支援機能を付与し、多くの実務家教員を生み出す工夫があれば、更に良いかと思えます。
- 本プログラムに、今後関わっていきたく思うほど満足できるプログラムの内容だったと思います。ありがとうございました。
- 想像していたのと違い、先生方、メンバー含めて、みなさんがとても感じの良い方ばかりで大変良い雰囲気の中で学ばせていただきました。有難うございました。
- 先生方、事務局の方、受講者の方、皆さんとても良い方々でした。ありがとうございました。
- このプログラムを多くの方に知って頂き、長く続くことを祈念しております。
- 知識なく興味本位で参加したが、日に日に思いが強くなり、いつの日か、より具体的に教壇に立ちたい思いが強まった。今後本当に立てる日が来るのかかわからないが、チャレンジしたい。そんなきっかけになる人が同年代にはたくさんいると思うのでプロモーションに努力をかけた方が良く思う。
- 50代で学び直しのきっかけを頂いたことに感謝します。もっともアクティブラーニング型へプログラムが進化することを期待します。
- 面白く有意義な半年間でした。また受けたいです。もし専門課程で、私にお手伝いできることがあれば何なりと申し付け下さい。何でもお手伝いさせていただきます。

- 教員調書の書き方、応募の方法などを指導いただけたとよい。また、講義の有効的な話し方など行動心理学的な部分も踏まえて実践的な話も聞けたとよい。
- 個人的に多様なメンバーと一緒に学ぶことができ、メンバーからの刺激、気付き、学びが半端なかった。昼の部、晩の部とも活発な議論で大学生みたいで楽しいと皆言っていました。貴重なネットワークができたことが大きな財産となりました。講師の皆様、スタッフの皆様、本当にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

[LD]

- 特にありません
- 発表会でも申し上げましたが、出だしの大学教育力科目を次々短期間でこなさなくてはならず孤独なので、ワークグループなど作っていただき、相談・確認しながら取り組めるとよいかと思えます。また、各科目、ルーブリックに沿って評価いただけるのであれば、各項目についてのそれぞれの点数は開示していただくことで、リアクションにつながります。ぜひご検討下さい。
- とても充実した内容で、学びたかったことがたくさん学べました。全ての先生から、とても質の高い授業を受けることができて満足です。受講期間がもう少し長くてもよいと思えます。授業部分の期間だけで5ヶ月くらい欲しいと思います。特に専門領域科目は、今の倍くらいかけてもっと学びたいと思います。また、オンラインでもとても効率よく学べましたが、対面も何回か取り入れて、受講者同士、先生方との交流の場が欲しいと思います。
- いくつか気になったことは、アンケート内に個別に記入させて頂きました。全体的には、社会人が効率的・効果的に学ぶにはどうするか？オンラインや動画等も工夫しながら、全体を設計して頂いたことを感じており、大変ありがたかったです。また、コース全体の学習効果を高めるには、我々自身が積極的に参加し学びを深め合うことが必要かと思えます。その点で、受講アドバイザーの折戸先生が様々な観点でフォローいただいたことが、全体の学びを支えて下さったと感じております。心より感謝申し上げます。参加して、本当に良かったと思いますし、学びの意欲が高まりました。関係者の皆様、一緒にコースで学んだ皆様に御礼を申し上げます。
- 様々な要因があるのだらうと思いますが、もう2ヶ月ほど早く開講されると、余裕を持って学べると感じました。全体の学習量は減らさず、学ぶ期間をもう少し長く。
- 以下、ランダムに記載します。全体としては満足ですが、よりよくなればとの意見です。①それぞれの科目について、あと1か月受講期間がほしかった。②参加者がリアルに集まれる機会をもう少し追加する必要がある。③評価についてはルーブリックに過度に依存しているように感じられた。④一方、ルーブリックに基づいたフィードバックは殆どなく、内省に必要な手が配が欠けているのではと感じた。
- 可能な方は対面受講が出来るようなプログラムになると、意見交換もより活発になるように思います。
- 半年間、非常にお世話になりました。学びに對するモチベーションがこんなに高まった「大学は、自分自身とても驚いております。キャップストーン・プロジェクトの時に山口先生が仰っていた「大学は、未来の社会を良くするために存在する」という言葉が非常に印象的で、実務家教員になることができたから、この言葉を胸に学生を向き合うとともに、実社会の啓蒙にも努めていこうと思えます。プログラム全体を通してのごく小さな要望なのですが、提出物に対して点数がフィードバックされますが、ルーブリックのどの部分でその点数になっているのかが分かるとありがたいです。ごく小さな要望です…
- 先ほど途中で送信してしまつたようです。すみません。こちらを採用してください。
- 個別の大学（立教なら立教の）の目指す姿やパス等についての情報や大学改革についての取り組み内容等を知る時間があったのも良いと思えました。また学生のニーズを知る意味で学生の大学評価のアンケート結果についてと大学がそれに対してどう対応しようとしているのかも知れると現状をよりリアルに理解できると感じました。ご参考までに。

- プログラム全体について、充実した内容になっていると思います。オンラインで授業を受けられることも良い点ですが、ハイフレックス授業をもう少し増やせれば受講者にも変化が現れるかもしれません。また、受講アドバイザーの存在も大きいと感じました。多くの補足説明等をいただき、各科目での理解にたいへん役立ちました。基礎力科目、専門科目履修時に、他の選択科目を履修する時間的余裕がもう少しとれば、良かったと感じています。時間配分に注意すれば良かったかな？と後悔しています。
- とても良い経験をした。特に、ほぼすべてオンラインの学びだったのは私にとって新鮮な体験だった。ただ、ポイントポイントはリアル・集いで実施したり、現在の学生との直接的な交流ができたら、もっと実感を高めることができたと思う。加えて申し上げると、本プログラム終了後に、多くの大学との意見交換の場があると、自身のプランがマッチしているかどうか確認することができるので、有益ではないかと考えている。
- 各科目の評価（採点）について、点数のみでフィードバックコメントが無い科目もあり、相対的に自分ほどの程度理解できているのかそうでないのかがわかりにくかったです。この点は改善を期待します。キャップストーン・プロジェクトにはコンペティティブな要素を導入するとより面白くなるのではと個人的に感じました。一意見として参考にしていただければ幸いです。
- 総じて、良く工夫されており、受講して間違いなく良かったと思う。一方で、もっと完成度を高めるべき諸点も結構ある。このプログラムを受講したことで、実務家教員を目指すに近づいたと思うが、その先の道はかなり長い感がある。そのリアルを先生方は、もっと直接的に受講生に伝えるべきと考える。ちょっと遺憾しすぎ、お客様対応のしすぎのような気がした。また、もっと双方向で活発に議論をやりとりする局面があっても良いのではないか。
- リアルやハイブリッドの機会がもう少しあったほうがよかった。また、自己学習すること自体にも意義を感じるが、標準時間の設定がとて短く、実際のギャップに当初戸惑った。全体を通して、価値が高くお買い得だと思う。

産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム 規約

産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会

第1章 総則

(名称)

第1条 この規約により設立する団体は、産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム（以下、「本コンソーシアム」という。）と称する。

(目的)

第2条 本コンソーシアムは、大学（専門職大学を含む）、短期大学（専門職短期大学を含む）、高等専門学校、及び大学共同利用機関法人（以下、「大学等」という。）と企業、地方公共団体、その他の団体、国又は地方公共団体（独立行政法人又は地方独立行政法人を含む）の設置する機関等（以下、「企業等」という。）が連携して人材育成に取り組むことにより、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現及び創造と変革を先導する人材の輩出に貢献することを目的とする。

(活動)

第3条 本コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

- (1) 大学等の実務家教員を育成する研修プログラムの企画立案・実施への参画・協力
- (2) 実務家教員の活用をはじめ、産学等の境界を超えて人材と知の循環を推進する取組への参画・協力
- (3) 大学等が開発する社会人向け又は学生向けの教育プログラムの企画立案・実施への参画・協力
- (4) 大学等が行う教育に実践的な観点を反映させる取組への協力
- (5) リカレント教育、インターンシップ及びキャリア教育を含む産学連携教育を推進・普及していくための意見交換及び情報共有
- (6) 産学連携教育の推進・普及のためのフェア等イベントの企画・開催への参画・協力
- (7) 大学等、企業等、学生、研修受講者等の交流の場の企画・開催への参画・協力
- (8) その他前各号に掲げる活動に附帯又は関連する活動

(活動年度)

第4条 本コンソーシアムの活動年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日までの年1期とする。ただし、設立初年度は、設立日から翌年3月31日までとする。

第2章 会員

(会員)

第5条 本コンソーシアムの会員は、本コンソーシアムの目的を理解し活動に賛同する大学等及

び企業等をもって構成する。

2 本コンソーシアムの設立当初の会員は、別表に掲げる通りとする。

(入会)

第6条 会員になろうとする大学等又は企業等は、所定の様式により本コンソーシアムに対して入会の申込を行うものとする。

2 前項の申込があったときは、本コンソーシアムは、第10条に規定する運営委員会の議決によってその諾否を決定し、申込者に通知する。

3 会員は、本コンソーシアムへの参加に係る責任者1名を第10条に規定する運営委員会の委員として定め、入会と同時に本コンソーシアムに届け出るものとする。

4 会員は、その名称、責任者の氏名又は住所の変更があったときは、遅滞なく、書面にて本コンソーシアムに届け出なければならない。

(会費)

第7条 本コンソーシアムの会費は、第10条に規定する運営委員会の決議をもって別に定める。ただし、本コンソーシアムの設立当初から当分の間は無料とし、運営委員会の決議により会費の導入を決定したときは各会員に本コンソーシアムへの参加継続の意思確認を行うものとする。

2 前項に定めるもののほか、本コンソーシアムの特定の活動の実施に関し必要があるときは、運営委員会の決議により会員に協賛金を募ることができる。ただし、本コンソーシアムの設立当初から当分の間は、協賛金を募らないものとする。

3 既納の会費及び協賛金は、これを返還しない。ただし、運営委員会が認めた場合については、この限りでない。

(退会)

第8条 本会の会員は、いつでも退会することができる。ただし、退会の1か月以上前に本コンソーシアムに対して書面により通知するものとする。

(除名)

第9条 本コンソーシアムの会員が、本コンソーシアムの名誉を毀損し、若しくは本コンソーシアムの目的に反する行為をし、又は会員としての義務に違反するなど、除名すべき正当な事由があるときは、第10条に規定する運営委員会の決議によりその会員を除名することができる。

第3章 組織

(運営委員会)

第10条 本コンソーシアムに、運営委員会を置く。

2 運営委員会は、全ての会員をもって構成し、各会員は、第6条第3項に規定する責任者を運営委員会委員（以下、「委員」という。）として運営委員会の審議及び議決に参加させるものとする。

- 3 委員が、やむを得ない事情により運営委員会に出席できないときは、あらかじめ委員本人又は委員の所属する会員の代表者からの届出により代理出席を認めることとする。ただし、代理出席する者（以下、「代理出席者」という。）は、委員本人と同一会員に所属するものに限る。
- 4 運営委員会は、定時運営委員会として毎活動年度の終了後3か月以内に開催するほか、次条に規定する事業実施会議が必要と認めたときに臨時運営委員会として開催する。また、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。
- 5 運営委員会は、事業実施会議の決議に基づき事業実施会議が招集する。また、委員は、事業実施会議に対し、招集の理由を示して、運営委員会の招集を請求することができる。
- 6 運営委員会は、次条に規定する事業実施会議から必要な報告を徴し、本コンソーシアムの活動及び運営の基本的事項について審議し、決議する。
- 7 運営委員会は、委員の過半数の出席（代理出席者及び委任状を含む。）をもって成立する。
- 8 運営委員会の議事は、出席者（代理出席者及び委任状を含む。）の過半数の同意をもって決するものとし、可否同数のときは、議長が決するところによる。
- 9 運営委員会の議長は、運営委員会において出席者（代理出席者を含まない。）の中から選出する。
- 10 委員は、無報酬とする。
- 11 運営委員会への出席に係る旅費その他の費用は、各会員が支弁するものとする。

（事業実施会議）

第11条 本コンソーシアムに、事業実施会議を置く。

- 2 事業実施会議は、文部科学省の補助事業である「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において選定された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の事業を共同で実施する東北大学、熊本大学、大阪府立大学及び立教大学（以下、「事業実施大学」という。）をもって構成し、各事業実施大学は、第6条第3項に規定する責任者を事業実施会議委員として事業実施会議の審議及び議決に参加させるものとする。
- 3 事業実施会議委員が、やむを得ない事情により事業実施会議に出席できないときは、あらかじめ事業実施会議委員本人又はその所属する事業実施大学の代表者からの届出により代理出席を認めることとする。ただし、代理出席する者（以下「代理出席者」という。）は、事業実施会議委員本人と同一の事業実施大学に所属するものに限る。
- 4 事業実施会議は、原則として年1乃至2回開催するほか、次条に規定する事務局が必要と認めたときに開催する。また、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。
- 5 事業実施会議は、事務局が招集する。また、事業実施会議委員は、事務局に対し、招集の理由を示して、事業実施会議の招集を請求することができる。
- 6 事業実施会議は、次条に規定する事務局から必要な報告を徴し、本コンソーシアムの活動及び運営に係る事項について審議し、決議する。
- 7 事業実施会議は、事業実施会議委員全員の出席（代理出席者及び委任状を含む。）をもって成立する。

- 8 事業実施会議の議事は、出席者（代理出席者及び委任状を含む。）の過半数の同意をもって決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 9 事業実施会議の議長は、事業実施会議において出席者（代理出席者を含まない。）の中から選出する。

（事務局）

- 第12条 本コンソーシアムに、事務局を置く。
- 2 事務局は、当分の間、東北大学に置く。
 - 3 事務局は、本コンソーシアムの事務を処理する。

（顧問）

- 第13条 本コンソーシアムに顧問を若干名置くことができる。
- 2 顧問は、会員が推薦し、運営委員会の議決を経て、選任する。
 - 3 顧問の任期は、2年を超えない範囲において、運営委員会が前項の規定による議決において定めることとし、必要に応じて再任することができる。
 - 4 顧問は、運営委員会に出席することができる。
 - 5 運営委員会、事業実施会議及び事務局は、顧問に対して、本コンソーシアムの活動及び運営について助言を求めることができる。

（経費の負担）

- 第14条 第12条に規定する事務局の運営に要する経費は、東北大学が負担するものとする。
- 2 前項の規定による場合を除き、本コンソーシアムの運営に要する経費は、事業実施大学が負担するものとし、各事業実施大学の負担割合については、事業実施会議において決定するものとする。
 - 3 本コンソーシアムの活動への会員の参加に要する費用は、当該会員が負担するものとする。

第4章 雑則

（細則）

- 第15条 この規約に定めるもののほか、本コンソーシアムの運営上必要な細則は、運営委員会の議決を経て別に定める。

（解釈等）

- 第16条 この規約及び細則の内容等に関し疑義が生じたときは、その都度事務局を通じて事業実施会議に説明を求めるものとする。
- 2 前項に規定する事業実施会議による説明によっても疑義が解消されない場合は、運営委員会における協議事項として取り扱うものとし、運営委員会において決定するものとする。
 - 3 会員は、本規約の定めのほか、日本の関係法令を遵守するものとする。
 - 4 この規約は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈されるものとする。

(改正)

第17条 この規約は、運営委員会の決議により改正することができる。

附則

この規約は、令和2年7月1日から施行する。

附則（令和4年10月19日改訂）

この規約は、10月19日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

別表

設立当初の会員

事業実施大学	国立大学法人東北大学
	国立大学法人熊本大学
	公立大学法人大阪 大阪公立大学（令和4年4月1日 公立大学法人大阪大阪府立大学より名称変更）
	学校法人立教学院 立教大学
企業	株式会社イノベスト
	株式会社ASA
	株式会社KEIアドバンス
	株式会社七十七銀行
	株式会社ディスコ
	株式会社中九州クボタ
	株式会社パフ
	株式会社福井製作所
	株式会社プロアシスト
	株式会社ベネッセiキャリア
	株式会社履修データセンター
	サンライトヒューマンTDMC株式会社
	全日本空輸株式会社
	損害保険ジャパン株式会社
	三菱電機株式会社
	EY新日本有限責任監査法人
	PwCコンサルティング合同会社
地方公共団体	仙台市
	豊島区
	宮城県
その他の団体	一般社団法人 経済同友会インターンシップ推進協会
	一般社団法人 埼玉県経営者協会

産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム 会員一覧

2022年12月1日時点

事業実施大学	国立大学法人東北大学
	国立大学法人熊本大学
	公立大学法人大阪 大阪公立大学
	学校法人立教学院 立教大学
企業	株式会社イグニタス
	株式会社イノベスト
	株式会社ASA
	株式会社KEIアドバンス
	株式会社七十七銀行
	株式会社ディスコ
	株式会社中九州クボタ
	株式会社パフ
	株式会社福井製作所
	株式会社プロアシスト
	株式会社ベネッセiキャリア
	株式会社履修データセンター
	サンライトヒューマンTDMC株式会社
	全日本空輸株式会社
	損害保険ジャパン株式会社
	三菱電機株式会社
	EY新日本有限責任監査法人
	PwCコンサルティング合同会社
地方公共団体	仙台市
	豊島区
	宮城県
その他の団体	一般社団法人 経済同友会インターンシップ推進協会
	一般社団法人 埼玉県経営者協会

4.7 大学改革を担う実務家教員フェア2022 大学改革を担う実務家教員フェア 2023

2023年3月4日(土) 13:00-18:00
Zoom オンライン配信

参加費
無料

大学改革が進む近年、産学共同による人材育成の担い手として「実務家教員」への期待が高まっています。社会的要請を受けて実践的教育の導入を目指す大学にとって、現場で培った高度な実務能力を有し、実践で得た知識や経験を大学教育にもたらしてくれる実務家教員は、社会で育まれた実践知と、大学が創出する学術知とを架橋し、新たな大学教育の可能性を拓く存在と言えます。しかし同時に、そうした実務家教員をいかに育成し、その質保証を図っていくのか、産学が連携して取り組むべき課題も少なくありません。

そこで、第4回目となる「大学改革を担う実務家教員フェア 2023」では、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に選定され、実務家教員育成プログラムを開発・運営する4つの拠点が一堂に会し、大学や企業で活躍する専門家も交えて、学びと社会をつなぐ「実務家教員」のあるべき姿や求められる役割について議論を行います。また、実務家教員を目指す社会人を対象に、4拠点を進められている実務家教員育成プログラムの取り組みについてもご紹介します。

【第1部】 13:00-14:15

「実務家教員育成プログラム」受講のすすめ

全国4つの拠点で提供する、実務家教員を目指す社会人を対象とした実務家教員育成プログラムについて、各プログラム修了者が紹介します。また、各プログラムが Zoom ブレークアウトルームに分かれ、各拠点の取り組みやこれまでの成果や修了者を交えた質疑応答を行います。大学教員を目指す実務家の方は、是非ご参加ください。

創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム

産学連携教育イノベーター育成プログラム

実践的かつ深い学びを追求し、学生も社会人も学び続ける教育、未来を拓く人材輩出のため、変革を先導するイノベーターを育成します。

提供校：東北大学・熊本大学・大阪公立大学・立教大学

PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム構築事業

進化型実務家教員養成プログラム

社会動向や最先端技術を分かり易く解説し啓蒙する役割を担い、社会変動に伴う諸課題に多職種連携で対応できる高度専門人材を育成します。

提供校：名古屋市立大学・岐阜薬科大学・高知県立大学・中京大学

実務家教員 COE プロジェクト

実務家教員養成課程

高等教育機関等のみならず、専門学校、私教育、人材育成会社、組織内研修、企業内大学など、多岐に活躍する人材を育成します。

提供校：社会構想大学院大学・日本女子大学・武蔵野大学・事業構想大学院大学

KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

実務家教員育成研修プログラム

地方の建設技術者の技術レベル向上を目指し、高専におけるインフラメンテナンス分野のリカレント教育を担う人材を育成します。

提供校：舞鶴工業高等専門学校・福島工業高等専門学校・長岡工業高等専門学校・福井工業高等専門学校・香川高等専門学校・放送大学

15:00～ 第二部 シンポジウム「日本の「人材育成」を問い直す ―大学、企業、政府は何をなすべきか―」へのご参加お待ちしております。

【申込み】 HP「jitsumuka.jp」のイベント申込みもしくは右下の QR コードより事前に参加申込してください。

【主催】 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（代表校：東北大学）

PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム（代表校：名古屋市立大学）

実務家教員 COE プロジェクト（代表校：社会構想大学院大学）

KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システム（代表校：舞鶴工業高等専門学校）

【後援】 文部科学省、一般社団法人 日本経済団体連合会

【問合せ】 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営拠点 代表校（事務局）：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 TEL: 022-795-4472・4473 Email: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp



大学改革を担う実務家教員フェア 2023

【第2部】シンポジウム

2023年3月4日(土)

15:00-18:00

Zoom オンライン配信

参加費
無料

日本における働き方と学び方(人材育成戦略)、社会人の学び直し(リカレント教育)の活性化と改革、ジョブ型雇用時代の新卒採用とインターンシップの3つをテーマにした講演・パネルディスカッションを行います。

●講演:

イノベーションと成長のための人材育成と働き方

堀井 亮 氏 (大阪大学 社会経済研究所 教授)

社会人の学び直し(リカレント教育)の活性化と改革

安井 洋輔 氏 (株式会社日本総合研究所 調査部 主任研究員)

ジョブ型雇用時代の新卒採用とインターンシップ (仮)

渡辺 大介 氏 (富士通株式会社 総務・人事本部 人材開発部
人材採用センター長)

●パネルディスカッション

堀井 亮 氏、安井 洋輔 氏、渡辺 大介 氏

大森 不二雄 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)

【申込み】HP「jitsumuka.jp」のイベント申込みもしくは右下のQRコードより事前に参加申込してください。

【主催】文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校
創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム (代表校: 東北大学)
PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム (代表校: 名古屋市立大学)
実務家教員 COE プロジェクト (代表校: 社会構想大学院大学)
KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システム (代表校: 舞鶴工業高等専門学校)

【後援】文部科学省、一般社団法人 日本経済団体連合会

【問合せ】文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営拠点 代表校 (事務局): 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 TEL: 022-795-4472・447328 Email: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp



日本の「人材育成」を問い直す
— 大学、企業、政府は何をなすべきか —

【大学改革を担う実務家教員フェア 2023】アンケート集計結果

開催日：2023年3月4日（土）13:00～18:00

第1部：「実務家教員育成プログラム」受講のススメ

第2部：シンポジウム「日本の「人材育成」を問い直す—大学、企業、政府は何をなすべきか—」

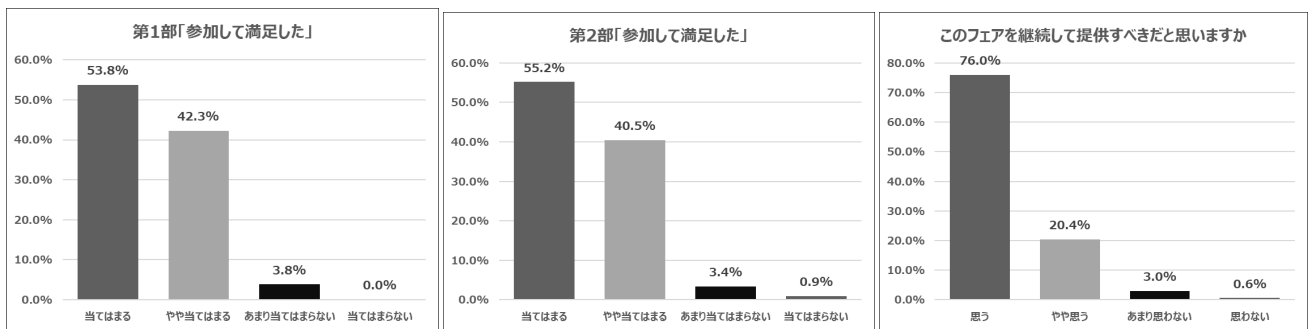
■参加者数（第1部及び第2部の延べ人数）

	関係者	一般申込者	合計
(人)	40	287	327
うち大学等	32	91	123
うち一般（企業等）	8	196	204

■アンケート集計結果

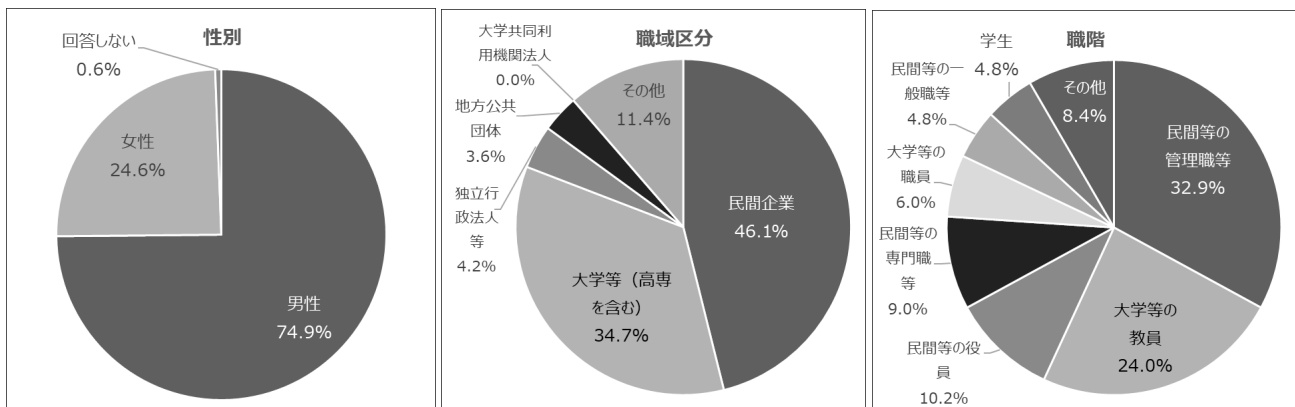
	第1部	第2部	全体
参加者人数	165	162	219
アンケート回収数	104	116	167
回収率	63.0%	71.6%	76.3%
満足度（4件法）	3.5	3.5	

■満足度

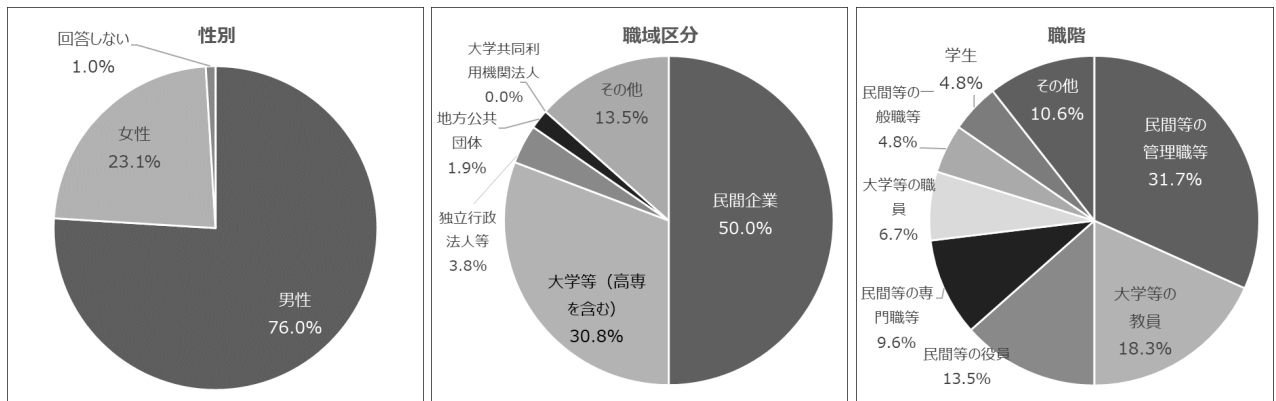


■参加者属性

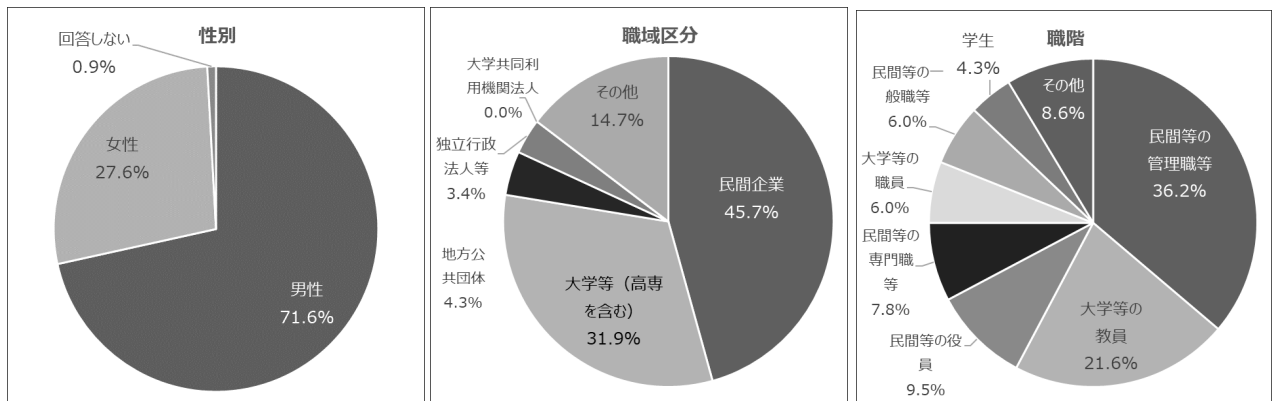
【全体】



【第1部】



【第2部】



第1部について

□役立ちそうと思ったことがあればご自由にお書きください。

- ・ 講座の雰囲気よく分かった。
- ・ 「実務能力の言語化と体系化と実践」という言葉が具体的に何を意味しているのかについて、少しイメージを持つことができた。
- ・ リスキリングしたことを、社会に還元しえるようなサイクルが出来ていることを知れてよかった。
- ・ 実務家教員の動向や社会の期待、
- ・ 大学教員になろうとする場合に求められるスキルと自分に足りない点が見えた
- ・ 大学教育におけるイノベーションの必要性
- ・ 講座の意義について
- ・ 企業施策
- ・ けいけんが活かせるような感じでした
- ・ 具体的にどのような方が受講してどのように学ばれたのかが理解できました。
- ・ 来年 65 歳で定年。是非プログラムに参加したい。
- ・ インフラメンテナンス分野だけでなく、土木全般を包括的に受講の対象とするのがよいとか、他分野とコラボして幅を広げるのがよいというコメントが役になった。
- ・ 社会人としての経験を未来の人達にどうにかせるのか？悩みが明確になった。
- ・ 大学での教育に従事する際に必要な教育方法に関する知見が学べること、経験者によるとそれが有益であったこと。
- ・ 今後、実務家教員として若い世代に教えていく中で、自分の経験だけでは全然足りなくて、インフラマネジメントを考えていく上では、世界環境規模の話に繋がってってしまうため、もっともっと勉強してニーズに合った教育をしていく必要があると感じました。
- ・ 教育カリキュラムの作り方

- ・ 商社での自身の経験が大学でも役立つのではと感じました。
- ・ 突然、タブレットに案内が出てから、この会を知って参加しました。もう申し込みが終わっているかのよう な話ということはわかりました。
- ・ 具体的なイメージを持つことが出来た
- ・ 実際に受けた人の体験が役立ちそうでした。
- ・ 実務で身に付けたスキルを活用できる機会だと思います。
- ・ 質問にお答えいただいた
- ・ 「温かいまちづくり」をしていく上で、社会問題を解決するには、多分野に渡ると思います。大学、研究者、 企業、地域の方々、スターホルダーなど、共感頂ける皆様と研究、解決して行く必要があると思われます。 その中で、大学間の連携も大事な動きになると思いますので、この活動は興味深いです。
- ・ 内容が理解できた。
- ・ 修了者の経験談
- ・ 変化の激しい時代に当たって、自分自身の社会人として積み重ねてきた実務経験や知見を大学での実務的な 講義を通して学生達に伝え教育を行う事で社会-企業-大学のシーズとニーズを結びつける大切な役割が実務 家教員には求められている事を知る事が出来ました。研修プログラム終了後に大学教員になられた卒業生の方 からも、ご自身の受講講座の選択や卒業後の進路などリアルな情報をお聴きする事が出来て非常に理解が 深まりました。
- ・ TEEPメンバーと討論でき様々な意見に触れることができた。
- ・ 学びの内容がよくわかって助かりました。
- ・ イノベータープログラムを受講する学生の層や卒業生の説明により具体的でわかりやすかった
- ・ 課程やプログラムのイメージがわかった。
- ・ 修了者の感想とプログラムの意図が伺えたこと
- ・ 本制度の修了生の評価や終了後の活躍フィールド（大学教員になった、ならなかった、ならなかった場合の 受講事項の活用事例など）が分析など、民間での活用ができる情報提供があると事業成果が広がるような気 がします。
- ・ カリキュラム内容、費用、修了後進路等
- ・ 実務者教員に求められることなど
- ・ オンラインでの参加が想定されており、何とかかなりそうに思いました。
- ・ 修了生の方の受講中及び受講後の感想や実務家教員を目指すに当たって役立ったことについてのお話が参考 になりました。
- ・ 参考になりました
- ・ 受講方法が具体的にわかった
- ・ 高専で主に地方の建設技術者向けにメンテナンス教育に力を入れていることが分かった。
- ・ 具体的なカリキュラム等を確認出来て有意義でした。
- ・ グループによって運営方法が違う
- ・ 修了者の経験談とセッションでの質問。
- ・ 講座の内容が良くわかりました。
- ・ 実務家教員として大学で働くうえで修士、博士の学位が必要かどうか。
- ・ このプログラムの受講が何に役立つのかが理解できた
- ・ 実務家教員の概要が理解できました。プログラムの内容についても把握できました。
- ・ 知識なく参加したのですが、実務家教員というのは、研究教員とは違った視点を教育現場にもたやすための ものというように思いました。初めて知りました。
- ・ 講座終了後の教員へのアプローチの実践向きなアドバイスがあるところ
- ・ 修了生の経験談

□わかりにくいと思ったことがあればご自由にお書きください。

- ・ 本日の説明では感じなかった。
- ・ 他のセッションも確認したかった。
- ・ それぞれのプログラムの特性の違いや背景をもう少し知りたかった。
- ・ 費用及び補助システム
- ・ 基礎と応用のような区分で、大卒の趣旨についての理解に至らず残念でした。
- ・ 私の志は、1のイノベーションと2のまちづくりとが重なると思われます。
- ・ 有難うございました
- ・ 各大学によって行われている講座内容について→各ブースに移動する前に PPT などの共有資料の提示で各校 の特色や求められる人材などについてシンプルにまとめられた説明パートなどがあれば良かったです。4 つ のセッションの簡単な説明の後で→それぞれが興味を持ったブースへ移動するやり方の方がより満足度が高 まると感じました。

- ・課程の違いが何となくわかったが、明確ではなかったこと。
- ・プログラムの概要について、ホームページなどへの案内があるとよかったです。
- ・参加者からの質問さばき方。難しいと思いますが、すこし締めりが緩んだ雰囲気になったように感じました。
- ・プログラム修了後の活躍の場はどうなっていますか？
- ・開催時間が短いのでやむを得ませんが、産学連携のベーターPgmの4つの提供の専門領域科目についての説明、受講形態（対面、同期/非同期型オンライン、ハイフレックス）などの説明は、常に参加者から質問が想定される内容なので、説明スライドを予め準備しておく（説明してしまう）のも良いのではないかと思います。
- ・グループによって運営方法が違う
- ・プログラム後にどうやって教員になったか、について
- ・講義内容の難しさとかレベル感がわからなかった
- ・自分の会社、仕事を通じての経験が活かせるなら、役に立てるかもしれないと興味を持ち参加させて頂きました。適正や能力、年齢も含めて、強い意志が必要と感じました"
- ・実務家教員が実際どのようなことを教えるのかがあまりよくわかりませんでした。
- ・松本様の説明は分かり易かったです

第2部について

□役立ちそうと思ったことがあればご自由にお書きください。

- ・こういう、閉鎖性高い日本の現状を打破する取組みは、もっと周知して日本全体の刷新に活用すべきと捉えました。
- ・現状の我が国の衰退を危機感を持って感じる事が出来た。
- ・堀井教授の「イノベーションと成長のための人材育成と働き方」のお話は様々な理論や情報だけでなく社会での課題を具体的にどう変えていこうとしているのか、、、ということまで言及されており大変勉強になりました。
- ・人材育成とリカレント教育の重要性
- ・経済成長と人材育成については、大変ためになった。
- ・人材育成、リカレント教育について、ヒントが得られた
- ・リスクリングにおける産学官連携の可能性について知見が得られた。
- ・大学側・企業側それぞれの内容が聞けて、現状を理解でき、それを知見として社内に持ち帰る事が出来る点
- ・講演者に共感できました
- ・日本の社会構造、産業構造といった大きい視点から、求められる人材育成について理解が深まりました。
- ・課題感の共通認識ができたこと。
- ・日本の大学の教育のあるべき姿
- ・大森先生の「マーシャル・マン」のお話と、「多様性」「流動性」「自立性」がこれからは重要であることに共感しました。社内でも使いたいと思いました。
- ・堀井先生の、イノベーションは「巨人の肩に立つ」に感銘しました。アイデア出しは容易ではないですが、経験や教育から生れると考えると現実的に取り組める気がしました。
- ・キャリアコン資格を持っておりませんが、正直それを活かせておりません。今後のセカンドキャリアを考えるうえで多くの情報を頂きました。まだ頭の中が整理されていませんがこれから考えて参ります
- ・小泉政権の例に雇用の流動化は起こっても、必ずしも成長性の高い業種に移行しない。
- ・富士通さんのやっておられることに関して、弊社では規模が小さすぎて真似することは出来ませんが、考え方は同じです。危機感を持った上で、未来を創造し、人材を育てて行くことが、この国にとって必要なことだと感じています。
- ・自分自身を今一度振り返りつつ、子どもの教育産業に携わっているので、今日の内容も参考にしながら、これから必要な能力は何かを伝えていきたいと思いました。
- ・これから変わると良いことが明確になった
- ・時代が変化しジョブ型が今後重要となると理解しました。
- ・富士通様の学生へのアプローチが大変参考になりました。
- ・国や日本の企業の採用等への認識や人材育成についての考えを知る機会になりました。
- ・世界情勢や過去の歴史、国内現状を学ばせて頂きました。富士通様の具体的なお話も非常にありがたかったです。
- ・今の日本のポジションがデータ等で明確になったこと。大学として何をすべきかヒントを得たこと。富士通と学生のインターンシップ（アカデミーの例）は産学連携に活かせるのではと考えた。
- ・富士通さんの取り組み、そして国内企業向けの BtoC のベンダー業での限界を踏まえて業容の変化を目指している姿に感銘を受けました。
- ・イノベーションを起こすために必要なこと、必要となる社会人教育の在り方の関連の強さが明確にされた
- ・自分の居る業界（どらかといえば建設）とは違う視点での人材育成の意見

- ・イノベーションのためには、技術の蓄積が必要、アイデアを採用・展開する側にも知識・技術が必要、いずれにしても、生涯学習が必要。
- ・社会人のリカレント教育の必要性
- ・在職者リスクリングにおける、大学の役割についてや、諸外国との対比のお話、学生への生涯を通じた学びへの働きかけのお話
- ・失われた30年間から抜け出すには、大学の教育改革、企業の組織風土・雇用改革、政府の産業政策改革を三位一体で早急に進める必要があると実感したこと
- ・日本の現状
- ・多様性、流動性、自立性について
- ・日本におけるイノベーション人材が育ちにくい背景には様々な要因があるということ、それが日本経済の成長減速に影響していること
- ・世界で日本国だけが成長力や魅力が後退し、政府の支援や企業努力だけではなく、我々働く者の意識意識と行動を変える為にも、自身の学び直し（リスクリング）や社内外の人材流動化を進める事が重要だと認識出来ました。また、富士通の人事責任者の方々から、先進的な企業でのジョブ型雇用-社内公募制-インターン制度を活用し人材を発掘、育成、社内人材の流動化を通じてチャレンジングや社風を作りあげようとしている様々な試みのお話を伺って非常に有意義でした。
- ・学び直し、リカレント教育の重要性について改めて認識できました。
- ・世界の中の日本の大学教育の実態を把握できた。また大学教育の実態と企業の目指している方向性を照らし合わせた時にかなりの乖離があることを実感した。この乖離を埋めるためにも実務家教員のニーズは高まることを認識した。
- ・日本でなぜjob流動性が起きにくいかの分析
- ・産業界の生産性の向上や社会の活性化のために、考える力を有する人材育成が必要だと改めて認識しました。
- ・富士通様におけるインターンシップの取り組みは大学教育を補完・もしくは実践的な人材育成になるように思いました。
安井様からは、日本においてリカレントが盛り上がらない一因に、社会のニーズと大学がしたいことの乖離があると説明がありました。
渡辺様からは、産業界、実務家のニーズに合わせて大学教育の内容を考えることはできないのかという趣旨の質問がりましたが、これはニーズ乖離を埋める気はないのかという実務家のフラストレーションがにじんだもののように感じました。"
- ・多くの情報
- ・リスクリングはニーズを見極めて的確に提供すべきということ。これまで不活発だった理由と今後活発になる条件。
- ・「日本の人材育成を問い直す」という問題提起をする上で、大森先生のお話は分かり易かったと思います（LAコースの講義等で既に伺っていましたが）。
- ・本気になってチームで取り組むことに共感です。
- ・大学における実践がたの人材育成が重要である事はわかった
- ・日本の大学の現状がよくわかった
- ・最初の講演で、日本では会社で大学で学んだことが役に立たないというお話があったが、そもそも日本の大学では社会の課題の解決に向けた授業を行っていないのではないかと感じた。
- ・大学教育の重要性を改めて考えることが出来ました。
- ・大森先生のご講演はデータにもとづき、すっと腹落ちしました。普段から感じていることを形式知化して見せていただいたように感じました。
- ・堀井先生のご講演を聞き、日本がアルゼンチン化しないため、いままさに正念場にいることを実感いたしました。自分の経験が少しでもお役に立てないかと、いろいろ触発される貴重な機会でした。
- ・アルゼンチンと同様な道を今日本が歩んでいることが非常に勉強になった
- ・民間企業（富士通）からの話を聞くことができたこと。
- ・社会人の学びがどのようにとらえられているのか、傾向がよくつかまえられた
- ・最近の企業の取り組みを知れた。産学の連携が人材育成の面においても進んでいることに驚いた。
- ・富士通の取組は参考になりました

□わかりにくいと思ったことがあればご自由にお書きください。

- ・もっと、啓発する機会を設けてください。
- ・「右図」「左図」表現は初めてでしたのでの参考になりました。
- ・政府の具体的役割
- ・もうちょっと、実務家教員の役割について触れてほしかった。
- ・産学、社会の問題点は理解するが、ご発言にもあったようにアクションが取られていないことが問題。どこからと切り込んでいくかについて議論が伺いたかった。

- ・日本総研の方の建設労働が他産業に移行できなかった分析の説明は、今回の論旨に無理矢理寄せている印象を受けました。
- ・富士通さんは事業規模が大きすぎて後半は理解が追いつきませんでした。
- ・阪大の先生が、多分待ち時間が短いからだと思うのですが、早口すぎて、内容が頭に入りにくかったです。画面の前にずっと張り付いてられないタイミングでは、音声だけでは認識が追いつきませんでした。
- ・ご登壇の方々の意見をまとめ総括するのが足りなかったと思います。
- ・もう少しシンポジウムでの質問を簡潔にして、全般的な産業界についての話で伺いたかったです。
- ・それぞれの方のプレゼンテーションにせよディスカッションにせよ、課題にせよメリットにせよ、国・企業・個人どこに焦点があたって話されているのかが行ったり来たりするため、それを整理しながら理解していくのが大変だった
- ・雇用の流動化について、大きなテーマではありますが、自分として何ができるか。団体、国の機関など、他人任せになってしまうのでしょうか。
- ・大学教育の具体的な改革の方向性についてやや分かりにくかった。私見ながら、VUCAの時代であればこそ、（データサイエンス等の）専門教育に劣らず、そもそも考える力を伸ばすリベラルアーツの意義が再認識されるべきではないかと感じている。
- ・実務家教育が、イノベーション人材の創出にどう影響を与えることができるのか？
- ・優秀な人材を育成できていないのか、流出してしまっているのか、こうした点を含めての全体像が知りたかった。
- ・時代のニーズや社会や企業側からの要請の視点で「デジタル人材」獲得やそれに向けた学び直しのお話が多かったですが、大学関係者からの視点でリベラルアーツ（社会人として必要な教養）とこれからの実務に役立つスキルなどの教育について、先進国の事例などを通じて好事例のお話があると目指すべき目標のイメージを持つ事が出来た様に感じました。
- ・各業界で人材不足と言われていますが、社会で情報産業関連人材さえ充足できれば、社会課題は解決するような誤解が生じるような心配があります。
- ・結局従業員の自分は何をするべきか。できることは限られている。国や会社がどうこう言っても変えるのは困難なこと。
- ・質問にあまり答えてもらえていない。
- ・多くのアンケート結果で、大学生は・・・とくられるが、理系・文系、学卒・院卒などに分かれていないので、実態がわかりにくい。
- ・①3人の登壇者の方それぞれの講演が少し長いように思いました。講演は20分くらいにしたうえで、主催者側が予め聞きたい質問を用意しておき、それに沿って回答するというスタイルで登壇者にお話し頂くと、ポイントが縛られて良いのではないかと思います。（それぞれの講演が少し冗長に感じられました）
- ・②職業教育や企業等の組織開発について研究をされている研究者の方に大学における（学生の）人材育成についてお話し頂くのも面白いのではないかと思います（例えば、企業組織における経験学習や経営学習論、職場学習論などを研究されている立教大学の中原先生や北海道大学の松尾先生など）
- ・③パネルディスカッションをもう少し長くできたら良かったと思いました。"
- ・スライドが文字が多くて分かりにくい
- ・ちょっと長かった
- ・当日仕事があり、あまり参加出来なかったので出来れば録画したビデオが見れたら嬉しいです
- ・学ぶ習慣を持っていない人にとって、現在は学びを選択しないことが（広い意味で）「合理的」になっている環境。この人たちが動きたくするような環境の整備が求められるのだが、どうすべきかというお話しが「現在学んでいる人」や「学びたくない人」のためのものと入り混じってしまっていたため整理しにくかった。また、日本企業にとってよい施策は、必ずしも日本人、あるいは日本国、そして日本の大学にとってよいものとは限らない。この点も論点を明確にしたい。

「フェア全体について」

□ご意見ご感想があればお寄せください

- ・第一部の個別のブレイクルームでは時間切れで質問できなかった。質問をさせてもらえるような機会が今後あるでしょうか。窓口のようなものがあれば、教えてください。
- ・YouTube 動画等を介して、もっと社会に発信、発信すべきです。
- ・実務家教員の今後の活躍を追っかけて欲しい。また、大学側はどのような変化をもたらしたか議論が欲しいと思う。
- ・本日は長時間にわたりありがとうございました。先生方の資料やお話は理論やデータに基づいたもので大変興味深く、勉強になり今回の事業の背景がとても理解できました。一方で、ITCやDXなどが叫ばれ、デジタル人材(思考)不足が深刻に叫ばれる中、登壇される方やHPに登場されている方が（大変失礼ですが）ご年配の方ばかりで、どうやって学生の心に火をつけ、大学教育にイノベーションをおこそうとされているのか、ギャップを感じたのも正直なところです。

高偏差値大学を卒業しいわゆる大企業を定年退職し、ある意味昭和のど真ん中の生き方をされてきた方が教員になってもこれまでの学校教育と一緒の結果なのではないでしょうか。

集客の問題であれば集客チャンネル等を、選考の問題であれば選考方法を変えていかないと根本的には変わっていかない（イノベーションが起きない）のではとっております。

実業界には中卒でも起業し、業界を席捲するような技術を世の中に提供している方なども多いです、そのような辺境人こそを大学教育に少しでも入れていくべきではないか、と大変僣越ながら感じた次第です。私のような民間人の一方的で偏った意見で大変恐縮です

私自身は人事プロフェッショナルとして、長らく実業の世界に身を置きながら、(企業側の問題も多くある前提で)昨今の大学生があまりにも「考えなくなっている」という感触を非常に危機的に感じております。これからの日本をもっと「創っていく」ためには、もっともっといろいろなことを(どうしたい、どうなりたい)考えられる学生をいかに増やせるかという必要性を非常に強く感じており今回の会を参加するきっかけにもなっております。

- ・課題解決はオール日本で取り組む課題ということがよくわかりました。
- ・この度はありがとうございました。実務家教員についても焦点をあててシンポジウムで議論をお願い出来ればと思いました。
- ・啓蒙・啓発として続けてほしい。
- ・第2部の内容自体は有益だったが、実務家教員との関連がわかりづらかったかもしれないと感じた。
- ・わかりやすく、共感できました
- ・フェアなので仕方ないですが、ブレイクアウトルームに分かれたときに他のルームの様子がわからず(出入りはできるが説明は終わってしまっている)、そちらもきいてみたかったと思いました。
- ・今後の産官学の方向性について参考になる情報を多く提供頂きました。ありがとうございました。
- ・目から鱗のフェアでした。母校東北大学でこのようなムーブメントがあるのは嬉しい。
- ・フェア全体を通して、この30年で日本がいかに成長を止め、社会の構造、企業の人材育成・評価のしくみ、教育の在り方を変えていかなければならないかを考える、よいきっかけとなりました。
- ・また、そのためには、社会人の学び直しと、実務家教員の存在の重要性を認識することができました。"
- ・参加者同士のディスカッションもあれば嬉しいです。
- ・実務家教員が業として成立する世の中にできるよう何かできることからしたいと思いました。
- ・大変有意義で、多くの有識者の方の声を聞く機会があることは重要だと改めて感じました。新聞や雑誌の記事、テレビ報道だけでは、この危機感や緊迫感の熱量は伝わりにくいことです。
- ・大変参加になりました。有難うございました。
- ・実務家の目線からは大変貴重な機会だと感じました。
- ・どんな案内の仕方をされている会かわからなかったのですが、参加できてよかったです。YouTubeで見かける日本の将来の働きなど取り上げている番組より辛辣な日本で働くことへ希望がないという発言を出す文部科学省主催事業というのに驚きました。
- ・非常に有意義な機会でした。是非とも、YouTubeなどで配信していただけるとありがたいです。本日、偶然に知人にお聞きし、途中から、参加させていただきました。誠にありがとうございました。
- ・お疲れ様でした。継続していただきたいのが一番の願いです。
- ・非常にユニークかつ充実し内容で、新たな情報を多くいただけました。ぜひとも今後とも継続して色々な機会を実施頂きたいと思えます。
- ・長丁場でしたが、そのぶん有意義な機会でした、ありがとうございました。
- ・日本の人材育成の課題と経済社会の縮退が関連していることは今回の参加者はフェア開催前から感じている事だと思います。今回で登壇者が述べられた打開策が、大きな潮流になっていないのか不思議であると改めて思った。
- ・初めて参加しましたが、様々な実務家教員の育成プログラムがあり、活躍の場や活躍の方法など多様にあることを知りました。
講演では、現在抱える教育の課題、企業での働き方の課題、そして日本が経済成長しない課題など幅広く聴講できたことが大変有意義でした。今日の講演の内容を少しでも役に立てるよう日々精進していきたいと思えます。
- ・明日からの仕事のヒントになる学ぶことの多いフェアでした。
- ・自身が社会人での学び直しを経て学位を取得した実務家教員です。まだまだやるべき役目がある、と感じることができました。第一部から参加すべきだった、と感じました。ありがとうございました。
- ・第2部の運営について、現実的なプログラム時間割を企画するか、予定された時間割で進行するよう一部の冗長さを制限するかにより、大学改革の中身とそこでの実務家教員の貢献をよりフォーカスして議論されれば満足度が高まったと考えます。
- ・バタフライ効果があるような研究が進むこと、実行できるものが生まれると素敵ですし、国、皆様の幸せにつながるような人材教育ができる組織であるとより拡大して行くと思えます。また、多様性が皆が組み合わせる事により素敵な世界が生まれると思えます。そのためには、マネジメントする際に人間力が問われるため、哲学などの人磨きも大切だと思われる。多義に渡っての学びができそうで興味深いです。

- ・不幸があり、葬儀のため視聴できませんでした。次の機会あればぜひ
- ・講師の講義内容は大変興味深かったが、実務教員を育成と後半のテーマの関連性がよくわからなかった
- ・録画配信があるとうれしいです
- ・日本の大学教育の現状もうかがえ、大変参加になりました。
- ・ブレイクダウンルーム制だと複数に興味ある者がやや消化不良かと思えます
- ・講義時間をもう少し余裕を持った方が良いと思う。詰め込みすぎでじっくり聞くことができなかった。
- ・案内メールが届かず(迷惑メールに埋もれたのかもしれないが)参加できなかったので次回は参加したい。
- ・ギリギリに申し込んだため、入口が提供されず参加できなかった。定期的に開いていただけると嬉しいです。
- ・自分自身の成長と人材育成を通じて企業と大学を結びつける事で→イノベーションを起こして日本を変革の必要性を様々な専門家の方から最新の情報と知見を伺う事が出来る有意義で稀有なフェアだと感じました。私自身は今回のイベント参加で実務家教員について非常に興味を持ちました。自分自身が実務家教員になれるかどうかではなく、どんな形でも自分が社会人として重ねた経験をこれからの日本を担う中心となる学生と共に成長していきたいと感じました。本日は本当にありがとうございました。
- ・もっと話し合いをする時間が欲しかった。
- ・養成プログラムを受けたからといって、教員に採用されるのはほんの僅かだと思いますが、いかがでしょうか。プログラムの内容も大切ですが、出口の情報をもっとも重要だと思います。その充実を期待したいです。
- ・継続的に開いて欲しい
- ・世界の大学教育の実態との比較は、継続して紹介してほしい。
- ・東北大学としては画期的なテーマ設定でよかったと思います。
- ・やはり実務家教員は、大学教育に必要であり、実際現場で勤務していると、研究職との乖離を感じるため、今後も継続してほしい。
- ・パネルディスカッションにももう少し時間を割いて欲しかったです。
- ・大学教員、実務家、シンクタンクの方の話はとても興味深く、今後の人的資源の開発や投資に関して多くの示唆をいただきました、ありがとうございました。
 題目にある「大学改革」というワーディングについては、私の理解不足とは思いますが、今回のフェアの内容との結びつきをうまくとらえることができませんでした。
- ・本日は、お申込みしていたにも関わらず、所用で参加できず申し訳ございませんでした。今後も開催お願いいたします。
- ・主催校同士や、それぞれの関連校の交流会などがあるとよかったと思います。ありがとうございました
- ・講義のみでは、記憶にとどまりにくいことは忘却曲線で言われている。フェアのデザインを再考するべきではないでしょうか？
- ・産業界と大学の両方の視点から講師陣のお話が聞けて、たいへん参考になりました。
- ・実務家教員育成プログラムの紹介（説明）を、もう少し詳しく行ってみたいは如何でしょうか。各プログラム間で一定の競合関係はあるのだと思いますが、相互に情報交換をされて、それぞれの良い部分を取り入れることによって、プログラム内容を充実していくことができると思いました。(LA コースの 2021 年度以前の年次報告書を拝見したことがあります。数多くの有益な意見が出されていたように思います。)
- ・日本の産学連携を進めるため、発信し続けることを期待します。
- ・実務家教員のニーズがあるといいながらも、抜本的の仕組みがないので、プログラム卒業後も、最初の一步が踏み出せない。リーダーシップの講師の機会はほぼない。そこに踏み込んだ議論をしてほしかった。
- ・素晴らしい学びの機会をいただきありがとうございました。企画準備いただきました皆様に心より感謝申し上げます。
- ・とても有意義な企画だと思います
- ・高等教育では、縦串（深い専門性）と、横串（社会の課題を俯瞰的に把握できる力）の両方が必要と思う。日本の高等教育の専任教員は縦串の専門家（博士）ばかりで、横串のことをよく分かっていないのではないか。それを補うために横串（社会の課題に直面する）実務家教員が求められていると思う。
- ・是非継続開催をお願い致します。
- ・質疑が個人的なコトで、それは個別相談会やメール問い合わせに誘導すべき
- ・プロジェクトの趣旨がコンパクトにまとまっており、大変有意義でした。
- ・申込みが直前だったため、ZoomID などのお知らせが貴センターから届かず、当日参加することができませんでした。
- ・4つのセッションがありましたが、それぞれどのような違いがあるのか、特徴をしっかりと提示していただくと、さらに理解しやすいと感じました。
- ・今回フェアに参加させて頂くことで、日本が再び成長を取り戻すために、実務家教員への期待があることがよくわかりました。是非応募したいと思います。
- ・もっと具体的に話していただいてもいい部分はあった。例えば富士フィルムのセッション中の具体例をもっと出していただいた方がイメージはしやすい

- ・今回は予定があり、最後まで参加できなかったが、次回以降も続けて頂ければと思います。
- ・実務家教員が現場で直面する課題も知りたい
- ・申し訳ありません。他業務が生じて参加できませんでした。
- ・大変に申し訳ありません、所用ができてまして参加できませんでした。見逃し配信の機会はございませんでしょうか。いつも内容が高度で理解に時間がかかり、再視聴できると大変にありがたいです。
- ・実務家教員は、社会人として実際に経験したことを学生に語れる点で、迫力ある内容になると考えます。学生も理屈プラス経験の授業は、頭に残るし、社会人になった時のイメージが湧くと思います。
新しいことを創造する土壌を作ることで、チャレンジする気概を持った学生が増えてくると考えます。
- ・各コンテンツ十分な時間がとられており充実した時間となった。参加者同士がどう受け止められたかを語る機会があればよりよいと思う／富士通の方（ディスカッションにおいては非常によいお話をされていました）のプレゼンテーションが全体のテーマから外れていたのは残念だった
- ・とても興味深い内容で、資料を見直したいと思います。ありがとうございました。
- ・大変残念ですが、急用にて参加できませんでした。
- ・卒業式シーズンで、どうしても通してお聞きすることができませんでした。後で録画を聴けるとありがたいです。とくに第1部に参加できなかったのが、大変残念です。
- ・特に第一部は参考になりました。有難うございました。

4.8 キャリアサポート・オンラインセッション2022

「キャリアサポート・オンラインセッション 2022」実施要項

開催日時:2022年11月20日(日)

【第1部】先達実務家教員と語ろう～実務家教員とのディスカッション
14:00～15:00

【第2部】JREC-IN/researchmap への情報掲載に関する Q&A セッション
15:15～16:45

13:45 ~ 14:00	Zoom 受付 ※コース名+氏名(漢字/フルネーム)を記載してご参加ください
14:00 ~ 15:00	【第1部】先達実務家教員と語ろう ～実務家教員とのディスカッション
	講師:乾 喜一郎(白百合女子大学・淑徳大学 兼任講師) 佐藤 義博(産業能率大学 経営学部教授) 司会:宇野 健司(東北大学非常勤講師、株式会社大和総研)
14:00 ~ 14:05	開会挨拶、講師紹介、本日の進行について
14:05 ~ 15:00	実務家教員とのディスカッション 事前質問への回答、質疑応答
15:00 ~ 15:15	休憩
15:15 ~ 16:45	【第2部】JREC-IN/researchmap への 情報掲載に関する Q&A セッション
15:15 ~ 15:25	概要説明:戸田 真志(熊本大学教授)
15:25 ~ 16:45	Q&A セッション ※ブレイクアウトルームに分かれて行います ステップ1:researchmap および JREC-IN へのアカウント登録方法 ステップ2:researchmap に自身の所属・学位・業績を登録 ステップ3:JREC-IN のフィード連携・履歴書作成 ステップ4:JREC-IN での公募情報検索
16:45	終了アナウンス/事務連絡

実施方法:Zoom によるオンラインセッション

※ZoomURL は、開催3日前11月17日(木)より、Moodle にリンクを公開

参加対象:2022年度産学連携教育イノベーター育成プログラム(AIBET)受講者。参加は任意。

第1部に参加する方	➡ Moodle よりアクセスし、「各講師の講演動画」を視聴してください。事前に講師への質問や感想を受け付けています。
第2部に参加する方	➡ Moodle よりアクセスし「researchmap/JREC-IN 等利用ガイド」のステップ1～4について自習を行ってください。

※第1部は、他の「実務家教員育成研修プログラム」の修了者も参加します。

参加申込:Moodle に掲載したリンク(Google フォーム)より申込みをしてください。

申込締切:2022年11月14日(月)

4.9 持続的な産学共同人材育成システム構築事業 HP他

1) 運営拠点ポータルサイト (<https://jitsumuka.jp/>)



2) 中核拠点ホームページ (<https://jitsumuka.jp/innovator/>)



3) JREC-IN へのバナー掲載 (<https://jrecin.jst.go.jp/>)



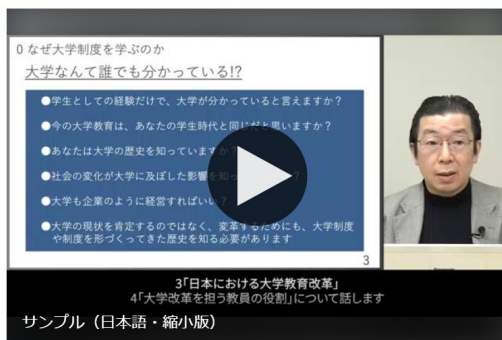
4.10 大学等における教育FD動画コンテンツの利用

●提供動画・パッケージ

	パッケージ コンテンツ	1.基本パック (日本語)	2.基本パック (日・英)	3.全パック
日本語	1. 大学教育制度論	○	○	○
	2. インストラクショナルデザイン	○	○	○
	3. 授業設計論	○	○	○
	4. 学習評価論	○	○	○
	5. 学生・学習支援論			○
	6. カリキュラムマネジメント			○
	7. 大学における倫理			○
	8. 教育改善論			○
	9. オンライン授業実践論			○
	10. ICT 等先端技術活用教育論			○
	11. 実務家教員論			○
英語	1. 大学教育制度論		○	○
	2. インストラクショナルデザイン		○	○
	3. 授業設計論		○	○
	4. 学習評価論		○	○

●提供イメージ

サンプル（日本語・縮小版）



サンプル（英語・縮小版）



●利用機関数

設置形態	学校種別	大学	専修学校 (専門学校)	その他	計
国立		18	2	0	20
公立		6	0	0	6
私立		63	4	0	67
その他（企業等）		0	0	3	3
計		87	6	3	96

●利用者アンケート評価 n=216

	年度 コンテンツ	1. 教材の内容は今後の教育活動に有益でしたか。	2. 受講した感想について選択してください。			
			内容を理解できた	新しい知識・情報を得ることができた	新しい見方ができるようになった	自分の授業等で活用したいと思った
日本語	1. 大学教育制度論	3.59	3.71	3.18	3.12	2.88
	2. インストラクショナルデザイン	3.53	3.76	3.53	3.53	3.06
	3. 授業設計論	3.60	3.73	3.47	3.27	3.20
	4. 学習評価論	3.78	3.67	3.64	3.56	3.36
	5. 学生・学習支援論	3.35	3.78	3.26	3.04	2.87
	6. カリキュラムマネジメント	3.00	3.09	3.27	3.18	2.45
	7. 大学における倫理	3.20	3.67	2.93	2.93	2.73
	8. 教育改善論	3.36	3.73	3.27	3.18	2.64
	9. オンライン授業実践論	3.46	3.69	3.23	3.08	3.23
	10. ICT等先端技術活用教育論	3.45	3.55	3.45	3.27	2.55
	11. 実務家教員論	3.38	3.50	3.38	3.38	3.25

2022年度

実務家教員等育成のための 研修講師養成プログラム

産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学での学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えています。このような中で教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指し、実務家教員の育成に関する取組がなされ始めています。

産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く

深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員の養成及びその持続的な育成・活用システムの構築は重要な課題です。

そこで、本プログラムは、実務家教員を含む大学教員のための研修講師を養成するため、実際の研修プログラムの参与観察に加え、研修の開発・実施側の視点に立った考察の機会や議論の場を提供することにより、将来、実務家教員を含む大学教員のための研修ファカルティ・ディベロップメント(FD)の開発・実施に関する実践的知見を持つ人材の育成を目指します。

プログラムの達成目標

本プログラム受講者は、次のことができるようになることを目指します。

高等教育機関における
実務家教員の養成に関する政策や
動向について説明できる

実務家教員志望者の
特性やニーズを
説明することができる

実務家教員養成の課題を
発見し、その対応策を含む
養成プログラムを提案できる

プログラムの内容

現在の実務家教員の多様な在り方に鑑み、実務家教員を含む大学教員に共通に必要なとされる教育実践力(汎用的な専門性)を高めるカリキュラムを持つ履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム(AIBET)」を活用し、実務家教員を含む大学教員のための研修を担う講師を養成します。本プログラムでは、上記目標を達成するために、受講者は次の活動に取り組みます。

受講者が取り組む3つの活動

1 動画視聴による学習と ディスカッション

実務家教員を取り巻く政策や課題について講演動画等により学習、プログラム講師とのQ&Aを実施



実務家教員養成に関する理解

2 AIBETの 聴講と参与観察

AIBET LAコースの聴講や演習への出席、受講者の学びの様子などを観察し考察を深める



プログラムと受講生に関する理解

3 レポート作成

実務家教員養成を取り巻く状況、課題、それらに対する対応策を含むレポートを成果物として作成



実務家教員養成の課題と対応策の提案

① 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」及び同事業における実務家教員育成研修プログラムの一つであるAIBET並びに関連政策の動向に関する理解とディスカッション

② 研修実施側の視点に立ったAIBETの参与観察的受講

③ 実務家教員養成における課題と対応策等に関するレポートの提出

※本プログラムは、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」の一環として提供されます。

応募資格

下記の①もしくは②のいずれかに該当する者。

①文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において実施される実務家教員研修プログラム修了生[※]で、大学等での授業実施経験のある者(常勤・非常勤等は問わない)

※該当プログラム:産学連携教育イノベーター育成プログラム(提供校:東北大学他)、進化型実務家教員養成プログラム(提供校:名古屋市立大学他)、実務家教員養成課程(提供校:社会構想大学院大学他)、実務家教員育成研修プログラム(提供校:舞鶴工業高等専門学校他)

②高等教育機関における教員研修(FD)担当者・担当候補者

定員

5名程度

費用

無料

但し、対面(東京又は仙台)で実施する研修項目に対面で参加する場合、交通費・滞在費等は本人負担となります。

応募方法

1 応募期間 2022年6月1日(水)~20日(月)

2 応募書類 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」ウェブサイトへアクセスし、応募フォーム(Google Form)へ必要事項を記載の上、提出すること。

詳しくはこちら
<https://jitsumuka.jp/>



3 推薦書 応募資格②の方は、所属機関の上長より推薦が必要となります。上長に確認の上、応募フォームに推薦者名・連絡先を記載してください。事務局より推薦者へ連絡させていただきます。

選考方法 日程

書類選考を行う。

応募期間:2022年6月1日(水)~20日(月)

審査結果通知(メール):2022年6月24日(金)

2022年度スケジュール

研修項目	受講方法	所要時間	日程
1 本事業・本プログラムに関する説明、講演動画の視聴	オンライン(非同期)	1時間	7月上旬
2 上記に関するQ&Aセッション	オンライン(同期)	1時間	7月23日(土)10:00~11:00
3 AIBETオリエンテーション参加	同期型対面(東京)もしくは後日動画視聴	1時間	8月6日(土)13:30~14:30
4 AIBET大学教育基礎力科目の聴講・受講者掲示板の観察	オンデマンド	3時間	8月6日~10月7日の間
5 AIBET汎用的教育実践力科目の聴講	同期型オンライン	5時間	①10月15日(土)もしくは30日(日)②10月16日(日) ③10月22日(土)もしくは23日(日)
6 AIBET専門領域別科目LAコース学習項目1~4の聴講	オンデマンド	1時間	11月1日~11月30日の間
7 AIBET専門領域別科目LAコース学習項目6演習の聴講	同期型対面(仙台)もしくはオンライン	3時間	12月17日(土)もしくは18日(日)
8 AIBET教育イノベーター実践演習科目 キャプストーン事前指導(LAコース)の聴講	同期型オンライン	1時間	1月16日(月)~22日(日)の間
9 AIBET教育イノベーター実践演習科目 成果発表会の聴講	同期型オンライン	3時間	2月4日(土)・5日(日)・18日(土)・19日(日)のいずれか
10 AIBET講師とのディスカッション	同期型オンライン	1時間	2月25日(土)10:00~11:00
11 レポート提出	Moodleへ提出	1時間	3月6日(月)23:59まで

所要時間合計 20時間

修了要件

開講期間内に本プログラムの20時間の課程を全て受講すること。修了した際には、受講証明書を発行します。

問い合わせ先

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営拠点

代表校(事務局):東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41 Tel:022-795-4472・4473 Email:innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

1) 研修プログラム広報 (中核拠点)
2022 年度プログラム募集 (新聞広告) :

エグゼクティブ、
プロフェッショナル
人材の方々へ

大学教員への道を目指しませんか？

\ 実務家教員を育成する /

産学連携教育イノベーター育成プログラム

4月1日より
募集開始!

研修プログラムは **4コース** から選べます。

※研修プログラムは、オンラインと対面を組み合わせて実施

- 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース (東北大学)
- インストラクショナルデザイン指導力育成コース (熊本大学)
- アントレプレナーシップ教育力育成コース (大阪公立大学)
- リーダーシップ開発力育成コース (立教大学)

**2020年度より
本プログラムを実施中**

- 役員23%、管理職等54%、専門職等22%
- 働き盛り世代が中心
30~40代 40%、50代 50%
- 東証一部上場企業所属40%

これまでに全国の多彩な業種・職種から
経験豊富で優秀な修了生145名を輩出

講座概要

- 受講期間: 2022年7月~2023年2月
- 応募期間: 2022年4月1日(金)~5月9日(月)
- 受講料: 300,000円(一部のコースで下記助成金が活用できます。)

教育訓練
給付制度
(特定一般
教育訓練)

40%

費用の
を助成*

*産学連携リベラルアーツ教育力育成コース、インストラクショナルデザイン指導力育成コースのみ対象
文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定

問合せ先 **東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター**

TEL : 022-795-4472・4473 E-mail : innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

プログラムの詳細は
コチラをCHECK ▶▶

◆ 「産学連携教育イノベーター」
実務家大学教員育成プログラムが開講

学生も社会人も学びとチャレンジを続けられる社会を実現し、未来を切り拓く人材を輩出するには、産業界の知見と教育実践力を併せ持つ「産学連携教育イノベーター」(実務家教員)が必要。東北大学、熊本大学、大阪公立大学、立教大学の4大学が「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を7月から開講する。

応募期間は5月23日まで。定員は100人(4大学合計)。受講料は30万円。対象や応募方法などの詳細はホームページ<https://jitsumuka.jp/innovator/>で。2次元コードからも。

↑掲載日:

2022年4月1日 日本経済新聞・朝刊・全国版

2022年4月22日 朝日新聞・朝刊・東京本社版

2022年4月25日 日本経済新聞・朝刊・全国版

2022年5月13日 日経新聞・朝刊

2022年5月17日 読売新聞・朝刊・東京、大阪、西部本社版

←掲載日: 2022年5月20日読売新聞・夕刊ありーな・全国版

2023 年度プログラム募集 (新聞広告) :

エグゼクティブ、
プロフェッショナル
人材の方々へ

大学教員への道を目指しませんか？

\ 実務家教員を育成する /

産学連携教育イノベーター育成プログラム

2023年
3月1日(水)
募集開始!

研修プログラムは **4コース** から選べます。

※研修プログラムは、オンラインと対面を組み合わせて実施

- 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース (東北大学)
- インストラクショナルデザイン指導力育成コース (熊本大学)
- アントレプレナーシップ教育力育成コース (大阪公立大学)
- リーダーシップ開発力育成コース (立教大学)

**2020年度より
本プログラムを実施中**

- 役員23%、管理職等54%、専門職等22%
- 働き盛り世代が中心
30~40代 40%、50代 50%
- 東証一部上場企業所属40%

これまでに全国の多彩な業種・職種から
経験豊富で優秀な修了生145名を輩出

講座概要

- 受講期間: 2023年7月~2024年2月
- 応募期間: 一次募集2023年3月1日(水)~3月31日(金)
二次募集2023年4月3日(月)~4月13日(木)
※但し、一次募集で定員に達した場合、二次募集は行いません
- 受講料: 300,000円(一部のコースで下記助成金が活用できます。)

国の
助成制度

40%

費用の
を助成*

*詳細は2023年2月公開の募集要項を参照
文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定

問合せ先 **東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター**

TEL : 022-795-4472・4473 E-mail : innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

プログラムの詳細は
コチラをCHECK ▶▶

↑掲載日: 2022年12月27日 日経新聞・朝刊・全国版

2023年3月1日 日経新聞・朝刊・全国版

2023年3月6日 日経新聞・朝刊・東京本社版 (立教大学発出)

2023年3月24日 日経新聞・朝刊・全国版

144

2023年度プログラム募集 (WEB 広告) :

エグゼクティブ・
プロフェッショナル人材の方々へ

大学教員を 目指しませんか？

産学連携教育イノベーター育成プログラム

第4期生募集

応募期間:2023年3月1日(水)・3月31日(金)

教育訓練給付金が活用できます

大学教員を目指す企業人へ

4コースから選べる教員育成プログラム

提供校

東北大学 熊本大学
大阪公立大学 立教大学

第4期生募集

応募期間:2023年3月1日(水)・3月31日(金)

給付金の活用で費用の40%を助成

←掲載日：
2023年3月1日～31日
Google・Facebook 広告

エグゼクティブ・
プロフェッショナル人材の方々へ

大学教員を 目指しませんか？

産学連携教育イノベーター育成プログラム

第4期生募集

応募期間
2023年3月1日(水)・3月31日(金)

教育訓練
給付金
が活用
できます

大学教員を
目指す
企業人へ

4コースから選べる教員育成プログラム

提供校 東北大学 熊本大学 大阪公立大学 立教大学

第4期生募集

応募期間:2023年3月1日(水)・3月31日(金) | 給付金の活用で費用の40%を助成

実務家教員育成 研修プログラム

あなたの豊富な
実務経験を活かし
大学教員として
新しいキャリアを

←掲載日：
2023年2月15日～3月31日
シラレルバナー広告
2023年3月18日～26日
NewsPicks バナー広告
(熊本大学発出)

アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員を目指しませんか？2023年度 受講者3月募集開始！

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

実務経験を活かして
大学教員を目指す！

←掲載日：
2023年2月17日～3月22日 Facebook 広告
(大阪公立大学発出)

2) 大学改革を担う実務家教員フェア 2023 広報 (運営拠点)

フェア (新聞広告) :

大学教員を目指す企業人へ

先輩の体験談が聴ける! 大学改革を担う実務家教員フェア2023

2023年3月4日(土) 13:00~18:00 | オンライン開催

参加費 無料

第1部 「実務家教員育成プログラム」受講のススメ

実務家教員を目指す社会人を対象に、全国4つのプログラムを修了者が紹介

- 産学連携教育イノベーター育成プログラム(代表校: 東北大学)
- 進化型実務家教員養成プログラム(代表校: 名古屋市立大学)
- 実務家教員養成課程(代表校: 社会構想大学院大学)
- 実務家教員育成研修プログラム(代表校: 舞鶴工業高等専門学校)

第2部 シンポジウム 「日本の「人材育成」を問い直す—大学、企業、政府は何をなすべきか—」

日本における働き方と学び方(人材育成戦略)、社会人の学び直し(リカレント教育)の活性化と改革、産学連携によるインターンシップ(就活)の3つをテーマにした講演・パネルディスカッション

イベントの詳細 申込みはこちら

主催 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

- 創造と改革を先導する産学連携型人材育成システム(代表校: 東北大学)
- PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム(代表校: 名古屋市立大学)
- 実務家教員COE プロジェクト(代表校: 社会構想大学院大学)
- KOSEN型産学共同インフラメンテンス人材育成システム(代表校: 舞鶴工業高等専門学校)

後援 文部科学省(申請中)、一般社団法人 日本経済団体連合会(申請中)

問合せ先 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
TEL: 022-795-4472-4473
Email: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

↑掲載日: 2023年2月6日 日経新聞・朝刊・全国版

大学教員を目指す企業人に

全国4つの教員育成プログラムを紹介 /

**大学改革を担う
実務家教員フェア2023**

2023.3.4(土) オンライン開催

要予約 参加無料 イベントの詳細・申込みはこちら

主催: 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
TEL: 022-795-4472-4473
E-mail: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

←掲載日:

2023年2月22日 朝日新聞・テレビ欄・東京本社版
2023年2月24日 朝日新聞・テレビ欄・大阪本社版

フェア (WEB 広告) :

大学教員を目指す企業人に

全国4つの教員育成プログラムを紹介 /

**大学改革を担う
実務家教員フェア
2023**

2023.3.4(土) オンライン開催

要予約 参加無料

主催
文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

大学教員を目指す企業人に

**大学改革を担う
実務家教員フェア
2023**

2023.3.4(土) 13:00-18:00

オンライン開催 要予約

主催
文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

←掲載日:

2023年2月8日~28日
NIKKEI レクタングル広告

大学教員を目指す企業人に 大学改革を担う実務家教員フェア2023

2023.3.4(土) 13:00-18:00 オンライン開催 要予約 主催 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

大学教員を目指す企業人に 大学改革を担う実務家教員フェア2023

2023.3.4(土) 13:00-18:00 オンライン開催 要予約 主催 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

4.13 関連会議・打合せ等

【中核拠点】

日時	場所	内容	参加者
4月27日	オンライン (Zoom)	2022年度履修証明プログラム事務担当打合せ	
5月2-6日	メール	事業実施会議（臨時）メール回議 2022年度履修証明プログラム（二次募集）	事業実施会議構成員
5月24日	オンライン (Zoom)	第1回事業実施会議 2022年度履修証明プログラム（合否判定①）	事業実施会議構成員・関係者 28名
5月26-27日	メール	事業実施会議（臨時）メール回議 2022年度履修証明プログラム（合否判定②）	事業実施会議構成員
6月24日	メール	事業実施会議（臨時）メール回議 実務家教員等育成のための研修講師養成プログラム	事業実施会議構成員
10月24日 -11月22日	メール	事業実施会議（臨時）メール回議 2023年度履修証明プログラム	事業実施会議構成員
2月28日	オンライン (Zoom)	第2回事業実施会議 2022年度履修証明プログラム（修了認定）	事業実施会議構成員・関係者 23名
3月6-10日	メール	事業実施会議（臨時）メール回議 2023年度履修証明プログラム（第二希望書類審査）	事業実施会議構成員
3月10日	オンライン (Zoom)	修了者の活躍の場づくり	LA修了者1名・東北大学関係者3名

【運営拠点】

日時	場所	内容	参加者
5月20日	オンライン (Zoom)	公開プロセス関連打合せ	専門職大学院室・東北大学
5月27日	オンライン (Zoom)	公開プロセス関連打合せ	専門職大学院室・東北大学
6月2日	オンライン (Zoom)	公開プロセス関連打合せ	専門職大学院室・東北大学
6月16日	オンライン (Zoom)	公開プロセス関連打合せ	専門職大学院室・東北大学
8月2日	オンライン (Zoom)	公開プロセス関連打合せ	専門職大学院室・東北大学
11月3日	オンライン (Zoom)	第3回実務家教員育成・活用全国会議	実務家教員育成・活用全国会議構成員・関係者 32名
1月20日	オンライン (Zoom)	文科省打合せ	専門職大学院室・東北大学
2月21日	文科省	文科省打合せ	専門職大学院室・東北大学等

5 参考資料

「2019 年度 大学教育再生戦略推進費 Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業『持続的な産学共同人材育成システム構築事業～リカレント教育等の実践的教育の推進のための実務家教員育成・活用システムの全国展開～』公募要領」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/05/08/1414934_01_1.pdf (2020 年 3 月 30 日確認)

「2019 年度 大学教育再生戦略推進費 Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業『持続的な産学共同人材育成システム構築事業』申請書」(2020 年 6 月, 東北大学, 熊本大学, 大阪府立大学, 立教大学)

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点
創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム
2022 年度事業報告書

編集・発行 創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム実施校
(東北大学・熊本大学・大阪公立大学・立教大学)
事務局 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41
Tel 022-7995-4472・4473
Email innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp
URL <https://jitsumuka.jp/>



東北大学



熊本大学
Kumamoto University



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



立教大学